
脳内身体表現の変容機構の理解と制御

領域番号 4603

平成26～平成30年度

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）

（新学術領域研究（研究領域提案型））

研究成果報告書

令和2年6月

領域代表者 太田 順

東京大学大学院工学系研究科・教授

成果報告にあたって

超高齢社会を迎えた我が国では、加齢に伴う運動器の障害や脳卒中・脳変性疾患による運動麻痺等が急増しており、これらを克服する有効なリハビリテーション（以下リハビリ）法の確立が急務である。その鍵を握るのは、身体機能の変化に対する脳の適応メカニズムの解明である。我々の脳内には適切な運動を実現するために多種感覚を統合し運動への仲立ちとなる“脳内身体表現”が存在し、これが損なわれると、身体の動かし方がわからない、動かしていることがわからない、更には、そもそも身体が自分のものであることがわからない、等々の状況が生じる。このことは、脳卒中や認知症・パーキンソン病などの脳疾患に伴う運動障害の背景に“脳内身体表現の異常”が潜んでいる可能性を強く示唆する。これらの病態を改善・克服するためには「身体」を介した脳の適応機能の解明が必須であり、その意義は大きい。本領域では、脳内身体表現を「姿勢・身体構造等を表す身体図式と、運動主体感や身体保持感で構成される身体意識を総合したもの」と定義し、身体認知と運動制御を統一的に記述できる新しいモデルの構築を目指す。更に脳内身体表現を構成する神経活動を直接、間接的に反映する生体信号を脳内身体表現マーカーと定義する。「健全な脳内身体表現が適応的運動制御を可能にする」なる作業仮説に立脚した上記マーカーの提案、脳内身体表現モデル化、リハビリ医学への応用が本領域の目的である。

本領域では、身体認知（運動主体感や身体保持感）と運動制御（筋シナジー制御、先行性姿勢制御）の観点から介入神経科学的手法を用いた実験をヒトおよびサルで展開し、脳内身体表現の神経機構ならびにその変容過程の解明を試みた。同時に、脳内身体表現を構成する神経活動が表現する情報を脳情報復号化技術で明らかにし、この生体信号を脳内身体表現マーカーとして抽出する方法を提案してきた。加えて、運動学習や身体変容などに伴って動的に変化する脳内身体表現の *slow dynamics* の解明に取り組んだ。神経生理学的実験データ、リハビリテーション中の臨床データに基づき、脳内身体表現の活動 (*fast dynamics*) と変容 (*slow dynamics*) を各々時定数の異なる力学系としてモデル化することに取り組んだ (脳内身体表現モデル)。結果として、障害により歩行がどう変容し、リハビリテーション等によりどう回復するかの数理モデル化が可能となった。また、脳内身体表現モデルと統合することで、感覚運動機能の最大化に向けたリハビリ方針の策定を行うモデルベーストリハビリテーションを実践し、介入の帰結予測を試みた。結果として、5年間で、550篇を超える学術論文（うち国際誌 389 篇）、400 件を超える国際会議発表を行った。開始 2 年目以降には、着実に融合研究論文が出版されている。領域内での有機的連携の成果として東大出版会より書籍 2 冊を出版し、新しい学問領域の創成に資した。若手研究者の会を組織し、その育成に努め、多くの若手研究者のプロモートにつながった。

令和 2 年 6 月

身体性システム 領域代表 太田 順
東京大学

研究組織

計画研究

領域代表者 太田 順（東京大学 大学院工学系研究科・教授）

（総括班）脳内身体表現の変容機構の理解と制御に関する総括研究

研究代表者 太田 順（東京大学 大学院工学系研究科・教授）

研究分担者 内藤 栄一（情報通信研究機構 脳情報通信融合研究センター・研究マネージャー）

研究分担者 出江 紳一（東北大学 大学院医工学研究科 リハビリテーション医工学分野・教授）

研究分担者 近藤 敏之（東京農工大学 大学院工学研究院・教授）

研究協力者 今水 寛（東京大学 文学部・教授）

研究協力者 関 和彦（国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 モデル動物開発部・部長）

研究協力者 高草木 薫（旭川医科大学 医学部・教授）

研究協力者 浅間 一（東京大学 大学院工学系研究科・教授）

研究協力者 芳賀 信彦（東京大学 大学院医学系研究科・教授）

研究協力者 村田 哲（近畿大学 医学部・准教授）

研究協力者 稲邑 哲也（国立情報学研究所 情報学プリンシプル研究系・准教授）

研究協力者 花川 隆（国立精神・神経医療研究センター 脳病態統合イメージングセンター・部長）

研究協力者 山下 淳（東京大学 大学院工学系研究科・准教授）

研究協力者 岩村 吉晃（上野学園大学・非常勤講師，東邦大学名誉教授）

（国際活動支援班）脳内身体表現の変容機構の理解と制御

研究代表者 太田 順（東京大学 大学院工学系研究科・教授）

研究分担者 内藤 栄一（情報通信研究機構 脳情報通信融合研究センター・研究マネージャー）

研究分担者 今水 寛（東京大学 文学部・教授）

研究分担者 高草木 薫（旭川医科大学 医学部・教授）

研究分担者 大木 紫（杏林大学 医学部・教授）

研究分担者 近藤 敏之（東京農工大学 大学院工学研究院・教授）

研究分担者 関 和彦（国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 モデル動物開発部・部長）

研究分担者 中隋 克己（岩手医科大学 医学部・教授）

研究分担者 花川 隆（国立精神・神経医療研究センター 脳病態統合イメージングセンター・部長）

研究分担者 出江 紳一（東北大学 大学院医工学研究科 リハビリテーション医工学分野・教授）

研究分担者 井澤 淳（筑波大学 システム情報系・准教授）

研究分担者 大脇 大（東北大学 電気通信研究所・助教）

研究分担者 稲邑 哲也（国立情報学研究所 情報学プリンシプル研究系・准教授）

（計画研究 A01-1）脳内身体表現の変容を促す神経機構

研究代表者 今水 寛（東京大学 文学部・教授）

研究協力者 村田 哲（近畿大学 医学部・准教授）

研究分担者 大木 紫 (杏林大学 医学部・教授)
研究分担者 前田 貴記 (慶應義塾大学 医学部・講師)
研究協力者 渋谷 賢 (杏林大学 医学部・助教)
研究協力者 小川 健二 (北海道大学 文学部・准教授)
研究協力者 浅井 智久 (NTT コミュニケーション科学基礎研究所・研究員)
研究協力者 沖村 幸 (慶應義塾大学 医学部・特任助教)
研究協力者 山下 祐一 (国立精神・神経医療研究センター 神経研究所・室長)
研究協力者 繁桝 博昭 (高知工科大学 情報学群・准教授)
研究協力者 門田 浩 (高知工科大学 総合研究所・准教授)
研究協力者 山下 真寛 (国際電気通信基礎技術研究所 認知機構研究所・研究員)
研究協力者 蔡 暢 (国際電気通信基礎技術研究所 認知機構研究所 認知神経科学研究室・研究員)
研究協力者 大畑 龍 (日本学術振興会・東京大学大学院人文社会系研究科・学振特別研究員)
研究協力者 望月 圭 (近畿大学医学部・助教)
研究協力者 吉田 正俊 (生理学研究所 認知行動発達研究部門・助教)

(計画研究 A02-1) 身体変化への脳適応機構の解明

研究代表者 関 和彦 (国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 モデル動物開発部・部長)
研究分担者 内藤 栄一 (情報通信研究機構 脳情報通信融合研究センター・研究マネージャー)
研究分担者 笥 慎治 (東京都医学総合研究所 運動失調プロジェクト・プロジェクトリーダー)
研究協力者 井上 謙一 (京都大学 霊長類研究所・助教)
研究協力者 荻原 直道 (慶應義塾大学 理工学部・教授)
研究協力者 梅田 達也 (国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 モデル動物開発研究部・室長)
研究協力者 大屋 知徹 (国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 モデル動物開発研究部・室長)
研究協力者 平島 雅也 (情報通信研究機構 脳情報通信融合研究センター・主任研究員)
研究協力者 池上 剛 (情報通信研究機構 脳情報通信融合研究センター・研究員)
研究協力者 廣瀬 智士 (情報通信研究機構 脳情報通信融合研究センター・研究員)
研究協力者 竹村 尚大 (情報通信研究機構 脳情報通信融合研究センター・研究員)
研究協力者 雨宮 薫 (情報通信研究機構 脳情報通信融合研究センター・研究員)
研究協力者 Ganesh Gowrishanker (CNRS・研究員)
研究協力者 上原 信太郎 (情報通信研究機構 脳情報通信融合研究センター・特別研究員)
研究協力者 関 庚甫 (東京都医学総合研究所 運動失調プロジェクト・研究員)
研究協力者 李 鍾昊 (東京都医学総合研究所 運動失調プロジェクト・研究員)
研究協力者 石川 享宏 (東京都医学総合研究所 運動失調プロジェクト・研究員)
研究協力者 本多 武尊 (東京都医学総合研究所 運動失調プロジェクト・研究員)
研究協力者 服部 憲明 (大阪大学国際医工情報センター 臨床神経医工学寄附研究部門・准教授)
研究協力者 三苦 博 (東京医科大学 医学教育学講座・教授)

(計画研究 A02-2) 姿勢一歩行戦略の変更に伴う脳適応機能の解明

- 研究代表者 高草木 薫 (旭川医科大学 医学部・教授)
- 研究分担者 中隋 克己 (岩手医科大学 医学部・教授)
- 研究協力者 船越 洋 (旭川医科大学 医学部・教授)
- 研究協力者 杉内 友理子 (東京医科歯科大学 医学部・准教授)
- 研究協力者 日暮 泰男 (山口大学 共同獣医学部・助教)
- 研究協力者 大田 哲生 (旭川医科大学 リハビリテーション部・教授)
- 研究協力者 小原 和宏 (旭川医科大学 脳機能医工学研究センター・助教)
- 研究協力者 高橋 未来 (旭川医科大学 脳機能医工学研究センター・客員助教)
- 研究協力者 松本 成史 (旭川医科大学 脳機能医工学研究センター・講師)

(計画研究 B01-1) 脳内身体表現のスローダイナミクスモデル

- 研究代表者 浅間 一 (東京大学 大学院工学系研究科・教授)
- 研究分担者 近藤 敏之 (東京農工大学 大学院工学研究院・教授)
- 研究分担者 田中 宏和 (北陸先端科学技術大学院大学 情報科学研究科・准教授)
- 研究分担者 矢野 史朗 (東京農工大学 大学院工学研究院・助教)
- 研究分担者 井澤 淳 (筑波大学 システム情報系・准教授)
- 研究協力者 山下 淳 (東京大学 工学系研究科・准教授)
- 研究協力者 矢野 雅文 (東北大学 電気通信研究所・名誉教授)
- 研究協力者 安 琪 (東京大学 大学院工学系研究科・特任助教)
- 研究協力者 温 文 (東京大学 大学院工学系研究科・特任准教授)

(計画研究 B02-1) 脳内身体表現を変容させる運動制御モデル

- 研究代表者 太田 順 (東京大学 大学院工学系研究科・教授)
- 研究分担者 青井 伸也 (京都大学 大学院工学研究科・講師)
- 研究分担者 千葉 龍介 (旭川医科大学 医学部・准教授)
- 研究協力者 緒方 大樹 (東京工業大学・准教授)
- 研究協力者 柳原 大 (東京大学 大学院総合文化研究科・准教授)
- 研究協力者 土屋 和雄 (京都大学 大学院工学研究科・名誉教授)
- 研究協力者 青柳 富誌生 (京都大学 大学院情報学研究科・名誉教授)
- 研究協力者 藤木 聡一郎 (東京大学 大学院総合文化研究科・助教)
- 研究協力者 白藤 翔平 (東京大学 人工物工学研究センター・特任研究員)
- 研究協力者 余 永 (鹿児島大学 工学部・教授)
- 研究協力者 辻内 伸好 (同志社大学 理工学部・教授)

(計画研究 C01-1) 脳内身体表現の変容を用いたニューロリハビリテーション

- 研究代表者 出江 紳一 (東北大学 大学院医工学研究科 リハビリテーション医工学分野・教授)
- 研究協力者 稲邑 哲也 (国立情報学研究所 情報学プリンシプル研究系・准教授)

研究協力者 田中 尚文 (帝京大学ちば総合医療センターリハビリテーション科・教授)
研究協力者 大内田 裕 (大阪教育大学・准教授)
研究協力者 松宮 一道 (東北大学 電気通信研究所 ブレインウェア研究開発施設・教授)
研究協力者 阿部 浩明 (広南病院 兼 東北大学大学院肢体不自由学分野・非常勤講師)
研究協力者 関口 雄介 (東北大学病院 兼 東北大学大学院肢体不自由学分野・非常勤講師)
研究協力者 綾木 雅彦 (慶應義塾大学医学部眼科学教室・特任准教授)
研究協力者 林部 充宏 (東北大学 大学院工学研究科・教授)

(計画研究 C02-1) 感覚入力への介入を用いた姿勢・歩行リハビリテーション

研究代表者 芳賀 信彦 (東京大学 大学院医学系研究科・教授)
研究協力者 花川 隆 (国立精神・神経医療研究センター 脳病態統合イメージングセンター・部長)
研究分担者 横井 浩史 (電気通信大学 情報理工学研究科・教授)
研究分担者 大脇 大 (東北大学 電気通信研究所・助教)
研究協力者 石黒 章夫 (東北大学 電気通信研究所・教授)
研究協力者 四津 有人 (茨城県立医療大学 医科学センター・准教授)
研究協力者 杉 正夫 (電気通信大学 情報理工学研究科・准教授)
研究協力者 北 佳保里 (千葉大学 フロンティア医工学センター・助教)
研究協力者 古屋 晋一 (上智大学 理工学部 情報理工学科・准教授)
研究協力者 上原 一将 (国立精神・神経医療研究センター 脳病態統合イメージングセンター・研究員)

公募研究 (平成 27~28 年度)

(公募研究 A03-1) ハイブリッド技術とリアルタイム処理による機能ダイナミクスの解明

研究代表者 鎌田 恭輔 (旭川医科大学 医学部・教授)

(公募研究 A03-2) 脳波を用いた手首運動に係る脳内身体表現の学理とその可視化

研究代表者 吉村 奈津江 (東京工業大学 精密工学研究所・准教授)
研究協力者 神原 裕行 (東京工業大学 精密工学研究所・助教)

(公募研究 A03-3) 慢性ドーパミン欠乏による大脳基底核の脳内身体表現変容とその制御

研究代表者 中村 公一 (京都大学 大学院医学系研究科・助教)

(公募研究 A03-4) ヒト脳内身体表現の直接記録・刺激介入を用いた神経機構と変容の解明

研究代表者 松本 理器 (京都大学 大学院医学系研究科・准教授)
研究協力者 池田 昭夫 (京都大学 大学院医学系研究科・教授)
研究協力者 國枝 武治 (愛媛大学 大学院医学系研究科・教授)
研究協力者 松橋 眞生 (京都大学 学際融合教育研究推進センター・准教授)
研究協力者 下竹 昭寛 (京都大学 大学院医学系研究科・助教)
研究協力者 井内 盛遠 (京都大学 大学院医学系研究科・助教)

研究協力者 吉田 和道（京都大学大学院医学研究科脳神経外科学・講師）

（公募研究 A03-5）感覚神経損傷による脳内身体表現の変容動態の可視化と制御

研究代表者 宮田 麻理子（東京女子医科大学 医学部・教授）

研究協力者 尾崎 弘展（東京女子医科大学 医学部・助教）

研究協力者 植田 禎史（東京女子医科大学 医学部・助教）

研究協力者 三好 悟一（東京女子医科大学 医学部・助教）

（公募研究 A03-6）サル半側空間無視モデルにおける身体と空間

研究代表者 吉田 正俊（生理学研究所 認知行動発達研究部門・助教）

研究協力者 福永 雅喜（生理学研究所 心理生理学研究部門・准教授）

（公募研究 A03-7）脳卒中後の把握機能回復をもたらす脳内身体表現の変化：サルモデルによる解明

研究代表者 村田 弓（産業技術総合研究所 人間情報研究部門・研究員）

研究協力者 上野 友之（筑波大学 医学医療系・病院講師）

研究協力者 山本 竜也（つくば国際大学 医療保健学部・助教）

研究協力者 林 拓也（理化学研究所 ライフサイエンス技術基盤研究センター・ユニットリーダー）

研究協力者 肥後 範行（産業技術総合研究所 人間情報研究部門・主任研究員）

（公募研究 B03-1）疾患動物の運動機能回復の計測・解析に基づくシナジーの構成機序の解明

研究代表者 船戸 徹郎（電気通信大学 情報理工学研究科・助教）

（公募研究 B03-2）駆動関節を有する人工肢の運動学習過程における身体表現変容因子の同定

研究代表者 長谷川 泰久（名古屋大学 大学院工学研究科・教授）

（公募研究 B03-3）筋骨格ヒューマノイドを用いた脳型身体表現モデルの構成論的研究

研究代表者 細田 耕（大阪大学 大学院基礎工学研究科・教授）

研究協力者 津田 一郎（北海道大学 電子科学研究所・教授）

研究協力者 久保 英夫（北海道大学 理学研究科・教授）

研究協力者 池本 周平（大阪大学 基礎工学研究科・助教）

（公募研究 B03-4）ベイズ潜在木構造生成過程による脳内身体表現スローダイナミクスモデル

研究代表者 谷口 忠大（立命館大学 情報理工学部・准教授）

研究協力者 萩原 良信（立命館大学 情報理工学部・助教）

（公募研究 C03-1）神経修飾法による新しい運動障害治療の開発

研究代表者 濱田 雅（東京大学 医学部附属病院・助教）

(公募研究 C03-2) 動作推定と機能的電気刺激に基づく筋協調制御能力獲得型ダイレクトリハビリテーション

研究代表者 島 圭介 (横浜国立大学 大学院工学研究院・准教授)

研究協力者 島谷 康司 (県立広島大学 保健福祉学部・教授)

研究協力者 中野 英樹 (京都橘大学 健康科学部 理学療法学科・助教)

研究協力者 田坂 厚志 (大阪保健医療大学 保健医療学部 リハビリテーション学科・准教授)

(公募研究 C03-3) 新しいバランス機能評価システムの開発

研究代表者 向野 雅彦 (藤田保健衛生大学 医学部・講師)

研究協力者 松田 文浩 (藤田保健衛生大学 医療科学部・助教)

(公募研究 C03-4) 身体失認・失行症における身体性変容の解明とニューロリハビリテーション法の開発

研究代表者 森岡 周 (畿央大学 健康科学部・教授)

研究協力者 嶋田 総太郎 (明治大学 理工学部・教授)

研究協力者 松尾 篤 (畿央大学 健康科学部・教授)

研究協力者 冷水 誠 (畿央大学 健康科学部・准教授)

研究協力者 岡田 洋平 (畿央大学 健康科学部・助教)

研究協力者 前岡 浩 (畿央大学 健康科学部・助教)

研究協力者 信迫 悟志 (畿央大学 ニューロリハビリテーション研究センター・助教)

研究協力者 大住 倫弘 (畿央大学 ニューロリハビリテーション研究センター・助教)

公募研究 (平成 29~30 年度)

(公募研究 A03-1) リアルタイムフィードバックとハイブリッド機能解析による脳機能ダイナミズムの可視化

研究代表者 鎌田 恭輔 (旭川医科大学 医学部・教授)

研究協力者 竹内 文也 (旭川医科大学 教育推進センター・准教授)

研究協力者 福山 秀正 (旭川医科大学 脳神経外科・医員)

(公募研究 A03-2) 眼球・頭部運動系における座標系と機能的シナジーの中枢神経基盤

研究代表者 杉内 友理子 (東京医科歯科大学 医学部・准教授)

研究協力者 笥 慎治 (東京都医学総合研究所 運動失調プロジェクト・プロジェクトリーダー)

(公募研究 A03-3) 筋肉協調運動の脳内身体表現学理と脳波を用いた可視化によるリハビリ支援技術の開発

研究代表者 吉村 奈津江 (東京工業大学 科学技術創成研究院・准教授)

研究協力者 神原 裕行 (東京工業大学 科学技術創成研究院・助教)

研究協力者 緒方 洋輔 (東京工業大学 科学技術創成研究院・特任助教)

研究協力者 山下 宙人 (国際電気通信基礎技術研究所 脳情報解析研究所・室長)

(公募研究 A03-4) ヒト前頭・頭頂葉内の脳内身体表現：皮質脳波解読と刺激・豹変研究による包括的研究

研究代表者 松本 理器 (京都大学 大学院医学系研究科・准教授)
研究協力者 池田 昭夫 (京都大学 大学院医学系研究科・教授)
研究協力者 國枝 武治 (愛媛大学 大学院医学系研究科・教授)
研究協力者 吉田 和道 (京都大学大学院医学研究科脳神経外科学・講師)
研究協力者 松橋 眞生 (京都大学 学際融合教育研究推進センター・准教授)
研究協力者 下竹 昭寛 (京都大学 大学院医学系研究科・助教)

(公募研究 A03-5) 大脳皮質における触覚―痛覚相互作用の解明と痛覚制御

研究代表者 尾崎 弘展 (東京女子医科大学 医学部・助教)
研究協力者 宮田 麻理子 (東京女子医科大学 医学部・教授)
研究協力者 植田 禎史 (東京女子医科大学 医学部・助教)

(公募研究 A03-6) サル脳内梗塞モデルを用いた身体表現適応機構の解明

研究代表者 肥後 範行 (産業技術総合研究所 人間情報研究部門・主任研究員)
研究協力者 村田 弓 (産業技術総合研究所 人間情報研究部門・研究員)
研究協力者 山田 亨 (産業技術総合研究所 人間情報研究部門・主任研究員)
研究協力者 山本 竜也 (つくば国際大学 医療保健学部・助教)
研究協力者 井澤 淳 (筑波大学 システム情報系・准教授)

(公募研究 B03-1) 神経疾患と運動機能回復に関わる筋シナジーの構成機序の解明

研究代表者 船戸 徹郎 (電気通信大学 情報理工学研究科・准教授)

(公募研究 B03-2) 駆動関節を有する人工肢の身体化過程における身体表現変容因子の同定

研究代表者 長谷川 泰久 (名古屋大学 大学院工学研究科・教授)

(公募研究 B03-3) 筋骨格ヒューマノイドを用いたファースト・スローダイナミクスの創発モデル

研究代表者 細田 耕 (大阪大学 大学院基礎工学研究科・教授)
研究協力者 津田 一郎 (北海道大学 電子科学研究所・教授)
研究協力者 久保 英夫 (北海道大学 理学研究科・教授)
研究協力者 池本 周平 (大阪大学 基礎工学研究科・助教)

(公募研究 B03-4) 疑似制約による上肢機能の変容・適応過程の解明

研究代表者 宮田 なつき (産業技術総合研究所・主任研究員)
研究協力者 藤田 浩二 (東京医科歯科大学大学院・助教)
研究協力者 前田 雄介 (横浜国立大学大学院工学研究院・准教授)

(公募研究 C03-1) 脳内身体表現における, 認知的側面と, 運動制御的側面の関係解明

研究代表者 四津 有人 (茨城県立医療大学 医科学センター・准教授)

研究協力者 濱田 雅 (東京大学 医学部附属病院・助教)

研究協力者 川野 道宏 (茨城県立医療大学 看護学科・准教授)

(公募研究 C03-2) 筋協調制御型ダイレクトリハビリテーションによるスキル訓練と身体/脳機能変容の解析

研究代表者 島 圭介 (横浜国立大学 大学院工学研究院・准教授)

研究協力者 島谷 康司 (県立広島大学 保健福祉学部・教授)

研究協力者 中野 英樹 (京都橘大学 健康科学部 理学療法学科・助教)

研究協力者 田坂 厚志 (大阪保健医療大学 保健医療学部 リハビリテーション学科・准教授)

(公募研究 C03-3) 複合現実による自己運動錯覚誘導と脳機能的結合に関する研究

研究代表者 金子 文成 (慶應義塾大学 医学部・准教授)

研究協力者 浅井 義之 (山口大学大学院 医学系研究科・教授)

研究協力者 柴田 恵理子 (札幌医科大学 保健医療学部・博士研究員)

(公募研究 C03-4) 包括的なバランス機能障害評価および介入効果のモニタリングシステムの開発

研究代表者 向野 雅彦 (藤田保健衛生大学 医学部・講師)

研究協力者 松田 文浩 (藤田保健衛生大学 医療科学部・助教)

(公募研究 C03-5) 脳卒中患者の運動主体感を高めるハイブリッド型ニューロリハビリテーションの効果検証

研究代表者 森岡 周 (畿央大学 健康科学部・教授)

研究協力者 嶋田 総太郎 (明治大学 理工学部・教授)

研究協力者 信迫 悟志 (畿央大学 ニューロリハビリテーション研究センター・助教)

研究協力者 大住 倫弘 (畿央大学 ニューロリハビリテーション研究センター・助教)

交付決定額 (配分額)

	合計	直接経費	間接経費
平成26年度	269,880,000円	207,600,000円	62,280,000円
平成27年度	303,550,000円	233,500,000円	70,050,000円
平成28年度	303,290,000円	233,300,000円	69,990,000円
平成29年度	288,600,000円	222,000,000円	66,600,000円
平成30年度	277,160,000円	213,200,000円	63,960,000円
令和元年度	3,900,000円	3,000,000円	900,000円
総計	1,446,380,000円	1,112,600,000円	333,780,000円

研究発表

雑誌論文

国際雑誌論文

1. Shuichiro Neshige, Masao Matsuhashi, Katsuya Kobayashi, Takeyo Sakurai, Akihiro Shimotake, Takefumi Hitomi, Takayuki Kikuchi, Kazumichi Yoshida, Takeharu Kunieda, Riki Matsumoto, Ryosuke Takahashi, Susumu Miyamoto, Hirofumi Maruyama, Masayasu Matsumoto, Akio Ikeda, Multi-component intrinsic brain activities as a safe, alternative to cortical stimulation for sensori-motor mapping in neurosurgery, *Clinical Neurophysiology*, 2018, Volume 129, Issue 9, pp 2038-2048
2. S.Hamasaki, Q. An, W. Wen, Y. Tamura, H.Yamakawa, S. Unenaka, S. Shibuyua, Y. Ohki, A. Yamashita and H. Asama, Changes in Body Representation of the Human Upper Limb as a Function of Movement and Visual Hand Position, *Journal of Advanced Computational Intelligence and Intelligent Informatics*, 2019, Vol.23, No.2
3. Kita K, Rokicki J, Furuya S, Sakamoto T, *Hanakawa T, Resting-state basal ganglia connectivity codes a motor musical skill and its disruption from dystonia, *Mov Disord*, 2018, 33(9): 1472-1480
4. Kasahara K, Hoshino H, Furusawa Y, DaSalla CS, Honda M, Murata M, *Hanakawa T, Initial experience with a sensorimotor rhythm-based brain-computer interface in a Parkinson's disease patient, *Brain Computer Interfaces*, 2018, 5(2-3): 88-96
5. Furuya S, Uehara K, Sakamoto T, *Hanakawa T, Aberrant cortical excitability explains the loss of hand dexterity in musicians' dystonia, *J Physiol*, 2018, 596(12): 2397-2411
6. Morioka S, Hayashida K, Nishi Y, Negi Y, Nishi Y, Osumi M, Nobusako S, Changes in intentional binding effect during a novel perceptual-motor task., *Peer J*, 2018, DOI 10.7717/peerj.6066
7. Nobusako S, Osumi M, Matsuo A, Fukuchi T, Nakai A, Zama T, Shimada S, Morioka S, Stochastic resonance improves visuomotor temporal integration in healthy young adults., *PLoS ONE*, 2018, Vol.13, No.12
8. Ohmatsu S, Takamura Y, Fujii S, Tanaka K, Morioka S, Kawashima N, Visual search pattern during free viewing of horizontally flipped images in patients with unilateral spatial neglect, *Cortex*, 2019, Vol.113, No83-95
9. Katayama O, Nishi Y, Osumi M, Takamura Y, Kodama T, Morioka S., Neural activities behind the influence of sensorimotor incongruence on dysesthesia and motor control., *Neuroscience Letters*, 2019, Vol. 698, No. 19-26
10. Sigetoh H, Osumi M, Morioka S, Experimental Pain Is Alleviated by Manual Traction Itself Rather than Subjective Bias in the Knee: A Signal Detection Analysis, *Pain Medicine*, 2019, doi: 10.1093/pm/pny290
11. Shuichiro Neshige, Katsuya Kobayashi, Masao Matsuhashi Takefumi Hitomi, Akihiro Shimotake, Takayuki Kikuchi, Kazumichi Yoshida, Takeharu Kunieda, Riki Matsumoto, Ryosuke Takahashi, Susumu Miyamoto, Hirofumi Maruyama, Akio Ikeda, A rational, multi-spectrum mapping algorithm for primary motor cortex: a primary step before cortical stimulation, *Epilepsia*, 2019, in press
12. K. Matsumiya, Separate multisensory integration processes for ownership and localization of body parts, *Scientific Reports*, 2019, Vol. 9, Article number 652, pp. 1-9
13. T. Aoyama, H. Shikida, R. Schatz II and Y. Hasegawa, Operational learning with sensory feedback for controlling a robotic thumb using the posterior auricular muscle, *Advanced Robotics*, 2019, Vol.33
14. Tanaka, H., Miyakoshi, M., & Makeig, S., Dynamics of directional tuning and reference frames in humans: A high-density EEG study, *Scientific reports*, 2018, 8(1), 8205.

15. Tanaka, H., Ishikawa, T., & Kakei, S. , Neural Evidence of the Cerebellum as a State Predictor, *The Cerebellum*, 2019, 1-23.
16. S. Aoi, T. Ohashi, R. Bamba, S. Fujiki, D. Tamura, T. Funato, K. Senda, Y. Ivanenko, and K. Tsuchiya, Neuromusculoskeletal model that walks and runs across a speed range with a few motor control parameter changes based on the muscle synergy hypothesis, *Scientific Reports*, 2019, 9:369
17. S. Nobusako, A. Sakai, T. Tsujimoto, T. Shuto, Y. Nishi, D. Asano, E. Furukawa, T. Zama, M. Osumi, S. Shimada, S. Morioka, A. Nakai., Deficits in Visuo-Motor Temporal Integration Impacts Manual Dexterity in Probable Developmental Coordination Disorder., *Frontiers in Neurology*, 2018, 9: 114.
18. S. Togo, T. Itahashi, R. Hashimoto, C. Cai, C. Kanai, N. Kato, and H. Imamizu, Fourth finger dependence of high-functioning autism spectrum disorder in multi-digit force coordination, *Scientific Reports*, 2019, in press
19. L. Minati, N. Yoshimura, M. Frasca, S. Drozd, Y. Koike, Warped phase coherence: an empirical synchronization measure combining phase and amplitude information, *Chaos*, 2019, publication in February
20. Takakusaki K, Takahashi M, Nakajima T, Chiba R, Obara K, Nozu T, Okumura T, A hypothesis for understanding mechanisms of normal and abnormal behavior states based on operation hypothesis, *Sleep Medicine Disorders International Journal*, 2018, Vol.2, No.1. 00031
21. Nozu T, Miyagishi S, Nozu R, Takakusaki K, Okumura T., Repeated water avoidance stress induces visceral hypersensitivity: Role of interleukin-1, interleukin-6, and peripheral corticotropin-releasing factor., *Journal of Gastroenterology and Hepatology.*, 2017, Vol.32, No 22, pp. 1958-1965
22. Nozu T, Miyagishi S, Kumei S, Nozu R, Takakusaki K, Okumura T., Glucagon-like peptide-1 analog, liraglutide, improves visceral sensation and gut permeability in rats., *Journal of Gastroenterology and Hepatology.*, 2017, Vol.33, No 1, pp 232-239
23. Nozu T, Miyagishi S, Kumei S, Nozu R, Takakusaki K, Okumura T., Lovastatin inhibits visceral allodynia and increased colonic permeability induced by lipopolysaccharide or repeated water avoidance stress in rats., *European Journal of Pharmacology* , 2018, Vol. 818, pp. 228-234.
24. Okumura T, Nozu T, Kumei S, Takakusaki K, Ohhira M., Ghrelin acts centrally to induce an antinociceptive action during colonic distension through the orexinergic, dopaminergic and opioid systems in conscious rats., *Brain Research*, 2018, Vol. 1686, pp. 48-54
25. Nozu T, Miyagishi S, Kumei S, Nozu R, Takakusaki K, Okumura T., Metformin inhibits visceral allodynia and increased gut permeability induced by stress in rats., *Journal of Gastroenterology and Hepatology*, 2019, Vol. 34, No 1, pp. 186-193
26. Nozu T, Miyagishi S, Nozu R, Takakusaki K, Toshikatsu O., Altered colonic sensory and barrier functions by CRF: roles of TLR4 and IL-1., *Journal of Endocrinology*, 2018, pii: JOE-18-0441
27. Nozu T, Miyagishi S, Nozu R, Takakusaki K, Okumura T., Pioglitazone improves visceral sensation and colonic permeability in a rat model of irritable bowel syndrome., *Journal of Pharmacological Science*, 2019, Vol. 139, No 1, pp. 46-49
28. Kangwoo Lee, Youngmin Oh, Jun Izawa & Nicolas Schweighofer , Sensory prediction errors, not performance errors, update memories in visuomotor adaptation, *Scientific Reports*, 2018, 8, 16483
29. Kahori Kita, Rieko Osu, Chihiro Hosoda, Manabu Honda, Takashi Hanakawa, Jun Izawa, Neuroanatomical

Basis of Individuality in Muscle Tuning Function: Neural correlates of muscle tuning , *Frontiers in Behavioral Neuroscience*, 2019, accepted

30. T. Honda, S. Nagao, Y. Hashimoto, K. Ishikawa, T. Yokota, H. Mizusawa, M. Ito, Tandem internal models execute motor learning in the cerebellum, *Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America*, 2018, Vol. 115, No. 28, pp. 7428-7433
31. S. Kakei, T. Ishikawa, J. Lee, T. Honda, D.S. Hoffman, Physiological and morphological principles underpinning recruitment of the cerebellar reserve, *CNS Neurol Disord Drug Targets*, 2018, Vol. 17, No. 3, pp.184-192
32. K. Min, D. Shin, J. Lee, S. Kakei, Electromyogram refinement using muscle synergy based regulation of uncertain information, *Journal of Biomechanics*, 2018, Vol. 72, pp.125-133
33. K. Min, M. Iwamoto, S. Kakei, H. Kimpara, Muscle synergy-driven robust motion control, *Neural Computation* , 2018, Vol. 30, No. 4, pp.1104-1131
34. Sugiyama Y, Oishi T, Yamashita, A, Murata Y, Yamamoto T, Takashima, I, Isa T, Higo N, Neuronal and microglial localization of secreted phosphoprotein 1 (osteopontin) in intact and damaged motor cortex of macaques., *Brain Research*, 2019, in press
35. K. Kaminishi, P. Jiang, R. Chiba, K. Takakusaki, J. Ota, Postural control of a musculoskeletal model against multidirectional support surface translations, *PLoS ONE*, 2019, 14(3): e0212613
36. Yusuke Fukazawa, Taku Ito, Tsukasa Okimura, Yuichi Yamashita, Takaki Maeda and Jun Ota, Predicting anxiety state using smartphone-based passive sensing, *Journal of Biomedical Informatics*, 2019, in press
37. M. Yamashita, Y. Yoshihara, R. Hashimoto, N. Yahata, N. Ichikawa, Y. Sakai, T. Yamada, N. Matsukawa, G. Okada, S.C.Tanaka, K. Kasai, N. Kato, Y. Okamoto, B. Seymour, H. Takahashi, M. Kawato, and H. Imamizu, A prediction model of working memory across health and psychiatric disease using whole-brain functional connectivity, *eLife*, 2018, Vol. 7, e38844
38. Vu Ngoc Thanh Sang, Shiro Yano, and Toshiyuki Kondo, On-Body Sensor Positions Hierarchical Classification, *Sensors*, 2018, 18(11), 3612; doi.org/10.3390/s18113612
39. S. Unenaka, S. Ikudome, S. Mori, and H. Nakamoto, Concurrent Imitative Movement During Action Observation Facilitates Accuracy of Outcome Prediction in Less-Skilled Performers, *Frontiers in Psychology*, 2018, 9:1262
40. S. Shibuya, S. Unenaka, and Y. Ohki, The Relationship Between the Virtual Hand Illusion and Motor Performance, *Frontiers in Psychology*, 2018, 9:2242
41. Wen, W., Minohara, R., Hamasaki, S., Maeda, T., An, Q., Tamura, Y., Yamakawa, H., Yamashita, A., & Asama, H. , The readiness potential reflects the reliability of action consequence, *Scientific Reports*, 2018, vol. 8, article number: 11865
42. Aizu N, Oouchida Y, Izumi SI, Time-dependent decline of body-specific attention to the paretic limb in chronic stroke patients., *Neurology*, 2018, 91(8), pp.e751-e758
43. Mayumi Nagai, Naofumi Tanaka, Yutaka Oouchida, Shin-Ichi Izumi, Effect of Cathodal Transcranial Direct Current Stimulation on a Child with Involuntary Movement after Hypoxic Encephalopathy, *Case Reports in Medicine*, 2018, pp.1-5

44. S. Fujiki, S. Aoi, T. Funato, Y. Sato, K. Tsuchiya, and D. Yanagihara, Adaptive hindlimb split-belt treadmill walking in rats by controlling basic muscle activation patterns via phase resetting, *Scientific Reports*, 2018, Vol 8, 17341
45. Higo N, Sato A, Yamamoto T, Oishi T, Nishimura Y, Murata Y, Onoe, H, Isa T, Kojima T, Comprehensive analysis of area-specific and time-dependent changes in gene expression in the motor cortex of macaque monkeys during recovery from spinal cord injury. , *Journal of Comparative Neurology* , 2018, Vol. 526, p.1110-1130
46. Hama A, Natsume T, Ogawa S, Higo N, Hayashi I, Takamatsu H, Gaps in understanding mechanism and lack of treatments: potential use of a nonhuman primate model of oxaliplatin-induced neuropathic pain., *Pain Research and Management*, 2018, Article ID 1630709, 11 pages
47. H. Kogami, Q. An, N. Yang, H. Yamakawa, Y. Tamura, A. Yamashita, H. Asama, S. Shimoda, H. Yamasaki, M. Itkonen, F.S. Alnajjar, N. Hattori, M. Kinomoto, K. Takahashi, T. Fujii, H. Otomune, and I. Miyai, Effect of Physical Therapy on Muscle Synergy Structure during Standing-up Motion of Hemiplegic Patients, *IEEE Robotics and Automation Letters*, 2018, Vol. 3, No. 3, pp.2229-2236
48. Q. An, Y. Ishikawa, S. Ishiguro, K. Ohata, H. Yamakawa, Y. Tamura, A. Yamashita, and H. Asama, Skill Abstraction of Physical Therapist in Hemiplegia Patients Rehabilitation Using A Walking Assist Robot, *International Journal of Automation Technology*, 2018, Vol. 13, No 2
49. Q. An, J. Nakagawa, J. Yasuda, W. Wen, H. Yamakawa, A. Yamashita, and H. Asama, Skill Extraction from Nursing Care Service using Sliding Sheet, *International Journal of Automation Technology*, 2018, Vol. 12, No. 4, pp. 533-541
50. Takeuchi N, Mori T, Suzukamo Y, Izumi SI, Modulation of Excitability in the Temporoparietal Junction Relieves Virtual Reality Sickness., *Cyberpsychology, behavior and social networking*, 2018, 21(6),381-387
51. Ota N, Matsukawa H, Noda K, Sato H, Hatano Y, Hashimoto A, Miyazaki T, Kondo T, Kinoshita Y, Saito N, Kamiyama H, Tokuda S, Kamada K, Tanikawa R, Evaluation of Microsurgery for Managing Giant or Complex Cerebral Aneurysms: A Retrospective Study, *World Neurosurg.*, 2018, 115:e190-e199
52. Saito M, Saga T, Hayashi H, Shohei N, Wada H, Kamada K, Quantitative blood flow assessment by multiparameter analysis of indocyanine green video angiography., *World Neurosurg.*, 2018, 116:e187-e193
53. Kodama K, Ishii T, Sakamoto K, Fukunaga Y, Ohta U, Kitajima Y, Anei R, Takeuchi F, Ishizuka M, Tanaka T, Kamada K, 5-aminolevulinic acid-induced protoporphyrin IX accumulation does not correlate with ferrochelatase activity in brain tumors., *ALA-Porphyrin Science*, 2018, Vol.7 No.1, pp13 -23
54. Sekiguchi Y, Muraki T, Owaki D, Honda K, Izumi SI, Regulation of quasi-joint stiffness by combination of activation of ankle muscles in midstances during gait in patients with hemiparesis., *Gait & posture*, 2018, 62,378-383
55. Mori T, Takeuchi N, Izumi SI, Prefrontal cortex activation during a dual task in patients with stroke., *Gait & posture*, 2018, 59,193-198
56. Nagai M, Tanaka N, Oouchida Y, Izumi SI, Effect of Cathodal Transcranial Direct Current Stimulation on a Child with Involuntary Movement after Hypoxic Encephalopathy., *Case reports in medicine*, 2018, 20,188,934,253

57. Lee K, Oh Y, Izawa J, Schweighofer N., Sensory prediction errors, not performance errors, update memories in visuomotor adaptation, *Scientific reports*, 2018, 8
58. Katayama O, Tsukamoto T, Osumi M, Kodama T, Morioka S, Neural mechanism of altered limb perceptions caused by temporal sensorimotor incongruence, *Front Behav Neurosci*, 2018, No. 20
59. Kento Suzuki, Toshio Aoyagi and Katsunori Kitano, Bayesian estimation of phase dynamics based on partially sampled spikes generated by realistic model neurons, *Frontiers in Computational Neuroscience*, 2018, vol.11, 116
60. Takayuki Onojima, Takahiro Goto, Hiroaki Mizuhara and Toshio Aoyagi, A dynamical systems approach for estimating phase interactions between rhythms of different frequencies from experimental data, *PLOS Computational Biology*, 2018, 14(1), e1005928
61. Sabu H, Morita T, Takahashi H, Naito E and Asada M, Being a leader in a rhythmic interaction activates reward-related brain regions, *Neuroscience Research*, 2018, doi: 10.1016/j.neures.2018.08.009
62. Hirose S, Nambu I and Naito E, Cortical activation associated with motor preparation can be used to predict the freely chosen effector of an upcoming movement and reflects response time: An fMRI decoding study, *Neuroimage* , 2018, Vol 183 pp. 584-596
63. Nobusako S, Sakai A, Tsujimoto T, Shuto T, Nishi Y, Asano D, Furukawa E, Zama T, Osumi M, Shimada S, Morioka S, Nakai A, Manual Dexterity Is a Strong Predictor of Visuo-Motor Temporal Integration in Children, *Frontiers in Psychology*, 2018, Vol.12, No.9
64. Nobusako S, Ishibashi R, Takamura Y, Oda E, Tanigashira Y, Kouno M, Tominaga T, Ishibashi Y, Okuno H, Nobusako K, Zama T, Osumi M, Shimada S and Morioka S, Distortion of Visuo-Motor Temporal Integration in Apraxia: Evidence From Delayed Visual Feedback Detection Tasks and Voxel-Based Lesion-Symptom Mapping, *Frontiers in Neurology*, 2018, Vol.6, No.9, 709
65. Wen, W. & Haggard, P., Control changes the way we look at the world, *Journal of Cognitive Neuroscience*, 2018, vol. 30, no. 4, pp. 603-619
66. Wen, W., Brann, E., Di Costa, S., & Haggard, P. , Enhanced perceptual processing of self-generated motion: Evidence from steady-state visual evoked potentials, *NeuroImage*, 2018, vol. 175, pp. 438-448
67. Kamada K, Ogawa H, Kapeller C, Prueckl R, Hiroshima S, Tamura Y, Takeuchi F, Guger C, Disconnection of the pathological connectome for multi-focal epilepsy surgery, *J Neurosurgery*, 2017, Epub ahead of print
68. Prueckl R, Kapeller C, Gruenwald J, Ogawa H, Kamada K, Korostenskaja M, Swift J, Scharinger J, Edlinger G, Guger C, Passive functional mapping guides electrical cortical stimulation for efficient determination of eloquent cortex in epilepsy patients, *39th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society*, 2017, Jul;2017, pp4163-4166
69. Kapeller C, Ogawa H, Schalk G, Kunii N, Coon WG, Scharinger J, Guger C, Kamada K, Real-Time Detection and Discrimination of Visual Perception Using Electrographic Signals, *J Neural Engineering*, 2018, Vol.15, No.3, 036001
70. S. Imaizumi, T. Asai, K. Hiromitsu, and H. Imamizu, Voluntarily controlled but not merely observed visual feedback affects postural sway, *PeerJ*, 2018, Vol. 6, e4643
71. C. Cai, K. Ogawa, T. Kochiyama, H. Tanaka, and H. Imamizu, Temporal recalibration of motor and visual

- potentials in lag adaptation in voluntary movement, *NeuroImage*, 2018, Vol. 172, pp. 654-662
72. T. Ikegami, G. Ganesh, T. Takeuchi, H. Nakamoto, Prediction error induced motor contagions in human behaviors, *eLife*, 2018, 7:e33392
 73. G. Ganesh, K. Nakamura, S. Saetia, A. Mejia Tobar, E. Yoshida, H. Ando, N. Yoshimura, Y. Koike, Utilizing sensory prediction errors for movement intention decoding: a new methodology, *Science Advances*, 2018, Vol. 4, No. 5, pp. 1-8
 74. L. Minati, M. Frasca, N. Yoshimura, and Y. Koike, Versatile locomotion control of a hexapod robot using a hierarchical network of non-linear oscillator circuits, *IEEE Access*, 2018, Vol. 4, pp. 1-24
 75. A. Mejia Tobar, Y. Ogata, K. Kita, T. Nakamura, H. Kambara, T. Hanakawa, Y. Koike and N. Yoshimura, Effect of the EEG Sensor Number on the Current-Source Decoder Performance based on a variational Bayesian method (VBMEG), *International Journal of Engineering Research and Allied Sciences*, 2018, Vol. 3, Issue 5, pp. 25-29
 76. M. Omori, S. Shibuya, T. Nakajima, T. Endoh, S. Suzuki, S. Irie, R. Ariyasu, S. Unenaka, H. Sano, K. Igarashi, S. Ichimura, and Y. Ohki, Hand Dexterity Impairment in Patients with Cervical Myelopathy: A New Quantitative Assessment Using a Natural Prehension Movement, *Behavioral Neurology*, 2018, Jul 4;2018:5138234
 77. T. Yamada, H. Kawaguchi, J. Kato, K. Matsuda, N. Higo, Functional near-infrared spectroscopy for monitoring macaque cerebral motor activity during voluntary movements without head fixation, *Scientific Reports*, 2018, Vol. 8:11941
 78. A. Mejia Tobar, R. Hyoudou, K. Kita, T. Nakamura, H. Kambara, Y. Ogata, T. Hanakawa, Y. Koike, and N. Yoshimura, Decoding of ankle flexion and extension from cortical current sources estimated from non-invasive brain activity recording methods, *Frontiers in Neuroscience*, 2018, Vol. 11, Article 733, pp. 1-12
 79. S. Shibuya, S. Unenaka, T. Zama, S. Shimada and Y. Ohki, Spontaneous imitative movements induced by an illusory embodied fake hand, *Neuropsychologia*, 2018, accepted
 80. Asai, T., Know thy agency in predictive coding: Meta-monitoring over forward modeling., *Consciousness and Cognition*, 2017, 51, 82-99.
 81. Kondo, H. M., Farkas, D., Denham, S., Asai, T., & Winkler, I., Auditory multistability and neurotransmitter concentrations in the human brain., *Philosophical transactions of the Royal Society of London. Series B, Biological sciences*, 2017, 372(1714).
 82. Imaizumi, S., & Asai, T., My action lasts longer: Potential link between subjective time and agency during voluntary action. , *Consciousness and Cognition*, 2017, 51, 243-257.
 83. Kanayama, N., Asai, T., Nakao, T., Makita, K., Kozuma, R., Uyama, T., Yamane, T., Kadota, H., & Yamawaki, S. , Subjectivity of the Anomalous Sense of Self is Represented in Gray Matter Volume in the Brain. , *Frontiers in Human Neuroscience* , 2017, 11, 232.
 84. Imaizumi, S., Asai, T., & Koyama, S., Agency over phantom limb enhanced by short-term mirror therapy. , *Frontiers in Human Neuroscience*, 2017, 11, 483.
 85. Ujiie, Y., Asai, T. & Wakabayashi, A., Individual Differences and the Effect of Face Configuration Contexts in the McGurk Effect., *Experimental Brain Research*. , 2018, in press
 86. N.S. Meraz, M. Sobajima, T. Aoyama and Y. Hasegawa, Modification of body schema by use of extra robotic thumb, *ROBOMECH Journal*, 2018, Vol. 5

87. Ookawa S, Enatsu R, Kanno A, Ochi S, Akiyama Y, Kobayashi T, Yamao Y, Kikuchi T, Matsumoto R, Kunieda T, Mikuni N. , Frontal fibers connecting the superior frontal gyrus to Broca's area: A cortico-cortical evoked potential study., *World Neurosurgery*, 2017, vol.107 pp.239-248
88. Kobayashi K, Matsumoto R(CA), Matsuhashi M, Usami K, Shimotake A, Kunieda T, Kikuchi T, Yoshida K, Mikuni N, Miyamoto S, Fukuyama H, Takahashi R, Ikeda A, High frequency activity overriding cortico-cortical evoked potentials reflects altered excitability in the human epileptic focus, *Clinical Neurophysiology*, 2017, Vol.128, pp.1673-1681
89. Usami K, Matsumoto R(CA), Kobayashi K, Hitomi T, Matsuhashi M, Shimotake A, Kikuchi T, Yoshida K, Kunieda T, Mikuni N, Miyamoto S, Takahashi R, Ikeda A., Phasic REM transiently approaches wakefulness in the human cortex – a single-pulse electrical stimulation study, *Sleep*, 2017, Vol. 128, No.9, pp. 1673-1681
90. Yamao Y, Suzuki K, Kunieda T, Matsumoto R, Arawaka Y, Nakae T, Nishida S, Inano R, Shibata S, Shimotake A, T Kikuchi, Sawamoto N, Mikuni N, Ikeda A, Fukuyama H, Miyamoto S., Clinical impact of intraoperative CCEP monitoring in evaluating the dorsal language white matter pathway, *Human Brain Mapping*, 2017, Vol.38, No. 4, pp.1977-1991
91. Fujiwara Y, Matsumoto R , Nakae T, Usami K, Matsuhashi M, Kikuchi T, Yoshida K, Kunieda T, Miyamoto S, Mima T, Ikeda A, Osu R, Neural pattern similarity between contra- and ipsilateral movements in high-frequency band of human electrocorticograms, *Neuroimage* , 2017, Vol.147, No. 15, pp. 302-313
92. K. Suzuki, T. Aoyagi and K. Kitano, Bayesian estimation of phase dynamics based on partially sampled spikes generated by realistic model neurons, *Frontiers in Computational Neuroscience*, 2018, vol.11, 116
93. T. Onojima, T. Goto, H. Mizuhara and T. Aoyagi, A dynamical systems approach for estimating phase interactions between rhythms of different frequencies from experimental data, *PLOS Computational Biology*, 2018, Vol.14, No.1, e1005928
94. Ishigaki T, Imai R, Morioka S, Association between Unintentional Interpersonal Postural Coordination Produced by Interpersonal Light Touch and the Intensity of Social Relationship, *Frontiers in Psychology*, 2017, Vol. 8, No.1993
95. Y.Takeuchi, H. Osaki, Y. Yagasaki, Y. Katayama, M. Miyata, Afferent fiber remodeling in the somatosensory thalamus of mice as a neural basis of somatotopic reorganization in the brain and ectopic mechanical hypersensitivity after peripheral sensory nerve injury, *eNeuro*, 2017, Vol. 4, No. 2, pp.0345-16
96. K. Min, M. Iwamoto, S. Kakei, H. Kimpara, Muscle synergy-driven robust motion control , *Neural Computation*, 2018, Vol. 30, pp1-28
97. N. Shimoda, J. Lee, M. Kodama, S. Kakei, Y. Masakado, Quantitative evaluation of age-related decline in control of programmed movement., *PLoS ONE*, 2017, 12(11):e0188657. doi: 10.1371/journal.pone.0188657.
98. T. Zama, Y. Takahashi, and S. Shimada, The effects of trajectory and endpoint errors in a reaching movement on the sense of agency, *Psychology*, 2017, Vol. 8, No. 14, pp. 2321-2332
99. Morita T, Saito DN, Ban M, Shimada K, Okamoto Y, Kosaka H, Okazawa H, Asada M, Naito E, Self-face recognition begins to share active region in right inferior parietal lobule with proprioceptive illusion during adolescence, *Cerebral Cortex*, 2018, in press
100. Schalk G, Kapeller C, Guger C, Ogawa H, Hiroshima S, Lafer-Sousa R, Saygin Z M, Kamada K, Kanwisher N,

Facephenes and Rainbows: Causal Evidence for Functional and Anatomical Specificity of Face and Color Processing in the Human Brain, PNAS, 2017, Vol.114,No.46,pp12285-12290114(46):12285-12290

101. T. Zama, Y. Takahashi, S. Shimada, The Effects of Trajectory and Endpoint Errors in a Reaching Movement on the Sense of Agency, *Psychology*, 2017, Vol.8, No. 14, pp.2321-2332
102. Huang,Zhifeng, Lin,Chingszu, Kanai-Pak,Masako, Maeda,Jukai, Kitajima,Yasuko, Nakamura,Mitsuhiro, Kuwahara,Noriaki, Ogata,Taiki & Ota,Jun., Robot patient design to simulate various patients for transfer training, *IEEE/ASME Transactions on Mechatronics*, 2017, 22(5), 2079-2090
103. Soo,Yewguan, Sugi,Masao, Yokoi,Hiroshi, Arai,Tamio Kato,Ryu, & Ota,Jun., Quantification of muscle fatigue using surface electromyography for isometric handgrip task, *Journal of Telecommunication Electronic and Computer Engineering*, 2017, 9(3), 205-209
104. Huang,Zhifeng, Lin,Chingszu, Kanai-Pak,Masako, Maeda,Jukai, Kitajima,Yasuko, Nakamura,Mitsuhiro, Kuwahara,Noriaki, Ogata,Taiki & Ota,Jun., Impact of using a robot patient for nursing skill training in patient transfer, *IEEE Transactions on Learning Technologies*, 2017, 10(3), 355-366
105. D. Owaki and A. Ishiguro, A Quadruped Robot Exhibiting Spontaneous Gait Transitions from Walking to Trotting to Galloping, *Scientific Reports*, 2017, 7:277, doi: 10.1038/s41598-017-00348-9
106. T. Ikegami, Shared mechanisms in the estimation of self-generated actions and the prediction of other's actions by humans, *eNeuro*, 2017, DOI: <https://doi.org/10.1523/ENEURO.0341-17>
107. S. Hamasaki, Q. An, M. Murabayashi, Y. Tamura, H. Yamakawa, A. Yamashita, and H. Asama, Evaluation of the Effect of Prime Stimulus on Sense of Agency in Stop Operation of the Object in Circular Motion, *Journal of Advanced Computational Intelligence and Intelligent Informatics*, 2017, Vol. 21, No. 7, pp. 1161-1171
108. W. Wen, D. Tomoi, H. Yamakawa, S. Hamasaki, K. Takakusaki, Q. An, Y. Tamura, A. Yamashita, and H. Asama, Continuous Estimation of Stress Using Physiological Signals during a Car Race, *Psychology*, 2017, Vol. 8, pp. 978-986
109. Kosuke Kitahara, Yoshikatsu Hayashi, Shiro Yano, Toshiyuki Kondo, Target-directed Motor Imagery of the Lower Limb Enhances Event-related Desynchronization, *PLoS ONE*, 2017, 12(9): e0184245.
110. Nobusako S, Nishi Y, Nishi Y, Shuto T, Asano D, Osumi M, Morioka S, Transcranial Direct Current Stimulation of the Temporoparietal Junction and Inferior Frontal Cortex Improves Imitation-Inhibition and Perspective-Taking with no Effect on the Autism-Spectrum Quotient Score., *Frontiers in Behavioral Neuroscience*, 2017, Vol.09
111. Imai R, Osumi M, Ishigaki T, Morioka S, The influence of trait anxiety and illusory kinesthesia on pain threshold., *J Phys Ther Sci*, 2017, Vol.29, No.7, pp.1236-1241
112. Tanaka Y, Nishi Y, Nishi Y, Osumi M, Morioka S, Uncovering the influence of social skills and psychosociological factors on pain sensitivity using structural equation modeling., *Journal of Pain Research*, 2017, Vol. 10, pp. 2223-2231
113. Imai R, Osumi M, Ishigaki T, Kodama T, Shimada S, Morioka S, Effects of illusory kinesthesia by tendon vibratory stimulation on the postoperative neural activities of distal radius fracture patients., *Neuroreport*, 2017, Vol. 28, No.17, pp. 1144-1149
114. Osumi M, Nobusako S, Zama T, Taniguchi M, Shimada S, Morioka S, Sensorimotor incongruence alters limb

perception and movement, *Hum Mov Sci*, 2017, Vol. 9457, No. 17, pp. 30639-30645

115. Kapeller C, Kamada K, Ogawa H, Prueckl R, Otal B, Guger C, Cortico-cortical potentials mapping of the face recognition network., *Brain Stimulation: Basic, Translational, and Clinical Research in Neuromodulation*, 2017, 10(2), pp.512
116. Ota N, Tanikawa R, Yoshikane T, Miyama M, Miyazaki T, Kinoshita Y, Matsukawa H, Yanagisawa T, Sakakibara F, Suzuki G, Saito N, Miyata S, Noda K, Tsuboi T, Takeda R, Kamiyama H, Tokuda S, Kamada K, Surgical Microanatomy of the Posterior Condylar Emissary Vein and its Anatomical Variations for the Transcondylar Fossa Approach, *Operative Neurosurgery*, 2017, Vol.13, No.3, pp.382-391
117. Ota N, Tanikawa R, Miyama M, Miyazaki T, Kinoshita Y, Matsukawa H, Sakakibara F, Saito N, Miyata S, Noda K, Tsuboi T, Kamiyama H, Tokuda S, Kamada K, A Contralateral Transcondylar Fossa Approach with Bilateral V3 Segment Exposure for Repairing Complex Vertebral Artery Aneurysms, *World Neurosurgery*, 2017, Vol.99, pp.340-347
118. Ota N, Matsukawa H, Kamiyama H, Tsuboi T, Noda K, Hashimoto A, Miyazaki T, Kinoshita Y, Saito N, Tokuda S, Kamada K, Tanikawa R, Preventing Cerebral Vasospasm After Aneurysmal Subarachnoid Hemorrhage with Aggressive Cisternal Clot Removal and Nicardipine, *World Neurosurgery*, 2017, Vol.107, pp.630-640
119. T. Funato, Y. Sato, S. Fujiki, Y. Sato, S. Aoi, K. Tsuchiya, and D. Yanagihara, Postural control during quiet bipedal standing in rats, *PLoS One*, 2017, 12(12): e0189248
120. W. Wen, A. Yamashita, H. Asama, Measurement of the perception of control during continuous movement using electroencephalography, *Frontiers in Human Neuroscience*, 2017, Vol. 11, No. 392
121. T. Takei, J. Confais, S. Tomatsu, T. Oya, and K. Seki, Neural basis for hand muscle synergies in the primate spinal cord, *PNAS*, 2017, PNAS 2017 ; published ahead of print July 24, 2017, doi:10.1073/pnas.1704328114
122. K. Nagasaka, I. Takashima, K. Matsuda, and N. Higo, Late-onset hypersensitivity after a lesion in the ventral posterolateral nucleus of the thalamus: A macaque model of central post-stroke pain, *Scientific Reports*, 2017, Vol. 7, Article number: 10316
123. T. Takei, J. Confais, S. Tomatsu, T. Oya, and K. Seki, Neural basis for hand muscle synergies in the primate spinal cord., *PNAS*, 2017, Vol.114, No.32, pp.8643-8648
124. S. Tomatsu, G. Kim, J. Confais and K. Seki, Muscle afferent excitability testing in spinal root-intact rats: Dissociating peripheral afferent and efferent volleys generated by intraspinal microstimulation., *Journal of Neurophysiology*, 2017, Vol. 117, No.2, pp.796-807
125. Kano K, Katayama T, Takeguchi S, Asanome A, Takahashi K, Saito T, Sawada J, Saito M, Anei R, Kamada K, Miyokawa N, Nishihara H, Hasebe N, A biopsy-proven case of Epstein-Barr virus (EBV)-associated vasculitis of central nervous system, *Neuropathology*, 2017, Vol.37, No 3, pp.259-264
126. Ogawa H, Kamada K, Kapeller C, Prueckl R, Takeuchi F, Hiroshima S, Anei R, Guger C, Clinical Impact and Implication of Real-Time Oscillation Analysis for Language Mapping, *World Neurosurgery*, 2017, Vol.97, pp.123-131
127. Usami K, Kubota M, Kawai K, Kunii N, Matsuo T, Ibayashi K, Takahashi M, Kamada K, Momose T, Aoki S, Saito N, Long-term outcome and neuroradiologic changes after multiple hippocampal transection combined with multiple subpial transection or lesionectomy for temporal lobe epilepsy, *Epilepsia*, 2016,

128. Matsukawa H, Tanikawa R, Kamiyama H, Tsuboi T, Noda K, Ota N, Miyata S, Oda J, Takeda R, Tokuda S, Kamada K, Risk factors for neurological worsening and symptomatic watershed infarction in internal carotid artery aneurysm treated by extracranial-intracranial bypass using radial artery graft, *J Neurosurgery*, 2016, Vol.125,No.2,pp. 239–246
129. Tamura Y, Ogawa H, Kapeller C, Prueckl R, Takeuchi F, Anei R, Rittaccio A, Guger C, Kamada K, Passive language mapping combining real-time oscillation analysis with cortico-cortical evoked potentials for awake craniotomy, *J Neurosurgery*, 2016, Vol.125,No.6,pp.1580-1588
130. N. Yoshimura, H. Tsuda, T. Kawase, H. Kambara, and Y. Koike, Decoding of finger movement in humans using synergy of EEG cortical current signals, *Scientific Reports*, 2017, 7(11382), pp. 1-11
131. S. Togo. and H. Imamizu, Empirical evaluation of voluntarily activatable muscle synergies, *Frontiers in Computational Neuroscience*, 2017, Vol. 11, e82
132. A. Yamashita, S. Hayasaka, M. Kawato, and H. Imamizu, Connectivity neurofeedback training can differentially change functional connectivity and cognitive performance, *Cerebral Cortex*, 2017, Vol. 27, No. 10, pp. 4960-4970
133. Naito E, Morita T, Saito DN, Ban M, Shimada K, Okamoto Y, Kosaka H, Okazawa H, and Asada M, Development of right-hemispheric dominance of inferior parietal lobule in proprioceptive illusion task, *Cerebral Cortex*, 2017, 27: 5385-5397
134. A. Sharott, F. Vinciati, K. C. Nakamura, P. J. Magill, A population of indirect pathway striatal projection neurons Is selectively entrained to Parkinsonian beta oscillations, *Journal of Neuroscience*, 2017, Vol. 37, No. 41, pp. 9977-9998
135. D. Hirai, K. C. Nakamura, K. Shibata, T. Tanaka, H. Hioki, T. Kaneko, T. Furuta, Shaping somatosensory responses in awake rats: cortical modulation of thalamic neurons, *Brain Structure and Function*, 2017, in press
136. J. Confais, G. Kim, S. Tomatsu, T. Takei, and K. Seki, Nerve-specific input modulation to spinal neurons during a motor task in the monkey, *Journal of Neuroscience*, 2017, pp. 2561-2616
137. Morita T, Saito DN, Ban M, Shimada K, Okamoto Y, Kosaka H, Okazawa H, Asada M, and Naito E, Self-face recognition shares brain regions active during proprioceptive illusion in the right inferior fronto-parietal superior longitudinal fasciculus III network, *Neuroscience*, 2017, 348: 288-301
138. Kano K, Katayama T, Takeguchi S, Asanome A, Takahashi K, Saito T, Sawada J, Saito M, Anei R, Kamada K, Miyokawa N, Nishihara H, Hasebe N, A biopsy-proven case of Epstein-Barr virus (EBV)-associated vasculitis of central nervous system, *Neuropathology*, 2017, in press
139. S. Suzuki, T. Nakajima, S. Irie, R. Ariyasu, T. Komiyama, Y. Ohki., Vestibular stimulation-induced facilitation of cervical premotoneuronal systems in humans., *PlosOne*, 2017, Vol. 12, No. 4, e0175131
140. S. Togo, T. Yoshioka, and H. Imamizu, Control strategy of hand movement depends on target redundancy, *Scientific Reports*, 2017, Vo. 7, e45722
141. W. Wen, A. Yamashita, and H. Asama, The influence of performance on action-Effect integration in sense of agency, *Consciousness and Cognition*, 2017, Vol. 53, pp. 89–98
142. Asai, T., Kanayama, N., Imaizumi, S., Koyama, S., & Kaganoi, S., Development of embodied sense of self

- scale (ESSS): Exploring everyday experiences induced by anomalous self-representation, *Frontiers in Psychology*, 2016, 7, 1005.
143. Asai, T., Self is “other”, other is “self”: poor self-other discriminability explains schizotypal twisted agency judgment., *Psychiatry Research*, 2016, 246, 593-600
 144. Imaizumi, S., Asai, T., & Koyama, S, Embodied prosthetic arm stabilizes body posture, while unembodied one perturbs it, *Consciousness and Cognition*, 2016, 45, 75-88.
 145. K. Shima and R. Sato, A novel haptic device design based on somatosensory superimposed stimuli, *Advanced Robotics*, 2017, Vol. 31, No. 3, pp. 135-142
 146. Mohamad Arif Fahmi, Sotaro Shimada, Robot’Hand Illusion under Delayed Visual Feedback:Relationship between the Senses of Ownership and Agency., *PLoS ONE*, 2016, 11(7): e0159619. doi:10.1371/journal.pone.0159619.
 147. Morioka S, Osumi M, Shiotani M, Nobusako S, Maeoka H, Okada Y, Hiyamizu M, Matsuo A, Incongruence between Verbal and Non-Verbal Information Enhances the Late Positive Potential, *PLoS One*, 2016, Vol.11, No.10.e0164633
 148. Katayama O, Osumi M, Kodama T, Morioka S, Dysesthesia symptoms produced by sensorimotor incongruence in healthy volunteers: an electroencephalogram study, *J Pain Res*, 2016, vol.9.pp. 1197-1204
 149. Sato G, Osumi M, Morioka S, Effects of wheelchair propulsion on neuropathic pain and resting electroencephalography after spinal cord injury, *J Rehabil Med*, 2016, Epub ahead of print
 150. Imai R, Osumi M, Ishigaki T, Morioka S, Effect of illusory kinesthesia on hand function in patients with distal radius fractures: a quasi-randomized controlled study, *Clin Rehabil*, 2017, Epub ahead of print
 151. Asano D, Morioka S, Associations between tactile localization and motor function in children with motor deficits, *International Journal of Developmental Disabilities*, 2017, Published online before print
 152. S. Suzuki, T. Nakajima, G. Futatsubashi, R.A. Mezzarane, H. Ohtsuka, Y. Ohki, E.P. Zehr, and T Komiyama, Soleus Hoffmann reflex amplitudes are specifically modulated by cutaneous inputs from the arms and opposite leg during walking but not standing, *Experimental Brain Research*, 2016, Vol. 234, No. 8, 2293-2304
 153. Takamura Y, Imanishi M, Osaka M, Ohmatsu S, Tominaga T, Yamanaka K, Morioka S, Kawashima N, Intentional gaze shift to neglected space: a compensatory strategy during recovery after unilateral spatial neglect, *Brain*, 2016, No.139, pp.2970-2982
 154. T. Nakajima, T. Tazoe, M. Sakamoto, T. Endoh, S. Shibuya, L.A. Elias, R.A. Mezzarane, T. Komiyama, and Y. Ohki , Reassessment of non-monosynaptic excitation from the motor cortex to motoneurons in single motor units of the human biceps brachii, *Frontiers in Human Neuroscience*, 2017, in press
 155. S. Togo and H. Imamizu, Anticipatory synergy adjustments reflect individual performance of feedforward force control, *Neuroscience Letter*, 2016, Vol. 632, pp. 192-198
 156. Hordacre B, Goldsworthy MR, Vallence AM, Darvishi S, Moezzi B, Hamada M, Rothwell JC, Ridding MC., Variability in neural excitability and plasticity induction in the human cortex: A brain stimulation study., *Brain Stimulation*, 2016, pii: S1935-861X(16)30383-7. doi: 10.1016/j.brs.2016.12.001.
 157. Terao Y, Fukuda H, Tokushige SI, Inomata-Terada S, Hamada M, Ugawa Y., Saccades abnormalities in posterior cortical atrophy – A case report., *Clin Neurophysiol*, 2016, 128(2):349-350.

158. Terao Y, Fukuda H, Tokushige SI, Inomata-Terada S, Yugeta A, Hamada M, Ugawa Y., Distinguishing spinocerebellar ataxia with pure cerebellar manifestation from multiple system atrophy (MSA-C) through saccade profiles., *Clin Neurophysiol*, 2017, 128(1):31-43
159. Nakamura K, Groiss SJ, Hamada M, Enomoto H, Kadowaki S, Abe M, Murakami T, Wiratman W, Chang F, Kobayashi S, Hanajima R, Terao
160. Y, Ugawa Y., Variability in Response to Quadripulse Stimulation of the Motor Cortex., *Brain Stimulation*, 2016, 9(6):859-866
161. L. Minati, N. Yoshimura, and Y. Koike, Hybrid control of a vision-guided robot arm by EOG, EMG, EEG biosignals and head movement acquired via a consumer-grade wearable device, *IEEE Access*, 2016, Vol. 4, pp. 9528-9541
162. T. Kawase, N. Yoshimura, H. Kambara, and Y. Koike, Controlling an electromyography-based power-assist device for the wrist using electroencephalography cortical currents, *Advanced Robotics*, 2017, Vol. 31, No. 1-2, pp. 88-96
163. S. Tomatsu, T. Ishikawa, Y. Tsunoda, J. Lee, D.S. Hoffman, S. Kakei, Information processing in the hemisphere of the cerebellar cortex for control of wrist movement., *Journal of Neurophysiology*, 2016, Vol. 115, No. 1, pp.255-270
164. T. Ishikawa, S. Tomatsu, J. Izawa, S. Kakei, The cerebro-cerebellum: Could it be loci of forward models?, *Neuroscience Research*, 2016, Vol. 104, pp72-79
165. H. Mitoma, K. Adhikari, D. Aeschlimann, P. Chattopadhyay, M. Hadjivassiliou, C.S. Hampe, J. Honnorat, B. Joubert, S. Kakei, J. Lee, M. Manto, A. Matsunaga, H. Mizusawa, K. Nanri, P. Shanmugarajah, M. Yoneda, N. Yuki, Consensus paper: Neuroimmune mechanisms of cerebellar ataxias., *Cerebellum*, 2016, Vol. 15, No. 2, pp213-232
166. Y. Hashimoto, T. Honda, K. Matsumura, M. Nakao, K. Katano, T. Yokota, H. Mizusawa, S. Nagao, K. Ishikawa, Quantitative evaluation of human cerebellum-dependent motor learning through prism adaptation of hand-reaching movement., *PLoS ONE*, 2015, 10(3):e0119376. doi: 10.1371/journal.pone.0119376
167. J. Kim, J. Lee, S. Kakei, J. Kim, Motor control characteristics for circular tracking movements of human wrist., *Advanced Robotics*, 2016, Vol. 31, pp29-39
168. Y. Matsumoto, J. Lee, T. Baba, S. Kakei, Y. Okada, H. Ando, Establishment of a quantitative evaluation of wrist motor function recovery stages in stroke patients: Comparison with the Brunnstrom stages, *Bulletin Of Health Sciences Kobe*, 2017, Vol. 32, in press
169. Masatoshi Yoshida, Ziad M. Hafed and Tadashi Isa, Informative cues facilitate saccadic localization in blindsight monkeys, *Front. Syst. Neurosci.*, 2017, 11:5
170. T. Imai, K. Ota and T. Aoyagi, Robust Measurements of Phase Response Curves Realized via Multicycle Weighted Spike-Triggered Averages, *Journal of the Physical Society of Japan*, 2017, Vol.86, No.2, e024009
171. Y. Terada, K. Ito, T. Aoyagi and Y. Y. Yamaguchi, Nonstandard transitions in the Kuramoto model: a role of asymmetry in natural frequency distributions, *Journal of Statistical Mechanics: Theory and Experiment: Theory and Experiment*, 2017, Vol. 2017, 013403
172. Y. Terada and T. Aoyagi, Dynamics of two populations of phase oscillators with different frequency distributions,

Physical Review E, 2016, Vol. 94, 012213

173. Y Yamao, R Matsumoto, A Ikeda et al. , Clinical impact of intraoperative CCEP monitoring in evaluating the dorsal language white matter pathway. , Human Brain Mapp, 2016, in press
174. Y Fujiwara, R Matsumoto, T Kunieda, A Ikeda, et al. , Neural pattern similarity between contra- and ipsilateral movements in high-frequency band of human electrocorticograms., Neuroimage, 2016, Volume 147, Pages 302–313
175. K Usami, R Matsumoto, A Shimotake, A Ikeda, et al. , Epileptic network of hypothalamic hamartoma: An EEG-fMRI study. , Epilepsy Res, 2016, Vol. 125, pp. 1-9
176. Y Chen, A Shimotake, R Matsumoto, T Kunieda, A Ikeda, et al. , The ‘when’ and ‘where’ of semantic coding in the anterior temporal lobe: Temporal representational similarity analysis of electrocorticogram data., Cortex, 2016, Vol. 79: 1-13, 2016
177. R Matsumoto, T Kunieda, D Nair. , Single pulse electrical stimulation to probe functional and pathological connectivity in epilepsy. , Seizure, 2016, Vol. 44, pp.27-36
178. R. Chiba, S. Shiraishi, K. Takakusaki, J. Ota, A model for the initial diagnosis of cerebellar disease, Advanced Robotics, 2017, Vol. 31, No.3, pp.143-154
179. R. Chiba, K. Takakusaki, J. Ota, A. Yozu and N. Haga, Human upright posture control models based on multisensory inputs; in fast and slow dynamics, Neuroscience Research, 2016, Vol. 104, pp. 96-104
180. K. Takakusaki, Functional Neuroanatomy for Posture and Gait Control, Journal of Movement Disorders, 2017, Vol. 10, No. 1, pp. 1-17.
181. K. Takakusaki, M. Takahashi, K. Obara, and R. Chiba, Neural substrates involved in the control of posture, Advanced Robotics, 2017, Vol.31, No. 1-2, pp. 2-23
182. A. H. Snijders, K. Takakusaki, B. Debu, A. M. Lozano, V. Krishna, A. Fasano, T. Z. Aziz, S.M. Papa, S. A. Factor, and M. Hallett, Physiology of freezing of gait, Annals of neurology, 2016, Vol. 80, No. 5, pp. 644–659
183. T. Nozu, S. Miyagishi, R. Nozu, K. Takakusaki and T. Okumura, Lipopolysaccharide induces visceral hypersensitivity: role of interleukin-1, interleukin-6, and peripheral corticotropin-releasing factor in rats, Journal of gastroenterology, 2017, Vol. 52, No. 1, pp. 72-80
184. T. Okumura, T. Nozu, S. Kumei, K. Takakusaki, S. Miyagishi, and M. Ohhira, Adenosine A1 receptors mediate the intracisternal injection of orexin-induced antinociceptive action against colonic distension in conscious rats, Journal of the neurological sciences, 2016, Vol. 362, pp. 106-110
185. T. Okumura, T. Nozu, S. Kumei, K. Takakusaki, S. Miyagishi and M. Ohhira, Levodopa acts centrally to induce an antinociceptive action against colonic distension through activation of D2 dopamine receptors and the orexinergic system in the brain in conscious rats, Journal of pharmacological sciences, 2016, Vol. 130, No.2, pp. 123-127.
186. T. Nozu, S. Miyagishi, R. Nozu, K. Takakusaki, and T. Okumura, Water avoidance stress induces visceral hyposensitivity through peripheral corticotropin releasing factor receptor type 2 and central dopamine D2 receptor in rats, Neurogastroenterology & Motility, 2016, Vol.28, No.4, pp. 522-531
187. S. Tomatsu, G. Kim, J. Confais, and K. Seki , Muscle afferent excitability testing in spinal root-intact rats: Dissociating peripheral afferent and efferent volleys generated by intraspinal microstimulation, Journal of

Neurophysiology, 2016, Vol.36, No.50

188. K. Takakusaki, R. Chiba, T. Nozu, and T. Okumura, Takakusaki, K., Chiba, R., Nozu, T., & Okumura, T. (2016). Brainstem control of locomotion and muscle tone with special reference to the role of the mesopontine tegmentum and medullary reticulospinal systems, *Journal of Neural Transmission*, 2016, Vol. 123, No. 7, pp. 695-729
189. H. Yamada, H. Yaguchi, S. Tomatsu, T. Takei, T. Oya, and K. Seki, Representation of afferent signals from forearm muscle and cutaneous nerves in the primary somatosensory cortex of the macaque monkey, *PLOS ONE*, 2016, Vol. 11, No.10, e0163948
190. Matsuno H, Kudoh M, Watakabe A, Yamamori T, Shigemoto R, Nagao S, Distribution and Structure of Synapses on Medial Vestibular Nuclear Neurons Targeted by Cerebellar Flocculus Purkinje Cells and Vestibular Nerve in Mice: Light and Electron Microscopy Studies., *PLoS ONE*, 2016, 11 (10)
191. Ningjia Yang, Qi An, Hiroshi Yamakawa, Yusuke Tamura, Atsushi Yamashita and Hajime Asama, Muscle Synergy Structure using Different Strategies in Human Standing-up Motion, *Advanced Robotics*, 2017, Vol. 31, No.1-2, pp. 40-54
192. Yuki Ishikawa, Qi An, Junki Nakagawa, Hiroyuki Oka, Tetsuro Yasui, Michio Tojima, Haruhi Inokuchi, Nobuhiko Haga, Hiroshi Yamakawa, Yusuke Tamura, Atsushi Yamashita and Hajime Asama, Gait Analysis of Patients with Knee Osteoarthritis by Using Elevation Angle: Confirmation of the Planar Law and Analysis of Angular Difference in the Approximate Plane, *Advanced Robotics*, 2017, Vol.31, No.1-2, pp.68-79
193. T. Inamura, S. Unenaka, S. Shibuya, Y. Ohki, Y. Oouchida and S. Izumi, Development of VR Platform for Cloud-based Neurorehabilitation and its application to research on sense of agency and ownership, *Advanced Robotics*, 2017, Vol.31, No.1, pp.97-106
194. T. Mimura, Y. Hagiwara, T. Taniguchi and T. Inamura, Bayesian Body Schema Estimation using Tactile Information obtained through Coordinated Random Movements, *Advanced Robotics*, 2017, Vol.31, No.3, pp.118-134
195. A. Yozu, M. Hamada, T. Sasaki, S. Tokushige, S. Tsuji, N. Haga , Development of a novel system to quantify the spatial-temporal parameters for crutch-assisted quadrupedal gait, *Advanced Robotics* , 2016, Published online
196. A Yozu, S Obayashi, K Nakajima, Y Hara, Hemodynamic response of the supplementary motor area during locomotor tasks with upright versus horizontal postures in humans, *Neural Plasticity*, 2016, 6168245
197. A. Yozu, M. Sumitani, M. Shin, K. Ishi, M. Osumi, J. Katsuhira, R. Chiba, and N. Haga, Effect of Spinal Cord Stimulation on Gait in a Patient with Thalamic Pain, *Case Reports in Neurological Medicine*, 2016, 8730984
198. Veale R., Hafed ZM. and * Yoshida, M., How is visual saliency computed in the brain? Insights from behaviour, neurobiology, and modeling., *Philos Trans R Soc Lond B Biol Sci.*, 2016, In press
199. Morita T, Asada M and Naito E, Contribution of neuroimaging studies to understanding development of human cognitive brain functions, *Frontiers in Human Neuroscience*, 2016, 10: 464
200. Ota N, Goehre F, Miyazaki T, Kinoshita Y, Matsukawa H, Yanagisawa T, Sakakibara F, Saito N, Miyata S, Noda K, Tsuboi T, Kamiyama H, Tokuda S, Kamada K, Tanikawa R., Bypass Revascularization Applied to the Posterior Cerebral Artery, *World Neurosurg*, 2016, Vol.96,460-472

201. Yoshino M, Kin T, Ito A, Saito T, Nakagawa D, Ino K, Kamada K, Mori H, Kunimatsu A, Combined use of diffusion tensor tractography and multifused contrast-enhanced FIESTA for predicting facial and cochlear nerve positions in relation to vestibular schwannoma, *J Neurosurg*, 2015, Vol.123,No.6,pp1480-1488
202. Kapeller C, Schneider C, Kamada K, Ogawa H, Kunii N, Ortner R, Pruckl R, Guger C, Single trial detection of hand poses in human ECoG using CSP based feature extraction, *Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC), 2014 36th Annual International Conference of the IEEE, 2015*, pp.4599-4602
203. Kamada K, ECoG-Based BCI for BCI-MEG Research, *Clinical Applications of Magnetoencephalography, 2016*, pp.305-317
204. Ogawa H, *Kamada K, Kapeller C, Pruckl R, Takeuchi F, Hiroshima S, Anei R, Guger C, Clinical Impact and Implication of Real-Time Oscillation Analysis for Language Mapping, *World Neurosurgery, 2016*, in press
205. Takashi Sakamoto, and Toshiyuki Kondo, Awareness of movement does not facilitate robot-assisted passive motor learning, *Advanced Robotics, 2016*, accepted
206. Dai Owaki, Yusuke Sekiguchi, Keita Honda, Akio Ishiguro, and Shin-ichi Izumi, Short-Term Effect of Prosthesis Transforming Sensory Modalities on Walking in Stroke Patients with Hemiparesis, *Neural Plasticity, 2016*, DOI: 10.1155/2016/6809879
207. Zhifeng Huang, Chingszu Lin, Masako Kanai-Pak, Jukai Maeda, Yasuko Kitajima, Mitsuhiro Nakamura, Noriaki Kuwahara, Taiki Ogata and Jun Ota, Impact of Using a Robot Patient for Nursing Skill Training in Patient Transfer, *IEEE Transactions on Learning Technologies, 2016*, accepted
208. Ping Jiang, Ryosuke Chiba, Kaoru Takakusaki, Jun Ota, Generation of the Human Biped Stance by a Neural Controller Able to Compensate Neurological Time Delay, *Plos One, 2016*, accepted
209. Ishigaki T, Imai R, Morioka S, Cathodal transcranial direct current stimulation of the posterior parietal cortex reduces steady-state postural stability during the effect of light touch., *Neuroreport, 2016*, Vol. 27, No.14, pp.1050-1055
210. Ogawa T, Omon K, Yuda T, Ishigaki T, Imai R, Ohmatsu S, Morioka S., Short-term effects of goal-setting focusing on the life goal concept on subjective well-being and treatment engagement in subacute inpatients: a quasi-randomized controlled trial., *Clin Rehabil, 2016*, Vol. 30, No.9, pp. 909-920
211. K. Ogawa, and F. Imai, Hand-independent representation of tool-use pantomimes in the left anterior intraparietal cortex, *Experimental Brain Research*, 2016, in press
212. T. Kawase, N. Yoshimura, H. Kambara, and Y. Koike, Controlling an electromyography-based power-assist device for the wrist using electroencephalography cortical currents, *Advanced Robotics, 2016*, pp. 1-9
213. S. Shibuya, S. Unenaka and Y. Ohki, Body Ownership and Agency: Task-Dependent Effects of the Virtual Hand Illusion on Proprioceptive Drift, *Experimental Brain Research, 2016*, accepted
214. M. Narushima, M. Uchigashima, Y. Yagasaki, T. Harada, Y. Nagumo, N. Uesaka, K. Hashimoto, A. Aiba, M. Watanabe, M. Miyata and M. Kano, Type 1 Metabotropic Glutamate Receptor Mediates Experience-Dependent Maintenance of Mature Synaptic Connectivity in the Visual Thalamus, *Neuron, 2016*, Vo. 91, No. 5, pp.1097-109
215. R. Minohara, W. Wen, S. Hamasaki, T. Maeda, M. Kato, H. Yamakawa, A. Yamashita, and H. Asama, Strength of Intentional Effort Enhances the Sense of Agency, *Frontiers in Psychology, 2016*, 7:1165

216. W. Wen, K. Muramatsu, S. Hamasaki, Q. An, H. Yamakawa, Y. Tamura, A. Yamashita, and H. Asama, Goal-directed movement enhances body representation updating, *Frontiers in Human Neuroscience*, 2016, 10:329. doi: 10.3389/fnhum.2016.00329.
217. J. Katsuhira, K. Matsudaira, T. Oka, S. Iijima, A. Itou, T. Yasui, and A. Yozu, Efficacy of a trunk orthosis with joints providing resistive force on low back load during level walking in elderly persons, *Clinical Interventions in aging*, 2016.
218. A. Yozu, S. Obayashi, K. Nakajima, and Y. Hara, Hemodynamic response of the supplementary motor area during locomotor tasks with upright versus horizontal postures in humans, *Neural Plasticity*, 2016, accepted
219. R. Ohata, K. Ogawa, and H. Imamizu, Single-trial prediction of reaction time variability from MEG brain activity, *Scientific Reports*, 2016, in press
220. I. Obayashi, S. Aoi, K. Tsuchiya, and H. Kokubu, Formation mechanism of a basin of attraction for passive dynamic walking induced by intrinsic hyperbolicity, *Proceedings of the Royal Society A*, in press
221. Nakaamura K, Groiss SJ, Hamada M, Enomoto H, Kadowaki S, Abe M, Murakami T, Wiratman W, Chang F, Kobayashi S, Hanahima R, Terao Y, Ugawa Y., Variability in response to quadripulse stimulation of the motor cortex, *Brain Stimulation*, 2016, in press
222. Figueroa Heredia, Jorge David, Sahloul, Hamdi, & Ota, Jun, Teaching mobile robots using custom-made tools by a semi-direct method, *Journal of Robotics and Mechatronics*, 2016, Vol. 28, No.2, 242-254
223. A. Takahashi, M.S. Islam, H. Abe, K. Okubo, Y. Akazome, T. Kaneko, H. Hioki, Y. Oka, Morphological analysis of the early development of telencephalic and diencephalic gonadotropin-releasing hormone neuronal systems in enhanced green fluorescent protein-expressing transgenic medaka lines, *The Journal of Comparative Neurology*, 2016, Vol. 524, No. 4, pp.896-913
224. Y. Oe, O. Baba, H. Ashida, K.C. Nakamura, H. Hirase, Glycogen distribution in the microwave-fixed mouse brain reveals heterogeneous astrocytic patterns, *Glia*, 2016, in press
225. H. Hama, H. Hioki, K. Namiki, T. Hoshida, H. Kurokawa, A. Miyawaki, Deep imaging of cleared brain by confocal laser-scanning microscopy, *Protocol Exchange*, 2016, doi:10.1038/protex.2016.019
226. T. Nozu, S. Miyagishi, R. Nozu, K. Takakusaki and T. Okumura, Lipopolysaccharide induces visceral hypersensitivity: role of interleukin-1, interleukin-6, and peripheral corticotropin-releasing factor in rats, *Journal of gastroenterology*, 2016, pp. 1-9
227. Ioannou CI, Furuya S, Altenmüller E, The impact of stress on motor performance in skilled musicians suffering from focal dystonia: Physiological and psychological characteristics, *Neuropsychologia* , 2016, Vol. 85, pp. 226-236
228. N. Shigematsu, Y. Ueta, AA. Mohamed, S. Hatada, T. Fukuda, Y. Kubota, Y. Kawaguchi, Selective Thalamic Innervation of Rat Frontal Cortical Neurons, *Cerebral Cortex*, 2016, Vol. 26, pp. 2689-704
229. T. Imai and T. Aoyagi, Improvement effect of measuring phase response curves by using multicycle data, *Nonlinear Theory and Its Applications*, IEICE, 2016, vol.7, no.2, pp.58-65
230. Murata Y, Higo N., Development and Characterization of a Macaque Model of Focal Internal Capsular Infarcts., *PLoS One.*, 2016, 2016 May 5;11(5):e0154752.
231. Chen Y, Shimotake A, Matsumoto R(CA) , Kunieda T, Kikuchi T, Miyamoto S, Fukuyama H, Takahashi R,

- Ikeda A, Lambon-Ralph MA. , The ‘when’ and ‘where’ of semantic coding in the anterior temporal lobe: Temporal representational similarity analysis of electrocorticogram data, *Cortex*, 2016, in press
232. Qi An , Yuki Ishikawa, Tetsuro Funato, Shinya Aoi, Hiroyuki Oka, Hiroshi Yamakawa, Atsushi Yamashita, Hajime Asama, Muscle Synergy Analysis of Human Standing-up Motion Using Forward Dynamic Simulation with Four Body Segment Model, *Distributed Autonomous Robotic Systems*, 2016, Vol. 112, pp. 459-471
233. S. Aoi, Neuromusculoskeletal modeling for the adaptive control of posture during locomotion, *Neuromechanical Modeling of Posture and Locomotion*, B. Prilutsky and D.H. Edwards (Eds.), Springer, New York, 2016, pp. 225-244
234. Ayaki M, Shiba D, Negishi K, Tsubota K., Depressed visual field and mood are associated with sleep disorder in glaucoma patients., *Sci Rep.*, 2016, 6:25699
235. Ayaki M, Kawashima M, Kishimoto T, Mimura M, Negishi K, Tsubota K. , Sleep and mood disorders in dry eye disease and allied irritating ocular diseases., *Sci Rep.*, 2016, 6:22480
236. Ayaki M, Toda I, Tachi N, Negishi K, Tsubota K. , Protective effects of blue light shield eyewear on blue light pollution by self-luminous device used at night., *Chronobiol Int.*, 2016, 33(1):134-9.
237. Ayaki M, Toda I, Tachi N, Negishi K, Tsubota K. , Preliminary report of improvement in sleep quality for dry eye disease after initiation of topical therapy., *Neuropsychiatric Disease and Treatment*, 2016, 12:329-337.
238. Veale R.E., and Isa T., Yoshida, M., Spatiotemporal dynamics in spiking simulations of superior colliculus fit via MCMC suggest disinhibition responsible for superlinear summation., *BMC Neuroscience*, 2015, 16(Suppl 1):P293
239. K. Matsumiya, M. Takahashi, I. Kuriki, S. Shioiri, Active movements generate rotation-independent representations for haptic movements, *Interdisciplinary Information Sciences*, 2015, 21(2), 115-123
240. K. Matsumiya, S. Shioiri, Smooth pursuit eye movements and motion perception share motion signals in slow and fast motion mechanisms, *Journal of Vision*, 2015, 15(11):12, 1-15
241. Guger C, Kapeller C, Ortner R, Kamada K, Motor Imagery with Brain-Computer Interface Neurotechnology, *Motor Imagery*, 2015, pp61-79
242. Usami K, Kubota M, Kawai K, Kunii N, Matsuo T, Ibayashi K, Takahashi M, Kamada K, Momose T, Aoki S, Saito N, Long-term outcome and neuroradiologic changes after multiple hippocampal transection combined with multiple subpial transection or lesionectomy for temporal lobe epilepsy, *Epilepsia*, 2015
243. S. Ikemoto, Y. Kimoto, and K. Hosoda, Shoulder Complex Linkage Mechanism for Humanlike Musculoskeletal Robot Arms, *Bioinspiration & Biomimetics*, 2015, 10,6
244. Tian X, Yoshida M, Hafed ZM, A Microsaccadic Account of Attentional Capture and Inhibition of Return in Posner Cueing., *Frontiers in systems neuroscience*, 2016, 10:23
245. Yoshida M, Isa T, Signal detection analysis of blindsight in monkeys., *Scientific reports*, 2015, 5:10755
246. N. Yoshimura, A. Nishimoto, A.N. Belkacem, D. Shin, H. Kambara, and Y. Koike, Decoding of covert vowel articulation using electroencephalography cortical currents, *Frontiers in Neuroscience*, 2016, Vol. 10, No. 175, pp. 1-15
247. Taiki Ogata, Ayanori Nagata, Zhifeng Huang, Takahiro Katayama, Masako Kanai-Pak, Jukai Maeda, Yasuko Kitajima, Mitsuhiro Nakamura, Kyoko Aida, Noriaki Kuwahara, and Jun Ota, Mannequin system for the self-

- training of nurses in the changing of clothes, *Kybernetes*, 2016, Vol. 45 No. 5, 2016 pp. 839-852
248. T. Funato, Y. Yamamoto, S. Aoi, T. Imai, T. Aoyagi, N. Tomita, and K. Tsuchiya, Evaluation of the Phase-Dependent Rhythm Control of Human Walking Using Phase Response Curves, *PLoS Computational Biology*, 2016, Vol. 12, No. 5, e1004950
249. N. Arizono, Y. Ohmura, S. Yano, and T. Kondo, Functional connectivity analysis of NIRS recordings under rubber hand illusion to find a biomarker of body ownership, *Neural Plasticity*, 2016, in press
250. Noro S, Ishibashi H, Sato H, Yamaguchi N, Ogawa H, Orimoto R, Mitsui N, Hiroshima S, Anei R, Wada H, Kamada K, Successful therapy of thalamotomy for intractable thalamic pain. Case report, 5Th Mt. Bandai and Panpacific Joint Neurosurgical Convention 2016, Phnom Penh, Cambodia, 2016
251. Morioka S, Osumi M, Okamoto M, Matsuo A, Effects of Facial Expression and Language on Trustworthiness and Brain Activities, *International Journal of Brain Science*, 2015, 719213
252. Katayama O, Iki H, Sawa S, Osumi M, Morioka S, The effect of virtual visual feedback on supernumerary phantom limb pain in a patient with high cervical cord injury: a single-case design study., *Neurocase*, 2015, Vol.21,No.6,pp786-792
253. Fuchigami T, Morioka S, Differences in cortical activation between observing one's own gait and the gait of others: a functional near-infrared spectroscopy study., *Neuroreport*, 2015, Vol.26,No.4,pp.192-196
254. Wakata S, Morioka S, Brain activity and the perception of self-agency while viewing a video of hand grasping: a functional near-infrared spectroscopy study., *Neuroreport*, 2015, Vol.26,No.7,pp.394-398
255. Okada Y, Kita Y, Nakamura J, Kataoka H, Kiriya T, Ueno S, Hiyamizu M, Morioka S, Shomoto K, Galvanic vestibular stimulation may improve anterior bending posture in Parkinson's disease, *Neuroreport*, 2015, Vol.26,No.7,pp.405-410
256. Nakai H, Tsujimoto K, Fuchigami T, Ohmatsu S, Osumi M, Nakano H, Fukui M, Morioka S, Effect of anticipation triggered by a prior dyspnea experience on brain activity, *J Phys Ther Sci*, 2015, Vol.9,No.1,pp.40-43
257. Maeoka H, Hiyamizu M, Matsuo A, Morioka S, The influence of repeated pain stimulation on the emotional aspect of pain: a preliminary study in healthy volunteers, *Journal of Pain Research*, 2015, Vol.8,pp.431-436
258. Imai R, Osumi M, Morioka S, Influence of illusory kinesthesia by vibratory tendon stimulation on acute pain after surgery for distal radius fractures: A quasi-randomized controlled study, *Clinical Rehabilitation*, 2015, Published online before print
259. Fujita H, Kasubuchi K, Osumi M, Morioka S, Effects of the Central Executive on Postural Control, *Journal of Motor Behavior*, 2015, Published online before print
260. Hayashibe M, Homma T, Fujimoto K, Oi T, Yagi N, Kashiara M, Nishikawa N, Ishizumi Y, Abe S, Hashimoto H, Kanekiyo K, Imagita H, Ide C, Morioka S, Locomotor improvement of spinal cord-injured rats through treadmill training by forced plantar placement of hind paws, *Spinal Cord*, 2015, Published online before print
261. Fujita H, Kasubuchi K, Wakata S, Hiyamizu M, Morioka S, Role of the frontal cortex in standing postural sway tasks while dual tasking: a functional near-infrared spectroscopy study examining working memory capacity, *Bio Med Research International*, 2015, 7053867
262. Ishigaki T, Ueta K, Imai R, Morioka S, EEG frequency analysis of cortical brain activities induced by effect of

- light touch, *Exp Brain Res*, 2016, Published online before print
263. Ogawa T, Omon K, Yuda T, Ishigaki T, Imai R, Ohmatsu S, Morioka S, Short-term effects of goal-setting focusing on the life goal concept on subjective well-being and treatment engagement in subacute inpatients: A quasi-randomized controlled trial, *Clinical Rehabilitation*, 2016, Published online before print
264. Kataoka H, Okada Y, Morioka S et al, Can Postural Instability Respond to Galvanic Vestibular Stimulation in Patients with Parkinson's Disease?, *J Mov Disord*, 2016, Published online before print
265. Okumura T, Nozu T, Kumei S, Takakusaki K, Miyagishi S, Ohhira M.: Adenosine A1 receptors mediate the intracisternal injection of orexin-induced antinociceptive action against colonic distension in conscious rats. *J Neurol Sci*. 2016 Mar 15; 362: 106-10. doi: 10.1016/j.jns.2016.01.031. Epub 2016 Jan 23.
266. Okumura T, Nozu T, Kumei S, Takakusaki K, Miyagishi S, Ohhira M.: Levodopa acts centrally to induce an antinociceptive action against colonic distension through activation of D2 dopamine receptors and the orexinergic system in the brain in conscious rats., *J Pharmacol Sci*. 2016 Jan 29. pii: S1347-8613(16)00008-6. doi: 10.1016/j.jphs.2016.01.007.
267. Nozu T, Miyagishi S, Nozu R, Takakusaki K, Okumura T.: Water avoidance stress induces visceral hyposensitivity through peripheral corticotropin releasing factor receptor type 2 and central dopamine D2 receptor in rats. *Neurogastroenterol Motil*. 2015 Dec 10. doi: 10.1111/nmo.12747. [Epub ahead of print]
268. Takakusaki K, Chiba R, Nozu T, Okumura T.: Brainstem control of locomotion and muscle tone with special reference to the role of the mesopontine tegmentum and medullary reticulospinal systems. (Review) *J Neural Transm (Vienna)*. 2015 Oct 26. doi: 10.1007/s00702-015-1475-4 [Epub ahead of print]
269. Okumura T, Nozu T, Kumei S, Takakusaki K, Miyagishi S, Ohhira M.: Involvement of the dopaminergic system in the central orexin-induced antinociceptive action against colonic distension in conscious rats. *Neurosci Lett*. 2015 Sep 25; 605: 34-8. doi: 10.1016/j.neulet.2015.08.013. Epub 2015 Aug 12.
270. Nozu T, Kumei S, Miyagishi S, Takakusaki K, Okumura T.: Colorectal distention induces acute and delayed visceral hypersensitivity: role of peripheral corticotropin-releasing factor and interleukin-1 in rats. *J Gastroenterol*. 2015 Dec; 50(12): 1153-61. doi: 10.1007/s00535-015-1070-3. Epub 2015 Mar 26.
271. Ishida A, Isa K, Umeda T, Kobayashi K, Kobayashi K, Hida H, Isa T., Causal Link between the Cortico-Rubral Pathway and Functional Recovery through Forced Impaired Limb Use in Rats with Stroke, *Journal of Neuroscience*, 2016, Vol. 36, No. 2, pp.455-467
272. Hama H, Hioki H, Namiki K, Hoshida T, Kurokawa H, Ishidate F, Kaneko T, Akagi T, Saito T, Saido T, Miyawaki A. , ScaleS: an optical clearing palette for biological imaging, *Nature Neuroscience*, 2015, Vol. 18, No. 10, pp.1518-1529
273. Peirs C, Williams SP, Zhao X, Walsh CE, Gedeon JY, Cagle NE, Goldring AC, Hioki H, Liu Z, Marell PS, Seal RP, Dorsal Horn Circuits for Persistent Mechanical Pain, *Neuron*, 2015, Vol. 87, No. 4, pp.797-812
274. Hiromichi Tsukada, Hiroshi Fujii, Kazuyuki Aihara, Ichiro Tsuda, Computational model of visual hallucination in dementia with Lewy bodies, *Neural Networks*, 2015, Vol.62, pp.73-82
275. Ichiro Tsuda, Chaotic itinerancy and its roles in cognitive neurodynamics, *Current Opinion in Neurobiology*, 2015, 62, 73-82

276. Ichiro Tsuda, Logic dynamics for deductive inference — Its stability and neural basis, *Chaos, Information Processing and Paradoxical Games: The legacy of John*
277. S Nicolis (eds. G. Nicolis and V. Basiotis, World Scientific, 2015, pp.355-373
278. Rubin Wang, Ichiro Tsuda, Zhikang Zhang, A New Work Mechanism on Neuronal Activity, *International Journal of Neural Systems*, 2015, DOI:10.1142/S01290657145003731450037
279. Yutaka Yamaguti, Ichiro Tsuda, Mathematical Modeling for Evolution of Heterogeneous Modules in the Brain, *Neural Networks*, 2015, Vol.62, pp.3-10
280. A. Abdi, N. Mallet, F.Y. Mohamed, A. Sharott, P.D. Dodson, K.C. Nakamura, S. Suri, S.V. Avery, J.T. Larvin, F.N. Garas, S.N. Garas, F. Vinciati, S. Morin, E. Bezdard,
281. J. Baufreton, P.J. Magill, Prototypic and arky pallidal neurons in the dopamine-intact external globus pallidus, *Journal of Neuroscience*, 2015, Vol. 35, No. 17. pp.6667-6688
282. Li LM, Uehara K, Hanakawa T, The contribution of interindividual factors to variability of response in transcranial direct current stimulation studies, *Front Cell Neurosci*, 2015, 9: 181
283. Shitara H, Shimoyama D, Sasaki T, Hanamo N, Ichinose T, Yamamoto A, Kobayashi T, Osawa T, Hanakawa T, Tsushima Y, Takagishi K, The neural correlates of shoulder apprehension: a functional MRI study, *PLoS ONE*, 2015, 10(9): e0137387
284. Kusano T, Kurashige H, Nambu I, Moriguchi Y, Hanakawa T, Wada Y, Osu R, Resting-state brain activity in the motor cortex reflects task-induced activity: A multi-voxel pattern analysis, *Conf Proc IEEE Eng Med Biol Soc*, 2015, 4290-4293
285. Sasaki D, Izawa J, Morita M, A computational Approach to Detect a Meta-learning of the Cortical Basis Function during a Motor Adaptation Study, 26th 2015 International Symposium on Micro-NanoMechatronics and Human Science, 2015, ?
286. Pekny, Sarah E., Jun Izawa, and Reza Shadmehr, Reward-dependent modulation of movement variability, *Journal of Neuroscience*, 2015, 35.9, 4015-4024.
287. Izawa, Jun, Toshinori Yoshioka, and Rieko Osu, The influence of an uncertain force environment on reshaping trial-to-trial motor variability, *NeuroReport*, 2014, 25.13, 979-984.
288. Eiichi Naito, Jun Ota and Akira Murata: Body representation in the brain, *Neuroscience Research*, Vol.104, pp.1-3, 2016.
289. Akira Murata, Wen Wen, Hajime Asama: The body and objects represented in the ventral stream of the parieto-premotor network, *Neuroscience Research*, Vol.104, pp.4-15, 2016.
290. Eiichi Naito, Tomoyo Morita, Kaoru Amemiya: Body representations in the human brain revealed by kinesthetic illusions and their essential contributions to motor control and corporeal awareness, *Neuroscience Research*, Vol.104, pp.16-30, 2016.
291. Laura Aymerich-Franch, Gowrishankar Ganesh: The role of functionality in the body model for self-attribution, *Neuroscience Research*, Vol.104, pp.31-37, 2016.
292. Yutaka Oouchida, Tamami Sudo, Tetsunari Inamura, Naofumi Tanaka, Yukari Ohki, Shin-ichi Izumi: Maladaptive change of body representation in the brain after damage to central or peripheral nervous system, *Neuroscience Research*, Vol.104, pp.38-43, 2016.

293. Jun Izawa, Tomohisa Asai, Hiroshi Imamizu: Computational motor control as a window to understanding schizophrenia, *Neuroscience Research*, Vol.104, pp.44-51, 2016.
294. Shiro Yano, Takaki Maeda, Toshiyuki Kondo: Slow dynamics perspectives on the Embodied-Brain Systems Science, *Neuroscience Research*, Vol.104, pp.52-55, 2016.
295. Takashi Hanakawa: Organizing motor imageries, *Neuroscience Research*, Vol.104, pp.56-63, 2016.
296. Hirokazu Tanaka: Modeling the motor cortex: Optimality, recurrent neural networks, and spatial dynamics, *Neuroscience Research*, Vol.104, pp.64-71, 2016.
297. Takahiro Ishikawa, Saeka Tomatsu, Jun Izawa, Shinji Kakei: The cerebro-cerebellum: Could it be loci of forward models? *Neuroscience Research*, Vol.104, pp.72-79, 2016.
298. Masaya Hirashima, Tomomichi Oya: How does the brain solve muscle redundancy? Filling the gap between optimization and muscle synergy hypotheses, *Neuroscience Research*, Vol.104, pp.80-87, 2016.
299. Shinya Aoi, Tetsuro Funato: Neuromusculoskeletal models based on the muscle synergy hypothesis for the investigation of adaptive motor control in locomotion via sensory-motor coordination, *Neuroscience Research*, Vol.104, pp.88-95, 2016.
300. Ryosuke Chiba, Kaoru Takakusaki, Jun Ota, Arito Yozu, Nobuhiko Haga: Human upright posture control models based on multisensory inputs; in fast and slow dynamics, *Neuroscience Research*, Vol.104, pp.96-104, 2016.
301. Arito Yozu, Nobuhiko Haga, Tetsuro Funato, Dai Owaki, Ryosuke Chiba, Jun Ota: Hereditary sensory and autonomic neuropathy types 4 and 5: Review and proposal of a new rehabilitation method, *Neuroscience Research*, Vol.104, pp.105-111, 2016.
302. Shinichi Furuya, Takashi Hanakawa: The curse of motor expertise: Use-dependent focal dystonia as a manifestation of maladaptive changes in body representation, *Neuroscience Research*, Vol.104, pp.112-119, 2016.
303. H. Tanaka: Modeling the motor cortex: Optimality, recurrent neural networks, and spatial dynamics, *Neuroscience Research*, 2016, in press, [B01]
304. Hagino, Y., Kasai, S., Fujita, M., Setogawa, S., Yamaura, H., Yanagihara, D., Hashimoto, M., Kobayashi, K., Meltzer, H., and Ikeda, K., Involvement of cholinergic system in hyperactivity in dopamine-deficient mice, *Neuropsychopharmacology*, 2015, 40, 1141-1150
305. Takagane, K., Nojima, J., Mitsuhashi, H., Suo, S., Yanagihara, D., Takaiwa, F., Urano, Y., Noguchi, N., Ishiura, S., A β induces oxidative stress in senescence-accelerated (SAMP8) mice, *Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry*, 2015, 79, 912-918
306. T. Hayakawa, and T. Aoyagi, Learning in neural networks based on a generalized fluctuation theorem, *Physical Review E*, 2015, vol.92, 052710
307. Miyoshi, G., Young, A., Petros, T., Karayannis, T., McKenzie Chang, M, Lavado, A., Iwano, T., Nakajima, M., Taniguchi, H., Huang, J., Heintz, N., Oliver, G., Matsuzaki, F., Machold, R.P., and Fishell, G. , Prox1 regulates the subtype-specific development of caudal ganglionic eminence-derived GABAergic cortical interneurons, *The Journal of Neuroscience*, 2015, 35, 12869-12889
308. Furuya S, Tominaga K, Miyazaki F, Altenmüller E, Losing dexterity: patterns of impaired coordination of finger movements in musician's dystonia., *Scientific Reports* , 2015, Vol. 5, pp.13360

309. Furuya S, Altenmüller E, Acquisition and reacquisition of motor coordination in musicians. , *Annals of the New York Academy of Sciences*, 2015, Vol.1337, pp. 118–124
310. S. Ueda, M. Niwa, H. Hioki, J. Sohn, T. Kaneko, A. Sawa, T. Sakurai., Sequence of molecular events during the maturation of the developing mouse prefrontal cortex, *Molecular Neuropsychiatry*, 2015, Vol. 1, No. 2, pp.94-104
311. T. Ito, H. Hioki, J. Sohn, S. Okamoto, T. Kaneko, S. Iino, D.L. Oliver, Convergence of lemniscal and local excitatory inputs on large GABAergic tectothalamic neurons, *The Journal of Comparative Neurology*, 2015, Vol. 523, No. 15, pp.2277-2296
312. Matsukawa H, Tanikawa R, Kamiyama H, Tsuboi T, Noda K, Ota N, Miyata S, Oda J, Takeda R, Tokuda S, Kamada K: Risk factors for neurological worsening and symptomatic watershed infarction in internal carotid artery aneurysm treated by extracranial-intracranial bypass using radial artery graft , *J neurosurgery*, 2015, in press.
313. Yoshino Y, Kin T, Ito A, Saito T, Nakagawa D, Kamada K, Mori H, Kunimatsu A, Nakatomi H, Oyama H, Saito N: Diffusion tensor tractography of normal facial and vestibulocochlear nerves, *Int J Comput Assist Radiol Surg*, 2015, Vol.10,No.2,pp383-392.
314. Yoshino M, Kin T, Ito A, Saito T, Nakagawa D, Ino K, Kamada K, Mori H, Kunimatsu A, Nakatomi H, Oyama H, Saito N: Feasibility of diffusion tensor tractography for preoperative prediction of the location of the facial and vestibulocochlear nerves in relation to vestibular schwannoma, *Acta Neurochir*, 2015, Vol.157,No.6,pp939-946.
315. Wada H, Saito M, Kamada K: Evaluation of changes of intracranial blood flow after carotid artery stenting using digital subtraction angiography flow assessment, *World J Radiol*, 2015, Vol.7,No.2,pp45-51.
316. Korostenskaja M, Kamada K, Guger C, Salinas C M, Westerveld M, Astillo E M, Salillas E, Chen Po-C, Harris E, Seddon I, Elsayed M, Kapeller C, Schaal A. Seo Joo-H, Baumgartner J, Lee Ki H.: Electrocorticography-Based Real-Time Functional Mapping for Pediatric Epilepsy Surgery, *Journal of Pediatric Epilepsy*, 2015, Vol.4,No.4,pp184-206.
317. Tamura Y, Ogawa H, Kapeller C, Prueckl R, Takeuchi F, Anei R, Rittaccio A, Guger C, Kamada K: Passive language mapping combining real-time oscillation analysis with cortico-cortical evoked potentials for awake craniotomy, *J neurosurgery*, 2015, in press.
318. Ogawa H, Kamada K: The Road to Nonawaking Functional Mapping Combining High Gamma Activity with Corticocortical Evoked Potential, *World Neurosurgery*, 2015, Vol.84, No.1, pp187-188.
319. Y. Yamao, R. Matsumoto, K. Kunieda, Y. Arakawa, K. Kikuchi T, S. Shibata, A. Ikeda, H. Fukuyama, S. Miyamoto: A possible variant of negative motor seizure arising from the supplementary negative motor area, *Clin Neurol Neurosurg*, 2015, Vol. 134, pp. 126-29.
320. T. Kunieda, Y. Yamao, T. Kikuchi, R. Matsumoto: New Approach for Exploring Cerebral Functional Connectivity: Review of CCEP (Cortico-cortical evoked potential), *Neurol Med Chir (Tokyo)*, 2015, Vol. 53, pp. 805-813.
321. T. Fumuro, M. Matsushashi, T. Miyazaki, M. Inouchi, T. Hitomi, R. Matsumoto R, R. Takahashi, A. Ikeda: Alpha-band desynchronization in human parietal area during reach planning, *Clin Neurophysiol*, 2015 VOL. 126, No.

4, pp. 756-762.

322. K. Kobayashi, R. Matsumoto, M. Matsushashi, K. Usami, A. Shimotake, T. Kunieda, T. Kikuchi, N. Mikuni, S. Miyamoto, H. Fukuyama, R. Takahashi, and A. Ikeda: Different Mode of Afferents Determines the Frequency Range of High Frequency Activities in the Human Brain: Direct Electrographic Comparison between Peripheral Nerve and Direct Cortical Stimulation, *PLoS One*, 2015, Vol. 10, No. 6, e0130461.
323. J. Lee, Y. Kagamihara, S. Kakei: A new method for functional evaluation of motor commands in patients with cerebellar ataxia, *PLoS ONE*, 2015, 10(7):e0132983. doi: 10.1371/journal.pone.0132983.
324. S. Tomatsu, T. Ishikawa, Y. Tsunoda, J. Lee, D.S. Hoffman, S. Kakei: Information processing in the hemisphere of the cerebellar cortex for control of wrist movement., *Journal of Neurophysiology*, 2016, Vol. 115, No. 1, pp.255-270.
325. T. Ishikawa, S. Kakei, H. Mitoma: Overlooked Holmes' clinical signs: reevaluation by recent physiological findings *Cerebellum and Ataxias*, 2015 2:13. doi: 10.1186/s40673-015-0033-z.
326. Wen, W., Yamashita, A., & Asama, H.: Divided attention and processes underlying sense of agency, *Frontiers in Psychology*, 2016, 7:35.
327. T. Funato, S. Aoi, N. Tomita, and K. Tsuchiya: Smooth enlargement of human standing sway by instability due to weak reaction floor and noise *Royal Society Open Science*, 2016, Vol. 3, 150570.
328. Asai, T.: Agency elicits body-ownership: proprioceptive drift toward a synchronously acting external proxy., *Experimental Brain Research*, 2016, in press.
329. K Amemiya and E Naito: Importance of human right inferior frontoparietal network connected by inferior branch of superior longitudinal fasciculus tract in corporeal awareness of kinesthetic illusory movement, *Cortex*, 2016, in press.
330. Grimaldi G, Argyropoulos GP, Bastian A, Cortes M, Davis NJ, Edwards DJ, Ferrucci R, Fregni F, Galea JM, Hamada M, Manto M, Miall RC, Morales-Quezada L, Pope PA, Priori A, Rothwell J, Tomlinson SP, Celnik P.: Cerebellar Transcranial Direct Current Stimulation (ctDCS): A Novel Approach to Understanding Cerebellar Function in Health and Disease., *Neuroscientist.*, 2016, 22(1):83-97.
331. Nakatani-Enomoto S, Hanajima R, Hamada M, Terao Y, Matsumoto H, Shirota Y, Ohminami S, Okabe S, Hirose M, Nakamura K, Furubayashi T, Groiss SJ, Kobayashi S, Mochizuki H, Enomoto H, Ugawa Y.: Somatosensory-evoked potential modulation by quadripulse transcranial magnetic stimulation in patients with benign myoclonus epilepsy. *Clin Neurophysiol.*, 2016, 127(2):1560–1567.
332. Terao Y, Fukuda H, Tokushige S, Inomata-Terada S, Yugeta A, Hamada M, Ichikawa Y, Hanajima R, Ugawa Y.: Is multiple system atrophy with cerebellar ataxia (MSA-C) like spinocerebellar ataxia and multiple system atrophy with parkinsonism (MSA-P) like Parkinson's disease? – A saccade study on pathophysiology., *Clin Neurophysiol*, 2016, 127(2):1491–1502.
333. Asai, T.: Feedback control of one's own action: self-other sensory attribution in motor control., *Consciousness and Cognition*, 2015, 38, 118-129.]
334. S. Kim, K. Ogawa, J. Lv, N. Schweighofer, and H. Imamizu: Neural substrates related to motor memory with multiple timescales in sensorimotor adaptation *PLoS Biology*, 2015, Vol. 13, No. 13, e1002312.
335. Imaizumi, S. & Asai, T.: Dissociation of agency and body ownership following visuomotor temporal

- recalibration., *Frontiers in Integrative Neuroscience.*, 2015, 9, 35.
336. Karabanov A, Ziemann U, Hamada M, George MS, Quartarone A, Classen J, Massimini M, Rothwell J, Siebner HR.: Consensus Paper: Probing Homeostatic Plasticity of Human Cortex With Non-invasive Transcranial Brain Stimulation., *Brain Stimul.*, 2015, 8(5):993-1006.
337. S Hanawa, M Sugiura, T Nozawa, Y Kotozaki, Y Yomogida, M Ihara, Y Akimoto, B Thyreau, S Izumi, R Kawashima: The neural basis of the imitation drive., *Soc Cogn Affect Neurosci.* 2015, 11(1):66-77.
338. Nambu I, Hagura N, Hirose S, Wada Y, Kawato M and Naito E, Decoding sequential finger movements from preparatory activity in higher-order motor regions: an fMRI multi-voxel pattern analysis, *European Journal of Neuroscience* 2015, 10.1111/ejn.13063.
339. S. Tomatsu, T. Ishikawa, Y. Tsunoda, J. Lee, D. Hoffman, S. Kakei: Information processing in the hemisphere of the cerebellar cortex for control of wrist movement, *Journal of Neurophysiology*, 2015, in press.
340. J. Lee, Y. Kagamihara, S. Kakei: A new method for functional evaluation of motor commands in patients with cerebellar ataxia, *PLoS ONE*, 2015, 10(7):e0132983.
341. H. Mitoma, S. Kakei, J. Lee: Consensus paper: Neuroimmune mechanisms of cerebellar ataxias *Cerebellum*, 2015, in press, PMID: 25823827.
342. Huang, Zhifeng, Katayama, Takahiro, Kanai-Pak, Masako, Maeda, Jukai, Kitajima, Yasuko, Nakamura, Mitsuhiro, Aida, Kyoko Kuwahara, Noriaki, Ogata, Taiki and Ota,Jun: Design and evaluation of robot patient for nursing skill training in patient transfer *Advanced Robotics*, 2015, Vol. 29, No. 19, pp.1269-1285.
343. S. Togo and H. Imamizu: Normalized Index of Synergy for Evaluating the Coordination of Motor Commands, *PLoS ONE*, 2015, Vol. 10, No. 10, e0140836.
344. Jongho Lee and Shinji Kakei: Feature extraction for movement disorders of neurological patients based on EMG signals, *IT Convergence Practice*, 2015, in press.
345. S. Fujiki, S. Aoi, T. Funato, N. Tomita, K. Senda, and K. Tsuchiya, Adaptation mechanism of interlimb coordination in human split-belt treadmill walking through learning of foot contact timing: a robotics study, *Journal of the Royal Society Interface*, 2015 12(110):20150542.
346. S. Shibuya, S. Unenaka, and Y. Ohki, Is this my hand? Body-ownership and the rubber hand illusion, *J Phys Fitness Sports Med*, 2015, Vol. 4, No. 2, pp. 213-216.
347. T. Zama, S. Shimada, Simultaneous measurement of electroencephalography and near-infrared spectroscopy during voluntary motor preparation. *Scientific Reports*, 5, 16438, 2015.
348. Puentes S, Seki K, Internal capsule stroke in the common marmoset, *Neuroscience*, 2015, 284, pp.400-411.
349. Kazuhiko Seki, Hiroaki Yaguchi, Tomohiko Takei, David Kowalski, Takafumi Suzuki and Kunihiko Mabuchi: Modulation of spinal motor output by initial arm postures in anesthetized Monkeys, *Journal of Neuroscience*, 2015, Vol.35, No.17, pp.6937-6945.
350. K. Usami, R. Matsumoto, T. Kunieda et al., Sleep Modulates Cortical Connectivity and Excitability in Humans: Direct Evidence From Neural Activity Induced by Single-Pulse Electrical Stimulation, *Human Brain Mapping*, 2015, E-pub, DOI: 10.1002/hbm.22948.
351. Akihiro Koreki, Takaki Maeda, Hirokata Fukushima, Satoshi Umeda, Keisuke Takahata, Tsukasa Okimura, Michitaka Funayama, Satoru Iwashita, Masaru Mimura, Motoichiro Kato, Behavioral evidence of delayed

- prediction signals during agency attribution in patients with schizophrenia, *Psychiatry Research*, 2015, in press.
352. W. Wen, A. Yamashita, and H. Asama, The sense of agency during continuous action: Performance is more important than action-feedback association, *PloS ONE*, 2015, Vol.10, No.4, e0125226.
353. W. Wen, A. Yamashita, and H. Asama, The influence of action-outcome delay and arousal on sense of agency and the intentional binding effect *Consciousness and Cognition*, 2015, Vol.36, pp.87-95.
354. W. Wen, A. Yamashita, and H. Asama, The influence of goals on sense of control, *Consciousness and Cognition*, 2015, Vol.37, pp.83-90.
355. M. Tada, H. Uchida, T. Maeda, M. Konishi, S. Umeda, Y. Terasawa, S. Nakajima, M. Mimura, T. Miyazaki, T. Takahashi: Fear Conditioning Induced by Interpersonal Conflicts in Healthy Individuals., *PLoS One*, 2015, 10(5):e0125729.
356. T. Sakamoto, and T. Kondo: Visuomotor learning by passive motor experience, *Frontiers in Human Neuroscience* 2015, 9:279. doi: 10.3389/fnhum.2015.00279.
357. T. Okimura, S. Tanaka, T. Maeda, M. Kato, and M. Mimura: Simulation of the capacity and precision of working memory in the hypodopaminergic state: relevance to schizophrenia, *Neuroscience*, Vol. 295, pp 80–89, 2015.
358. K. Takakusaki: Brainstem control of locomotion and muscle tone with special reference to the role of medullary reticulospinal neurons, *Parkinson's disease and related disorders*, in press.
359. Snijders AH, Takakusaki K, Debu B, Lozano AM, Krishna V, Fasano A, Aziz TZ, Papa SM, Factor SA, M. Hallett M.: Physiology of freezing of gait (Review), *Annals of Neurology*.
360. Sugimori, E., & Asai, T.: Attribution of movement: Potential links between subjective reports of agency and output monitoring., *Quarterly Journal of Experimental Psychology.*, in press
361. T. Funato, S. Aoi, N. Tomita and K. Tsuchiya: Validating the feedback control of intersegmental coordination by fluctuation analysis of disturbed walking, *Experimental Brain Research*, 2015, Vol. 233, No. 5, pp. 1421-1432.
362. F. Megumi, A. Yamashita, M. Kawato, and H. Imamizu: Functional MRI neurofeedback training on connectivity between two regions induces long-lasting changes in intrinsic functional network *Frontiers in Human Neuroscience* 2015, Vol. 9, Article number: 160, pp. 1-14 doi: 10.3389/fnhum.2015.00160.
363. Iseki K, Fukuyama H, Oishi N, Tomimoto H, Otsuka Y, Nankaku M, Benninger D, Hallett M, Hanakawa T: Freezing of gait and white matter changes: a tract-based spatial statistics study *J Clin Mov Disord* 2015 2:1.
364. Kasahara K, DaSalla CS, Honda M, Hanakawa T: Neuroanatomical correlates of brain-computer interface performance, *Neuroimage*, 2015, 110: 95-100.
365. Kitajo K, Hanakawa T, Ilmonemi R, Miniussi C: Introduction to research topic: Manipulative approaches to human brain dynamics, *Front Hum Neurosci*, 2015, doi: 10.3389/fnhum.2015.00118.
366. N.Haga N, M Kubota, and Z Miwa: Hereditary sensory and autonomic neuropathy types IV and V in Japan *Pediatrics International*, Vol. 57, pp. 30-36, 2015.
367. T. Okumura, T. Nozu, S. Kumei, K. Takakusaki, S. Miyagishi, M. Ohhira: Antinociceptive action against colonic distension by brain orexin in conscious rats, *Brain research*, 1598, 12-17, 2015.
368. T. Asai: Illusory body-ownership entails automatic compensative movement: for the unified representation between body and action, *Experimental Brain Research*, Vol 233, Issue 3, pp 777-785, 2015.

369. J. Nakagawa, Q. An, Y. Ishikawa, H. Oka, K. Takakusaki, H. Yamakawa, A. Yamashita, and H. Asama: Analysis of Human Motor Skill in Dart Throwing Motion at Different Distance, *SICE Journal of Control, Measurement, and System Integration*, Vol.8, No.1, pp.79–85, 2015.
370. Masahiro Yamashita, Mitsuo Kawato, Hiroshi Imamizu: Predicting learning plateau of working memory from whole-brain intrinsic network connectivity patterns, *Scientific Reports* 5, Article number: 7622 doi:10.1038/srep07622, 2015.
371. Maeda, K., H. Ishida, K. Nakajima, M. Inase, and A. Murata, Functional Properties of Parietal Hand Manipulation-related Neurons and Mirror Neurons Responding to Vision of Own Hand Action// *J Cogn Neurosci.*,2015. *27*(3): p. 560-72. doi: 10.1162/jocn_a_00742.
372. S.Hirose, I. Nambu, E. Naito: An empirical solution for over-pruning with a novel ensemble-learning method for fMRI decoding, *Journal of Neuroscience Methods*, 2015, Vol. 235C, pp. 238-245.
373. Setogawa, S., Yamaura, H., Arasaki, T., Endo, S., and Yanagihara, D., Deficits in memory-guided limb movements impair obstacle avoidance locomotion in Alzheimer’s disease mouse model, *Scientific Reports*, 2014, 4, 7220
374. Aoki, S., Sato, Y., and Yanagihara, D., Effect of inactivation of the intermediate cerebellum on overground locomotion in the rat: a comparative study of the anterior and posterior lobes, *Neuroscience Letters*, 2014, 576, 22-27
375. Chiba,Ryosuke, Hashimoto,Sunao, Kazawa,Tomoki, Kanzaki,Ryohei, and Ota,Jun: Neural network modeling and analysis of turn duration time changing of silkmoth using Genetic Algorithm, *Neuroscience and Biomedical Engineering* 2014, Vol. 2, No.2, pp.59-67.
376. T. Nozu, K. Takakusaki, T. Okumura: Urocortin 2 blocks the suppression of gastric antral contractions induced by lipopolysaccharide in freely moving conscious rats, *Regulatory peptides*, 190, 12-17, 2014.
377. T. Nozu, K. Takakusaki, T. Okumura: A balance theory of peripheral corticotropin-releasing factor receptor type 1 and type 2 signaling to induce colonic contractions and visceral hyperalgesia in rats, *Endocrinology*, 155(12), 4655-4664, 2014.
378. H. Matsui, T. Noguchi, K. Takakusaki, M. Kashiwayanagi: Co-localization of TRPV2 and insulin-like growth factor-I receptor in olfactory neurons in adult and fetal mouse, *Biological & pharmaceutical bulletin*, 37(12), 1907-1912, 2014.
379. L. Firmin, P. Field, M. Maire, A. Kraskov, P. Kirkwood, K. Nakajima, R. Lemon and M. Glickstein: Axon diameters and conduction velocities in the macaque pyramidal tract, *Journal of Physiology*, Vol. 112, No. 6, pp. 1229-1240, 2014.
380. T. Ishikawa, S. Tomatsu, Y. Tsunoda, J. Lee, D.S. Hoffman, S. Kakei: Releasing dentate nucleus cells from Purkinje cell inhibition generates output from the cerebrotocerebellum, *PLoS ONE*, Vol. 9, No. 10, e108774, 2014.
381. T. Ishikawa, S. Tomatsu, Y. Tsunoda, D.S. Hoffman, S. Kakei: Mossy fibers in the cerebellar hemisphere show delay activity in a delayed response task *Neuroscience Research*, Vol. 87, pp84-89, doi: 10.1016/j.neures.2014.07.006, 2014.
382. Imaizumi, S., Asai, T., Kanayama, N., Kawamura, M., & Koyama, S.: Agency over a phantom limb and electromyographic activity on the stump depend on visuomotor synchrony: a case study., *Frontiers in Human*

Neuroscience, Vol 8, pp. 545., 2014.

383. T. Umeda, T. Isa, and Y. Nishimura: Proprioceptive information coded by populational sensory afferents, *J. Phys. Fitness Sports Med*, Vol. 3, No. 5, pp. 477-482, 2014.
384. DE Callan and E Naito: Neural processes distinguishing elite from expert and novice athletes., *Cognitive and Behavioral Neurology*, Vol. 27, No. 4, pp. 183-188, 2014.
385. Hirokazu Tanaka, Terrence Sejnowski: Motor adaptation and generalization of reaching movements using motor primitives based on spatial coordinates, *Journal of Neurophysiology*, 2015, DOI: 10.1152/jn.00002.2014.
386. T. Kondo, M. Saeki, Y. Hayashi, K. Nakayashiki, and Y. Takata: Effect of instructive visual stimuli on neurofeedback training for motor imagery-based brain-computer interface, *Human Movement Science*, 2014, doi:10.1016/j.humov.2014.08.014.
387. T. Ikegami, G. Ganesh Watching novice action degrades expert motor performance: Causation between action production and outcome prediction of observed actions by humans. *Scientific Reports* 2014 4, 6989; doi: 10.1038/srep06989.
388. Ganesh G, Yoshioka T, Osu R, Ikegami T: Immediate tool incorporation processes determine human motor planning with tools, *Nature Communications*, 2014, doi: 10.1038/ncomms5524.
389. E Naito and S Hirose: Efficient foot motor control by Neymar's brain, *Frontiers in Human Neuroscience*, 2014, doi: 10.3389/fnhum.2014.00594.

国内雑誌論文

1. 石垣智也, 森岡 周, 大脳基底核の脳科学, 脳の実践看護, 2019, No.1
2. 会津直樹, 大内田裕, 村木孝行, 山本宣幸, 出江紳一, 皮膚温変化が治療経過を反映した複合性局所疼痛症候群の一例 ―患肢の無視様症状に着目して―, 理学療法ジャーナル, 2019, 53(2)
3. 松本理器, 下竹昭寛, 山尾幸広, 菊池隆幸, 國枝武治, てんかんの治療戦略: てんかん外科における言語機能温存へ向けた試み, てんかんの治療戦略: てんかん外科における言語機能温存へ向けた試み, 2018, Vol.34, No.2, pp.124-134
4. 迎田 隆幸, 島 圭介, 隠れマルコフモデルに基づく未学習クラスの推定法と時系列生体信号の識別, 計測自動制御学会論文集, 2018, Vol. 54, No. 1, pp. 9-15.
5. 松宮一道, 眼球運動と視知覚, 視覚の科学, 2018, Vol. 39, No. 2, pp.21-26
6. 大内田裕, 幻肢・幻肢痛を通してみる身体知覚, 基礎心理学研究, 2017, 36(1), pp.142-147
7. 大内田 裕, 須藤 珠水, 出江 紳一, リハビリテーションにおける脳内身体表現と評価指標, 計測と制御, 2017, 56(3), pp.181-186
8. 肥後範行, 脳損傷後の神経可塑性―運動がもたらす効果と科学的根拠―The effects of motor training on neural plasticity after brain damage, 理学療法の科学と研究, 2017, vol.8 (1), p.3-7
9. 肥後範行, 脳卒中後疼痛モデル動物を用いた疼痛発生メカニズム解明, ペインクリニック, 2018, vol.39 (7), p.847-853
10. 肥後範行, 脳損傷後の運動訓練がもたらす神経システムの可塑的变化:サル脳損傷モデルによる知見, *Japanese Journal of Rehabilitation Medicine*, 2018, vol.55 (10), p.865-868
11. 森仁, 八島建樹, 小助川博之, 出江紳一, 高木敏行, 舌骨上筋群の収縮誘導を目的とした磁気刺激コ

イルの試作, バイオメカニズム論文集, 2018, 24, pp79-88

12. 竹内直行, 出江紳一, オーバービュー: 課題指向型リハビリテーションの歴史的展開, *Journal of CLINICAL REHABILITATION*, 2018, 27(6), 510-515
13. 鎌田恭輔, 脳皮質電位解読による運動・視覚機能マッピングと読取り, *バイオメカニズム 24—研究成果の活用—*, 2018, 1-4
14. 今井亮太, 石垣智也, 森岡 周, 運動と脳科学, 脳の看護実践, 2018, No.10
15. 今井亮太, 大住倫弘, 森岡周, 急性疼痛時における慢性化予防を目的とした理学療法, *日本運動器疼痛学会誌*, 2018, Vol.10, No.2
16. 石垣智也, 森岡 周, 前頭前野の脳科学, 脳の看護実践, 2018, No.7
17. 金子文成, 拡張現実リハビリテーション -視覚誘導性自己運動錯覚の臨床応用, *Clinical Neuroscience*, 2018, Vol. 36, No. 11, pp. 1368-1370
18. 柴田恵理子, 金子文成, 奥山航平, Brain-Machine Interface への応用を目的とした視覚誘導性自己運動錯覚中の脳波解析, *バイオメカニズム*, 2018, Vol. 24, pp. 49-57
19. 米岡, 宮田, 前田, 母指の関節可動域と姿勢不快度の計測・解析, *日本機械学会論文集*, 2018, 第 84 巻, 864 号, PaperID 18-00055
20. 森岡 周, 慢性疼痛の病態を説明する脳内メカニズム: 認知の歪みと身体意識の変容を中心に, *ペインクリニック*, 2018, Vol. 39, No.4, pp.25-34
21. 森岡 周, 神経科学的知見から課題指向型リハビリテーションを考える, *臨床リハ*, 2018, Vol.27, No.6, pp517-523
22. 内藤栄一, アスリートの fMRI: ネイマール選手の脳の効率的な足運動制御, *Clinical Neuroscience 誌*, 2018, Vol.36. No. 10, pp.1227-1230
23. 嵯峨健広, 鎌田恭輔, 術中脳灌流画像の新展開, *Annual Review 神経* 2018, 2018, pp.82-88
24. 今水 寛, 運動学習における記憶と忘却—時間スケールの異なる運動記憶, *BRAIN and NERVE 特集「記憶と忘却に関わる脳のしくみ—分子機構から忘却の症候まで」*, 2018, Vol. 70, No. 7, pp. 723-731
25. 露口尚弘, 鎌田恭輔, 体性感覚誘発磁場(SEF), *CLINICAL NEUROSCIENCE*, 2017, Vol.35, No.2, pp210-214
26. 鎌田恭輔, 田村有希恵, リアルタイム CCEP 解析ソフトウェアの開発, *臨床神経生理学*, 2017, Vol.45, No.2, pp.102-109
27. 今井亮太, 森岡 周, 痛みを慢性化させる心理的要因, *体育の科学*, 2017, Vol.67, No.12, pp.851-856
28. 今井亮太, 森岡 周, 痛みを慢性化させる心理的要因, *体育の科学*, 2017, Vol.67, No.11, pp781-786
29. 大住倫弘, 今井亮太, 片山 脩, 佐藤剛介, 森岡 周, 慢性疼痛の対処とリハビリテーション, *体育の科学*, 2018, Vol.68, No.1, 55-60
30. 森岡 周, 人としての社会参加の意義 人類学および神経科学からの洞察, *地域リハビリテーション*, 2018, Vol. 13, No.1, pp61-65
31. 森岡 周, 不動による痛みをどう予防するか—身体・運動イメージ障害に対するアプローチを中心に—, *ペインクリニック*, 2017, Vol.38, No.5, pp590-600
32. 森岡 周, 理学療法における脳科学と運動学習理論の応用, *理学療法*, 2017, Vol.34, No.5, pp388-395
33. 森岡 周, 半側空間無視のメカニズム, *理学療法ジャーナル*, 2017, Vol.51, No.10, pp855-863

34. 森岡 周, 慢性痛の脳内メカニズム, 体育の科学, 2017, Vol.67, No.8, pp573-578
35. 笥, 石川, 李, 三苦, 基底核と小脳—その相違と連関: ループ機能 小脳の誤差補正, *Clinical Neuroscience*, 月刊 臨床神経科学, 2017, Vol.35, No1, pp.55-59
36. 松宮, 佐藤, 塩入, サッカード変位抑制におけるブランク効果とランドマーク効果の比較 —信号検出理論による分析—, 電子情報通信学会技術研究報告 (ヒューマン情報処理), 2017, Vol.117, No. 259, HIP2017-71, pp.65-68
37. 坂井, 羽鳥, 方, 松宮, 栗木, 塩入, Whitney, 継時刺激効果に対する頭部方向の影響, 電子情報通信学会技術研究報告 (ヒューマン情報処理), 2017, Vol.117, No. 375, HIP2017-90, pp.35-38
38. 鬼沢, 松宮, 羽生, ストカスティック演算に基づく省エネルギー脳型 LSI 設計技術, *IEICE Fundamentals Review*, 2017, Vol. 11, No. 1, 28-39
39. 松宮, *European Conference on Eye Movements* 参加報告, *VISION*, 2017, Vol. 29, No. 4, 145-147
40. 嵯峨健広, 鎌田恭輔, 術中脳灌流画像の新展開, *Annual Review 神経* 2018, 2018, pp.82-88
41. 粕谷美里・森下壮一郎・姜銀来・杉正夫・横井浩史, 麻痺者上肢運動再建のための多点表面電極システムを用いた電気刺激における電極パターン探索手法の開発, *生体医工学*, 2018, 掲載決定
42. 大脇 大, 関口雄介, 本田啓太, モデルベーストリハビリテーションの基盤となるロボティクス技術-医工学連携研究を効果的に推進するための「マナー」と「コツ」-, *日本ロボット学会誌*, 2017, vol. 35, pp.29-34
43. 大脇大, 脚式ロコモーションに内在する制御メカニズムの解明を目指して, *日本神経回路学会誌*, 2017, Vol. 24, No. 4, pp. 162-171
44. 露口尚弘、鎌田恭輔, てんかんと PET, *CLINICAL NEUROSCIENCE*, 2017, Vol.35, No.7, pp.844-848
45. 桐山健司、鎌田恭輔, 人工血管を用いて再建を行った高齢者頸動脈感染性動脈瘤の1例, *脳卒中の外科*, 2017, Vol.45, No.5, pp.398-402
46. 露口尚弘、鎌田恭輔, 体性感覚誘発磁場(SEF), *CLINICAL NEUROSCIENCE*, 2017, Vol.25, No.(2) pp210-214
47. 内藤栄一, 脳科学からみた脳内身体表現への介入, 計測と制御 特集「身体性システム科学の展開」, 2017, 56(3):169-174
48. 今水 寛, 感覚-運動記憶のメカニズム: 脳機能画像からのアプローチ, 計測と制御, 2017, Vol. 56, No. 3, pp. 187-92
49. 今水 寛, 安静時の脳活動から記憶力トレーニングの結果を予測する, 東京大学文学部次世代人文学開発センター研究紀要・文化交流研究, 2017, Vol. 30, pp. 29-35
50. 岩村 吉晃, タッチの階層仮説, *BRAIN and NERVE*, 2017, Vol. 69, No. 4, 313-325
51. 林田一輝, 大住倫弘, 今井亮太, 森岡周, Self-Touch によるラバーハンド錯覚に関連した脳活動, *理学療法科学*, 2016, Vol.31, No.6, pp. 805-810
52. 岡田 洋平, 大住 倫弘, 岡本 昌幸, 成田 雅, 冷水 誠, 森岡 周, パーキンソン病の標準型車椅子駆動能力低下の関連要因の検討と足こぎ車椅子の試み, *運動障害*, 2016, Vol.26, No.1, pp.43-48
53. 大住倫弘, 森岡周, 末梢神経障害に対する治療の進歩「ニューロリハビリテーション」, *Medical Rehabilitation*, 2016, No.204, pp.40-44
54. 信迫悟志, 慢性疼痛に対するニューロリハビリテーションの取り組み, *理学療法学*, 2016, Vol.43,

No.1, pp.37-41

55. 信迫悟志, 神経科学的知見の臨床応用ーニューロリハビリテーションの取り組みー, 日本赤十字リハビリテーション協会誌, 2016, Vol.43, No.1, pp.37-41
56. 尾崎弘展、宮田麻理子, 一次体性感覚野の変容過程, *Clinical Neuroscience*, 2017, Vo.35, No.2, pp.163-165
57. 笥, 石川, 李, 三苦, 基底核と小脳ーその相違と連関: ループ機能 小脳の誤差補正, *Clinical Neuroscience*, 2017, Vol. 35, No. 1, pp55-59
58. 奥山淳子, 大内田裕, 出江紳一, 音声言語知覚における視線の影響, 言語聴覚研究, 2016, Vol.13, No.4, pp249-257
59. 出江紳一, ICF コアセット日本語版出版の今日的意義と普及への期待, *The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine*, 2016, Vol.53, No.9, pp.671-675
60. 須藤珠水, 会津直樹, 大内田裕, 出江紳一, 一人称視点による模倣運動を利用した運動・感覚リハビリテーション, *高次脳研究*, 2016, Vol.36, No.3, pp.92-97
61. 出江紳一, ニューロモジュレーション, *Bio Clinica*, 2017, Vol.32, No.1
62. 阿部浩明, 脳卒中片麻痺者の神経可塑性と歩行ー急性期重度片麻痺例における歩行トレーニングー, *理学療法学*, 2016, 43: 63-64,
63. 阿部浩明、遠藤英徳, 千葉智浩, 長嶺義秀, 神将文, 藤原悟, 拡散テンソル画像・拡散テンソルトラクトグラフィーの理学療法領域における臨床応用, *理学療法学*, 2016, 43: 349-357
64. 阿部浩明、大鹿糠徹、辻本直秀、関崇志、大橋信義、駒木絢可、高島悠次、門脇敬、大崎恵美, 急性期から行う脳卒中重度片麻痺例に対する歩行トレーニング, *理学療法の歩み*, 2016, 27: 17-27,
65. 下竹昭寛, 國枝武治, 松本理器, 皮質脳波記録, *Clinical Neuroscience*, 2016, 34 (7) : 771-776
66. 十川純平, 松本理器, 池田昭夫, てんかん病態下の脳内ネットワーク, *Clinical Neuroscience*, 2016, 34 (6) : 713-716
67. 松本理器, 下竹昭寛, 山尾幸広, 國枝武治, 神経生理最前線てんかん外科における術前皮質・白質機能マッピング, *最新精神医学*, 2016, 21 (2) : 101-109
68. 山尾幸広, 國枝武治, 松本理器, 皮質電気刺激によるヒト脳機能ネットワークの探索, *脳神経外科ジャーナル*, 2016, 25(5), 411-420
69. 村田 哲, 動作の自他共有表現を越えるミラーニューロン, *心理学ワールド*, 2016, Vol.75, pp13-18
70. 高草木, 高橋, 千葉, *Pattern Generator* としての網様体, *Clinical Neuroscience*, in press, in press
71. 高草木, 歩行の安全性にかかわる神経生理機構, *理学療法学*, in press, in press
72. 稲邑, 仮想現実を用いたニューロリハビリテーションのためのクラウドプラットフォーム, 計測と制御, 2017, Vol.56, No.3
73. 島 圭介, 島谷 康司, 筋電位と電気刺激制御に基づくヒトーヒト間情報伝達技術, *電気学会誌*, Vol.136, No.10, pp. 678-682, 2016
74. 前田貴記, 自己意識の神経心理学の試み , *高次脳機能研究*, 2016, 36(3):86-91
75. 島 圭介, 花井 宏彰, 島谷 康司, 機能的電気刺激と動作推定に基づく筋電位駆動型ヒューマンヒューマンインタフェース, 計測自動制御学会論文集, 2017, Vol. 53, No. 1
76. 和田 始、折本亮介、鎌田恭輔, 脳血管撮影による血流評価法の基礎研究, *CI 研究*, 2015, Vol.37, No.1, pp.23-29

77. 鎌田恭輔、安栄良悟、脳腫瘍の病理検査・診断 髄液細胞診, 日本臨床 脳腫瘍学-基礎研究と臨床研究の進歩-, 2016, Vol.74,増刊号 7,pp.510-512
78. 鎌田恭輔, 誰もができる機能画像・術中モニタリング, 新 NS NOW, 2016, No.8,pp.64-76
79. 近藤敏之, 長嶺 伸, 大村優慈, 矢野史朗, 没入型ヘッドマウントディスプレイの認知心理学実験への活用事例, 日本神経回路学会誌, 2016, Vol.23, No.3, pp.87-97
80. 鎌田恭輔, 再発眼窩内視神経膠腫の摘出と周辺構造の同定, 新 NS NOW, 2016, No.7,pp.174-179
81. 前田貴記, 矢野史朗, 神経心理学からみた陽性症状, 臨床精神医学, 2016, 45(8):1009-1014
82. 野原博, 前田貴記, 鹿島晴雄, 一級症状の特異性についてー “in aller Bescheidenheit” という表現をめぐって , 精神医学, 2016, 58(6):528-531
83. 野原博, 前田貴記, Conrad, K.の「統合失調症のはじまり」 , 精神科治療学, 2016, 31(6) :723-729
84. 高草木, 第 10 章 覚醒から意識・行動へ, 化学同人「睡眠化学」, in press, in press
85. 水口暢章、上原信太郎、廣瀬智士、山本真史、内藤栄一、運動パフォーマンスのバラツキを生み出す神経機構, 日本運動生理学雑誌, 2016, Vol. 23, No.1, pp.17-21
86. 内藤栄一、南部功夫、廣瀬智士、イメージトレーニングによる運動学習と脳内機構, 体育の科学, 2016, vol 66, pp 11-18
87. 内藤栄一、雨宮薫、守田知代, 頭頂連合野と身体情報, BRAIN and NERVE, 2016, vol68 11 月号予定
88. 鎌田恭輔, てんかんの治療 難治性てんかんの外科治療 ー術前診断と外科治療のオプションー , 医学と薬学, 2016, Vol.73,No.5,pp.557-572
89. 須藤珠水, 会津直樹, 大内田裕, 出江紳一, 一人称視点による模倣運動を利用した運動・感覚リハビリテーション, 高次脳機能研究, 2016, in press
90. 下竹昭寛、國枝武治、松本理器, 皮質脳波記録, Clinical Neuroscience, 2016, Vol. 34, No. 7, in press
91. 十川純平、松本理器、池田昭夫, てんかん病態下の脳内ネットワーク, Clinical Neuroscience, 2016, Vol. 34, No.5, pp.713-716
92. 阿部 浩明 , 大鹿 糠徹 , 辻本 直秀 , 関 崇志 , 駒木 絢可 , 大橋 信義 , 神 将文 , 高島 悠次 , 門脇 敬 , 大崎 恵美, 急性期から行う脳卒中重度片麻痺例に対する歩行トレーニング, 理学療法の歩み, 2016, 27(1) : 17-27.
93. 八島建樹、高木敏行、出江紳一、永富良一、浅尾章彦、森仁、阿部利彦, 磁気刺激による手関節背屈運動に関する研究, バイオメカニズム学会誌, 2016, 40(2):103-108
94. 西崎香苗、深澤貴裕、池上仁志、出江紳一, 頸椎椎弓形成術前後の筋力が頸部痛に及ぼす影響, 日本脊椎障害医学会誌, 2016, 29(1):20-23
95. 出江紳一, 急性期リハビリテーションの今, リハビリテーション・エンジニアリング, 2016, Vol.31,No.2,pp.38-41
96. 田村有希恵, 鎌田恭輔, Super-Passive Language Mapping for awake craniotomy, Annual Review 2016 神経, 2016, 87-94
97. 鎌田恭輔, 脳挫傷 (びまん性軸索損傷) , BRAIN NURSING, 2016, Vol.32,No.4,pp.10-11
98. 鎌田恭輔, 急性硬膜外血腫・急性硬膜下血腫, BRAIN NURSING, 2016, Vol.32,No.4,pp.12-13
99. 鎌田恭輔, 慢性硬膜下血腫, BRAIN NURSING, 2016, Vol.32,No.4,pp.14-15
100. 鎌田恭輔, 開頭外減圧術, BRAIN NURSING, 2016, Vol.32,No.4,pp.16-17

101. 鎌田恭輔, 開頭血腫除去術, BRAIN NURSING, 2016, Vol.32, No.4, pp.18-19
102. 鎌田恭輔, ドレナージ術, BRAIN NURSING, 2016, Vol.32, No.4, pp.20-21
103. 花川 隆, 安静時機能結合 MRI, Medical Imaging Technology, 2016, 34(1): 13-17
104. 松本理器, 下竹昭寛, 山尾幸広, 國枝武治 てんかん外科における術前皮質・白質機能マッピング (特集: 神経生理最前線) 最新精神医学 2016 Vol21, No.2, in press
105. 山尾幸広, 國枝武治, 松本理器 皮質電気刺激によるヒト脳機能ネットワークの探索 脳神経外科速報 2016 Vol. 25, No. 5, in press
106. 寛, 石川, 本多, 三苫, 小脳の最新知見—基礎研究と臨床の最前線「小脳の機能: 平衡、協調運動機能」, 医学のあゆみ, 2015, Vol. 255, No. 10, pp.947-954
107. 寛, 李, 運動障害を機能的に可視化するシステムと再生医療への貢献の可能性, 日本神経回路学会誌, 2015, Vol. 22, No. 2, pp.64-67
108. 高草木, オレキシンと姿勢制御, Annual Review 2015 神経 中外医学社, 2015, pp. 1-8
109. 谷口真, 高草木薫, 篠崎宗久, 上山勉, 加藤健治, 澤田眞寛, 皮質脊髄路の基礎知識, 脊髄外科, 2015, 29(3), pp. 267-278.
110. 高草木, 第22章 姿勢制御と歩行, 脳神経外科診療プラクティス6 文光堂, 2015, pp. 105-107
111. 四津, 芳賀, 高橋, 脳性麻痺・小児疾患, Journal of Clinical Rehabilitation, 2015, Vol. 24, No. 9, pp. 914-919
112. 今井亮太, 大住倫弘, 平川善之, 中野英樹, 福本貴彦, 森岡周, 橈骨遠位端骨折術後患者に対する腱振動刺激に運動錯覚が急性疼痛に与える影響—手術翌日からの早期介入—, 理学療法学, 2015, Vol.42, No.1, pp.1-7
113. 平川善之, 原道也, 藤原明, 花田弘文, 問田純一, 平賀勇貴, 森岡周, ビデオを用いた患者教育による術後痛および破局的思考の改善効果, Pain Research, 2015, Vol.30, pp.158-166
114. 淵上健, 松尾篤, 越本浩章, 河口紗織, 北裏真己, 松井有史, 森岡周, 慢性期脳卒中片麻痺患者の下肢機能に対する運動観察治療の効果, 理学療法科学, 2015, Vol.30, No.2, pp.251-256
115. 佐藤剛介, 田中陽一, 大住倫弘, 森岡周, 脊髄損傷後の疼痛と破局的思考ならびに疼痛への態度との関係, 日本運動器疼痛学会, 2015, Vol.7, No.2, pp.159-166
116. 岡田洋平, 柴田智広, 喜多頼広, 中村潤二, 岡本昌幸, 塩崎智之, 庄本康治, 冷水誠, 森岡周, パーキンソン病の側屈姿勢と Subjective Postural Vertical に関する予備的研究, 運動障害, 2015, Vol.25, No.2, pp.23-29
117. 森岡周, 神経科学に基づいた慢性痛に対するリハビリテーション戦略, Pain Rehabilitation, 2015, Vol.5, No.1, pp.11-21
118. 今井亮太, 大住倫弘, 森岡周, 腱振動刺激による運動錯覚が痛みへ与える効果, 日本運動器疼痛学会誌, 2015, Vol.7, No.2, pp.213-218
119. 岡田洋平, パーキンソン病の理学療法 Up to date, 理学療法, 2015, Vol.42, No.8, pp.755-756
120. 信迫悟志, 運動イメージの神経科学的背景の理解, 理学療法, 2015, Vol.32, No.9, pp.789-796
121. 森岡周, 理学療法における運動イメージ活用の意義と課題, 理学療法, 2015, Vol.32, No.9, pp.772-779
122. 佐藤 和, 瀬戸川 将, 青木 祥, 柳原 大, げっ歯類 (マウス・ラット) の障害物回避歩行, 体育の科学, 2015, 65, 461-466

123. 柳原 大、藤木 聡一郎, ネコの歩行運動と四脚歩行ロボット, 体育の科学, 2015, 65, 467-471
124. 柳原 大, 姿勢と歩行の制御における新たな小脳機能, *Clinical Neuroscience*, 2015, 33, 763-766
125. 関和彦, 手の運動と感覚の制御機構, *バイオメカニズム学会誌*, 2015, Vol.39 No.2 pp.81-86
126. 東口 大樹、花川 隆, MRI や PET など神経画像による歩行機能検査, *Clinical Neuroscience*, 2015, 33(7): 793-795
127. 花川 隆, 外国語の学習と神経可塑性イメージング, *Clinical Neuroscience*, 2015, 33(8): 922-924
128. 松本理器、國枝武治、池田昭夫 システム神経科学とてんかんの接点 最新医学 2015 Vol. 47, pp. 1051-1060
129. Qi AN, 柳井香史朗, 中川純希, 温文, 山川博司, 山下淳, 浅間一 実映像と筋活動の重畳表示によるローイング動作教育システム 日本機械学会論文集 2015 Vol. 82, No. 834, pp. 1-11
130. 青井伸也: ヒトの適応的な歩行を生み出す低次元構造と感覚-運動協調: 運動学・筋シナジーと位相リセットの機能と応用, 計測と制御, 2015, Vol. 54, No. 4, pp. 278-283
131. 青井伸也: 筋シナジーに基づく生物の適応的歩行制御機序の構成論的理解, 日本神経回路学会誌, 2015, Vol. 22, No. 2, pp. 53-63
132. 青井伸也: 生物の歩行と力学系, 数理科学, 2015, No. 626 (2015年8月号), pp. 47-52
133. 村田 哲, ミラーニューロンシステムの中の身体性, 認知リハビリテーション, 2015, Vol.20, No.2, pp.3-16
134. 村田 哲, 感覚とその異常 感覚の基礎知識 触覚, *Clinical Neuroscience*, 2015, Vol.33, No.5, pp.523-526
135. 出江紳一, 八島建樹, 抹消神経連続パルス磁気刺激の製品化, *BIO Ckinica*, 2015, Vol.30, No.12, pp. 45-49
136. 前田貴記: ”自我”の精神病理学から考える統合失調症, 臨床精神医学, 2015, 44(5), pp.701-706
137. 嵯峨 健広, 鎌田恭輔, Indocyanine Green Videoangiography の臨床応用, 脳神経外科, 2015, Vol.43, No.7, pp.593-601
138. 鎌田恭輔, 後頭蓋窩類上皮腫手術のポイント～微小解剖の理解とモニタリング～, 脳神経外科速報 手術のコツとピットフォール, 2015, Vol.25, No.8, pp.802-809
139. 小川博司, 広島 覚, 竹内文也, 石橋秀昭, 鎌田恭輔, 皮質形成異常を有するてんかん患者に詳細な脳機能マッピングを行った症例, 脳神経外科ジャーナル, 2015, Vol.24, No.7, pp.485-489
140. 鎌田恭輔, 脳外科顕微鏡の比較と使いこなすためのコツ (第二報) ～顕微鏡の特性を用いた操作～, 脳神経外科速報 手術のコツとピットフォール, 2015, Vol.25, No.12, pp.1258-1263
141. 鎌田恭輔, 脳外科顕微鏡の比較と使いこなすためのコツ (第二報) ～顕微鏡光学原理と光軸の確保～, 脳神経外科速報 手術のコツとピットフォール, 2015, Vol.25, No.11, pp.1148-1155
142. 鎌田恭輔, 國井尚人, 小川博司, 広島 覚, 機能 MRI による臨床脳機能マッピング, *Clinical Neuroscience 神経放射線診断—最新情報と読影のピットフォール*, 2015, Vol.33, No.10, pp.1129-1134
143. 石橋秀昭, 小川博司, 田村有希恵, 広島 覚, 鎌田恭輔, 医用技術の進歩に伴う近年のてんかん外科治療, 脳神経外科ジャーナル 特集 機能的脳神経外科, 2016, Vol.25, No.2, pp.112-127
144. 高草木: 姿勢・運動制御の神経学的基盤, 臨床神経リハビリテーション, 2015
145. 高草木: 姿勢・歩行の制御, *Clinical Neuroscience* 中外医学社, 2015
146. 前田貴記: 自我の脳科学から考える統合失調症—精神病理学と脳科学のありうべき連繫, こころの

科学, 2015, 180 号, pp79-86

147. 東口 大樹、花川 隆: 高齢者のめまい平衡と認知機能, ENTONI, 2015, Vol 176, pp. 62-68
148. 村田哲, 前田和孝: 社会的行動発現のための感覚運動制御システム, Clinical Neuroscience, 33(2) 151-154, 2015
149. 箕, 李, 小脳症状の解析-predictive control and feedback control, Annual Review 神経, 2014, pp11-17
150. 大屋知徹、関和彦, 中脳赤核と運動機能 –系統発生的観点から–, 日本脊髄外科学会誌「脊髄外科 SPINAL SURGERY」, 2014, Vol28(3)
151. 柳原 大、竹内 絵理、山浦 洋、青木 祥, 歩行制御, 姿勢制御における小脳機能の新知見, 体育の科学, 2014, 64, 318-323
152. 大内田裕, 出江紳一, リハビリテーションにおけるミラーニューロンの臨床応用, BRAIN and NERVE: 神経研究の進歩, 2014, 66(6), 655-663
153. 阿部 浩明, 近藤 健男, 出江 紳一, 脳卒中後の pusher syndrome : 出現率と回復における半球間差異, 理学療法学, 2014, 41(8) : 544-551.
154. 太田: 脳の中の身体表現とその働きを解明する, 実験医学, 2014, Vol. 32, No. 16, pp. 2661-2662.
155. 前田 貴記, 三村 将: 体感幻覚—身体の非自己化の体験, BRAIN and NERVE, 2014, 66(4), pp.363-366
156. 沖村 幸, 前田 貴記, 加藤元一郎: ワーキングメモリと社会的行動, 老年精神医学雑誌, 2014, 25(5), pp.522-529
157. 高草木, 運動麻痺と皮質-網様体投射, 脊椎脊髄ジャーナル 三輪書店, 2014, 27(2), pp. 99-106
158. 高草木: 脚橋被蓋核 (PPN) の機能と Parkinson 病, 神経内科, 科学評論社, Vol.80(5), pp.527-535, 2014
159. 中階克己: 霊長類の歩行と一次運動野, バイオメカニズム学会誌, Vol. 38, No. 3, pp. 175-180, 2014
160. 大屋知徹, 関和彦: 中脳赤核と運動機能—系統発生的観点から—, 脊髄外科, Vol28. No.3, pp258-264, 2014
161. 村田哲, 前田和孝: 【ミラーニューロン】 ミラーニューロンの明らかにしたもの 再考, BRAIN and NERVE: 神経研究の進歩, 66(6): p. 635-646, 2014
162. 四津有人, 芳賀信彦, 太田順: 発達の見方とリハビリテーション, Journal of Clinical Rehabilitation 2014 Vol. 23, No. 9, pp. 902-906
163. 内藤栄一, 守田知代: ヒトの身体図式の脳内表現と身体的自己意識, Brain and Nerve, 2014, 66(4):367-380

学会発表

1. K. Tsunetomo, S. Shirafuji, and J. Ota, Analysis of rockers during the stance phase of gait for feature extraction, IEEE Int. Symp. Micromechatronics and Human Science (MHS2018), Nagoya, Japan, 2018
2. Qi An, Hiroki Kogami, Ningjia Yang, Hiroshi Yamakawa, Yusuke Tamura, Hiroshi Yamasaki, Matti Itkonen, Fady Shibata-Alnajjar, Shingo Shimoda, Noriaki Hattori, Makoto Kinomoto, Kouji Takahashi, Takanori Fujii, Hironori Otomune, Ichiro Miyai, Atsushi Yamashita, and Hajime Asama, Rehabilitation Intervention of Physical Therapists Improves Muscle Synergy during Standing-up Motion of Stroke Patients, 2nd International Symposium on Embodied-Brain Systems Science (EmboSS2018), Osaka, Japan, 2018
3. Ningjia Yang, Qi An, Hiroshi Yamakawa, Yusuke Tamura, Kouji Takahashi, Makoto Kinomoto, Hiroshi

Yamasaki, Matti Itkonen, Fady Shibata-Alnajjar, Shingo Shimoda, Noriaki Hattori, Takanori Fujii, Hironori Otomune, Ichiro Miyai, Atsushi Yamashita, and Hajime Asama, Clarification of Altered Muscle Synergies during Sit-to-stand Motion in Stroke Patients, 2nd International Symposium on Embodied-Brain Systems Science (EmboSS2018), Osaka, Japan, 2018

4. Hiroki Kogami, Qi An, Ningjia Yang, Hiroshi Yamakawa, Yusuke Tamura, Hiroshi Yamasaki, Matti Itkonen, Fady Shibata-Alnajjar, Shingo Shimoda, Noriaki Hattori, Makoto Kinomoto, Kouji Takahashi, Takanori Fujii, Hironori Otomune, Ichiro Miyai, Atsushi Yamashita, and Hajime Asama, Effect of Physical Therapy on Joint Angle of Hemiplegic Patients during Standing-up Motion, 2nd International Symposium on Embodied-Brain Systems Science (EmboSS2018), Osaka, Japan, 2018
5. S. Hamasaki, A. Yamashita and H. Asama, A Three-Dimensional Evaluation of Body Representation Change of Human Upper Limb Focused on Sense of Ownership and Sense of Agency, Micro & Nano Scale Systems to Robotics & Mechatronics Systems 2018, Nagoya, Japan, 2018
6. S. Hamasaki, A. Yamashita and Y. Tamura, Investigation of the Influence of Sense of Ownership and Agency on Three-Dimensional Change of Body Representation of Upper Limb, 2nd International Symposium on Embodied-Brain Systems Science 2018, Osaka, Japan, 2018
7. Sonmin Yun, Wen Wen, Qi An, Shunsuke Hamasaki, Hiroshi Yamakawa, Yusuke Tamura, Atsushi Yamashita and Hajime Asama, Investigating the Relationship between Assisted Driver's Sense of Agency and EEG Alpha Power, The 2nd International Symposium on Embodied-Brain Systems Science (EmboSS2018), Osaka, Japan, 2018
8. Kei Aoyagi, Wen Wen, Qi An, Shunsuke Hamasaki, Hiroshi Yamakawa, Yusuke Tamura, Atsushi Yamashita and Hajime Asama, Improvement of Sense of Agency via Visual Intervention in Virtual Reality, The 2nd International Symposium on Embodied-Brain Systems Science (EmboSS2018), Osaka, Japan, 2018
9. K. Mochizuki, K.Nakajima, M. Inase, A. Murata, Neuronal correlates of sensory suppression for self-attributable afferent inputs in primate primary somatosensory cortex. , The 2nd international symposium on Embodied-Brain system science, Osaka, Japan, 2018
10. A. Murata, K. Maeda, H. Ishida, K.Nakajima, M. Inase, Visual feedback control of grasping in the parietal mirror neuron system. , The 2nd international symposium on Embodied-Brain system science, Osaka, Japan, 2018
11. Sanada T, Mitsuhashi T,Takeuchi F,Kamada K, Complex functional brain network identified by “passive” electrical mapping in a case with intractable epilepsy., EmboSS 2018, Osaka, 2018
12. Tanaka, H., Directional tuning and reference frames in human pointing, 3rd International Mobile Brain/Body Imaging Conference, Berlin, Germany, 2018
13. Hirokazu Tanaka and Makoto Miyakoshi, Two extensions of trial reproducibility maximization for EEG data analysis, 3rd International Mobile Brain/Body Imaging Conference, Berlin, Germany, 2018
14. Tanaka H, Ishikawa T, & Kakei, S, Neural evidence of the cerebellum as a state predictor, Neuroscience 2018, Kobe, Japan, 2018
15. Hirokazu Tanaka, Makoto Miyakoshi, and Eishi Asano, A Multivariate Method Detecting Traveling Waves from ECoG data, The 2nd International Symposium on Embodied-Brain Systems Science (Emboss 2018), Osaka,

Japan, 2018

16. Hirokazu Tanaka, Takahiro Ishikawa, and Shinji Kakei, Neural Evidence of the Cerebellum as a State Predictor, The 2nd International Symposium on Embodied-Brain Systems Science (Emboss 2018), Osaka, Japan, 2018
17. A. Fukui, H. Osaki, Y. Ueta and M. Miyata, Layer-specific impairment of somatosensory processing in the primary sensory cortex after motor cortex infarction, 2nd International Symposium on Embodied-Brain Systems Science, Osaka, Japan, 2018
18. H. Osaki, M. Kawashima, M. Yasuda and M. Miyata, Nociceptive neurons in the primary somatosensory cortex: area and layer specific distribution, 2nd International Symposium on Embodied-Brain Systems Science, Osaka, Japan, 2018
19. K. Kaminishi, R. Chiba, K. Takakusaki, and J. Ota, Musculoskeletal simulations to investigate influences of muscle weakness and sensory noise to postural control stiffness, 29th 2018 International Symposium on Micro-NanoMechatronics and Human Science, Nagoya, Japan, 2018
20. K. Kaminishi, P. Jiang, R. Chiba, K. Takakusaki, and J. Ota, Musculoskeletal simulation for determining influences of the magnitude of sensory noise and stiffness on the selection of hip or ankle movement strategies, 40th International Engineering in Medicine and Biology Conference, Hawaii, USA, 2018
21. K. Kaminishi, R. Chiba, K. Takakusaki, and J. Ota, Musculoskeletal simulation to investigate influences of the magnitude of sensory noise and stiffness on the selection of an ankle/hip strategy, 2nd International Symposium on Embodied-Brain Systems Science (EmboSS 2018), Osaka, Japan, 2018
22. Yusuke Sekiguchi, Takayuki Muraki, Hiroaki Ishikawa, Keita Honda, Haruki Yaguchi, Nobuyuki Yamamoto, and Shin-Ichi Izumi, Abdominal muscle elasticity in patients with hemiparesis due to stroke, Gait and Clinical Movement Analysis Society , 23th Annual Meeting, Indianapolis,, USA, 2018
23. Honda K, Sekiguchi Y, Owaki D, Izumi, Effects of a plantarflexion assist orthosis on compensatory strategy during gait in patients with hemiparesis, Gait and Clinical Movement Analysis Society (GCMAS) 23th Annual Meeting, Indianapolis, USA, , 2018
24. Takakusaki K, Autonomic and cognitive impairment based on basal ganglia dysfunction, International symposium on autonomic function, Nagoya, JPN, 2017
25. Takakusaki K, Takahashi M, Miyagishi S, Kaminishi K, Chiba R, Ota J., Postural control that precedes to the forelimb reaching in the cat., Neuroscience 2017, Makuhari Messe, JPN, 2017
26. Takakusaki K, Takahashi M, Miyagishi S, Chiba R. Drew T., Postural control that precedes to the forelimb reaching in the cat., Society for Neuroscience 2017, Washington DC, USA., 2017
27. T. Fumuro, M. Matsushashi, T. Hitomi, R. Matsumoto, R. Takahashi and A. Ikeda, Visuospatial processing load enhance the brain activity associated with motor preparation, 31st International Congress of Clinical Neurophysiology, Washington DC, USA, 2018
28. M. Togo, R. Matsumoto, A. Shimotake, T. Kobayashi, T. Kikuchi, K. Yoshida, T. Kunieda, S. Miyamoto, R. Takahashi and A. Ikeda, Role of the premotor and precentral negative motor area in praxis: a direct electrical stimulation study with behavioral analysis, 31st International Congress of Clinical Neurophysiology, Washington DC/USA, 2018
29. Neshige S, Kobayashi K, Matsushashi M, Shimotake A, Hitomi T, Kikuchi T, Yoshida K, Kunieda T, Matsumoto

- R, Takahashi R, Miyamoto S, Maruyama H, Ikeda A., Rational cortical mapping algorithm for epilepsy surgery: non-stimuli, multi-intrinsic brain activities without cortical stimulation, 12th Asian & Oceanian Epilepsy Congress, Bali, Indonesia, 2018
30. S. Kakei, Cerebro-cerebellar communication loop: its contribution to cognitive brain functions., The 75th FUJIHARA Seminar: “The Cerebellum as a CNS hub – from its evolution to therapeutic strategies”, Tokyo, Japan, 2018
 31. S. Kakei, Physiological basis of cerebellar ataxia, The 4th Taiwan International Congress of Parkinson’s Disease and Movement Disorders, Taipei, Taiwan, 2018
 32. T. Honda, Tandem internal models fulfill precise motor control, The 75th FUJIHARA Seminar: “The Cerebellum as a CNS hub – from its evolution to therapeutic strategies”, Tokyo, Japan, 2018
 33. T. Ishikawa, S. Tomatsu, D.S. Hoffman, S. Kakei, Neural mechanisms generating cerebellar output in the cerebro-cerebellar communication loop, The 75th FUJIHARA Seminar: “The Cerebellum as a CNS hub – from its evolution to therapeutic strategies”, Tokyo, Japan, 2018
 34. S. Kakei, Dynamic cerebellum: neural mechanisms underlying emerging information processing, Symposium @ Neuro2018, Kobe, Japan, 2018
 35. A. Takai, D. Ravela, G. Lisi, T. Noda, R. Teramae, H. Imamizu, and J. Morimoto, Investigation on the neural correlates of haptic training, 2018 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics (SMC2018), Miyazaki, Japan, 2018
 36. T. Asai and H. Imamizu, Normal aging in resting-state functional brain networks, The 2nd International Symposium on Embodied-Brain Systems Science (EmBoss 2018), Senri Life Science Center, Shinsenrihigashimachi, Toyonaka-city, Osaka, Japan, 2018
 37. T. Hamamoto, H. Imamizu, and T. Asai, Resting and Meditating states in Functional Brain Connectivity, The 2nd International Symposium on Embodied-Brain Systems Science (EmBoss 2018), Senri Life Science Center, Shinsenrihigashimachi, Toyonaka-city, Osaka, Japan, 2018
 38. M. Tanaka, T. Asai, H. Imamizu, and R. Ohata, Biased Sense of Agency Changes Feedback Control, The 2nd International Symposium on Embodied-Brain Systems Science (EmBoss 2018), Senri Life Science Center, Shinsenrihigashimachi, Toyonaka-city, Osaka, Japan, 2018
 39. K. Hiromitsu, T. Asai, S. Imaizumi, M. Tanaka, H. Kadota, and H. Imamizu, Right Inferior Parietal Lobe Mediates the Relation Between the Prediction Error and the Sense of Agency—tDCS and TMS Study—, The 2nd International Symposium on Embodied-Brain Systems Science (EmBoss 2018), Senri Life Science Center, Shinsenrihigashimachi, Toyonaka-city, Osaka, Japan, 2018
 40. R. Ohata, W. Wen, A. Yamashita, H. Asama, and H. Imamizu, Dissociative processes for detecting change in control, The 2nd International Symposium on Embodied-Brain Systems Science (EmBoss 2018), Senri Life Science Center, Shinsenrihigashimachi, Toyonaka-city, Osaka, Japan, 2018
 41. H. Imamizu, Brain networks building up sense of agency , The 2nd International Symposium on Embodied-Brain Systems Science (EmBoss 2018), Senri Life Science Center, Shinsenrihigashimachi, Toyonaka-city Osaka, Japan, 2018
 42. Oouchida Yutaka, Ortiz-Catalan Max, Sudo Tamami, Inamura Tetsunari, Ohki Yukari, and Izumi Shin-ichi,

EMG Biofeedback Training Improves Motor Impairment of Mental Disease: A Case Study of Conversion Disorder, 40th International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society, Hawaii, USA, 2018

43. S. Yun, W. Wen, Q. An, S. Hamasaki, H. Yamakawa, Y. Tamura, A. Yamashita, and H. Asama, Investigating the Relationship Between Assisted Driver's SoA and EEG, International Conference on NeuroRehabilitation, Pisa, Italy, 2018
44. Kamada K, Passive Mapping and Monitoring ICG-VG / ECoG for Neurosurgery, Lecture for Neurosurgery:Neurosurgery, Ground Round, Stanford University Morning conference, Stanford,USA, 2018
45. Kamada K, Lecture for Neurosurgical Residents: Neurosurgery with Academia, Neurosurgery. Ground Round, Stanford University , Stanford,USA, 2018
46. Kamada K, Rehabilitation with recoveriX and its positive effects oh fMRI in stroke patients, 2018 BCI Meeting, Asilomar, USA, 2018
47. Kamada K, Clinical needs for quantitative evaluation of "Consciousness", 2018 BCI Meeting, Asilomar, USA, 2018
48. Kamada K, Passive Mapping and Monitoring using ECoG for Neurosurgery, 2018 BCI Meeting, Asilomar, USA, 2018
49. Kamada K, Rehabilitation with recoveriX and fMRI evaluation for acute stroke patients, 2nd recoveriX & mindBEAGLE condence 2018, London, 2018
50. Kamada K, Treatment and Rehabilitation with recoveriX for acute stroke patients, BCI Workshop, BCI for stroke rehabilitation, Honolulu, USA, 2018
51. Kamada K, Characterization and Decoding with Intracranial Recording, EMBC Preconference BCI workshop, Honolulu, USA, 2018
52. Kamada K, Rehabilitation with recoveriX and its positive effects oh fMRI in acute stroke patients, EMBC Preconference BCI Workshop, Honolulu, USA, 2018
53. Kamada K, ECoG-based Passive Functional Brain Mapping, EMBC 2018, Honolulu, USA, 2018
54. Kamada K, Basic and advanced functional Brain Mapping/Monitoring for tumor surgery, SNSA CONGRESS 2018, Sun City, South Africa, 2018
55. Kamada K, Clinical Impact of Real-time Monitoring for Deep-seated Brain Pathology, SNSA CONGRESS 2018, Sun City, South Africa, 2018
56. Kamada K, Multi-spectrum Indocyanin Green Videography for CNS Vascular Pathology, WFNS FOUNDATION & ACNS MYANMAR SEMINAR YANGON, Yangon,Myanmar, 2018
57. Kamada K, Real-time Passive Language Mapping for Awake Craniotomy, WFNS FOUNDATION & ACNS MYANMAR SEMINAR YANGON, Yangon,Myanmar, 2018
58. Kamada K, Basics and Characteristics of Microscope for Vascular Disease, WFNS FOUNDATION & ACNS MYANMAR SEMINAR YANGON, Yangon,Myanmar, 2018
59. Kamada K, Non-invasive and invasive Brain-Computer Interfaces for medical application and research projects, IEEE SMC2018, Miyazaki,Japan, 2018
60. Kamada K, Passive Mapping and Monitoring using ECoG for Neurosurgery, 2018 BCI meeting, Asilomar, USA,

2018

61. Kamada K, Rehabilitation with recoveriX and fMRI evaluation for acute stroke patients, 2nd recoveriX & mindBEAGLE conference 2018, London, 2018
62. Kamada K, Treatment and Rehabilitation with recoveriX for acute stroke patients, BCI Workshop BCI for stroke rehabilitation, Honolulu, USA, 2018
63. F Kaneko, K Shindo, M Yoneta, M Okawada, K Akaboshi, M Liu, Comparison of functional brain connectivity before and after complex approach of KiNvis and BMI to patients with severely impaired chronic stroke. -A primary analysis of the resting state functional MRI- , Society for Neuroscience, San diego, USA, 2018
64. M Okawada, F Kaneko, K Shindo, M Yoneta, K Akaboshi, M Liu, Relationship between EEG during motor imagery and upper limb function after the intervention with KiNvis and EEG-based BCI in patients with severe upper limb paralysis after stroke. , Society for Neuroscience, San diego, USA, 2018
65. Fuminari Kaneko, Keiichiro Shindo, Megumi Okawada, Masaki Yoneta, Kazuto Akaboshi, Meigen Liu, Convergent approach including cognitive and physiological Stimulation for sensory-motor functional improvement in chronic stroke: A case report , ISPRM 2018, Paris, France, 2018
66. Kamada K, Characterization and Decoding with Intracranial Recording, EMBC Preconference BCI workshop, Honolulu, USA, 2018
67. Kamada K, Rehabilitation with recoveriX and its positive effects on fMRI in acute stroke patients, EMBC Preconference BCI Workshop, Honolulu, USA, 2018
68. Kamada K, ECoG-based Passive Functional Brain Mapping, EMBC 2018, Honolulu, USA, 2018
69. Kamada K, Basic and advanced functional Brain Mapping/Monitoring for tumor surgery, SNSA CONGRESS 2018, Sun City, South Africa, 2018
70. Kamada K, Clinical Impact of Real-time Monitoring for Deep-seated Brain Pathology, SNSA CONGRESS 2018, Sun City, South Africa, 2018
71. Kamada K, Multi-spectrum Indocyanin Green Videography for CNS Vascular Pathology, WFNS FOUNDATION & ACNS MYANMAR SEMINAR YANGON, Yangon, Myanmar, 2018
72. Kamada K, Real-time Passive Language Mapping for Awake Craniotomy, WFNS FOUNDATION & ACNS MYANMAR SEMINAR YANGON, Yangon, Myanmar, 2018
73. Kamada K, Basics and Characteristics of Microscope for Vascular Disease, WFNS FOUNDATION & ACNS MYANMAR SEMINAR YANGON, Yangon, Myanmar, 2018
74. Kamada K, Non-invasive and invasive Brain-Computer Interfaces for medical application and research projects, IEEE SMC2018, Miyazaki, Japan, 2018
75. F Kaneko, K Shindo, M Yoneta, M Okawada, K Akaboshi, M Liu, Comparison of functional brain connectivity before and after complex approach of KiNvis and BMI to patients with severely impaired chronic stroke. -A primary analysis of the resting state functional MRI- , Society for Neuroscience – Neuroscience 2018, San diego, USA, 2018
76. F Kaneko, K Shindo, M Yoneta, M Okawada, K Akaboshi, M Liu, Comparison of functional brain connectivity before and after complex approach of KiNvis and BMI to patients with severely impaired chronic stroke. -A primary analysis of the resting state functional MRI- , Society for Neuroscience – Neuroscience 2018, San diego,

USA, 2018

77. M Okawada, F Kaneko, K Shindo, M Yoneta, K Akaboshi, M Liu, Relationship between EEG during motor imagery and upper limb function after the intervention with KiNvis and EEG-based BCI in patients with severe upper limb paralysis after stroke. , Society for Neuroscience – Neuroscience 2018, San diego, USA, 2018
78. Fuminari Kaneko, Keiichiro Shindo, Megumi Okawada, Masaki Yoneta, Kazuto Akaboshi, Meigen Liu, Convergent approach including cognitive and physiological Stimulation for sensory-motor functional improvement in chronic stroke: A case report , 12th International Society of Physical and Rehabilitation Medicine World Congress, Paris, France, 2018
79. N. Miyata, Y. Yoneoka, Y. Maeda, Modeling the range of motion and the degree of posture discomfort of the thumb joints, the 20th Congress of the International Ergonomics Association, Florence, Italy, 2018
80. N. Miyata, R. Takahashi, M. Takemura, K. Fujita, Y. Maeda,, Observation of Grasping Style Adaptation due to Artificially-Limited Joint Range of Motion of the Thumb, 28th 2017 International Symposium on Micro-NanoMechatronics and Human Science, Nagoya, JAPAN, 2017
81. R. Takahashi, N. Miyata, Y. Maeda, and K. Fujita, Grasps under Artificially-limited Thumb's Joint Range of Motion –Posture Analysis with ROM Boundary and Muscle Loads–, 29th 2018 International Symposium on Micro-NanoMechatronics and Human Science, Nagoya, JAPAN, 2018
82. Morioka S, et al. , The relationship between motor imagery ability and motor function, and frequency of body use in upper limb stroke hemiplegia, 12th the International Society of Physical and Rehabilitation Medicine (ISPRM) World Congress, Paris, 2018
83. Hayashida K, Morioka S et al., Effects of sharing goals with others on sense of agency and perceptual motor learning, International Society of Electrophysiology & Kinesiology , Dublin, 2018
84. Katayama O, Tsukamoto T, Osumi M, Kodama T, Morioka S, Neural processing mechanism of embodied disturbance caused by sensorimotor incongruence, The 17th World Congress on Pain®, Boston, 2018
85. R. Chiba (Invited), Embodied-Brain Systems and Understandings of Postural Control with modeling, The 1st Korea-China-Japan International Symposium on Disability Overcome, Seoul, korea, 2018
86. Kubota S, Sidikejiang W, Kudo M, Inoue K, Umeda T, Takada M, Seki K, Optogenetic activation of cutaneous and proprioceptive afferent in the rat scaltic nerve. , Society for Neuroscience 2018, San Diego, USA., 2018
87. Kamada K, Super-passive mapping for language-related functions during awake craniotomy , Brain and Cognitive Science Meeting, Seoul,Korea, 2018
88. Kamada K, Cerebravascular surgery in posterior fossa using multi-spectrum florescence angiography, 2018 China-Japan Cerebrovascular Disease Forum, Tokyo , 2018
89. Kamada K, Dynamics of High Frequency Oscillations between Visual Recognition and Receptive/Expressive Language Functions, 50 Years of MEG, Poros,Greece, 2018
90. S. Imaizumi, and H. Imamizu, Intentional binding in action–effect alternations, 22nd Annual Meeting of the Association for the Scientific Study of Consciousness (ASSC22), Jagiellonian University, Krakow (Poland), 2018
91. R. Ohata, T. Asai, H. Kadota, H. Shigemasu, K. Ogawa, and H. Imamizu, Decoding self-other action attribution in the sensorimotor and the parietal cortices, 11th Federation of European Neuroscience Societies (FENS) Forum

of Neuroscience, Berlin, Germany, 2018

92. K. Shima, K. Shimatani, G. Sato, M. Sakata, P. Giannoni and P. Morasso, A Fundamental Study on How Holding a Helium-filled Balloon Affects Stability in Human Standing, 2017 IEEE 15th International Conference on Rehabilitation Robotics, London, UK, 2017
93. T. Mukaeda and K. Shima, A Novel Hidden Markov Model-Based Pattern Discrimination Method with the Anomaly Detection for EMG Signals, 39th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society, Jeju Island, Korea, 2017
94. Kamada K, Important factors of Microscope for CVD surgery, 2017 AANS, LA,USA, 2017
95. Kamada K, Tamura Y, Super-passive mapping for language-related functions during awake craniotomy, Biomagnetic Sendai 2017, Sendai, 2017
96. Tsuyuguchi N, Kamada K, Is it possible to detect high-frequency oscillation: HFO by clinical magnetoencephalogram: MEG under ordinary measurement condition?, Biomagnetic Sendai 2017, Sendai, 2017
97. Kamada K, Recent trends of AVM treatment, 2017 PCCVD, 上海,中国, 2017
98. Kamada K, Clipping of posterior fossa Aneurysms using multi-spectrum fluorescence video, 2017 PCCVD, 上海,中国, 2017
99. Kamada K, Clinical Impact of real-time mapping and decoding for brain signals. -CortiQ>RecoveriX, Concept of mindBEAGLE-, 38th EMBC Workshops & Tutorials, Jeju,Korea, 2017
100. Kamada K, Rehabilitation with recoveriX and fMRI evaluation for acute stroke patients: clinical impact and pitfalls, recoveriX & mindBEAGLE conference 2017, Graz,Austria, 2017
101. Wada H, Kamada k, Results of treatment strategy with 2mm balloon for symptomatic intracranial arterial stenosis, 14th WFITN 2017 Congress, Budapest,Hungary, 2017
102. Kamada K, Cerebrovascular surgery in posterior fossa using anatomical and quantitative fluorescence angiography , 2017Huashan International Neurosurgical Conference, China, 2017
103. Kamada K, Passive mapping and network analysis with ECoG, 13th International Workshop on Advances in Electroencephalography , Washington,DC,USA, 2017
104. Kamada K, Disconnection of the pathological connectome for multifocal epilepsy surgery, American Epilepsy Society, 2017, Washington,DC,USA, 2017
105. S. Unenaka, S. Shibuya, T. Zama, S. Shimada and Y. Ohki, Movement back projection during observation of an illusory embodied hand: Evidence by EEG mu-rhythm, Society for Neuroscience 2017, Washington, USA, 2017
106. Matsumoto R, Kikuchi T, Yoshida K, Kunieda T, Ikeda A. , Subdural recording in epilepsy. M08C: Clinical Neurophysiology – Invasive studies, 23rd World Congress of Neurology,, Kyoto, Japan, 2017
107. Matsumoto R, Usami K, Kikuchi T, Yoshida K, Ikeda A., Neural basis of altered consciousness during sleep: insights from effective connectivity and induced high gamma activities. Problems of Consciousness and Neuropsychiatric Disorders and Network Disease Roundtable 1: Consciousness and Multiple Levels of Non-Linear Brain, International Symposium: Neural Oscillation Conference 2017, Tokyo, japan, 2017
108. M Togo, R Matsumoto, H Takeyama, K Kobayashi, K Usami, T Nakae, A Shimotake, T Kikuchi, K Yoshida, T Kunieda, S Miyamoto, R Takahashi, A Ikeda, Functional connectivity from medial and dorsal parietal areas: a

- cortico-cortical evoked potential (CCEP) study, Society for Neuroscience 2017, Washington D.C, USA, 2017
109. S. Togo and H. Imamizu, Experimental evaluation of voluntarily activatable muscle synergies, Society for Neuroscience 2017, Washington DC, USA., 2017
 110. T. Asai and H. Imamizu, Normal aging in resting-state brain networks: Toward a connectivity-neurofeedback for the declined metacognition in elderly people, Real-time Functional Imaging and Neurofeedback Conference (rtFIN2017), Nara, Japan, 2017
 111. R. Ohata, T. Asai, H. Kadota, H. Shigemasu, K. Ogawa, and H. Imamizu, Decoding self-other action attribution in the sensorimotor and the parietal cortices, Real-time Functional Imaging and Neurofeedback Conference (rtFIN2017), Nara, Japan, 2017
 112. A. Takai, T. Noda, G. Lisi, T. Teramae, H. Imamizu, and J. Morimot, The differences in motor performances between sensorimotor area activities of pre- and during passive guidance, Real-time Functional Imaging and Neurofeedback Conference (rtFIN2017), Nara, Japan, 2017
 113. M. Tanaka, T. Asai, H. Imamizu, and R. Ohata, Sense of agency altered by cognitive intervention affects motor control, Real-time Functional Imaging and Neurofeedback Conference (rtFIN2017), Nara, Japan, 2017
 114. S. Chiyohara, J. Furukawa, J. Morimoto, and H. Imamizu, Proprioceptive Gain Affects Motor Learning, Real-time Functional Imaging and Neurofeedback Conference (rtFIN2017), Nara, Japan, 2017
 115. Osaki Hironobu, Ueta Yoshifumi, Miyata Mariko, Dysgranular area in somatosensory cortex of mice represents nociceptive information, Society for neuroscience 2017, Washington, DC, United States, 2017
 116. Hirotaka Yoshida, Takeru Honda, Jongho Lee, Shiro Yano, Shinji Kakei, and Toshiyuki Kondo, Development of a System for Quantitative Evaluation of Motor Function Using Kinect v2 Sensor, 2016 International Symposium on Micro-NanoMechatronics and Human Science (MHS2016), Nagoya, Japan, 2016
 117. Shiro Yano, Hiroshi Imamizu, Toshiyuki Kondo, Takaki Maeda, Learning process and Sense of Agency:Bayesian Learning or Not, 2016 IEEE International Symposium on Micro-NanoMechatronics and Human Science (MHS2016), Nagoya, Japan, 2016
 118. Kosuke Kitahara, Yoshikatsu Hayashi, Toshiyuki Kondo and Shiro Yano, Sound imagery contributes to foot Mi-based BCI even through it does not influence on the sensorimotor rhythms, 2016 Asia-Pacific Signal and Information Processing Association Annual Summit and Conference (APSIPA), Jeju, South Korea, 2016
 119. Megumi Miyashita, Ryo Hirotani, Shiro Yano, and Toshiyuki Kondo, Experiment of Reinforcement Learning with Extremum Seeking, The 2017 6th ICT International Student Project Conference (ICT-ISPC2017), Malaysia, 2017
 120. Tran Nguyen Bao, Shiro Yano, and Toshiyuki Kondo, Muscle Synergy Analysos in Darts Throwing, The 39th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (EMBS), Jeju, South Korea, 2017
 121. Hiroki Imura, Shiro Yano, Toshiyuki Kondo, Sequential Movement Has Equivalent Generalization Ability to Discrete Movement in Force Field Motor Learning, International Neurorehabilitation Symposium (INRS 2017), London, UK, 2017
 122. Shin Nagamine, Akira Ishii, Shiro Yano, Toshiyuki Kondo, Approach towards reduction of phantom limb pain using immersive virtual reality system, International Neurorehabilitation Symposium (INRS 2017), London,

UK, 2017

123. Megumi Miyashita, Ryo Hirotani, Shiro Yano, and Toshiyuki Kondo, Direct Policy Search with Extremum Seeking, SICE Annual Conference 2017, Kanazawa, Japan, 2017
124. Hirotaka Yoshida, Takeru Honda, Arito Yozu, Jongho Lee, Shinji Kakei, and Toshiyuki Kondo, Age effects on smooth pursuit arm movement, Society for Neuroscience 2017 Annual Meeting, Washington D.C., USA., 2017
125. Eiko Matsuda, Daichi Misawa, Shiro Yano, and Toshiyuki Kondo, Olfactory Cues to Enhance Simultaneous Motor Learning in Opposing Force Fields, IEEE 2017 International Symposium on Micro-NanoMechatronics and Human Science (MHS2017), Nagoya, Japan, 2017
126. K. Matsumiya, Bodily awareness and the coding of visual space, RIEC International Symposium, Tohoku University, Japan, 2017
127. Nonomura, M., Tseng, C.H., Matsumiya, K., Kuriki, I., Shioiri, S., Shift of visual attention to the illusory hand location, The 13th Asia-Pacific Conference on Vision (APCV2017), Tainan, Taiwan, 2017
128. Matsumiya, K., Sato, M., Shioiri, S.”, Selective facilitation of the luminance visual pathway by postsaccadic target blanking, The 19th European Conference on Eye Movements (ECEM2017), Wuppertal, Germany, 2017
129. K. Nakajima, Y. Higurashi, K. Morita, A. Murata, M. Inase, single-unit activity in cortical motor areas of unconstrained Japanese monkeys walking on a treadmill, Yamada Symposium 2017, Tokyo, Japan., 2017
130. Natsuki Miyata, Reiko Takahashi, Masatoshi Takemura, Koji Fujita, and Yusuke Maeda, Observation of Grasping Style Adaptation due to Artificially-Limited Joint Range of Motion of the Thumb, 28th 2017 International Symposium on Micro-NanoMechatronics and Human Science, Nagoya, JAPAN, 2017
131. Y. Sugiuchi, M. Takahashi, and Y. Shinoda., Input-output organization of excitatory and inhibitory burst neurons in the downward saccade pathway , Gordon Research Conference , Lewiston, USA., 2017
132. M. Takahashi, Y. Sugiuchi, and Y. Shinoda., Roles of commissural connections between the bilateral superior colliculi on eye and head movements. , Gordon Research Conference , Lewiston, USA., 2017
133. K. Kaminishi, P. Jiang, R. Chiba, K. Takakusaki, and J. Ota, Proprioceptive postural control of a musculoskeletal model against horizontal disturbances, 2017 IEEE International Conference on Robotics and Biomimetics (ROBIO 2017), Macau, China., 2017
134. Fujikawa,Kaori, Shirafuji,Shohei, Su,Becky, Piovaneli,Enrico, & Ota,Jun., Estimation of fingergrip forces using high-density surface electromyography, Proc. IEEE Int. Symp. Micromechatronics and Human Science (MHS2017), Nagoya, Japan, 2017
135. F. Kaneko, A Novel Approach of Cognitive-Stimulation Induces Voluntary Motor Output in Patients with Severe Stroke, The XXVI Congress of the international society of biomechanics, Brisbane, Australia., 2017
136. F. Kaneko, Y. Itaguchi, E. Shibata, and K. Okuyama, Exposure to a unique visual stimulus with kinesthetic sensation results in synchronized reciprocally induced spontaneous muscular recruitment, The XXVI Congress of the international society of biomechanics, Brisbane, Australia, 2017
137. Chiaki MIzuochi, Yoshiko Yabuki, Yasuhiro, Mouri, Shunta Togo, Soichiro Morishita, Yinlai Jiang, Ryu Kato, Hiroshi Yokoi, Real-time cortical adaptation monitoring system for prosthetic rehabilitation based on functional near-infrared spectroscopy, 2017 IEEE International Conference on Cyborg and Bionic Systems (CBS 2017), Beijing, China, 2017

138. R. Chiba, K. Kaminishi, P. Jiang, K. Takakusaki and J. Ota, Modeling of postural control in human with multisensory alteration by experiments and simulations, 8th International Symposium on Adaptive Motion of Animals and Machines (AMAM2017), Sapporo, Japan, 2017
139. R. Chiba, K. Kaminishi, K. Takakusaki and J. Ota, Multisensory alterations in visual, vestibular and proprioceptive cues for modeling of postural control, IEEE International Symposium Micromechatronics and Human Science (MHS2017), Nagoya, Japan, 2017
140. Y. Sekiguchi, D. Owaki, K. Honda, N. Hiroi, K. Fukushi, T. Nozaki, and S. Izumi, Effect of a new hip orthosis on unilateral side with various stiffness on gait in healthy control, Gait and Clinical Movement Analysis Society (GCMAS) 22th Annual Meeting, Salt Lake City, USA, 2017
141. Y. Sekiguchi, T. Muraki, Dai Owaki, K. Honda, and S. Izumi, Categorization of Gait Pattern Based on Ankle and Hip Stiffness during gait in Patients with Hemiparesis due to Stroke, Gait and Clinical Movement Analysis Society (GCMAS) 22th Annual Meeting, Salt Lake City, USA, 2017
142. D. Owaki, Y. Sekiguchi, K. Honda, N. Aizu, Y. Oouchida, A. Ishiguro, and S. Izumi, Walking Rehabilitation Using Auditory Biofeedback Prosthesis for Stroke Patients, AMAM2017, Sapporo, Japan, 2017
143. D. Owaki, Inter and intralimb coordination for adaptive bipedal walking: Tegotae-based approach, SWARM2017 Workshop on Bio-inspired control for interlimb coordination and adaptation in legged robots, Kyoto, Japan, 2017
144. S. Yun, W. W. Q. An, S. Hamasaki, H. Yamakawa, Y. Tamura, A. Yamashita, and H. Asama, Investigating the relationship between driver's sense of agency and EEG: mu-rhythm is more suppressed in higher SoA case, IEEE International Symposium on Micro-NanoMechatronics and Human Science (MHS2017), Nagoya, Japan, 2017
145. N. Yang, Q. An, H. Yamakawa, Y. Tamura, A. Yamashita, K. Takahashi, M. Kinomoto, H. Yamasaki, M. Itkonen, F.S.K. Alnajjar, S. Shimoda, H. Asama, N. Hattori, and I. Miyai, Clarification of Muscle Synergy Structure During Standing-up Motion of Healthy Young, Elderly and Post-Stroke Patients, 15th IEEE International Conference on Rehabilitation Robotics, London, UK, 2017
146. Imai R, Osumi M, Ishigaki T, Morioka S, Relationship between pain and hesitation of movement initiation in acute phase after surgery, The 10th Congress of the European Pain Federation EFIC® , Copenhagen, 2017
147. Katayama O, Osumi M, Nishi Y, Takamura Y, Kodama T, Morioka S, The influence of sensorimotor incongruence on dysesthesia and motor control, The 10th Congress of the European Pain Federation EFIC®, Copenhagen, 2017
148. Kamada K, Important factors of Microscope for CVD surgery, 2017 AANS, LA, USA, 2017
149. K. Seki, Sensory gating and presynaptic inhibition during voluntary movement, Society for the Neural Control of Movement 2017, Dublin, IRELAND, 2017
150. Hiroshima S, Kamada K, Examination of trigeminal neuralgia which did not improve by microvascular decompression, 5Th Mt. Bandai and Panpacific Joint Neurosurgical Convention 2016, Phnom Penh, Cambodia, 2016
151. R. Ohata, T. Asai, H. Kadota, H. Shigemasu, K. Ogawa, and H. Imamizu, Decoding self-other action attribution in the sensorimotor and the parietal cortices, Organization for Human Brain Mapping 2017 Annual Meeting

(OHBM 2017), Vancouver, Canada, 2017

152. H. Imamizu, C. Cai, T. Asai, and R. Ohata, Brain mechanisms underlying self-other action attribution, The 44th Naito Conference on Decision Making in the Brain — Motivation, Prediction, and Learning, Chateraise Gateaux Kingdom Sapporo, Japan, 2017
153. J. Ota, Introduction and overview of embodied-brain systems science, 8th International Symposium on Adaptive Motion of Animals and Machines (AMAM2017), Sapporo, Japan, 2017
154. Mohamad Arif Fahmi Bin Ismail, Sotaro Shimada, The Effect of Delayed Visual Feedback on ‘Robot’ HAnd Illsuion: a near-infrared spectroscopy study., The 20th Annual Meeting of Association for the Scientific Study of Consciousness, Buenos Aires, Argentine Republic, 2016
155. Yoshiyuki Takahashi, Takuro Zama, Sotaro Shimada, Effects of the visual feedback delay on visually-guided hand movement and self-body recognition., 22th Annual Meeting of the Organization on Human Brain Mapping , Geneva, Swiss, 2016
156. T. Oya, T. Takei, and K. Seki, Functional tuning of rubromotoneuronal cells in the forelimb movement in a macaque monkey, Society for Neuroscience 2016, San Diego, USA., 2016
157. Morioka S, Nobusako S, Ishibashi R, Osumi M, Zama T, Shimada S, Characteristic of visual feedback delay detection in apraxia following stroke, Society for Neuroscience, San Diego, 2016
158. Katayama O, Osumi M, Imai R, Kodama T, Morioka S, Neural network of dysesthesia symptoms produced by sensorimotor incongruence in healthy volunteers. A functional connectivity analysis, Society for Neuroscience , San Diego, 2016
159. Nishi Y, Osumi M, Nobusako S, Morioka S, The Personality Traits Contribute to Voluntary Pain-Related Avoidance Behavior, Society for Neuroscience , San Diego, 2016
160. Maeoka H, Matsuo A, Hiyamizu M, Morioka S, Effects of Relationship and Gender Difference on Pain, Society for Neuroscience, San Diego, 2016
161. Sato G, Osumi M, Morioka S, The effects of wheelchair propulsion on neuropathic pain and resting electroencephalography after spinal cord injury, 16th World Congress on Pain, Yokohama, 2016
162. Katayama O, Osumi M, Imai R, Kodama T, Morioka S, Neural network of dysesthesia produced by sensorimotor incongruence. A functional connectivity analysis, 16th World Congress on Pain, Yokohama, 2016
163. S. Irie, T. Nakajima, S. Suzuki, R. Ariyasu, T. Komiyama, and Y. Ohki, Motor imagery of muscle contraction is available to induce long-lasting potentiation in indirect cortico-motoneuronal excitation in a relaxed muscle., Society for Neuroscience 2016, San Diego, USA, 2016
164. Ryu Ohata, Tomohisa Asai, Hiroshi Kadota, Hiroaki Shigemasu, Kenji Ogawa and Hiroshi Imamizu, Decoding agency grounded within the sensorimotor system: self-other action representation in the sensorimotor and the parietal cortices, The 1st international symposium on embodied-brain systems science (EmboSS 2016), Tokyo, Japan, 2016
165. Hiroshi Shikida and Yasuhisa Hasegawa, Hand Space Change After Use of Extra Robotic Thumb, 27th 2016 International Symposium on Micro-NanoMechatronics and Human Science (MHS2016), Nagoya, 2016
166. H. Imamizu, Neural mechanisms underlying sense of agency, 4th mini-symposium on Cognition, Decision-making and Social function, RIKEN Brain Science Institute (BSI), Saitama, Japan, 2016

167. A. Takai, T. Noda, G. Kisi, T. Teramae, H. Imamizu, and J. Morimoto, Learning arm movements instructed by a robotic system during motor imagery, Society for Neuroscience 2016, San Diego, USA., 2016
168. M. Hamada, Plasticity of human motor and sensory cortices induced by non-invasive brain stimulation, The 10th ICME International Conference on Complex Medical engineering (CME2016), Utsunomiya Japan, 2016
169. M. Hamada, Determinants of the induction of cortical plasticity by theta burst stimulation, 6th International Conference on Transcranial Brain Stimulation, Goettingen, Germany, 2016
170. M. Hamada, Current direction – Basic physiology and plasticity, 2nd International Brain Stimulation Conference, Barcelona, Spain, 2017
171. T. Sasaki, S. Tokushige, N. Togashi, S. Terada, Y. Terao, Y. Ugawa, and M. Hamada, Effect of subthreshold paired associative stimulation during voluntary contraction on motor learning, 2nd International Brain Stimulation Conference, Barcelona, Spain, 2017
172. T. Sasaki, S. Tokushige, S. Terada, A. Yugeta, Y. Terao, Y. Ugawa, and M. Hamada, Influence of the difference of induced current direction on measurement of corticospinal excitability changes after continuous and intermittent theta burst stimulation, 6th International Conference on Transcranial Brain Stimulation, Göttingen, Germany, 2016
173. M. Hamada, rTMS for Parkinson's Disease, International Symposium on rTMS treatments, Tokyo, Japan, 2016
174. M. Hamada, Physiological Background of TMS and Repetitive TMS, 13th NMG Practical Course Transcranial Magnetic and Electrical Stimulation, Göttingen, Germany, 2016
175. M. Hamada, A new therapeutic application of neuromodulation, The 1st International Symposium on Embodied-Brain Systems Science (EmboSS 2016), Tokyo, 2016
176. T. Sasaki, S. Tokushige, S. Terada, A. Yugeta, Y. Terao, Y. Ugawa, and M. Hamada, Influence of the difference of induced current direction on measurement of corticospinal excitability changes after continuous and intermittent theta burst stimulation, 6th International Conference on Transcranial Brain Stimulation, Göttingen, Germany, 2016
177. A. Mejia Tobar, R. Hyoudo, K. Kita, T. Nakamura, H. Kambara, T. Hanakawa, Y. Koike, and N. Yoshimura, Muscle activity reconstruction of ankle flexors and extensors using non-invasive brain activity recording methods, Neuroscience 2016 Annual Meeting, San Diego, USA, 2016
178. T. Ishikawa, D.S. Hoffman, S. Kakei, Intrinsic movement representation in the cerebrocerebellum, Society for Neuroscience 2016, San Diego, USA., 2016
179. T. Ishikawa, S. Kakei, The cerebrocerebellum contains a forward model to control voluntary arm movement, The 1st International Symposium on Embodied-Brain Systems Science, Tokyo, Japan, 2016
180. T. Honda, H. Yoshida, J. Lee, S. Kakei, Analysis of motor function of arm movements on Kinect v2, 4th Advances in Neuroinformatics (AINI) 2016, Wako, Japan, 2016
181. J. Lee, S. Kakei, Development and clinical application of a novel system to make quantitative evaluation of motor function using wrist movement, IGAKUKEN Summit for Japan and Korea Science Leaders 2016, Tokyo, Japan, 2016
182. S. Izumi, A new system for exercise of upper extremity of patients after stroke with using peripheral nerve magnetic stimulation device, Biomedical Engineering ecosystem symposium, Kuangfu campus, Taiwan, 2016

183. Y. Oouchida, Decline of bodily attention to a paretic limb in the stroke patients with hemiparesis, 38th EMBC, Orlando, USA, 2016
184. Hiroaki Abe, Keigo Shimoji, Takeo Kondo, Takanori Kochiyama, Tomohiro Chiba, Yoshihide Nagamine, Satoru Fujiwara, Yutaka Oouchida,
185. Shin-Ichi Izumi., The longitudinal white matter alteration in patients with moderate to severe consciousness disorder due to traffic accident related brain injury, The 1st International Symposium on Embodied-Brain Systems Science (EmboSS 2016) , Tokyo, Japan, 2016
186. Koh Hosoda, Hirofumi Shin, and Shuhei Ikemoto, Proprioceptors of Muscular-skeletal Humanoid for Constructing Body Image, The 1st International Symposium on Embodied-Brain Systems Scienc, Tokyo, Japan, 2016
187. Koh Hosoda, Hajime Saito, Shuhei Ikemoto, Muscular-Skeletal Humanoid Robot for Body Image Construction, 2016 International Symposium on Micro-Nano Mechatronics and Human Science (MHS 2016), Nagoya, Japan, 2016
188. A. Ikeda, Advanced techniques in HFO analysis. , Workshop HFOs and the Epileptogenic Zone, 11th Asian & Oceanian Epilepsy Congress (AOEC), Hongkong, China, 2016
189. Matsumoto R., The ventral language network – its function, connectivity and plasticity: insights from direct cortical stimulation and ECoG recordings., Special Seminar at Cognitive Neurophysiology and Brain–Machine Interface Laboratory Department of Neurology,, Baltimore, USA, 2015
190. N. Yoshimura, R. Okushita, H. Aikawa, H. Kambara, T. Hanakawa, Y. Koike, Classifying force levels of hand grasping and opening using electroencephalography cortical currents, 6th International Brain-Computer Meeting 2016, Pacific Grove, USA, 2016
191. T. Kawase, A. Nishimura, A. Nishimoto, F. Liu, Y. Kim, H. Kambara, N. Yoshimura, Y. Koike, Modulation of muscle synergy activation during arm movements in patients with hemiparesis, Neuroscience 2016 Annual Meeting, San Diego, USA, 2016
192. N. Yoshimura, R. Okushita, H. Aikawa, H. Kambara, T. Hanakawa, Y. Koike, Classifying force levels of hand grasping and opening using electroencephalography cortical currents, 6th International Brain-Computer Meeting 2016, Pacific Grove, USA, 2016
193. Murata A, Maeda K, Ishida H, Nakajima K, Inase M, Distinctive representation of self and other’s body in the parietal mirror neuron system, The 1st international symposium on Embodied-Brain system science, Tokyo, Japan, 2016
194. Akio Ikeda, dvanced techniques in HFO analysis. (招待講演) Workshop HFOs and the Epileptogenic Zone,, 11th Asian & Oceanian Epilepsy Congress , Hongkong, China, 2016
195. R. Chiba, S. Shiraishi, K. Takakusaki, J. Ota, Proposal of a model for initial diagnosis of cerebellar disease with rats, SICE Annual Conference 2016, Tsukuba International Congress Center, Tsukuba, Japan, 2016
196. R. Chiba, K. Takakusaki and J. Ota, Postural control on movable inclined platform with synergic analysis, The 1st international symposium on embodied-brain systems science (EmboSS 2016), Tokyo, Japan, 2016
197. K. Seki, A neural basis of hand muscle synergy, IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (IROS 2016), Daejeon, Korea, 2016

198. K. Seki, Voluntary movement and spinal interneuronal circuit : non-human primate study, Australasian Neuroscience Society Annual Scientific Meeting 2016, Hobart, Australia, 2016
199. K. Seki, Neural control of limb movement and its disorder, 3rd CU-NIPS Symposium, Bangkok, Thailand, 2017
200. T. Oya, T. Takei, and K. Seki, Functional tuning of rubromotoneuronal cells in the forelimb movement in a macaque monkey, Neuroscience 2016, San Diego, USA, 2016
201. T. Umeda, Y. Nishihara, M. Suzuki, Y. Yamanishi, T. Isa, and Y. Nishimura, Temporal dynamics of interaction between efference copy and sensory feedback in the primary somatosensory cortex, Neuroscience 2016, San Diego, USA., 2016
202. K. Takakusaki, Neurophysiology of gait -Functional organization within the reticular formation with respect to the control of locomotion and postural muscle tone, 9th International Parkinson's disease Symposium in Takamatsu, Takamatsu, Japan, 2016
203. K. Takakusaki and K. Nakajima, Central representation of posture, The 1st international symposium on Embodied Brain System Science (Emboss 2016), Tokyo, Japan, 2016
204. K. Takakusaki, Functional organization of the lateral part of the mesopontine tegmentum in relation to the control of posture and locomotion, Neuroscience 2016, Yokohama, Japan, 2016
205. K. Takakusaki, Functional neuroanatomy of gait, The 1st international congress of Korean movement disorder society (1st ICKMDS), Jeju Island, Korea, 2016
206. K. Takakusaki, M. Takahashi and R. Chiba, Posture-gait control by the lateral part of the mesopontine tegmentum, Society for Neuroscience 2016, San Diego, USA, 2016
207. K. Owari, N. Nogami, T.Nakatani, M.Koizumi, H. Ishibashi, Y. Nagai, I. Tomioka, K.Seki, Generation of transgenic marmoset line with polyglutamine disease and behavioral phenotyping, Neuroscience2016, San Diego, USA, 2016
208. Qi An, Hiroshi Yamakawa, Atsushi Yamashita and Hajime Asama, Temporal Structure of Muscle Synergy of Human Stepping Leg During Sit-to-Walk Motion, Proceedings of the 14th International Conference on Autonomous Intelligent Systems (IAS-14), Shanghai, China, 2016
209. Shunsuke Hamasaki, Qi An, Wen Wen, Yusuke Tamura, Hiroshi Yamakawa, Atsushi Yamashita, Hajime Asama, Satoshi Unenaka, Satoshi, Shibuya and Yukari Ohki, Influence of Sense of Agency and Sense of Ownership on Body Representation Change of Human Upper Limb, Proceedings of the 1st International Symposium on Embodied-Brain Systems Science (EmboSS2016), Tokyo, Japan, 2016
210. Wen Wen, Atsushi Yamashita and Hajime Asama, How Agency Influences Ownership and Body Representation, Proceedings of the 1st International Symposium on Embodied-Brain Systems Science (EmboSS2016), Tokyo, Japan, 2016
211. Ningjia Yang, Qi An, Hiroshi Yamakawa, Yusuke Tamura, Atsushi Yamashita and Hajime Asama, Muscle Synergy Analysis in Human Standing-up Motion Using Different Strategies, Proceedings of the 1st International Symposium on Embodied-Brain Systems Science (EmboSS2016), Tokyo, Japan, 2016
212. Qi An, Hiroshi Yamakawa, Atsushi Yamashita and Hajime Asama, Different Temporal Structure of Muscle Synergy between Sit-to-Walk and Sit-to-Stand Motions in Human Standing Leg, the 3rd International Conference on NeuroRehabilitation (ICNR2016), Segovia, Spain, 2016

213. T. Inamura, S. Uenaka, S. Shibuya, Y. Ohki, Y. Oouchida, S. Izumi, Effect evaluation of flexible change of self-body appearance on body representation in the brain – Development of a virtual reality platform for research on body representation –, ICME International Conference on Complex Medical Engineering, Utsunomiya, Japan, 2016
214. T. Inamura, Development of cloud-based sensorimotor pattern database for research on embodied-brain systems science, The 1st International Symposium on Embodied-Brain Systems Science, Tokyo, Japan, 2016
215. T. Inamura, Development of VR platform for cloud-based neurorehabilitation, Workshop on Novel Approaches of Systems Neuroscience to Sports and Rehabilitation (ICONIP 2016), Kyoto, Japan, 2016
216. T. Inamura, Effect of flexible change of VR based self-body appearance for body representation in the brain, 2016 EMBC workshop on embodied-brain Systems Science and rehabilitation, Florida, USA, 2016
217. T. Inamura, A Cloud Based VR Platform for Sharing Embodied Experience in HRI, The 2016 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems , Daejeon, Korea, 2016
218. T. Mimura, Y. Hagiwara, T. Taniguchi and T. Inamura, Clustering latent sensor distribution on body map for generating body schema, The 14th International Conference on Intelligent Autonomous Systems, Shanghai, China, 2016
219. T. Mimura, Y. Hagiwara, T. Taniguchi and T. Inamura, Estimation of Number of Links in a Body Schema from a Latent Sensor Distribution on a Body Map, The 1st International Symposium on Embodied-Brain Systems Science, Tokyo, Japan, 2016
220. A. Taniguchi, L. Wanpeng, T. Taniguchi, T. Takano, Y. Hagiwara, S. Yano, Simultaneous Localization, Mapping and Self-body Shape Estimation by a Mobile Robot, International Conference on Intelligent Autonomous Systems, Shanghai, China, 2016
221. A. Yozu, Proposal of a new rehabilitation method for congenital insensitivity to pain., Japan-Europe international meeting on Embodied-brain System Sciences. Embodied-Brain: Perspectives from Motor Control and Muscle Synergies. , Taormina, Italy, 2016
222. A. Yozu, Proposal of a new rehabilitation method for congenital insensitivity to pain, Workshop on Embodied-Brain System Science and Robotics Engineering for Rehabilitation, Padua, Italy, 2016
223. A. Yozu, D. Owaki, T. Funato, Proposal of a new rehabilitation method for congenital insensitivity to pain, EMBC 2016 Full-day Workshop on Embodied-Brain Systems Science and rehabilitation., Orlando, USA, 2016
224. A. Yozu, D. Owaki, T. Funato and N. Haga, Auditory Biofeedback during Walking Reduces Foot Contact Pressure in A Patient with Congenital Insensitivity to Pain, IEEE 27th 2016 International Symposium on Micro-Nano Mechatronics and Human Science (MHS2016), Nagoya, Japan, 2016
225. A. Yozu, D. Owaki, T. Funato, M. Hamada, T. Sasaki, H. Togo, N. Haga, Numerical expressions of temporal parameters for hexapedalism, The 1st International Symposium on Embodied-Brain Systems Science (EmboSS2016), Tokyo, Japan , 2016
226. A. Yozu, D. Owaki, M. Hamada, T. Sasaki, Q. An, T. Funato, and N. Haga, Quantification of Temporal Parameters for Tripedalism, The 14th International conference on Intelligent Autonomous Systems, Shanghai, China, 2016
227. K. Shima and K. Shimatani, A New Approach to Direct Rehabilitation Based on Functional Electrical

Stimulation and EMG Classification, 2016 International Symposium on Micro-NanoMechatronics and Human Science, Nagoya, Japan, 2016

228. Noro S, Ishibashi H, Sato H, Yamaguchi N, Ogawa H, Orimoto R, Mitsui N, Hiroshima S, Anei R, Wada H, Kamada K, Successful therapy of thalamotomy for intractable thalamic pain. Case report, 5Th Mt. Bandai and Panpacific Joint Neurosurgical Convention 2016, Phnom Penh, Cambodia, 2016
229. Kamada K, Stroke rehabilitation using recoverX, BCI meeting, CA, USA, 2016
230. Kamada K, ECoG-based BCI for motor functions, BIOMAG 2016, Korea, 2016
231. Kamada K, Passive mapping and active monitoring of ECoG in brain pathology, 11th International Workshop on Advances in Electroencephalography, Texas, USA, 2016
232. Y. Murata and N. Higo, Changes of hand movements and neural structures in macaques after focal internal capsule infarcts, The 39th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society, Kanagawa, Japan, 2016
233. Kamada K, Super-passive language mapping combining real-time oscillation analysis with cortico-cortical evoked potentials for awake craniotomy, 1st EMBOSS 2016, Tokyo, 2016
234. Kamada K, Stroke rehabilitation at Asahikawa University, recoveriX and mindBEAGLE workshop, Monterey USA, 2016
235. Kamada K, Tamura Y, Ogawa H, Anei R, Novel passive language mapping with mild awake state for tumor surgery, Osaka, Osaka, 2016
236. Kamada K, Clinical Impact of Real-time passive mapping, 38th EMBC Workshops & Tutorials, Orlando, USA, 2016
237. Shin Nagamine, Yoshikatsu Hayashi, Shiro Yano, and Toshiyuki Kondo, An Immersive Virtual Reality System for Investigating Human Bodily Self-Consciousness, The 2016 Fifth ICT International Student Project Conference hosted by the Faculty of ICT, Mahidol University, Salaya Campus, Nakhon Pathom, Thailand, 2016
238. Hiroki Imura, Shiro Yano, and Toshiyuki Kondo, Rhythmic Movement Has Equivalent Generalization Ability to Discrete Movement in Force Field Motor Learning, SICE Annual Conference 2016, Tsukuba International Congress Center, Tsukuba, Japan, 2016
239. Hajime Tojiki, Shiro Yano, and Toshiyuki Kondo, Volatile Auditory Stimulus Has Negative Effect on Neurofeedback Training for Motor Imagery-Based BCI, SICE Annual Conference 2016, Tsukuba International Congress Center, Tsukuba, Japan, 2016
240. Dai Owaki, Yusuke Sekiguchi, Keita Honda, Akio Ishiguro, Shin-ichi Izumi, A Case Study of Long-Term Walking Rehabilitation Using a Prosthesis That Transforms Sensory Modalities for Stroke Patients, EMBC'16, Orlando, FL, USA., 2016
241. Dai Owaki, Shun-ya Horikiri, Jun Nishii, Akio Ishiguro, "TEGOTAE"-based Control of Bipedal Walking, Living Machine 2016, Edinburgh, 2016
242. K. Seki, Exploring a neural correlate of muscle synergy for hand and arm movements., 38th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society, Orlando, Florida, 2016
243. K. Seki, Exploring a neural correlate of muscle synergy for hand and arm movements., 38th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society, Orlando, Florida, 2016
244. K. Seki, T. Takei, T. Oya, J. Confais and R. Philipp, Exploring a neural correlate of muscle synergy for hand and

- arm movements. , 38th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society, Orland, Florida, USA, 2016
245. T.Umeda, Y.Nishihara, M.Suzuki, Y.Yamanishi, T.Isa, and Y.Nishimura, Origins of premovement activity in the somatosensory cortex., The 1st international symposium on embodied-brain systems science (EmboSS 2016), Tokyo, Japan, 2016
246. T. Oya, T. Takei, and K. Seki, Divergent synergistic rubrospinal neurons are synchronized in a coordinated reach-to-grasp movement., The 1st international symposium on embodied-brain systems science (EmboSS 2016), Tokyo, Japan, 2016
247. R. Philipp, J. Confais, T. Oya, and K. Seki, Neural adaptation in response to change in the musculo-skeletal system: A new primate model., The 1st international symposium on embodied-brain systems science (EmboSS 2016), Tokyo, Japan, 2016
248. K. Seki, Exploring a neural correlate of muscle synergy in the spinal cord, Embodied-Brain: Perspectives from Motor Control and Muscle Synergies, Taormina, Italy, 2016
249. T. Yamamoto, T. Hayashi, Y. Murata, H. Onoe, and N. Higo, Increased projections from ventral premotor cortex to deep cerebellar nucleus after primary motor cortex lesion in macaque monkeys, The 10th FENS Forum of Neuroscience, Copenhagen, Kingdom of Denmark., 2016
250. T. Oya, Neural representation of muscle synergy in primate red nucleus and motor cortex, Embodied-Brain: Perspectives from Motor Control and Muscle Synergies, Taormina, Italy, 2016
251. T.Hayashi, M. Glasser, S. Urayama, K.Gous, H. Watabe, K. Onoe, N. Tanki, J. Autio, Y. Murata, N.Higo, H. Onoe, D. Van Essen, and H. Zang, Cortical surface and brain volume atlases of high-resolution diffusion and structural MRI in macaque, 22nd Annual Meeting of the Organization for Human Brain Mapping, Switzerland, 2016
252. Y. Murata, N. Higo, Plastic changes in the ventral premotor area after primary motor cortex lesion in macaque monkeys, The 1st International Symposium on Embodied-Brain Systems Science, Tokyo,Japan, 2016
253. Akihiro Koreki, Takaki Maeda, Toshiaki Kikuchi, Tsukasa Okimura, Yuri Terasawa, Satoshi Umeda, Shiro Nishikata, Tatsuhiko Yagihashi, Hirokata Fukushima, Mari Kasahara, Masaru Mimura, Tamotsu Watanabe, Abnormal functional connectivity based on sense of agency in schizophrenia:a fMRI study , The 22nd OHBM 2016 Annual Meeting, Geneva, Switzzland, 2016
254. Aizu,N. Oouchida,Y. Sudo,T. Izumi,S, Maladaptive change of attention to paretic hand in patients with chronic stroke, The 10th ICME International Conference on Complex Medical Engineering , Tochigi, Japan, 2016
255. Sato,Y.Oouchida,Y. Sudo,T. Izumi,S, The effect of imitative learning and bimanual training in chronic hemiplegia, The 10th ICME International Conference on Complex Medical Engineering , Tochigi, Japan, 2016
256. H. Imamizu, Temporal recalibration of motor and visual potentials in lag adaptation, ATR Mini Symposium on Sensorimotor Control and Robotics, Keihanna Science City, Kyoto, Japan, 2016
257. H. Imamizu, Cerebellar internal models for dexterous use of tools, The 31st International Congress of Psychology (ICP2016): Invited Symposium “The cognitive and neural bases of human tool use”, Pacifico Yokohama, Yokohama, Japan, 2016
258. H. Imamizu, Change in brain activity during motor learning, 38th Annual International Conference of the IEEE

Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC2016): Workshop “Embodied-Brain Systems Science and Neurorehabilitation”, Orlando, Florida, USA., 2016

259. S. Unenaka, S. Shibuya and Y. Ohki, Brain activities reflecting tactile sensation in an artificial hand during the concurrent stimulation with the real hand, ICME International conference on complex medical engineering, Tochigi, Japan, 2016
260. S. Shibuya, S. Unenaka and Y. Ohki, Observations of other’s actions elicit similar movements if the observer feels body ownership of the acting body part, ICME International conference on complex medical engineering, Tochigi, Japan, 2016
261. Y. Murata, N. Higo, Changes of hand movements and neural structures in macaques after focal internal capsule infarcts, The 39th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society, Yokohama, Japan, 2016
262. J. Ota, Embodied-brain Systems Science: Introduction and Overview, seminar, Rome, Italy, 2016
263. J. Ota, Embodied-brain Systems Science: Introduction and Overview, Workshop on Embodied-Brain System Science and Robotics Engineering for Rehabilitation, Padua, Italy, 2016
264. J. Ota, Embodied-brain Systems Science: Introduction and Overview, seminar, Messina, Italy, 2016
265. J. Ota, Embodied-brain Systems Science: Introduction and Overview, Japan-Europe international meeting on Embodied-brain System Sciences, Taormina, Italy, 2016
266. R. Ohata, T. Asai, H. Kadota, H. Shigemasu, K. Ogawa, H. Imamizu, Decoding agency grounded within the sensorimotor system: self-other action representation in the sensorimotor and the parietal cortices, The 1st International Symposium on Embodied-Brain Systems Science, Tokyo, Japan, 2016
267. Kamada K, Super-passive language mapping combining real-time oscillation analysis with cortico-cortical evoked potentials for awake craniotomy, 5Th Mt. Bandai and Panpacific Joint Neurosurgical Convention 2016, Phnom Penh, Cambodia, 2016
268. A. Murata, Own and other’s body: shared or differentiated representation in mirror neuron system, The 2nd International Symposium on Cognitive Neuroscience Robotics Before and Beyond Mirror neurons (Invited), Osaka, 2016
269. S Izumi, A new system for exercise of upper extremity of patients after stroke with using paeipheral nerve magnetic stimulation device, The 5th Korea-Japan NeuroRehabilitation Conference, Seoul, Korea, 2016
270. T. Mimura, Y. Hagiwara, T. Taniguchi, T. Inamura, Estimation of Number of Links in a Body Schema from a Latent Sensor Distribution on a Body Map, The 1st International Symposium on Embodied-Brain Systems Science(EmboSS 2016), Kyoto, Japan., 2016
271. Takakusaki K. Neurophysiology of Gait. The 15th International Parkinson Disease Symposium in Takamatsu. 2016 02, 5-7, Takamatsu, Japan
272. T. Sudo, Y. Oouchida, S.-I. Izumi, and K. Mogi, Mental transformation of body parts in manipulating the somatotopic representation, Society for Neuroscience 2015, Chicago, USA., 2015
273. T. Ishikawa, S. Tomatsu, DS. Hoffman, S. Kakei, Disinhibition of dentate nuclear cells generates output from the cerebocerebellum, 9th International Symposium of the Society for Research on the Cerebellum, Brussels, Belgium, 2015
274. T. Honda, S. Nagao, S. Kakei, M. Ito, Roles of two types of internal models of the cerebellum in prism adaptation

- of hand-reaching movement, 9th International Symposium of the Society for Research on the Cerebellum, Brussels, Belgium, 2015
275. R. Sato, and K. Shima, Fundamental Study of a Force Representation Device for Fingertips Based on Somatosensory Superimposed Stimuli, The Twenty-First International Symposium on Artificial Life and Robotics 2016, Beppu, Japan, 2015
276. Matsumiya, K., Sato, M., Shioiri, S., Effects of luminance and isoluminance stimuli on perceived stability across saccadic eye movements: a study of the landmark effect, The 23rd Symposium of the International Colour Vision Society (ICVS2015), Sendai, Japan, 2015
277. Matsumiya, K., Visual motion perception near one's own hand, RIEC International Symposium on Vision and Cognition, Sendai, Japan, 2015
278. S. Ikemoto, Y. Kimoto, H. Saito, and K. Hosoda, Development of an Upper-Limb Linkage Mechanism for an Advanced Musculoskeletal Robot Arm, International Symposium on Adaptive Motion in Animals and Machines, Cambridge, USA, 2015
279. S. Ikemoto, Y. Kimoto, and K. Hosoda, sEMG-based Posture Control fo Shoulder Complex Linkage Mechanism, IEEE/RSJ international Conference on Intelligent Robots and Systems, Hamburg, Germany, 2015
280. H. Shin, H. Saitoh, T. Kawakami, S. Yamanishi, S. Ikemoto, and K. Hosoda, Development of an embedded Sensor System as Pneumatic Artificial Muscle Proprioceptors, 22nd International Symposium on Artificial Life and Robotics, Beppu Convention center, 2016
281. M. Sobajima, Y. Sato, X. Wang, and Y. Hasegawa, Improvement of Operability of Extra Robotic Thumb Using Tactile Feedback by Electrical Stimulation, The 2015 International Symposium on Micro Nano Mechatronics and Human Science, Nagoya, 2015
282. R Veale, T Isa, M Yoshida, Applying differential evolution MCMC to parameterize large-scale spiking neural simulations, 2015 IEEE Congress on Evolutionary Computation (CEC), Sendai, Japan, 2015
283. Richard Veale, Tadashi Isa, Masatoshi Yoshida, Technical Implementation of a Visual Attention Neuro-Prosthesis., IEEE SMC 2015, Kowloon, Hong Kong, 2015
284. Richard Veale, Tadashi Isa, Masatoshi Yoshida, Parameter estimation of large-scale spiking simulations of superficial superior colliculus., Society for Neuroscience 2015, Chicago, IL, USA, 2015
285. Takakusaki K, Nakajima K. The physiology of Gait – from CPG to the frontal lobe. 2015 Paik Medical Center Inje University Parkinson's Disease Symposium, Wednesday, 22nd, April, 2015, Seoul, Korea. (基調講演)
286. Takakusaki K, Nakajima K. The Physiology and Pathophysiology of Gait; From Spinal Cord to the Cerebral Cortex. The First International Taiwanese Congress of Neurology (ITCN). 2015, 5, 7-10. Taipei, Taiwan.
287. K. Takakusaki. Pre- and post-synaptic inhibitory mechanisms acting on lumbar spinal segments during the medullary-induced muscular atonia in decerebrate cats. Neuroscience (SFN) 2015, 2015 10 17-21, Chicago, USA
288. M. Mukaino, F. Matsuda, R. Sassa, S. Tanabe, N. Kumazawa, K. Ohtsuka and E. Saitoh, Development of a clinical tool for measuring dynamic balance function: A proof-of-concept study, 5th Asia-Oceanian Conference of Physical and Rehabilitation Medicine, Cebu, Philippines, 2016
289. V. Borkowski, S.Y. Tsai, J.L. Martin, H. Hioki, A.E. Marinopoulos, K.S. Hsu, C.M. Papadopoulos, G.L. Kartje,

- An examination of sex differences in neocortical excitatory synapse number in the aged rat, Society for Neuroscience 2015, Chicago, USA, 2015
290. E. Kuramoto, S. Pan, T. Furuta, H. Hioki, H. Iwai, A. Yamanaka, S. Ohno, T. Goto, T. Kaneko, A morphological analysis of thalamocortical projections arising from the rat mediodorsal nucleus: A single neuron-tracing study using viral vectors., Society for Neuroscience 2015, Chicago, USA, 2015
291. J. Sohn, S. Okamoto, N. Kataoka, K. Nakamura, T. Kaneko, H. Hioki, Excitatory and inhibitory inputs to vasoactive intestinal polypeptide-expressing neurons in the mouse barrel cortex, Society for Neuroscience 2015, Chicago, USA, 2015
292. H. Hioki, J. Sohn, M. Takahashi, S. Okamoto, T. Kaneko, A single vector platform for high-level gene transduction of central neurons with Tet-Off adeno-associated virus, Society for Neuroscience 2015, Chicago, USA, 2015
293. D. Hirai, K. Shibata, K.C. Nakamura, T. Tanaka, H. Hioki, T. Kaneko, T. Furuta, Spatiotemporal dynamics of sensory processing in the rat whisker tactile system, Society for Neuroscience 2015, Chicago, USA, 2015
294. Ichiro Tsuda, Invited Talk, Chaos and Fractal in Memory Dynamics, 137th Soongsil Mathematical Colloquium, Soongsil University, Seoul, Korea, 2015
295. S. Unenaka, S. Shibuya, and Y. Ohki, Interactions between agency and ownership by moving virtual hand illusion., Society for Neuroscience 2015, Chicago, USA, 2015
296. Hanakawa T, Functional Imaging in Parkinson's disease and related disorders: rsfMRI, The 15th Anniversary Parkinson Disease Symposium in Takamatsu 2016, Takamatsu, Kagawa, 2016
297. S. Suzuki, T. Nakajima, S. Irie, Y. Masugi, T. Komiyama, Y. Ohki, Galvanic vestibular stimulation is available to induce long-term potentiation of indirect cortico-motoneuronal excitation in a relaxed arm muscle in humans, Society for Neuroscience 2015, Chicago, USA, 2015
298. T. Nakajima, S. Suzuki, G. Futatsubashi, S. Irie, T. Komiyama, Y. Ohki, Plasticity of inhibitory effect on indirect cortico-motoneuronal pathways in humans, Society for Neuroscience 2015, Chicago, USA, 2015
299. Izawa J, Murata Y, Higo T, Schweighofer N, A computational approach to understand a valley of motor recovery, Society for Neuroscience 45th Annual Meeting , Chicago, 2015
300. K. Amemiya, J. Izawa, J. Ushiba, and R. Osu, Toward identification of neural-pattern transition of limb selection using ongoing electroencephalogram, Society for Neuroscience 2015, Chicago, USA, 2015
301. K. Amemiya, J. Izawa, J. Ushiba, and R. Osu, Toward identification of neural-pattern transition of limb selection using ongoing electroencephalogram., The 38th Annual meeting of the Japan Neuroscience Society, Kyoto, Japan, 2015
302. Kamada K: Novel Techniques of Real-time Blood Flow and Functional Mapping for Brain Surgery, 83rd AANS, Washington D.C.,USA, 2015
303. Kamada K: Functional dynamics of language and memory processing on ECoG, ISACM 2015, Helsinki, Finland, 2015
304. Kamada K: Acute and Chronic Functional Reorganization on Electrocorticogram for Application of BCI, EMBC Workshop & Tutorials, Milano, Italy, 2015
305. Kamada K: Passive Intraoperative ECoG Mapping, 9th International Workshop on Advances in

Electrocorticography, Philadelphia,USA, 2015

306. Kamada K: Realtime oscillation analysis for epilepsy diagnosis and surgery and awake craniotomy, AES 2015, Philadelphia,USA, 2015
307. Ota,Jun, Naito,Eiichi, Izumi,Shinichi, Kondo,Toshiyuki, Imamizu,Hiroshi, Seki,Kazuhiko, Takakusaki,kaoru Asama,Hajime, Haga,Nobuhiko, Murata,Akira, Inamura,Tetsunari, & Hanakawa,Takashi. Understanding brain plasticity on body representations to promote their adaptive functions – embodied brain systems science World Engineering Conference and Convention (WECC2015), Kyoto, Japan 2015
308. A Ritaccio, R Matsumoto, M Morrell, K Kamada, M Koubeissi, D Poeppel, J-P Lachaux, Y Yanagisawa, M Hirata, C Guger, G Schal: Proceedings of the Seventh International Workshop on Advances, Epilepsy & Behavior, 2015, Vol.51, pp312-320
309. R. Matsumoto Network Disorders 20th Korean Epilepsy Congress Gwangju, South Korea 2015
310. R. Matsumoto Functional connectivity revealed by Cortico-Cortical Evoked Potentials 20th Korean Epilepsy Congress Gwangju, South Korea 2015
311. Qi An, Hiroshi Yamakawa, Atsushi Yamashita and Hajime Asama Muscle Synergies of Sit-to-Stand and Walking Account for Sit-to-Walk Motion 6th International Conference on Advanced Mechatronics Tokyo, Japan 2015
312. J. Izawa, Y. Murata, N. Higo, N. Schweighofer A computational approach to understand a valley of motor recovery Society for Neuroscience 2015 Chicago, USA 2015
313. T. Hayashi, S. Urayama, T. Ose, H. Watabe, K. Onoe, N. Tanki, Y. Murata⁴, N. Higo⁴, H. Onoe, H. Zhang High-resolution diffusion and structural MRI brain atlas of rhesus macaques The 74th Annual Meeting of the Japan Neurosurgical Society Sapporo, JAPAN 2015
314. T. Hayashi, G. Zhang , S. Urayama, T. Ose, H. Watabe, K. Onoe, N. Tanki, Y. Murata, N. Higo, H. Onoe High-resolution diffusion and structural MRI brain atlas of rhesus macaques OHBM 2015 Hawaii, USA. 2015
315. Arito Yozu, Tetsuro Funato, Dai Owaki and Nobuhiko Haga: Development of a Measurement and Real-time Display System for Kinematics and Muscle Synergy of Gait, 2015 International Symposium on Micro-NanoMechatronics and Human Science Nagoya, Japan
316. Yuji Ohmura, Naoki Arizono, Shiro Yano and Toshiyuki Kondo: Effect of Visual Condition on Brain Activity and Motion Accuracy during Cane Usage, 2015 International Symposium on Micro-NanoMechatronics and Human Science Nagoya, Japan
317. Daichi Misawa, Toshiyuki Kondo and Shiro Yano: Effect of Olfactory Stimulus on Simultaneous Learning of Conflicting Motor Tasks, 2015 International Symposium on Micro-NanoMechatronics and Human Science Nagoya, Japan
318. Ping Jiang, Ryosuke Chiba, Kaoru Takakusaki and Jun Ota: Generation of Biped Stance Motion in Consideration of Neurological Time Delay through Forward Dynamics Simulation, 2015 International Symposium on Micro-NanoMechatronics and Human Science Nagoya, Japan
319. Daisuke Tomoi, Wen Wen, Hiroshi Yamakawa, Shunsuke Hamasaki, Kaoru Takakusaki, Qi An, Yusuke Tamura, Atsushi Yamashita and Hajime Asama: Estimation of Stress During Car Race with Factor Analysis, 2015 International Symposium on Micro-NanoMechatronics and Human Science Nagoya, Japan
320. Shiro Yano, Toshiyuki Kondo, Yuichi Yamashita, Tsukasa Okimura, Hiroshi Imamizu and Takaki Maeda:

- Bayesian Model of the Sense of Agency in Normal Subjects, 2015 International Symposium on Micro-NanoMechatronics and Human Science Nagoya, Japan
321. Dai Owaki, Yusuke Sekiguchi, Akio Ishiguro and Shin-Ichi Izumi: Auditory Foot: A Novel Auditory Feedback System Regarding Kinesthesia, 2015 International Symposium on Micro-NanoMechatronics and Human Science Nagoya, Japan
322. Shunsuke Hamasaki, Qi An, Wen Wen, Yusuke Tamura, Hiroshi Yamakawa, Atsushi Yamashita, Hajime Asama, Satoshi Shibuya and Yukari Ohki: Evaluating Effect of Sense of Ownership and Sense of Agency on Body Representation Change of Human Upper Limb, 2015 International Symposium on Micro-NanoMechatronics and Human Science Nagoya, Japan
323. Jun Ota, Hajime Asama, Toshiyuki Kondo, Hirokazu Tanaka, Shiro Yano, Jun Izawa, Shinya Aoi and Ryosuke Chiba: Modelling Method in Embodied-brain Systems Science, 2015 International Symposium on Micro-NanoMechatronics and Human Science Nagoya, Japan
324. Daichi Sasaki, Jun Izawa and Masahiko Morita: A computational Approach to Detect a Meta-learning of the Cortical Basis
325. Function during a Motor Adaptation Study, 2015 International Symposium on Micro-NanoMechatronics and Human Science Nagoya, Japan
326. Masafumi Sobajima, Yuichiro Sato, Wang Xufeng and Yasuhisa Hasegawa: Improvement of Operability of Extra Robotic Thumb Using Tactile Feedback by Electrical Stimulation, 2015 International Symposium on Micro-NanoMechatronics and Human Science Nagoya, Japan
327. Sekiya Noro, Tetsuro Funato, Yota Sato, Yamato Sato, Dai Yanagihara, Shinya Aoi and Kazuo Tsuchiya: Dynamical model of the Body Sway of Bipedally Standing Rat with Rat with Olivo-cerebellar Dysfunction, 2015 International Symposium on Micro-NanoMechatronics and Human Science Nagoya, Japan
328. Shuntaro Ishiduka, Hiroko Oshima, Shinya Aoi, Tetsuro Funato, Nozomi Tomita, Nobutaka Tsujiuchi, Akihito Ito and Kazuo Tsuchiya: Kinematic Analysis of Low Dimensional Structure in Walking and Running, 2015 International Symposium on Micro-NanoMechatronics and Human Science Nagoya, Japan
329. Jun Ota, Eiichi Naito, Shinichi Izumi, Toshiyuki Kondo, Hiroshi Imamizu, Kazuhiko Seki, Kaoru Takakusaki, Hajime Asama, Nobuhiko Haga, Akira Murata, Tetsunari Inamura, and Takashi Hanakawa: Understanding brain plasticity on body representations to promote their adaptive functions – embodied brain systems science -, World Engineering Conference and Convention (WECC2015), Kyoto, Japan
330. Eiichi Naito and Satoshi Hirose: Efficient foot motor control by Neymar's brain, Human Brain Mapping 2015, Hawaii convention center 2015
331. Kaoru Amemiya and Eiichi Naito: Importance of human right inferior fronto-parietal network connected by inferior branch of superior longitudinal fasciculus tract in corporeal awareness of kinesthetic illusory hand movement, Human Brain Mapping 2015, Hawaii convention center, 2015
332. R. Chiba, K. Takakusaki, and J. Ota: Posture Control Strategy Analysis on Movable Declined Floor, The 37th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (EMBS), Milan, Italy, 2015
333. S. Shiraishi, K. Takakusaki, R. Chiba and J. Ota: Quantitative evaluation of muscle tonus in rats with medial

and bilateral cerebellar ablation, The 37th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (EMBS), Milan, Italy, 2015

334. Jiang, Ping, Chiba, Ryosuke, Takakusaki, Kaoru and Ota, Jun: Proposal of a neural controller able to compensate neurological time delay for stance postural control, Proceedings of SICE Annual Conference (SICE2015), Hangzhou, China, 2015
335. K. Shima, K. Konno, and K. Shimatani: Forearm Motion Control Using Functional Electrical Stimulation for Motor Function Rehabilitation, 2015 RIC-IIT Workshop on Robotics and Interactive Technologies for Neuroscience and Neurorehabilitation Arenzano, Italy 2015
336. Jongho Lee, Yuji Matsumoto, Tatsuji Morimoto, Yasuhiro Okada, Shinji Kakei: Quantitative evaluation of recovery process of stroke patients in terms of three components of tracking movement of the wrist Neuro2015, Kobe, Japan, 2015
337. K. Min, J. Lee and S. Kakei: Analysis for mechanism of pulling directions of wrist prime movers on the wrist with a musculoskeletal model, The 38th annual meeting of the Japan neuroscience society, Kobe, Japan, 2015
338. R. Minohara, W. Wen, S. Hamasaki, T. Maeda, H. Yamakawa, S. Shibuya, Y. Ohki, A. Yamashita and H. Asama: Readiness Potential Reflects the Predictive Aspect of Sense of Agency, International Conference on Advanced Mechatronics 2015, Tokyo, Japan, 2015
339. J. Ota: Introduction to embodied-brain systems science, IEEE/RSJ IROS 2015 Half-day Workshop on Embodied-Brain Systems Sciences, Hamburg, Germany, 2015
340. H. Imamizu: Neural mechanisms inducing plasticity on body representation, IEEE/RSJ IROS 2015 Half-day Workshop on Embodied-Brain Systems Sciences, Hamburg, Germany, 2015
341. H. Asama: Modeling of slow dynamics on body representations in brain, IEEE/RSJ IROS 2015 Half-day Workshop on Embodied-Brain Systems Sciences, Hamburg, Germany, 2015
342. T. Inamura: Immersive virtual reality system towards cloud based neurorehabilitation, IEEE/RSJ IROS 2015 Half-day Workshop on Embodied-Brain Systems Sciences, Hamburg, Germany, 2015
343. K. Seki: Muscle synergy as a foundation of embodied brain, IEEE/RSJ IROS 2015 Half-day Workshop on Embodied-Brain Systems Sciences, Hamburg, Germany, 2015
344. R. Chiba: Motion Dynamics Analysis and Modeling for Body Representation in Brain, IEEE/RSJ IROS 2015 Half-day Workshop on Embodied-Brain Systems Sciences, Hamburg, Germany, 2015
345. K. Kita: Neural basis of task-specific focal hand dystonia, IEEE/RSJ IROS 2015 Half-day Workshop on Embodied-Brain Systems Sciences, Hamburg, Germany, 2015
346. Tanaka H: How motor cortex represents body movements: Optimality, recurrent neural networks and spatial dynamics, IEEE The 24th International Symposium on Robot and Human Interactive Communication (RO-MAN) Kobe, Japan, 2015
347. Tanaka H, Miyakoshi M, Makeig S: Coordinate Systems in the Motor System: Computational Modeling and EEG experiment, The 5th International Conference on Cognitive Neurodynamics, Sanya, China, 2015
348. J. Ota: Overview of the research program on embodied-brain systems sciences — understanding brain plasticity on body representations to promote their adaptive functions —, IEEE EMBC 2015 Half-day Workshop on Embodied-Brain Systems Science, Milan, Italy, 2015

349. Y. Ohki: Neural mechanisms inducing plasticity on body representation, IEEE EMBC 2015 Half-day Workshop on Embodied-Brain Systems Science, Milan, Italy, 2015
350. T. Kondo: Modeling of slow dynamics on body representations in brain, IEEE EMBC 2015 Half-day Workshop on Embodied-Brain Systems Science, Milan, Italy, 2015
351. T. Inamura, and Y. Oouchida: Neurorehabilitation based upon plasticity on body representations, IEEE EMBC 2015 Half-day Workshop on Embodied-Brain Systems Science, Milan, Italy, 2015
352. K. Seki: Neural adaptive mechanism for physical changes, IEEE EMBC 2015 Half-day Workshop on Embodied-Brain Systems Science, Milan, Italy, 2015
353. S. Aoi: Modeling of motor control that alters body representation in brain, IEEE EMBC 2015 Half-day Workshop on Embodied-Brain Systems Science, Milan, Italy, 2015
354. T. Hanakawa: Rehabilitation for postural/movement impairments using sensory intervention, IEEE EMBC 2015 Half-day Workshop on Embodied-Brain Systems Science, Milan, Italy, 2015
355. E. Naito: Neuronal representation of human body schema and its essential contribution for motor control and self-consciousness, IEEE EMBC 2015 Half-day Workshop on Embodied-Brain Systems Science, Milan, Italy, 2015
356. S. Fujiki, S. Aoi, D. Yanagihara, T. Funato, Y. Sato, K. Senda, and K. Tsuchiya: Investigation of adaptive split-belt treadmill walking by the hindlimbs of rats, International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC2015) Milan, Italy, 2015
357. Y. Sato, T. Funato, D. Yanagihara, Y. Sato, S. Aoi, S. Fujiki, K. Nakano, and K. Tsuchiya: Measuring Body Sway of Bipedally Standing Rat and Quantitative Evaluation of Its Postural Control, Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society., Milan, Italy, 2015
358. S. Noro, T. Funato, Y. Sato, Y. Sato, D. Yanagihara, S. Aoi, and K. Tsuchiya: Evaluation of the Body Sway of Bipedally Standing Rat with Cerebellar Dysfunction, Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society Milan, Italy, 2015
359. Ngoc Quang Nguyen, Quang Dang Khoa Truong, Toshiyuki Kondo: Fractals Properties of EEG During Event-Related Desynchronization of Motor Imagery, The 37th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (EMBS), Milan, Italy, 2015
360. Naoki Arizono, Toshiyuki Kondo: Functional Connectivity Analysis of Brain Hemodynamics during Rubber Hand Illusion, The 37th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (EMBS), Milan, Italy, 2015
361. Kosuke Kitahara, Toshiyuki Kondo: Modulation of ERD/S by having a conscious target during lower-extremity motor imagery, The 37th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (EMBS), Milan, Italy, 2015
362. Naoki Arizono, Toshiyuki Kondo: Functional connectivity analysis of brain hemodynamics concerning embodied cognition, The SICE Annual Conference 2015, International Conference on Instrumentation, Control, Information Technology and System Integration, Hangzhou, China, 2015
363. Kosuke Kitahara, Toshiyuki Kondo: The effects of foot and leg motor imageries on sensorimotor rhythms in EEG, The SICE Annual Conference 2015, International Conference on Instrumentation, Control, Information

Technology and System Integration, Hangzhou, China, 2015

364. Tanaka H, Miyakoshi M and Makeig S: Movement Representation in the Motor System: Computational Modeling and EEG experiment, The 14th Brain Connectivity Workshop, San Diego, U.S.A., 2015
365. T. Funato, D. Yanagihara, S. Aoi, Y. Sato, and K. Tsuchiya: Spectrum Analysis of Body Sway in Bipedally Standing Rat, 2015 ISPGR World Congress, Seville, Spain, 2015
366. S. Aoi, S. Fujiki, D. Yanagihara, T. Funato, Y. Sato, N. Tomita, N. Ogihara, K. Senda, and K. Tsuchiya: Investigating adaptation in hindlimb split-belt treadmill walking by rats using kinematic measurement and a neuromusculoskeletal model, International Society for Posture and Gait Research World Congress (ISPGR World Congress 2015), Seville, Spain, 2015
367. Li L, Imamizu H and Tanaka H, Is movement duration predetermined in visually guided reaching? A comparison of finite- and infinite-horizon optimal feedback control, International Conference on Advanced Mechatronics (ICAM) 2015 Tokyo, Japan, 2015
368. Satou H, Sasaki A, Nozaki D and Tanaha H: Formation of internal forward model with sensory and reward prediction errors: A behavioral confirmation, International Conference on Advanced Mechatronics (ICAM) 2015, Tokyo, Japan, 2015
369. Y. Ohki, S. Shibuya and S. Unenaka: Effects of manipulation of virtual body on body representations and bodily self-consciousness, The 9th ICME International Conference on Complex Medical Engineering (CME2015), Okayama, 2015
370. D. Owaki, H. Horikiri, J. Nishii, and A. Ishiguro: Experimental Verification of Bipedal Walking Control Exploiting Plantar Sensory Feedback 7th Int. Symposium on Adaptive Motion on Animals and Machines, Boston, USA, 2015
371. D. Owaki, H. Horikiri, J. Nishii, and A. Ishiguro: Load-dependent Interlimb Coordination for Bipedal Walking, ICRA2015 CPG Workshop Seattle, USA, 2015
372. M. Arif Fahmi Ismail and S. Shimada: The effect of delayed visual feedback on 'Robot' hand illusion; a near-infrared spectroscopy study., 16th International Multisensory Research Forum (IMRF2015), Pisa, ITA 2015
373. Akira Murata: The body represented in the parieto-premotor network. Tohoku forum for creativity thematic program 2015, Frontier of brain science, Symposium on Memory and Mind, Sendai, Japan, 2015
374. Akira Murata: Self and other's body in the parietal mirror neuron system, Japan-China Joint Symposium for Understanding Cortical Cognitive Functions (Invited), Kyoto, Japan 2015
375. Tamami Sudo, Yutaka Oouchida, Shin-ichi Izumi, Ken Mogi: Mental transformation of bodily self: spatial and temporal aspects of imitation, The 9th ICME International Conference on Complex Medical Engineering (CME2015), Okayama, 2015
376. Mayumi Nagai, Yutaka Oouchida, Shin-ichi Izumi: The effects of transcranial direct current stimulation on child with involuntary movement after hypoxic encephalopathy: single case study, The 9th ICME International Conference on Complex Medical Engineering (CME 2015), Okayama, 2015
377. Tetsunari Inamura, Yutaka Oouchida, Shin-ichi Izumi: Immersive virtual reality system towards cloud based neurorehabilitation., The 9th ICME International Conference on Complex Medical Engineering (CME 2015), Okayama, 2015

378. S. Kakei, Dissociation and evaluation of outputs from predictive and feedback controllers for tracking movements in normal subjects and patients with neurological disorders, INCF Japan Node International Workshop, Advances in Neuroinformatics 2014, RIKEN, Wako, Saitama Japan, 2014
379. J. Lee, S. Kakei, Functional evaluation of motor commands based on a simple linear model in human wrist movements and its clinical application, 2014 International Symposium on Information Technology Convergence (ISITC 2014), Korea, 2014
380. T. Ishikawa, S. Tomatsu, D.S. Hoffman, S. Kakei, Mossy fibers in the cerebellar hemisphere show activity during an instructed delay period, Society for Neuroscience 2014, Washington D.C., USA., 2014
381. T. Ishikawa, S. Tomatsu, D.S. Hoffman, S. Kakei, Releasing dentate nucleus cells from Purkinje cell inhibition generates output from the cerebrocerebellum, Vision, Memory, Thought – International Symposium, Tokyo, Japan, 2014
382. Takakusaki K, Nakajima K. The physiology of Gait – from CPG to the frontal lobe First International Freezing of Gait Congress (IFOG 2014). 2014, February 5-7, Dead Sea, Israel.
383. T. Umeda, K. Takakusaki, and T. Isa, Glycinergic inhibition of the ipsilateral cortical excitation to forelimb motoneurons in monkeys, 18th Thai Neuroscience Society Conference 2014 and 2nd CU-NIPS Symposium, Bangkok, Thailand, 2014
384. K. Amemiya, Identification of Limb Selection Using Ongoing Activity, Brain Connects 2014, Nanyang , Singapore, 2014
385. Yuki Shimizu, Masao Sugi, Misato Ohdaira, Soichiro Morishita, Tatsuhiro Nakamura, Ryu Kato, and Hiroshi Yokoi: Force Estimation by Surface Electromyography during Functional Electrical Stimulation, 2014 IEEE International Conference on Robotics and Biomimetics (ROBIO2014), Bali, Indonesia, 2014
386. Kita K, Osu R, Fufuya S, Sakamoto S, Hanakawa T: Abnormal cerebellar activity and connectivity in pianists with focal hand dystonia: an fMRI study, Neuroscience 2014, Washington DC, USA, 2014
387. Ogata Y and Hanakawa T: Neural mechanisms underlying changes in preference for visual motor stimuli after exposure with imitation and observation, Neuroscience 2014, Washington DC, USA, 2014
388. T. Maeda: Depersonalization in the schizophrenia spectrum: lack of sense of agency at the current time of action due to impaired prediction, 4th Schizophrenia International Research Society Conference, Florence, Italy, 2014
389. Tada M, Uchida H, Maeda T, Konishi M, Umeda S, Terasawa Y, Nakajima S, Mimura M, Takahashi T.: The learning process in association with interpersonal conflict in healthy people, using fear conditioning paradigm, Society of Biological Psychiatry 69th Annual Scientific Meeting New York, USA, 2014
390. K. Takakusaki: Supraspinal Control of Locomotor Rhythm, Neuro-Oscillation Conference 2014, Okazaki, JAPAN, 2014
391. K. Takakusaki: Brainstem control of locomotion and posture, Scientific Program of the International Conference; New ideas, perspectives and applications in functional neurosurgery; State of the art of the deep brain stimulation of the pedunculopontine tegmental nucleus (PPTg area) (4th Symposium), Rome, Italy 2014
392. K. Takakusaki, R. Chiba, K. Obara, T. Nozu, and T. Okumura: Spinal interneuronal organization involved in the control of postural muscle tone in the cat, Neuroscience 2014, Washington DC, USA, 2014
393. M. Yamashita, M. Kawato, and H. Imamizu: Prediction of individual learning plateau of a working memory

- training from whole-brain resting state functional connectivity patterns, Society for Neuroscience 2014, Washington, DC., USA. 2014
394. H. Yaguchi, D. Kowalski, T. Takei and K. Seki: Posture dependency of the twitch responses induced by intraspinal microstimulation to the primate spinal cord, Society for Neuroscience 2014, Washington D.C., USA. 2014
395. T. Nakajima, S. Suzuki, H. Ohtsuka, T. Endoh, Y. Masugi, S. Irie, T. Komiyama, Y. Ohki: Plasticity of indirect cortico-motoneuronal excitations in relaxed hand muscles in humans. Society for Neuroscience 2014, Washington DC, USA, 2014
396. J. Yagi, Y. Kobayashi, N. Hirai, Y. Ohki: Electrophysiological characteristics of chloroquine-sensitive dorsal root ganglion neurons in rats. Society for Neuroscience 2014 Washington DC, USA, 2014
397. T. Umeda, T. Isa, and Y. Nishimura: Sources of the premovement activity in the primary somatosensory cortex Neurobiology and Neuroinformatics (NBNI), Okazaki, Japan, 2014
398. K. Seki: Subcortical control of voluntary movement, 18th Thai Neuroscience Society Conference 2014 and 2nd CU-NIPS Symposium, Bangkok, Thailand
399. T. Umeda, K. Takakusaki, and T. Isa: Glycinergic inhibition of the ipsilateral cortical excitation to forelimb motoneurons in monkeys 18th Thai Neuroscience Society Conference 2014 and 2nd CU-NIPS Symposium, Bangkok, Thailand, 2014
400. Q. An, Y. Ishikawa, S. Aoi, T. Funato, H. Oka, H. Yamakawa, A. Yamashita, H. Asama: Analysis of Muscle Synergy Contribution on Human Standing-up Motion Using Human Neuro-Musculoskeletal Model, IEEE International Conference on Robotics and Automation (ICRA 2015), Seattle, USA, 2015
401. Jiang Ping, Chiba Ryosuke, Takakusaki Kaoru & Ota Jun: Stance postural control of a musculoskeletal model able to compensate neurological
402. time delay, Proceeding of the IEEE International Conference on Robotics and Biomimetics (ROBIO 2014) Bali, Indonesia 2014
403. Jun Ota, The 7th International Conference on Intelligent Robotics and Applications (ICIRA), plenary talk, Embodied-brain Systems Science – understanding brain plasticity on body representations, 中国広州, 2014 12/18.
404. Y. Oouchida, N. Aizu, K. Sugiyama, Y. Suzuki, E. Suzuki, S. Izumi: IMITATION MOVEMENT REDUCED PHANTOM LIMB PAIN IN BILATERAL LOWER LIMB AMPUTATION, 4th Asia-Oceanian Conference of Physical and Rehabilitation Medicine 2014 Bangkok, Thailand, 2014

国内口頭発表

1. 渡辺 圭祐, 島 圭介, 時系列生体信号識別のための FPGA アクセラレーションを指向した近似 CD-HMM, 第 19 回システムインテグレーション部門講演会, 大阪工業大学, 2018
2. 代木 陸, 島 圭介, 島谷 康司, 機能的電気刺激と EMG 信号を利用した筋協調収縮型ダイレクトリハビリテーション-運動スキル学習支援を目的とした関節インピーダンス伝達法-, 第 19 回システムインテグレーション部門講演会, 大阪工業大学, 2018
3. 青柳恵, 温文, Qi An, 濱崎峻資, 山川博司, 田村雄介, 山下淳, 浅間一, 仮想現実における視覚介入

が運動主体感に与える影響, 日本基礎心理学会第 37 回大会, 専修大学生田キャンパス, 2018

4. 田村有希恵、和田 始、安栄良悟、鎌田恭輔, 髄膜腫に対する栄養血管塞栓後に腫瘍体積の劇的減少を認めた 1 例, 第 23 回日本脳腫瘍の外科学会, 和歌山, 2018
5. 安栄良悟、田村有希恵、鎌田恭輔, 安全な BCNU wafer 留置のための術中判断, 第 23 回日本脳腫瘍の外科学会, 和歌山, 2018
6. 鎌田恭輔, てんかん原性ネットワークの可視化と治療法への応用, 第 42 回日本てんかん外科学会, 東京, 2019
7. 会津直樹、大内田裕、関口雄介、本田啓太、大脇大、出江紳一, 脳卒中片麻痺者の麻痺足の身体特異性注意の特性, 第 9 回 日本ニューロリハビリテーション学会学術集会, 盛岡, 2018
8. 大瀧亮二、大内田裕、須藤珠水、笹原寛、三澤正和、富樫昂也、斎藤佑規、竹村直、出江紳一, 亜急性期脳卒中上肢麻痺に対する Graded Repetitive Arm Supplementary Program (GRASP) による上肢使用頻度と脳活動の変化 ~加速度計と fMRI を用い縦断的变化を確認した一症例~, 第 2 回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会, 仙台国際センター, 2018
9. 田中宏和, 状態予測器としての小脳の神経的証拠, 新学術領域研究 5 領域合同シンポジウム, 一橋講堂, 2018
10. 小原, 高身長全国中学校バレーボール有望選手合宿におけるメディカルチェック, 第 29 回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 札幌コンベンションセンター, 2018
11. 小原、井野、千葉、中島、高橋、松野、高草木, バレーボール競技のセッターポジションに発症した膝蓋腱炎の動作解析, 第 40 回臨床歩行分析研究会定例会, 北海道科学大学, 2018
12. 小原, 高身長全国中学生バレーボール有望選手合宿におけるメディカルチェック, 第 9 回バレーボール・スポーツ傷害セミナー, ナショナルトレーニングセンター, 2019
13. 梅田達也, 一次体性感覚野は運動出力コピーを受け取っている, 生理研研究会 2018 「行動を制御する神経ネットワーク機能の解明に向けて」, 生理学研究所, 2018
14. 上西, 千葉, 高草木, 太田, 筋力低下, 感覚ノイズ増加, スティフネス低下が床面水平外乱に対する姿勢反応の変化に及ぼす影響の筋骨格シミュレーションを用いた調査, 第 31 回自律分散システム・シンポジウム, 国立民族学博物館, 2019
15. 関口雄介, 本田啓太, 大脇大, 出江紳一, 脳卒中片麻痺患者の歩行中における水平面状の回転方向の身体制御と運動耐用能及びバランス能力との関連について, 第 9 回ニューロリハビリテーション学会学術集会,, 盛岡, 2018
16. Tamami Sudo, Yutaka Oouchida, Naoki Aizu, Shin-Ichi Izumi. , The effect of the immersiveness of VR to motor control of stroke patients., 第 41 回日本神経科学学会大会,, 神戸, 2018
17. 関口雄介, 本田啓太, 神出真緒, 加藤智久, 鈴木貴弘, 金高弘恭, 出江紳一, 着座動作時に手すりの形状が床反力に及ぼす影響について, 第 45 回日本臨床バイオメカニクス学会, 秋田, 2018
18. 関口雄介, 本田啓太, 金高弘恭, 出江紳一,, 棚手すりが立ち上がり動作時の下肢の運動力学的制御に与える影響について, 日本リハビリテーション医学会 第 55 回学術集会,, 福岡, 2018
19. 関口雄介, 大脇 大, 本田 啓太, 福司 謙一郎, 広井 典良, 野崎 岳夫, 出江 紳一,, カムーバネ式継手付き足関節装具による脳卒中片麻痺患者の歩行への効果, 第 5 回イノベーティブ リハビリテーション研究会, 東京, 2018

20. 本田啓太,関口雄介,神出真緒,加藤智久,鈴木貴弘,金高弘恭,出江紳一, 身体重心へ働く負の仕事率からみた着座動作における加齢の影響と手すりの役割, 第 45 回日本臨床バイオメカニクス学会, 秋田, 2018
21. 本田啓太, 関口雄介, 大脇大, 会津直樹, 出江紳一, 脳卒中片麻痺患者に対する足底圧感覚の聴覚フィードバックに伴うトレッドミル歩行練習の効果, 第 9 回ニューロリハビリテーション学会学術集会, 盛岡, 2018
22. 本田啓太, 関口雄介, 金高弘恭,出江紳一, 棚手すりが立ち上がり動作における質量中心速度に及ぼす影響,, 日本リハビリテーション医学会 第 55 回学術集会,, 福岡, 2018
23. 高草木, 高橋, 千葉, パーキンソン病 (PD) における立位姿勢異常についての一考察, 日本大脳基底核研究会, 三河, 2017
24. 高橋, 宮岸, 小原, 千葉, 高草木, ネコリーチング動作における姿勢調節, 日本大脳基底核研究会, 三河, 2017
25. 高草木, 大脳基底核による運動制御, 高知県パーキンソン病リハビリテーション研究会, 高知城ホール, 2017
26. 高草木, 姿勢と歩行, ニューロリハビリテーション治療コンセンサス会議, 名古屋, 2017
27. 高草木, 脳幹からの下行路と姿勢制御, 第 16 回札幌病院脳生理研究会, 小樽, 2017
28. 高草木, 高次脳機能による姿勢制御, 第 17 回札幌病院脳生理研究会, 小樽, 2017
29. 高草木, 運動の異常 (麻痺・失調・不随意運動・失行) , 第 18 回札幌病院脳生理研究会 , 小樽, 2017
30. 高草木, 高橋, 千葉, 小原, 中脳歩行誘発野領域の機能局在, 第 3 回 BMI 懇話会, 旭川医大, 2017
31. M. Togo, R. Matsumoto, T. Nakae, H. Takeyama, K. Kobayashi, K. Usami, A. Shimotake, T. Kikuchi, K. Yoshida, T. Kunieda, S. Miyamoto, R. Takahashi and A. Ikeda, Human medial parietal cortices have distinct connectivity patterns: Evidence from standardized connectivity map using cortico-cortical evoked potential, 第 41 回日本神経科学大会, 神戸, 2018
32. M. Togo, R. Matsumoto, A. Shimotake, T. Kobayashi, T. Kikuchi, K. Yoshida, T. Kunieda, S. Miyamoto, R. Yakahashi and A. Ikeda, Role of premotor and precentral negative motor area in praxis: a direct electrical stimulation study, 第 59 回日本神経学会学術大会,, 札幌, 2018
33. 十河正弥, 松本理器, 下竹昭寛, 松橋眞生, 小林環, 菊池隆幸, 吉田和道, 國枝武治, 宮本享, 高橋良輔 and 池田昭夫, 高頻度皮質電気刺激による高次運動障害の発現機構の検討: 皮質刺激誘発反応と行動解析の包括的検討, 第 48 回日本臨床神経生理学会, 東京, 2018
34. 尾谷-山田 真弓, 松本理器, 下竹昭寛, 坂本光弘, 十河正弥, 中江卓郎, 武山博文, 小林勝哉, 宇佐美清英, 松橋眞生, 山尾幸弘, 菊池隆幸, 吉田和道, 高橋良輔, 池田昭夫, 言語ネットワーク内における中核言語野の結合様式の検討 , 第 48 回日本臨床神経生理学会, 東京, 2018
35. 坂本光弘, 松本理器, 下竹昭寛, 太田真紀子, 中谷光良, 中江卓郎, 菊池隆幸, 吉田和道, 國枝武治, 高橋良輔, 池田昭夫., 発語失行の病態: 機能マッピング, 電氣的線維追跡からの症例の考察., 第 59 回日本神経学会学術大会,, 札幌, 2018
36. Neshige S, Kobayashi K, Matsuhashi M, Shimotake A, Hitomi T, Kikuchi T, Yoshida K, Kunieda T, Matsumoto R, Takahashi R, Miyamoto S, Maruyama H, Ikeda A. , Electrocorticography-based non-primary motor area mapping comparable with cortical stimulation: 59th annual meeting of the Japanese society of neurology., 第

59 回日本神経学会学術大会, 札幌, 2018

37. Akihiro Shimotake, Riki Matsumoto, Katsuya Kobayashi, Takayuki Kikuchi, Takeharu Kunieda, Susumu Miyamoto, Ryosuke Takahashi, Matthew Lambon-Ralph, Akio Ikeda, Visual and auditory semantic processing converges in the anterior temporal lobe, 第 41 回日本神経科学大会, 神戸, 2018
38. Masako Daifu, Riki Matsumoto, Akihiro Shimotake), Makiko Ota, Mitsuhiro Sakamoto, Katsuya Kobayashi, Takayuki Kikuchi, Kazumichi Yoshida, Takeharu Kunieda, Ryosuke Takahashi, Matthew A. Lambon Ralph, Akio Ikeda, Double dissociation of the semantic and phonological processing in reading Kanji and Kana words – A quantitative low-intensity cortical stimulation study, 第 41 回日本神経科学大会, 神戸, 2018
39. 下竹 昭寛, 松本 理器, 太田真紀子, 坂本光弘, 中江 卓郎, 菊池 隆幸, 荒川 芳輝, 國枝 武治, 宮本 享, 高橋良輔, 池田 昭夫, 側頭葉腫瘍切除症例における意味認知機能の検討, 第 42 回 日本神経心理学学会学術集会, 山形, 2018
40. 下竹 昭寛 松本 理器 坂本 光弘 中谷 光良 太田 真紀子 小林 勝哉 菊池 隆幸 吉田 和道 國枝 武治 宮本 享 高橋 良輔 池田 昭夫, 低い刺激強度の皮質電気刺激と呼称課題の組み合わせによる言語機能マッピングの有用性, 第 59 回日本神経学会学術大会, 札幌, 2018
41. Makiko Ota, Akihiro Shimotake, Riki Matsumoto, Mitsuhiro Sakamoto, Masako Daifu, Takuro Nakae, Takayuki Kikuchi Kazumichi Yoshida, Takeharu Kunieda, Susumu Miyamoto, Ryosuke Takahashi, Matthew A. Lambon Ralph, Akio Ikeda, Compensation of semantic memory after dominant anterior temporal lobe resection in epilepsy surgery, 第 59 回日本神経学会学術大会, 札幌, 2018
42. SHIMOTAKE Akihiro, MATSUMOTO Riki, KOBAYASHI Katsuya, KIKUCHI Takayuki, MASAO Matsuhashi, KAZUMICHI Yoshida, KUNIEDA Takeharu, MIYAMOTO Susumu, TAKAHASHI Ryosuke, IKEDA Akio, Functional mapping of visual and auditory semantic processing in the anterior temporal lobe, 第 52 回日本てんかん学会学術集会, 横浜, 2018
43. 高草木, 随意運動の姿勢制御, 2017 近畿大学生理学研究会, 近畿大学, 2017
44. 神原裕行、宮腰誠、田中宏和、香川高弘、吉村奈津江、小池康晴、マケイグスコット、ジャグリング動作中の脳波信号解析, 電子情報通信学会技術研究報告, 2017, vol.117,no.361
45. 横山 了, 大畑 龍, 今水 寛, 回答運動の不随意的な変化によって自信判断は妨害されるか, 第 12 回 Motor Control 研究会, 上智大学四ツ谷キャンパス, 2018
46. 今水 寛, fMRI から知る機能的脳結合と認知機能, 日本行動計量学会第 46 回大会・特別セッション「脳科学とデータサイエンス」, 慶應義塾大学三田キャンパス, 2018
47. 今泉 修, 丹野義彦, 今水 寛, 能動的運動における心的時間の大域的短縮と局所的伸長, 日本認知心理学会第 16 回大会, 立命館大学大阪いばらきキャンパス, 2018
48. 今水 寛, 身体運動と脳の学習・適応メカニズム —運転行動を支える脳のネットワーク—, 日本交通医学工学研究会 第 27 回学術総会「身体能力維持向上に貢献するモビリティ」特別講演, 名古屋大学東山キャンパス, 2018
49. 渋谷賢, 畝中智志, 座間拓郎, 嶋田総太郎, 大木紫, 身体化した偽の手の運動観察に伴う神経振動の変化: 遅延視覚フィードバックの影響, 第 37 回日本基礎心理学会, 専修大学・生田キャンパス, 2018
50. 杉内、八木、篠田, 頸部腹側筋への左右 6 個の半規管からの入力様式とその中枢経路, 第 77 回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会, ホテルニュータナカ/ホテルかめ福, 2018

51. 高橋、杉内、篠田、垂直サッケードの中枢神経回路, 第 77 回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会, ホテルニュータナカ/ホテルかめ福, 2018
52. 温 文, Patrick Haggard, 運動主体感の生起における予測誤差と regularity detection の役割, 日本基礎心理学会第 37 回大会, 専修大学生田キャンパス, 2018
53. 松宮一道, 身体意識と視覚, 第 23 回日本バーチャルリアリティ学会全国大会, 東北大学, 2018
54. 松宮一道, 心の中の身体と視知覚, 第 40 回東京大学心理学研究室セミナー, 東京大学, 2018
55. 大内田裕, 慢性期脳卒中片麻痺に対する VR を利用した効果的なりハビリテーションの可能性, 第 36 回日本ロボット学会学術大会, 中部大学, 2018
56. Qi An, 湖上碩樹, 楊濤嘉, 山川博司, 田村雄介, 山崎弘嗣, Matti Itkonen, Fady Shibata-Alnajjar, 下田真吾, 服部憲明, 木野本誠, 高橋幸治, 藤井崇典, 乙宗宏範, 宮井一郎, 山下淳, 浅間一, 片麻痺患者の起立動作のリハビリテーションにおける理学療法士の技能と筋シナジーに与える影響の調査, 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2018, 富山国際会議場, 2018
57. 湖上碩樹, Qi An, 楊濤嘉, 山川博司, 田村雄介, 山崎弘嗣, Matti Itkonen, Fady Shibata-Alnajjar, 下田真吾, 服部憲明, 木野本誠, 高橋幸治, 藤井崇典, 乙宗宏範, 宮井一郎, 山下淳, 浅間一, 片麻痺患者の起立動作のリハビリテーションにおける理学療法士の技能と筋シナジーに与える影響の調査, 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2018, 富山国際会議場, 2018
58. 村田 哲, 頭頂葉における身体表現, 社会神経科学拠点共同利用研究会「世界や社会と相互作用して生きるヒトや動物の視覚-生理学、心理物理学、計算論」, 玉川大学, 2018
59. 望月 圭 中隋 克己 稲瀬 正彦 村田 哲 “, 自発運動の感覚フィードバック処理における運動野-体性感覚野相互作用, 第 41 回 日本神経科学学会大会, 神戸コンベンションセンター, 2018
60. 望月圭 中隋克己 稲瀬正彦 村田 哲, 自発運動にともなうサル第一次体性感覚野の運動関連皮質脳波, 第 95 回日本生理学会大会, サポートホール高松・香川国際会議場, 2018
61. 望月圭 中隋克己 稲瀬正彦 村田 哲, 自発運動にともなうサル第一次体性感覚野の運動関連皮質脳波, 第 95 回日本生理学会大会, サポートホール高松・香川国際会議場, 2018
62. 鎌田恭輔、小川博司、田村有希恵、広島 覚、竹内文也, CCEP を用いた覚醒下手術における超受動的言語機能マッピング, 第 57 回日本生体医工学会大会, 札幌, 2018
63. 鎌田恭輔、小川博司、広島 覚、竹内文也, 皮質脳波/機能的 MRI による脳内身体表現マーカーの探索, 第 57 回日本生体医工学会大会, 札幌, 2018
64. 真田隆広、竹内文也、Gruenwald Johannes、鎌田恭輔, 脳機能マッピング / 終夜モニタリング同時記録システム開発, 日本脳神経外科学会第 77 回学術集会, 仙台, 2018
65. 鎌田恭輔, マルチスペクトラム蛍光システムによる解剖—蛍光—血流の可視化, 日本脳神経外科学会第 77 回学術集会, 仙台, 2018
66. 鎌田恭輔, リアルタイム機能マッピング/モニタリングのてんかん外科への応用, 第 16 回奈良脳卒中サロン, 大阪, 2018
67. 鎌田恭輔, 覚醒下手術における Super-passive mapping の有用性とピットフォール, 第 48 回日本臨床神経生理学会学術大会, 東京, 2018
68. 鎌田恭輔, 脳皮質-皮質下機能ネットワーク解析とピットフォール, 第 5 回脳神経外科 BMI 研究会, 自治医科大学, 2018

69. 鎌田恭輔, てんかんの薬物療法の基礎と最新の外科オプション, てんかん Web セミナー in 北海道, 札幌, 2018
70. 安栄良悟、和田 始、田村有希恵、嵯峨健広、鎌田恭輔, 膠芽腫における術前塞栓術の経験, 第 81 回 (一社) 日本脳神経外科学会北海道支部会, 札幌, 2018
71. 桐山健司、鎌田恭輔, 動眼神経—内頸動脈減圧術の詳細, 日本脳神経外科学会第 77 回学術集会, 仙台, 2018
72. 安栄良悟、田村有希恵、嵯峨健広、広島 覚、齊藤仁十、野呂昇平、山口なつき、佐藤広崇、真田隆広、和田 始、鎌田恭輔, 手術手技の一環としての安全な BCNU wafer 留置, 日本脳神経外科学会第 77 回学術集会, 仙台, 2018
73. 米田 将基, 金子 文成, 新藤 恵一郎, 岡和田 愛実, 赤星 和人, 里宇 明元, Quadripulse Stimulation (QPS) と拡張現実リハビリテーションシステム (KiNvis) を用いた治療介入による 脳機能結合の変化 – 脳卒中患者一症例における検討 –, 第 23 回日本基礎理学療法学術大会, 京都, 2018
74. 金子 文成, 米田 将基, 岡和田 愛実, 酒井 克也, 視覚誘導性自己運動錯覚の反復で運動関連領域を含む 皮質間機能的結合が変化する, 第 23 回日本基礎理学療法学術大会, 京都, 2018
75. 岡和田 愛実, 金子 文成, 新藤 恵一郎, 奥山 航平, 赤星 和人, 里宇 明元, 重度上肢麻痺を呈した脳卒中患者において KiNvis 療法 は即時的に運動イメージ中脳波の事象関連脱同期を増大させるか, 第 23 回日本基礎理学療法学術大会, 京都, 2018
76. 加藤 淳史, 青山 敏之, 河野 豊, 富田 和秀, 渡邊 信也, 遠藤 悠介, 金子 文成, 上肢感覚性運動失調を併発した脳卒中片麻痺患者に対する視覚誘導性自己運動錯覚の即時的効果 ~運動学的 評価と神経生理学的評価を用いた検証~, 第 23 回日本基礎理学療法学術大会, 京都, 2018
77. 金子文成, 岡和田愛実, 新藤恵一郎, 赤星和人, 里宇明元, 発症後 11 年で手指伸展運動が可能となった脳卒中片麻痺患者に関する脳波信号の解析, 第 16 回日本神経理学療法学会, 大阪, 2018
78. 金子文成, 岡和田愛実, 新藤恵一郎, 赤星和人, 里宇明元, 重度脳卒中片麻痺患者における上肢運動機能改善と脳機能結合の変化 – 拡張現実リハビリテーションシステム (KiNvis) による治療介入を行った一症例における検討 –, 第 16 回日本神経理学療法学会, 大阪, 2018
79. 岡和田愛実, 金子文成, 新藤恵一郎, 奥山航平, 赤星和人, 里宇明元, 脳卒中後重度上肢麻痺患者に対する KiNvis 療法は即時的に運動イメージ中の脳波を変化させるか, 第 16 回日本神経理学療法学会, 大阪, 2018
80. 岡和田愛実, 金子文成, 新藤恵一郎, 米田将基, 赤星和人, 里宇明元, 重度脳卒中片麻痺患者の運動イメージ中脳波は複合的リハビリテーションにより変化する, 第 48 回日本臨床神経生理学会, 東京, 2018
81. F Kaneko, Development of rehabilitation system using kinesthetic illusion induced by visual stimulation (KiNvis) realized in mixed reality, and clinical trial for patients., Asian Symposium on Motor Control in Biomechanics., 東京, 2018
82. 萩原和樹, 新藤恵一郎, 金子文成, 岡和田愛実, 米田将基, 酒井克也, 中西辰雄, 丸山祥, 赤星和人, 里宇明元, 回復期に視覚誘導性自己運動錯覚 (kinesthetic illusion induced by visual stimulation : KiNvis) を行った脳梗塞後片麻痺の一例, 日本リハビリテーション医学会関東地方会, 東京, 2018
83. 鎌田恭輔、小川博司、田村有希恵、広島 覚、竹内文也, CCEP を用いた覚醒下手術における超受動的

言語機能マッピング, 第 57 回日本生体医工学会大会, 札幌, 2018

84. 鎌田恭輔、小川博司、広島 覚、竹内文也, 皮質脳波/機能的 MRI による脳内身体表現マーカーの探索, 第 57 回日本生体医工学会大会, 札幌, 2018
85. 安栄良悟、和田 始、田村有希恵、嵯峨健広、鎌田恭輔, 膠芽腫における術前塞栓術の経験, 第 81 回 (一社) 日本脳神経外科学会北海道支部会, 札幌, 2018
86. 真田隆広、竹内文也、Gruenwald Johannes、鎌田恭輔, 脳機能マッピング / 終夜モニタリング同時記録システム開発, 日本脳神経外科学会第 77 回学術集会, 仙台, 2018
87. 桐山健司、鎌田恭輔, 動眼神経—内頸動脈減圧術の詳細, 日本脳神経外科学会第 77 回学術集会, 仙台, 2018
88. 安栄良悟、田村有希恵、嵯峨健広、広島 覚、齊藤仁十、野呂昇平、山口なつき、佐藤広崇、真田隆広、和田 始、鎌田恭輔, 手術手技の一環としての安全な BCNU wafer 留置, 日本脳神経外科学会第 77 回学術集会, 仙台, 2018
89. 鎌田恭輔, マルチスペクトラム蛍光システムによる解剖—蛍光—血流の可視化, 日本脳神経外科学会第 77 回学術集会, 仙台, 2018
90. 鎌田恭輔, リアルタイム機能マッピング/モニタリングのてんかん外科への応用, 第 16 回奈良脳卒中サロン, 大阪, 2018
91. 鎌田恭輔, 覚醒下手術における Super-passive mapping の有用性とピットフォール, 第 48 回日本臨床神経生理学会学術大会, 東京, 2018
92. 鎌田恭輔, 脳皮質-皮質下機能ネットワーク解析とピットフォール, 第 5 回脳神経外科 BMI 研究会, 自治医科大学, 2018
93. 鎌田恭輔, てんかんの薬物療法の基礎と最新の外科オプション, てんかん Web セミナー in 北海道, 札幌, 2018
94. Osaki Hironobu, Ueta Yoshifumi, Miyata Mariko, Dysgranular area in the primary somatosensory cortex selectively encodes noxious information., The 41st annual meeting of the Japan Neuroscience Society, Kobe, 2018
95. FUKUI Atsushi, Osaki Hironobu, Ueta Yoshifumi, Miyata Mariko, Layer-dependent recovery of tactile sensory processing in mouse primary somatosensory cortex after a focal motor cortex stroke., The 41st annual meeting of the Japan Neuroscience Society, Kobe, 2018
96. 尾崎弘展, 植田禎史, 宮田麻理子, 大脳皮質一次体性感覚野での痛覚受容は dysgranular 領域で行われている, 第 40 回日本疼痛学会, 長崎, 2018
97. 高橋, 宮田, 前田, 母指関節可動域の制限に応じた把持形態の変容—接触領域および可動域境界との関係—, ロボティクス・メカトロニクス講演会 2018, 西日本総合展示場, 2018
98. 米岡, 宮田, 前田, 母指の関節可動域と姿勢不快度の計測・解析, 第 23 回ロボティクスシンポジウム, 黒潮温泉 松風閣, 2018
99. 森岡 周, 幻肢痛を含んだ身体性変容のメカニズムとニューロリハビリテーション, 第 40 回日本疼痛学会, 長崎, 2018
100. 片山 脩, 塚元達也, 大住倫弘, 兒玉隆之, 森岡 周, 感覚運動の不一致による身体性変容の脳内情報処理メカニズムの検討, 第 40 回日本疼痛学会, 長崎ブリックホール, 2018

101. 森岡 周, ニューロリハビリテーションの目指すべき方向性-半側空間無視の病態把握プロセスから考える-, 第 2 1 回日本臨床脳神経外科学会, 石川県立音楽堂, 2018
102. 森岡 周, 認知神経科学と心臓リハビリテーションの融合, 第 2 4 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, パシフィコ横浜, 2018
103. 森岡 周, ニューロリハビリテーションの目指すべき方向性, 第 3 8 回近畿作業療法学会, 大阪国際交流センター, 2018
104. 今泉 修, 今水 寛, 行為と結果の連続における Intentional binding, 日本認知科学会・知覚と行動モデリング (P&P) 研究会, 筑波大学東京キャンパス (東京都文京区大塚), 2018
105. 鎌田恭輔, てんかん? 投薬?, 西胆振てんかん診療を考えるセミナー, 室蘭, 2018
106. 鎌田恭輔, 脳機能-ネットワーク局在とてんかん外科への応用, 第 6 回身体性システム科学全体会議 2018, 霧島, 2018
107. 鎌田恭輔, 外科修練と技術開発の融合-も・の・づ・く・り-, 長岡講演会, 長岡, 2018
108. 鎌田恭輔, 神経・電気生理学の基礎から応用へ, Neurosurgery Clinical Conference Seminar, 東京, 2018
109. 鎌田恭輔, テーラーメイド機能マッピング・デコーディングによるてんかん外科治療, 第 8 回トランスレーショナルてんかん研究会〜てんかんの基礎研究と臨床〜, 新潟, 2018
110. 安栄良悟、鎌田恭輔, 5ALA 蛍光強度定量化による術中リアルタイム組織モニタリングへの展望, 第 41 回日本脳神経 CI 学会, 新潟, 2018
111. 小川博司、広島 覚、竹内文也、佐藤正夫、鎌田恭輔, リアルタイム HGA マッピングを用いた言語課題別の経時的活動変化, 第 41 回日本脳神経 CI 学会, 新潟, 2018
112. 田村有希恵、安栄良悟、鎌田恭輔, 5ALA 蛍光強度定量化による術中組織モニタリングへの展望, 第 22 回北海道脳腫瘍懇話会, 札幌, 2018
113. 齊藤仁十、和田 始、嵯峨健広、三井宣幸、折本亮介、鎌田恭輔, 当院における tailored CAS の治療成績と影響因子の解析 (プラークヒストグラム解析を含めて), 第 43 回日本脳卒中学会, 福岡, 2018
114. 和田 始、齊藤仁十、三井宣幸、鎌田恭輔, PICA を含まない椎骨動脈紡錘状動脈瘤の治療戦略〜術後 DWI の検討〜, 第 47 回日本脳卒中の外科学会, 福岡, 2018
115. 田村有希恵、和田 始、鎌田恭輔, 後下小脳動脈に局限した脳動脈解離による小脳梗塞の 1 例, 第 47 回日本脳卒中の外科学会, 福岡, 2018
116. 野呂昇平、和田 始、真田隆広、福山秀青、山口なつき、田村有希恵、嵯峨健広、齊藤仁十、広島 覚、安栄良悟、鎌田恭輔, 術中 Visual-evoked potential monitoring が有効であった carotid-ophthalmic aneurysm の 1 例, 第 80 回 (社) 日本脳神経外科学会北海道支部会, 札幌, 2018
117. 嵯峨健広、和田 始、山口なつき、鎌田恭輔、新見康成, 傍脊索動静脈瘻の一例, 第 80 回 (社) 日本脳神経外科学会北海道支部会, 札幌, 2018
118. 安栄良悟、田村有希恵、鎌田恭輔, 顕微鏡下リアルタイム 5ALA 蛍光定量化によるリアルタイム組織モニタリングへの展望, 第 27 回脳神経外科手術と機器学会, 奈良, 2018
119. 岡本 純平、島 圭介、中野 英樹、島谷 康司, 運動機能再建を目的とした多感覚フィードバック運動想起訓練システム, 第 18 回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会, 仙台国際センター, 2017
120. 花井 宏彰、島 圭介、島谷 康司, 運動学習訓練を目的とした機能的電気刺激と筋電図・筋音図に基

づく相互動作伝達法, 第 18 回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会, 仙台国際センター, 2017

121. 田村有希恵、竹内文也、鎌田恭輔, 覚醒下手術における新たな脳機能マッピング法“Passive language mapping”の展望, 第 4 回 脳神経外科 BMI 懇話会, 東京, 2017
122. 村田 哲、第 8 回開院記念フェスタ 於医療法人社団 江楓会 あかいし脳神経外科クリニック 記念講演:「脳の中の他人と自分」2017
123. 鎌田恭輔、広島 覚、竹内文也、安栄良悟, 手術顕微鏡オプティクス性能、操作性、付加機能の違いによる視覚情報特性, 第 26 回脳神経外科手術と機器学会, 甲府, 2017
124. 鎌田恭輔, 神経・自然科学を取り込む脳神経外科—発想から実現、そして実用にむけて—, 日本核医学会分科会 第 54 回腫瘍・免疫核医学研究会, 東京, 2017
125. 鎌田恭輔, マルチスペクトラル蛍光画像による脳神経外科手術革命, 第 37 回日本脳神経外科コンgres 総会, 横浜, 2017
126. 鎌田恭輔, 難治性てんかんとは? ~治療の原則とオプションについて~, 千歳市てんかん診療セミナー, 千歳, 2017
127. 鎌田恭輔, 止血・基本手技から医療ものづくりへの発展, 釧路脳神経疾患研究会, 釧路, 2017
128. 鎌田恭輔, リアルタイム生体デジタル処理がもたらす脳機能モニタリングの可能性, 第 23 回日本脳神経モニタリング学会, 東京, 2017
129. 鎌田恭輔, 侵襲脳計測の最先端, 第二回脳情報の解読と制御研究会, 富良野, 2017
130. 鎌田恭輔, 難治性てんかんとは? ~治療の原則とオプションについて~, 富良野てんかん診療セミナー, 富良野, 2017
131. 鎌田恭輔, 神経外科と脳科学の魅力 外科修練と技術開発の融合, 宮崎脳神経外科手術研究会, 宮崎, 2017
132. 齊藤仁十、三井宣幸、和田 始、嵯峨健広、鎌田恭輔, “Vaso CT”画像評価により選択的 TVE が可能だった横-S 状静脈洞部硬膜動静脈瘻の 2 症例, 第 79 回 (社)日本脳神経外科学会北海道支部会, 札幌, 2017
133. 鎌田恭輔, Evaluation and decoding of consciousness levels in drowsy or comatose patients by recoding various kinds of EEG and ECoG, 平成 29 年度生理学研究所研究会「認知神経科学の先端 意識の脳内メカニズム」, 岡崎, 2017
134. 嵯峨健広、和田 始、佐藤広崇、鎌田恭輔, 術中 MEP モニタリングにより虚血性合併症を回避できた左内径動脈-前脈絡叢動脈瘤の 1 例, 第 18 回日本脳神経血管内治療学会北海道地方会, 札幌, 2017
135. 鎌田恭輔, Communication と Presentation の極意を探る 異分野・海外研究者との絆, 日本脳神経外科学会第 76 回学術総会, 名古屋, 2017
136. 鎌田恭輔, 後頭蓋窩瘤・病変に対するアプローチと治療戦略, 日本脳神経外科学会第 76 回学術総会, 名古屋, 2017
137. 安栄良悟、田村有希恵、小川博司、広島 覚、鎌田恭輔, 神経膠腫に対する maximal safe resection の検討, 第 22 回日本脳腫瘍の外科学会, 鹿児島, 2017
138. 安栄良悟、田村有希恵、小川博司、嵯峨健広、広島 覚、鎌田恭輔, 神経膠腫手術における total management, 日本脳神経外科学会第 76 回学術総会, 名古屋, 2017

139. 嵯峨健広、和田 始、田村有希恵、福山秀青、鎌田恭輔、新見康成、乳児期の後頭蓋窩脳動静脈瘻の一例、日本脳神経外科学会第 76 回学術総会、名古屋、2017
140. Kamada K, Online superpassive mapping of higher brain functions (tentative), 第 51 回日本てんかん学会学術集会, 京都, 2017
141. 広島 覚、福山秀青、野呂昇平、小川博司、露口尚弘、鎌田恭輔、脳表電極留置の際の fMRI の有用性、第 51 回日本てんかん学会学術集会、京都、2017
142. 広島 覚、嵯峨健広、齊藤仁十、鎌田恭輔、小脳失調をきたした第 4 脳室くも膜嚢胞に対して内視鏡治療を行った 1 例、第 24 回日本神経内視鏡学会、横浜、2017
143. 鎌田恭輔、難治性てんかんとは？“薬物治療の原則”から外科オプションまで、Neurosurgical Conference in Hakodate, 函館、2017
144. 鎌田恭輔、竹内文也、生体信号とデジタルデータ処理の基本、第 4 回 脳神経外科 BMI 懇話会、東京、2017
145. 鎌田恭輔、マルチスペクトラム光学技術を応用した新たな脳神経外科手術、第 36 回 CVD-TRAK meeting, 熊本、2017
146. 野呂昇平、和田 始、藤川征也、齊藤仁十、白井和歌子、徳光直樹、鎌田恭輔、上眼静脈直接穿刺を要した CCF2 例の経験、第 33 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会、東京、2017
147. 嵯峨健広、和田 始、齊藤仁十、鎌田恭輔、急性期脳塞栓症に対する血行再建療法後の術後出血性転帰の検討、第 33 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会、東京、2017
148. 齊藤仁十、嵯峨健広、和田 始、鎌田恭輔、旭川医科大学における未破裂脳動脈瘤治療方針の後方視的検討、第 33 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会、東京、2017
149. 和田 始、三井宣幸、齊藤仁十、白井和歌子、徳光直樹、鎌田 恭輔、頭蓋内 IC 近位部脳動脈瘤の治療成績(特に Assist stent 併用 に関して)、第 33 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会、東京、2017
150. 望月 圭、中俣 克己、稲瀬 正彦、村田 哲、サル体性感覚野ニューロンにおける運動に伴う感覚フィードバック情報の表象、第 40 回日本神経科学学会大会、幕張メッセ、2017
151. 望月 圭、中俣 克己、稲瀬 正彦、村田 哲、手指自己刺激課題中のサル体性感覚野ニューロンの活動、第 93 回日本生理学会大会、アクトシティ浜松、2017
152. 望月圭 中俣克己 稲瀬正彦 村田哲、皮膚受動刺激/自己刺激に対するサル中心後回ニューロンの応答差異、第 4 回身体性システム領域全体会議、霧島国際ホテル、2017
153. 渋谷賢、畝中智志、座間拓郎、嶋田総太郎、大木紫、身体化した偽の手の行為観察は運動システムを活性化する、第 40 回日本神経科学学会、幕張メッセ、2017
154. 渋谷賢、畝中智志、座間拓郎、嶋田総太郎、大木紫、身体化した他者の手の行為観察は運動システムを活性化する、第 36 回日本基礎心理学会、立命館大学、2017
155. 広島 覚、福山秀青、野呂昇平、小川博司、鎌田恭輔、器質病変を認めない側頭葉てんかんの外科治療の一例、第 41 回日本てんかん外科学会、奈良、2018
156. 鎌田恭輔、小川博司、田村有希恵、広島 覚、グーガー クリストフ、多焦点難治てんかんに対する病的ネットワーク離断術のインパクト、第 41 回日本てんかん外科学会、奈良、2018
157. 小川博司、広島 覚、竹内文也、真田隆広、高島 諒、佐藤正夫、鎌田恭輔、高周波律動を用いた側頭

- 葉底部に対する脳機能マッピングの有用性, 第 41 回日本てんかん外科学会, 奈良, 2018
158. 松本理器, Cortico-cortical evoked potentials& spectral responses to probe connectivity and cortical excitability. , International Postcongress Symposium of the 51st Annual Congress of the Japan Epilepsy Society, 京都, 2017
159. 松本理器, 皮質脳波と高次脳機能ネットワーク, 第 47 回日本臨床神経生理学会, パシフィコ横浜, 2017
160. 松本理器, novel surrogate biomarkers of epileptogenicity using wideband ECoG analyses. Symposium: Novel approaches for localization of epileptogenic zone, The 76th Annual Meeting of the Japan Neurosurgery Society, 名古屋, 2017
161. 松本理器, てんかんの治療戦略: てんかん外科における言語機能温存へ向けた試み, 第 41 回日本神経心理学会, 一橋大学, 2017
162. 松本理器, Dual stream model of language – its function, connectivity and plasticity: insights from clinical neuroscience, The 40th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society (Neuroscience 2017), 東京, 2017
163. 松本, 小林, 菊池, 吉田, 國枝, 池田, Epileptogenicity and related network: Approach from “interventional” clinical neurophysiology. Translatability between basic&clinical studies for the pathophysiology of epilepsy: Approach from Oscillology., The 94th Annual meeting of the Physiological Society of Japan,, 浜松, 2017
164. 松本理器, 下竹昭寛, 菊池隆幸, 國枝武治, 池田昭夫, 皮質脳波と高次脳機能ネットワーク, 第 47 回日本臨床神経生理学会, パシフィコ横浜, 2017
165. 松本理器, 小林勝哉, 菊池隆幸, 吉田和道, 國枝武治, 宮本享, Novel surrogate biomarkers of epileptogenicity using wideband ECoG analyses. Symposium: Novel approaches for localization of epileptogenic zone, 第 76 回日本脳神経外科総会, 名古屋, 2017
166. 松本理器, 下竹昭寛, 山尾幸広, 菊池隆幸, 國枝武治, てんかんの治療戦略: てんかん外科における言語機能温存へ向けた試み, 第 41 回日本神経心理学会, 一橋大学, 2017
167. 松本理器, 小林勝哉, 菊池隆幸, 吉田和道, 國枝武治, 池田昭夫, Epileptogenicity and related network: Approach from “interventional” clinical neurophysiology. Translatability between basic&clinical studies for the pathophysiology of epilepsy: Approach from Oscillology. , 第 94 回日本生理学会, 浜松, 2017
168. 十河正弥, 松本理器, 下竹昭寛, 小林環, 菊池隆幸, 吉田和道, 國枝武治, 宮本享, 高橋良輔, 池田昭夫, Role of the negative motor area in general praxis as functional mapping in epilepsy surgery: A high frequency electrical cortical stimulation study., 第 51 回日本てんかん学会, 京都, 2017
169. 千代原真也, 古川淳一郎, 森本 淳, 今水 寛, 運動学習における柔軟な多感覚統合システム—固有感覚のゲインの影響—, 第 11 回 Motor Control 研究会, 中京大学名古屋キャンパス, 2107
170. 今水 寛, 脳と人工物: 適応と不安の脳内メカニズム, 人工物工学研究センター第 31 回人工物工学コロキウム【招待講演】, 東京大学柏の葉キャンパス駅前サテライト, 2017
171. 今水 寛, 運動主体感の神経基盤を探る, 日本視覚学会 2018 年冬季大会・大会企画シンポジウム「身体意識の理解に向けて」【招待講演】, 工学院大学新宿キャンパス, 2018
172. 林田一輝, 西 祐樹, 大住倫弘, 森岡 周, 他者との目的共有が行為主体感と運動パフォーマンスに及ぼす影響, 日本基礎心理学会 第 36 回大会, 立命館大学大阪いばらきキャンパス, 2017
173. 片山 脩, 西 祐樹, 大住倫弘, 高村優作, 兒玉隆之, 森岡 周, 感覚-運動の不一致による異常知覚

と身体運動への影響 —行動学および神経生理学的検討—, 第 22 回日本ペインリハビリテーション学会学術大会, 神戸商工会議所, 2017

174. 石橋凜太郎, 信迫悟志, 河野正志, 市村幸盛, 大住倫弘, 嶋田総太郎, 森岡 周, 失行における視覚-運動統合障害~映像遅延課題による検討~, 第 41 回日本高次脳機能障害学会学術総会, 大宮ソニックスシティ, 2017
175. 福井敦, 尾崎弘展, 植田禎史, 宮田麻理子, 運動野脳梗塞における感覚野の電気生理学的変化に関する研究, 計測自動制御学会 システム・情報部門 学術講演会 2017, 静岡大学, 2017
176. 尾崎弘展, 植田禎史, 福井敦, 宮田麻理子, 大脳体性感覚野 dysgranular 領域は傍内側毛帯経路を介して痛覚の体部位情報を表現する, 第 40 回日本神経科学大会, 千葉、幕張メッセ, 2017
177. Osaki Hironobu, Ueta Yoshihumi, Miyata Mariko, The dysgranular area of somatosensory cortex represents nociceptive, The 94th Annual Meeting of the Physiological Society of Japan, 浜松, 2017
178. 大木, ヒト脊髄内の代替神経機構を強化する運動機能の回復戦略, 第 28 回磁気刺激法の臨床応用と安全性 に関する研究会「神経機能回復の 基礎と臨床」, パシフィコ横浜, 2017
179. 松宮, 身体化された視知覚 -人間の視知覚処理における身体の影響-, 第 2 回人工知能学研究会, 東北大学, 2017
180. 松宮, 身体近傍空間の視知覚における身体意識の役割, 第 11 回内部観測研究会, 早稲田大学, 2017
181. 松宮, 身体意識と身体近傍空間, 計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会 2017, 仙台湾際センター, 2017
182. 小林環, 松本理器, 下竹昭寛, 十河正弥, 高橋由紀, 稲田拓, 山尾幸広, 菊池隆幸, 荒川芳輝, 吉田和道, 池田昭夫, 前田貴記, 今水寛, 宮本享, 運動主体感における島皮質の役割:島皮質切除症例での縦断的神経心理学的検討, 第 76 回日本脳神経外科学会総会, 名古屋国際会議場, 2017
183. 中島, 鈴木, 入江, 有安, 笹田, 小宮山, 大木, 頸髄抑制性システムの可塑性誘導はヒト手指運動の軌跡動揺を低下させる, 第 40 回日本神経科学大会, 幕張メッセ, 2017
184. 入江, 中島, 鈴木, 有安, 小宮山, 大木, 運動イメージはヒトの間接的皮質-脊髄路興奮を増大させる, 第 40 回日本神経科学大会, 幕張メッセ, 2017
185. 中隋克己, ニホンザルの歩行運動と一次運動野とのかかわり, 第 25 回日本運動生理学会, 横浜国立大学, 2017
186. 中隋, 大脳皮質における歩行制御機能とモデルベーストリハビリテーション, 第 2 回身体性システム公開シンポジウム, 慶応義塾大学, 2017
187. 中隋, 日暮, 村田, 稲瀬, 無拘束ニホンザルの補足運動野におけるトレッドミル歩行中の単一神経細胞活動, 第 71 回日本人類学会大会, 東京大学, 2017
188. 日暮, 中隋, 村田, 稲瀬, 無拘束ザルの四足・二足歩行における歩行速度変化による歩容と筋活動の変化, 第 94 回日本生理学会大会, 浜松アクトシティ, 2017
189. 高橋, 宮田, 米岡, 前田, 母指関節可動域制限下における把持形態の接触領域特徴, 関東学生会第 57 回学生員卒業研究発表講演会, 電気通信大学, 2018
190. 米岡, 宮田, 前田, 母指の関節可動域と姿勢不快度の計測・解析, 第 23 回ロボティクスシンポジア, 黒潮温泉 松風閣, 2018
191. 杉内, 高橋, 篠田, 上丘から水平・垂直サッケード系運動ニューロンへの入力の違いの検討, 第 76 回

めまい平衡医学会, 軽井沢プリンスホテル, 2017

192. 上西, 姜, 千葉, 高草木, 太田, 多方向への床面水平移動に対する姿勢制御のための筋骨格シミュレーション, 第 30 回自律分散システム・シンポジウム, 名城大学, 2018
193. 米田, 金子, 柴田, 岡和田, 高橋, 視覚誘導性自己運動錯覚を伴う視覚刺激の反復が皮質脊髄路興奮性に及ぼす影響, 第 18 回日本電気生理運動学会大会・第 6 回 SICE 電気生理運動学研究会, 札幌医科大学, 2017
194. 金子文成, 前頭-頭頂神経回路を介した一次運動野ニューロモデュレーションによる運動知覚への介入, 肢体不自由学教室メジャーセミナー, 東北大学, 2017
195. 金子文成, 複合現実による自己運動錯覚誘導と脳機能的結合に関する研究, 身体性システム 第 5 回領域全体会議, 国立精神・神経医療研究センター, 2017
196. 金子, 稲田, 柴田, 片寄, 渡邊, 山下, 視覚誘導性自己運動錯覚は短期間関節固定による筋出力機能低下を予防できるのか?, 第 90 回日本整形外科学会学術総会, 仙台国際センター, 2017
197. 金子, 柴田, 奥山, 視覚誘導性自己運動錯覚を誘導するための視覚刺激による生理学的効果は反復トレーニングで増強されるか?? -経頭蓋磁気刺激による皮質脊髄路興奮性に関する研究-, 第 52 回日本理学療法学会学術大会, 幕張メッセ, 2017
198. 高橋, 金子, 柴田, 板口, 奥山, ヘッドマウントディスプレイを用いた視覚誘導性自己運動錯覚によって生じる無知覚運動は身体運動と同調するのか?, 第 52 回日本理学療法学会学術大会, 幕張メッセ, 2017
199. 君塚進, 日吉祐太郎, 東郷俊太, 田中洋平, 姜銀来, 横井浩史, 両肩離断者のための表面筋電位を用いた電動肩義手の開発, 第 38 回バイオメカニズム学術講演会, 大分コンベンションセンター, 2017
200. 粕谷美里, 森下壮一郎, 東郷俊太, 姜銀来, 杉正夫, 横井浩史, 多点表面電気刺激における刺激電極パターンのクラスタリング, 計測自動制御学会 システム・情報部門学術講演会 201, 静岡大学, 2017
201. 畠沢 祐輝, 桑原 昂士, 岡野 大輔, 杉 正夫, 東郷 俊太, 姜 銀来, 横井 浩史”, 機能的電気刺激を用いた下肢の血流改善システムの構築, 精密工学会 2018 年度春季大会講演論文集, 中央大学後楽園キャンパス (東京), 2018
202. 桑原 昂士, 岡野 大輔, 畠沢 祐輝, 杉 正夫, 東郷 俊太, 姜 銀来, 横井 浩史”, 肘関節屈曲運動を補助するための機能的電気刺激における刺激波形パラメータ, 精密工学会 2018 年度春季大会講演論文集, 中央大学後楽園キャンパス (東京), 2018
203. 大脇大, 関口雄介, 本田啓太, 広井典良, 福司謙一郎, 野崎岳夫, 石黒章夫, 出江紳一, Spring-cam 機構を用いた可変剛性足関節装具, ロボティクス・メカトロニクス講演会 2017 概要集, 郡山市 (福島), 2017
204. 大脇 大, 関口 雄介, 本田 啓太, 会津直樹, 大内田裕, 石黒 章夫, 出江 紳一, Auditory Foot を用いた長期的歩行リハビリがもたらす身体性注意の変容, 第 11 回モータコントロール研究会, 中京大学, 2017
205. 関口雄介, 大脇大, 本田啓太, 広井典良, 福司謙一郎, 野崎岳夫, 出江紳一, 弾性股関節装具が脳卒中片麻痺患者の歩行パフォーマンスに及ぼす効果について, 第 33 回日本義肢装具学会学術大会, 東京, 2017
206. 関口雄介, 大脇 大, 本田啓太, 野崎岳夫, 福司謙一郎, 広井典良, 出江紳一, カム-バネ継手付きゲ

イトソリューションが脳卒中片麻痺患者の歩行パフォーマンスに及ぼす効果について, 第 33 回日本義肢装具学会学術大会, 東京, 2017

207. 大脇大, ロボティクス技術がもたらすモデルベースト・リハビリテーション基盤, 第 2 回「身体性システム」公開シンポジウム, 慶応大学, 2017
208. 関口 雄介, 大脇 大, 本田 啓太, 広井 典良, 福司 謙一郎, 野崎 岳夫, 出江 紳一, 弾性調整型股関節装具と足の組み合わせが 脳卒中片麻痺患者の歩行に及ぼす影響, 第 39 回バイオメカニズム学術講演会, 別府 (大分), 2017
209. 本田啓太, 関口雄介, 大脇大, 出江紳一, 足底圧感覚の聴覚フィードバック装具が脳卒中片麻痺患者の歩行安定性に及ぼす影響, 第 38 回バイオメカニズム学術講演会, 別府 (大分), 2017
210. 濱崎峻資, 安琪, 温文, 田村雄介, 山川博士司, 畝中智志, 渋谷賢, 大木紫, 山下淳, 浅間一, 上肢運動における身体所有感及び運動主体感が指の知覚位置に与える影響, 第 30 回自律分散システム・シンポジウム, 名城大学, 2018
211. Ningjia Yang, Qi An, Hiroki Kogami, Hiroshi Yamakawa, Yusuke Tamura, Atsushi Yamashita, Hajime Asama, Shingo Shimoda, Hiroshi Yamasaki, Matti Itkonen, Fady Shibata-Alnajjar, Noriaki Hattori, Makoto Kinomoto, Kouji Takahashi, Takanori Fujii, Hironori Otomune and Ichiro Miyai, Clarification of Muscle Synergy Structure During Standing-up Motion of Healthy Young, Elderly and Post-Stroke Patients, 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2017 (SSI2017), 静岡大学, 2017
212. 湖上碩樹, Qi An, 楊濤嘉, 山川博司, 田村雄介, 山下淳, 浅間一, 山崎弘嗣, Matti Itkonen, Fady Shibata-Alnajjar, 下田真吾, 服部憲明, 木野本誠, 高橋幸治, 藤井崇典, 乙宗宏範, 宮井一郎, 片麻痺患者の起立動作のリハビリテーションにおける理学療法士の技能の解析, 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2017 (SSI2017), 静岡大学, 2017
213. 湖上碩樹, Qi An, 楊濤嘉, 山川博司, 田村雄介, 山下淳, 浅間一, 山崎弘嗣, Matti Itkonen, Fady Shibata-Alnajjar, 下田真吾, 服部憲明, 木野本誠, 高橋幸治, 藤井崇典, 乙宗宏範, 宮井一郎, 片麻痺患者の起立動作のリハビリテーションにおける理学療法士の技能の解析, 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2017 (SSI2017), 東京理科大学諏訪キャンパス, 2017
214. 村田 哲, 頭頂葉における身体表象 —自己と他者の身体の共有と区別—, 第 16 回姿勢と歩行研究会, 興和株式会社 東京支店, 2018
215. 村田 哲, 動物実験のデータから理解する身体失認・失行症の病態生理, 身体性システム A&C 合同班会議, CiNet, 2018
216. 林田一輝, 大住倫弘, 西 祐樹, 今井亮太, 森岡 周, 目的共有が運動主体感と運動学習を促進する, 第 52 回日本理学療法学術大会, 幕張メッセ, 2017
217. 森岡 周, 大住倫弘, 坂内 掌, 石橋凜太郎, 小倉 亮, 河野正志, 脳卒中片麻痺上肢における運動イメージ能力と運動機能ならびに身体使用頻度との関係, 第 52 回日本理学療法学術大会, 千葉, 2017
218. 信迫悟志, 石橋凜太郎, 河野正志, 富永孝紀, 宗宮ゆりえ, 奥埜博之, 座間拓郎, 大住倫弘, 嶋田総太郎, 森岡 周, 脳卒中後失行症における多感覚統合障害の検証 視覚フィードバック遅延検出課題を用いた検討, 第 52 回日本理学療法学術大会, 幕張メッセ, 2017
219. 根木彩香, 西 祐樹, 西 勇樹, 林田一輝, 大住倫弘, 信迫悟志, 森岡 周, 運動主体感と誤差修正に基づく運動学習効果との関連性 —intentional binding 課題を用いて—, 第 52 回日本理学療法学術大会,

幕張メッセ, 2017

220. 出江紳一, 超高齢社会の生活を支えるリハビリテーション機器の開発, 平成 29 年度日本学会東北地区会議公開学術講演会, 東北大学青葉山キャンパス, 2017
221. 沖村宰, 山下祐一, 三村将, 前田貴記, 計算論的精神医学による統合失調症の Sense of Agency の異常の病態仮説, 第 113 回日本精神神経学学会学術総会, 名古屋国際会議場, 2017
222. 関, Sensory gating during voluntary movement: neural correlates in the cortical and subcortical network, 7th CiNet Monthly Seminar, CiNet, 2017
223. 関, 協調運動の神経表現: 基礎から臨床まで Neural basis for spatiotemporal coordination of muscle activity, 第 40 回日本神経科学大会, 幕張メッセ, 2017
224. 関, 武井, Confais, 大屋, 戸松, 筋シナジーの神経表現, 第 11 回 Motor Control 研究会, 中京大学, 2017
225. 大屋, 武井, 関, Contrasted coherent oscillations to muscular activity in the monkey spinal cord and motor cortex during a precision grip task., 第 11 回 Motor Control 研究会, 中京大学, 2017
226. 東郷 俊太, 今水 寛, 随意活性可能な個々の筋シナジーの実験による評価, 電子情報通信学会・ニューロコンピューティング研究会, 機械振興会館 (港区芝公園), 2017
227. 東郷俊太, 板橋貴史, 橋本龍一郎, 金井智恵子, 加藤進昌, 今水 寛, 指先合力生成時における自閉症スペクトラム障害患者の特異的薬指依存, 第 11 回 Motor Control 研究会, 中京大学名古屋キャンパス (名古屋市昭和区八事本町), 2017
228. 東郷俊太, 今水寛, 個人のフィードフォワード制御能力を反映する多指間協調運動の先行調整, 第 29 回 自律分散システム・シンポジウム, 調布クレストンホテル (調布市小島町), 2017
229. 今水 寛, 身体意識の解明と応用, 第 2 回身体性システム公開シンポジウム「モデルベースト・リハビリテーションの構築に向けて」, 慶應義塾大学三田キャンパス・南校舎ホール, 2017
230. 鎌田恭輔, 難治性てんかんとは? ~アプローチと外科治療のオプション~, 深川医師会学術講演会, 深川市, 2017
231. 鎌田恭輔, 難治性てんかんとは? ~アプローチと外科治療のオプション~, 上川北部学術講演会, 名寄市, 2017
232. 鎌田恭輔, リアルタイム脳皮質電位-脳波解読による運動・視覚機能変容のダイナミズム, 第 4 回身体性システム科学全体会議 2017, 鹿児島県霧島市, 2017
233. 福山秀青, 広島 覚, 竹内文也, 鎌田恭輔, リアルタイム fMRI 解析による言語機能優位半球の同定, 第 4 回身体性システム科学全体会議 2017, 鹿児島県霧島市, 2017
234. 小川博司, 佐藤広崇, 田村有希恵, 安栄良悟, 竹内文也, 鎌田恭輔, 非覚醒下での言語機能マッピング, 第 40 回日本脳神経 C I 学会総会, 鹿児島市, 2017
235. 安栄良悟, 鎌田恭輔, 竹内文也, 石塚昌宏, 5-ALA 蛍光ガイド下手術における定量化の意義, 第 40 回日本脳神経 C I 学会総会, 鹿児島市, 2017
236. 鎌田恭輔, 広島 覚, 小川博司, 田村有希恵, 竹内文也, Guger C, 安栄良悟, リアルタイム高周波律動-蛍光分光システムによる機能・組織マッピング, 第 40 回日本脳神経 C I 学会総会, 鹿児島市, 2017
237. 和田 始, 三井宣幸, 齊藤仁十, 白井和歌子, 徳光直樹, 鎌田恭輔, 当施設における症候性頭蓋内動脈狭窄症に対する PTA 治療成績, STROKE2017, 大阪市, 2017
238. 齊藤仁十, 泉 直人, 木村輝雄, 杉村敏秀, 福田 信, 和田 始, 橋本政明, 鎌田恭輔, いわゆる「地

方」における 急性期再開通治療 ～初期 2 年間の報告～, STROKE2017, 大阪市, 2017

239. 今水 寛, 運動学習に関わる脳の仕組み, Biomechanics and Neuroscience Integrative (BiNI) Perspective Conference 2017 【招待講演】, 長野赤十字病院, 2017
240. 今水 寛, 認知機能と脳のネットワーク, 日本心理学会「注意と認知」研究会 第 15 回会宿研究会・特別講演, ホテルサンルートプラザ名古屋, 2017
241. 出江, 反復末梢神経磁気刺激によるニューロモデュレーション, 第 31 回日本ニューロモデュレーション学会, 都市センターホテル, 2017
242. 座間拓郎, 嶋田総太郎, 運動準備中の脳活動計測による自己身体の神経基盤の検討, 日本認知科学会第 33 回大会, 北海道大学, 2016
243. 高橋 芳幸, 座間 拓郎, 嶋田 総太郎, 映像遅延による視覚誘導運動エラーが自己身体認識に与える影響, 日本認知科学会第 33 回大会, 北海道大学, 2016
244. 森岡周, 慢性痛の脳内メカニズム, 第 9 回日本運動器疼痛学会, 御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター, 2016
245. 森岡周, ニューロリハビリテーションによる中枢神経系の再構築, 第 21 回ペインリハビリテーション学会, 名古屋国際会議場, 2016
246. 信迫悟志, 神経科学的知見の臨床応用: ニューロリハビリテーションの取り組み, 第 43 回日本赤十字リハビリテーション協会学術集会, 大津市民会館, 2016
247. 信迫悟志, 高次脳機能障害に対する理学療法の前線 「失行について」, 第 14 回日本神経理学療法学会学術集会, 仙台市民会館, 2016
248. 藤原悠平, 信迫悟志, 大住倫弘, 座間拓郎, 嶋田総太郎, 森岡周, 脳卒中片麻痺における多感覚統合能力の評価, 第 40 回日本高次脳機能障害学会学術総会, キッセイ文化ホール, 2016
249. 石橋凜太郎, 信迫悟志, 大住倫弘, 座間拓郎, 嶋田総太郎, 森岡周, 失行における多感覚統合特性, 第 40 回日本高次脳機能障害学会学術総会, キッセイ文化ホール, 2016
250. 入江, 中島, 鈴木, 有安, 一寸木, 小宮山, 大木, 運動イメージを利用したヒト安静筋における間接的皮質脊髄路の長期増強, 第 39 回日本神経科学大会, パシフィコ横浜, 2016
251. 中島, 鈴木, 入江, 有安, 小宮山, , ヒト間接的皮質脊髄路の可塑的变化における活動依存性, 第 39 回日本神経科学大会, パシフィコ横浜, 2016
252. 鈴木, 中島, 入江, 有安, 小宮山, 大木, ガルバニック前庭刺激はヒト頸髄介在ニューロンシステムを促通する, 第 39 回日本神経科学大会, パシフィコ横浜, 2016
253. 大木, 自己身体所有感の操作を用いたリハビリテーション, 第 46 回日本臨床神経生理学会学術集会, ホテルハマツ, 2016
254. 鎌田恭輔, 小川博司, 広島 覚, 國井尚人, Guger C, 他分野との協力による脳機能可視化の臨床応用, 第 56 回日本定位・機能神経外科学会, 大阪, 2017
255. 小川博司, 竹内文也, 広島 覚, 鎌田恭輔, てんかん外科手術における脳皮質脳波の臨床応用, 第 40 回日本てんかん外科学会, 大阪, 2017
256. 露口尚弘, 宇田武弘, 鎌田恭輔, 脳磁図による HFO の検出の可能性について, 第 40 回日本てんかん外科学会, 大阪, 2017
257. 福山秀青, 広島 覚, 竹内文也, 鎌田恭輔, 言語機能優位半球のリアルタイム fMRI 解析による同定,

第 40 回日本てんかん外科学会, 大阪, 2017

258. 式田寛, 長谷川泰久, 学会大会, 第 16 回日本生身体拡張義肢による身体図式変化の評価, 日本機械学会福祉工学シンポジウム 2016(LIFE2016), 東北大学, 2016
259. 式田寛, Segura-Meraz Noel, 長谷川泰久, 深部感覚を伴わない身体拡張拇指操作による操作性評価, 第 29 回自律分散システム・シンポジウム, 調布クレストンホテル, 2017
260. 今水 寛, 身体意識への多角的アプローチ, 身体性システム講演会・公募説明会, 東京大学山上会館, 2015
261. 今水 寛, 脳のネットワークと fMRI ニューロフィードバック, 第 46 回日本臨床神経生理学会教育講演, 郡山・ホテルハマツ, 2015
262. 今水 寛, 運動学習と身体意識: 脳活動計測からのアプローチ, 脳と情報シンポジウム 2016 【招待講演】, 高知工科大学, 2016
263. 今水 寛, 認知と運動の学習を支える脳のネットワーク, 第 21 回情動・社会行動と精神医学研究会 【招待講演】, 京都大学・芝蘭会館別館, 2016
264. 今水 寛, 認知機能と脳のネットワーク, 北陸先端科学技術大学院大学 第 4 回 情報科学系セミナー 【招待講演】, 北陸先端科学技術大学院大学, 2016
265. 東郷俊太, 今水 寛, 随意的に独立活性可能な筋シナジーの実験による評価, 第 10 回 Motor Control 研究会, 慶應義塾大学・日吉キャンパス, 2016
266. 濱田, What is QPS?, 第 46 回日本臨床神経生理学会学術大会, 郡山, 2016
267. 濱田, Neuromodulation, 第 46 回日本臨床神経生理学会学術大会, 郡山, 2016
268. 濱田, パーキンソン病の磁気刺激治療, 第 46 回日本臨床神経生理学会学術大会, 郡山, 2016
269. 濱田, 文献レビュー2016, 第 46 回日本臨床神経生理学会学術大会, 郡山, 2016
270. 濱田, 磁気刺激によるパーキンソン病治療, 日本運動障害研究会, 東京, 2016
271. 徳重, 寺尾, 松田, 濱田, 辻, 大山, 下, 服部, パーキンソン病患者の視覚探索行動に及ぼす Deep Brain Stimulation の影響, 第 46 回日本臨床神経生理学会学術大会, 郡山, 2016
272. 徳重, 寺尾, 佐々木, 弓削田, 寺田, 濱田, 辻, 宇川, 湯本, 発作間欠期てんかん性放電の検出における脳磁図の有効性, 第 46 回日本臨床神経生理学会学術大会, 郡山, 2016
273. 佐々木, 寺尾, 寺田, 徳重, 富樫, 宇川, 濱田, 持続的シータバースト刺激 (cTBS) の有効性に刺激強度が与える影響の検討, 第 46 回日本臨床神経生理学会学術大会, 郡山, 2016
274. 神原, 吉村, 小池, 力場適応を行う到達運動学習モデル, 第 29 回自律分散システム・シンポジウム, 調布クレストンホテル, 2017
275. 石川, 寛, 小脳皮質・小脳核における感覚入力と身体表現, 第 15 回ジストニア研究会, 学士会館, 2017
276. 石川, 寛, 三苦, サル小脳神経活動にもとづく小脳性運動失調の神経基盤の考察, 第 10 回 Motor Control 研究会, 慶應義塾大学, 2016
277. 石川, 寛, 三苦, 運動制御における大脳小脳の機能とその以上のメカニズム, 第 39 回日本神経科学大会, パシフィコ横浜, 2016
278. 関, 李, 寛, Analysis for the muscle control strategy of wrist prime movers with a EMG-input musculoskeletal model, 第 39 回日本神経科学大会, パシフィコ横浜, 2016
279. 本多, 吉田, 李, 近藤, 寛, Kinect v2 システムによる指標追従運動の定量評価, 第 10 回 Motor Control

研究会, 慶應義塾大学, 2016

280. 李, 織茂, 松本, 森本, 岡田, 寛, Evaluation of motor symptoms of patients with neurological disorders based on the microsteps phenomenon during visually-guided wrist tracking movements, 第 39 回日本神経科学大会, パシフィコ横浜, 2016
281. 大内田裕, 幻肢を通してみる脳の中の身体, 平成 28 年度日本基礎心理学会フォーラム, 熊本大学, 2017
282. 出江紳一, 患者エンパワーメントに活かすコーチング, 第 28 回日本リハビリテーション看護学会学術大会, 名城大学, 2016
283. 阿部浩明, 高次脳機能障害に対する理学療法最前線-pusher 症候群-, 第 14 回日本神経理学療法学会学術集会シンポジウム, 仙台市民会館, 2016
284. 阿部浩明, 関崇志, 大鹿糠徹, 長嶺義秀, 藤原悟, 遷延性意識障害例の広南スコア改善度と関連する因子の検討-DTI 所見に着目して-, 第 25 回日本意識障害学会シンポジウム, かがわ国際会議場, 2016
285. 阿部浩明, 河島則天, 関崇志, 大鹿糠徹, 長嶺義秀, 藤原悟, 注視点分析によって意図的な注視が確認できた頭部外傷後遷延性意識障害の一例, 第 25 回日本意識障害学会, かがわ国際会議場, 2016
286. 池本周平, 森晋太郎, 細田耕, ニューラルネットワークの解析的表現を用いたモデル予測制御, ロボティクス・メカトロニクス講演会, パシフィコ横浜, 2016
287. 河上貴彦, 進寛史, 山西賢, 池本周平, 細田耕, 生体の神経回路を模した空気圧人工筋用制御システムの開発, ロボティクス・メカトロニクス講演会, パシフィコ横浜, 2016
288. 大脇 大, 関口 雄介, 本田 啓太, 石黒 章夫, 出江 伸一, 感覚モダリティ変換装置 Auditory Foot を用いた片麻痺患者における長期的歩行リハビリテーション, 第 10 回モータコントロール研究会, 慶応大学, 2016
289. 大脇大, 班間連携による筋シナジーモデルベーストリハビリテーションに向けた取り組み, 身体性システム講演会, 東京大学, 2016
290. 角井, 大田, 齋藤, 及川, 野呂, 鎌田, 橋本, 非侵襲型ブレイン・マシン・インターフェースによる急性期脳卒中患者の上肢リハビリテーション, 第 46 回日本臨床神経生理学会, 郡山 ホテルハマツ, 2016
291. 角井, 大田, 野呂, 鎌田, 橋本, Ren, Guger, BMI による急性期脳卒中患者の上肢リハビリテーション, 第 3 回脳神経外科 BMI 懇話会, 旭川医科大学, 2016
292. 小林勝哉, 松本理器, 國枝武治, 池田昭夫, 慢性電極留置におけるてんかん原性評価, 第 45 回日本臨床神経生理学会学術大会, 大阪, 2015
293. 小林勝哉, 松本理器, 宇佐美清英, 國枝武治, 池田昭夫, 睡眠と前頭葉てんかん, 第 49 回日本てんかん学会学術大会, 長崎, 2015
294. Shimotake A, Matsumoto R, Kobayashi K, Kunieda T, Mikuni N, Miyamoto S, Takahashi R, Ikeda A, Functional mapping of praxis: Electrical cortical stimulation study., 第 39 回神経科学大会, パシフィコ横浜, 2016
295. Takeyama H, Matsumoto R, Usami K, Shimotake A, Kunieda T, Miyamoto S, Takahashi R, Ikeda A, Human motor inhibition network as revealed by epicortical ERP, CCEP and high frequency cortical stimulation., 第 39 回日本神経科学大会, パシフィコ横浜, 2016
296. Nakae T, Matsumoto R, Kunieda T, Arakawa Y, Kobayashi T, Inada T, Takahashi Y, Nishida S, Inano R,

Kobayashi K, Shimotake A,

297. Matsuhashi M, Kikuchi T, Takahashi R, Ikeda A, Miyamoto S, Antero-posterior gradients exist in functional connections between human inferior frontal gyrus and middle&posterior temporal gyri. An intraoperative cortico-cortical evoked potential study. , 第 39 回日本神経科学大会, パシフィコ横浜, 2016
298. Togo M, Matsumoto R, Takeyama H, Kobayashi K, Shimotake A, Usami K, Inouchi M, Nakae T, Kunieda T, Miyamoto S, Takahashi R, Ikeda A, Functional connectivity from medial parietal cortex and superior parietal lobule: a cortico-cortical evoked potential study., 第 39 回日本神経科学大会, パシフィコ横浜, 2016
299. Takeyama H, Matsumoto M, Usami K, Shimotake A, Kunieda T, Miyamoto S, Takahashi R, Ikeda A, Which areas inhibit motor responses? Direct evidence from subdural recordings., 第 57 回日本神経学会学術大会, 神戸国際会議場, 2016
300. Neshige S, Sakurai T, Kobayashi K, Shimotake A, Matsuhashi M, Matsumoto R, Hitomi T, Matsumoto M, Takahashi R, Ikeda A, Wide-band Electrocorticographic (ECoG) data analysis in primary sensorimotor (SI-MI) area., 第 57 回日本神経学会学術大会, 神戸国際会議場, 2016
301. Shimotake A, Matsumoto R, Togo M, Kunieda T, Ikeda A, Functional mapping of praxis network: Electrical cortical stimulation study. , The 1st International Symposium on Embodied-Brain Systems Science (EMBOSS2016), , 東京, 2016
302. Togo M, Matsumoto R, Shimotake A, Inouchi M, Kunieda T, Ikeda A, Functional connectivity from human superior parietal lobule and medial parietal lobe: a cortico-cortical evoked potential (CCEP) study. , The 1st International Symposium on Embodied-Brain Systems Science (EMBOSS2016), 東京, 2016
303. 音成秀一郎, 下竹昭寛, 松本理器, Wide-band Electrocorticography による運動準備電位と事象関連同期/脱同期を用いた一次感覚運動野の脳機能マッピング: 皮質電気刺激との比較, 第 46 回日本臨床神経生理学会, 福島, 2016
304. 松本理器, てんかんの臨床神経生理学と硬膜下電極, 第 46 回日本臨床神経生理学会, 福島, 2016
305. 松本理器, CCEP のオフライン解析と解釈, 第 46 回日本臨床神経生理学会, 福島, 2016
306. 下竹昭寛, 松本理器, 池田昭夫, 呼称課題を用いた低刺激強度皮質電気刺激の言語機能マッピングの有用性, 第 50 回日本てんかん学会学術集会, 静岡, 2016
307. 渋谷賢, 畝中智志, 仮想手の操作が身体性自己意識と身体表象に及ぼす影響, 第 43 回日本スポーツ心理学会, 北星学園大学, 2016
308. 畝中智志, 渋谷賢, ラバーハンド錯覚中の運動観察に伴う誘発運動, 第 43 回日本スポーツ心理学会, 北星学園大学, 2016
309. 畝中智志, 渋谷賢, 嶋田総太郎, 座間拓郎, 大木紫, 身体所有感は手の運動観察に伴う μ 波抑制を増強する, 第八回多感覚研究会, 早稲田大学, 2016
310. 松本理器, 山尾幸広, 菊池隆幸, 吉田和道, 國枝武治, 単発電気刺激による脳内ネットワークの可視化: 着想から臨床応用への道のり (特別企画 4 機能ネットワーク解明から治療への応用), 第 75 回日本脳神経外科学会学術総会, 福岡, 2016
311. 望月圭, 村田哲, 皮膚自己刺激に対するサル体性感覚野ニューロンの応答, 身体性システム脳班 (A1,A2,A3)+B2+C2 合同班会議, 東京都医学総合研究所, 2016
312. 村田 哲, ミラーニューロンシステムにおける自他身体の共有と区別, シンポジウム「中枢神経系に

- おける身体表現と認知・運動連関の機能構築・再構築」第93回日本生理学会大会, 札幌コンベンションセンター, 2016
313. 村田 哲, 身体神経科学 頭頂葉-運動前野ネットワークと身体性, 大山リハビリテーション病院 2015 脳生理講演会, 大山リハビリテーション病院, 2016
314. 村田 哲, ミラーニューロンシステムにおける自他の共有と区別, 第46回日本臨床神経生理学会, ホテル ハマツ 福島県郡山市, 2016
315. 村田 哲, 脳内の物体・動作・身体の表現, 日本スポーツ心理学会第43回大会, 札幌 北星学園大学, 2016
316. 村田 哲, The body and objects represented in the ventral stream of the parieto-premotor network, 身体性システム若手の会・勉強会, 東京都医学総合研究所, 2016
317. 村田 哲, ミラーニューロンシステムにおける運動制御と身体表現, 電気通信大学 技能情報学ステーション第13回セミナー, 電気通信大学, 2016
318. 高橋未来, 高草木薫, 千葉龍介, 小原和宏, 自己身体認知が予期的姿勢調整に及ぼす影響, 第38回臨床歩行分析研究会定例会, 旭川医科大学, 2016
319. 関 和彦, バイオロジーとの融合によってもたらされる革新的なBMI技術, 脳科学研究戦略プログラム BMI 技術成果報告会, 一橋大学, 2016
320. T. Umeda, T. Isa, and Y. Nishimura, Top-down motor inputs precede bottom-up sensory information in the primary somatosensory cortex, 第39回日本神経科学大会, パシフィコ横浜, 2016
321. 高草木, ロボットリハビリテーションと神経生理学的メカニズム, 日本医療研究開発機構補助金 難治性疾患実用化研究事業希少難治性脳・脊髄疾患の歩行障害に対する生体電位駆動型下肢装着型補助ロボット (HAL-HN01) を用いた新たな治療実用化のための多施設共同医師主導治験の実施研究班班会議, 東京国際フォーラム, 2016
322. 高草木, 姿勢と歩行の神経科学, 第93回日本生理学会大会, 札幌コンベンションセンター, 2016
323. 高草木, 姿勢制御, 第6回ロボバース学会学術大会, ホテル大阪ベイタワー, 2016
324. 高草木, 高橋, 小原, 千葉, 中脳歩行誘発野領域の機能局在, 第95回生理系北海道地方会, 札幌医科大学, 2016
325. 高草木, 神経系の進化と姿勢-歩行の制御, 第二回通研プロジェクト研究会「科学の客観性と人間性との調和を目指す科学教育の在り方と実施方法」-現代科学の問題点と人類の未来のために-, 東北大学電気通信研究所, 2016
326. 高草木, 大脳基底核と運動制御, Happy Face Seminar in 宮城, メトロポリタン仙台, 2016
327. 高草木, 高次脳機能の障害と小児の学習障害, 第12回札幌病院脳生理研究会, 札幌病院, 2016
328. 高草木, 大脳基底核とその障害, 第17回神奈川 Movement disorders フォーラム, 横浜ベイシェラトンホテル & タワーズ, 2016
329. 高草木, 認知症の心と身体, 旭川青年大学3月講座, 旭川市民文化会館, 2016
330. 高草木, 歩行障害と病態に基づく分類, 第13回札幌病院脳生理研究会, 札幌病院, 2016
331. 高草木, 運動制御における基底核と小脳の役割, 第14回札幌病院脳生理研究会, 札幌病院, 2016
332. 高草木, 姿勢制御・脳幹と脊髄・脳の機能局在, 第8回脳生理研究会, クオラリハビリテーション病院, 2016

333. 高草木, 高橋, 千葉, 小原, 中脳歩行誘発野領域の機能局在, 第3回 BMI 懇話会, 旭川医科大学, 2016
334. 高草木, 運動麻痺の病態生理, 第15回札幌病院脳生理研究会, 札幌病院, 2016
335. 吉田 和憲, 安 琪, 石川 雄己, 山川 博司, 田村 雄介, 山下 淳, 浅間 一, “起立動作において視覚情報の有無が下肢の筋シナジーに与える影響の解析, 第34回日本ロボット学会学術講演会, 山形, 2016
336. 吉田 和憲, Qi An, 石川 雄己, 山川 博司, 田村 雄介, 山下 淳, 浅間 一, 起立動作において視覚情報の有無が下肢の筋シナジーに与える影響の解析, 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 (SSI2016), 大津, 2016
337. 稲邑, VR とクラウドを活用したニューロリハビリテーションプラットフォーム, 栢森情報科学振興財団 第16回 K フォーラム, 高山, 2016
338. 三村, 萩原, 谷口, 稲邑, 矢野, 身体のリック構造推定のための計算論モデルを用いた身体部位の欠損における脳内身体表現の適応に関する研究, 計測自動制御学会 システム・情報部門 学術講演会 2016, 滋賀, 2016
339. 三村, 萩原, 高野, 谷口, 稲邑, 身体地図からの骨格構造推定のためのベイズ生成モデル, 第60回システム制御情報学会研究発表講演会, 京都, 2016
340. 四津有人, 先天性無痛症の運動障害の特徴と感覚操作による治療, 第16回日本再生医療学会総会シンポジウム, 東北大学, 2017
341. 出江, 身体性と神経可塑性に立脚した 感覚運動リハビリテーション, 第67回 群馬大学保健学公開セミナー, 群馬大学, 2017
342. 大内田裕, 幻肢痛を通してみる脳の中の身体, 日本基礎心理学会フォーラム, 熊本大学, 2017
343. 前田貴記, 統合失調症におけるスペクトラムというメタファーの導入の意義と問題点, 第39回日本精神病理学会, 浜松, 2016
344. 村田 哲, ミラーニューロンシステムにおける自他身体の共有と区別, 第93回日本生理学会大会, 札幌, 2016
345. 前田貴記, 【招待講演】統合失調症における sense of agency の異常: delayed prediction signal 仮説, 第46回日本臨床神経生理学会学術大会, 郡山・ホテルハマツ, 2016
346. 花井, 島, 島谷, 機能的電気刺激と動作推定に基づく動作訓練支援法, 電子情報通信学会技術研究報告, 箱根湯本 ホテルおかだ, 2016
347. 佐藤, 島, 体性感覚重畳刺激に基づく装着型力覚提示デバイスの基礎的検討, 電子情報通信学会技術研究報告, 箱根湯本 ホテルおかだ, 2016
348. 島, 今野, 島谷, 運動機能リハビリテーションを目的とした筋電位駆動型ヒューマンヒューマンインタフェース, 第21回ロボティクスシンポジウム, 長崎やすらぎ伊王島, 2016
349. 島, 横山, 島谷, 機能的電気刺激を用いた筋電位駆動型ヒューマンヒューマンインタフェース—運動学習支援を目的とした電気刺激の知覚特性—, ロボティクス・メカトロニクス講演会 2016, パシフィコ横浜, 2016
350. 宇田, 島, 島谷, 運動学習支援への適用を目的とした機能的電気刺激の電極位置選定法, LIFE2016, 東北大学, 2016
351. 鎌田恭輔, 電気生理・蛍光解析による術中モニタリング・マッピング, 第21回日本脳腫瘍の外科学会, 東京, 2016

352. 鎌田恭輔, Real-time Passive recording の有用性, 第 21 回日本脳腫瘍の外科学会, 東京, 2016
353. 安栄良悟、田村有希恵、鎌田恭輔, セカンドラインとしてのベバシズマブ使用経験, 第 21 回日本脳腫瘍の外科学会, 東京, 2016
354. 鎌田恭輔, 難治性てんかんの外科適応 -術前診断と外科治療のオプション-, オホーツクてんかんセミナー, 北見, 2016
355. 三井宣幸、和田 始、鎌田恭輔, 血管内治療における大動脈弓部スクリーニング検査の工夫, 第 77 回日本脳神経外科学会北海道支部会, 札幌, 2016
356. 安栄良悟、山口なつき、野呂昇平、小川博司、折本亮介、三井宣幸、広島 覚、和田 始、露口尚弘、鎌田恭輔, 悪性神経膠腫合併妊娠の一例, 第 77 回日本脳神経外科学会北海道支部会, 札幌, 2016
357. 鎌田恭輔, 脳皮質電位-白質画像融合による機能内ネットワーク可視化-他分野とのつながりの重要性, 日本脳神経外科学会第 75 回学術総会, 福岡, 2016
358. 露口尚弘、佐藤英俊、寺川雄三、内藤堅太郎、宇田武弘、鎌田恭輔、大畑建治, 中枢神経系腫瘍における Methionine PET の低集積例の検討, 日本脳神経外科学会第 75 回学術総会, 福岡, 2016
359. 小川博司、広島 覚、安栄良悟、竹内文也、鎌田恭輔, 覚醒下手術における高周波律動を用いた言語機能マッピング, 日本脳神経外科学会第 75 回学術総会, 福岡, 2016
360. 三井宣幸、和田 始、広島 覚、鎌田恭輔, 経動脈的塞栓術後の急性閉塞性水頭症に第 3 脳室開窓術が奏功したガレン大静脈瘤の 1 例, 日本脳神経外科学会第 75 回学術総会, 福岡, 2016
361. 和田 始、三井 宣幸、折本 亮介、佐藤 正夫、鎌田 恭輔, 過還流対策としての staged CAS の成績～DSA の flow assessment application 解析を加えて～, 日本脳神経外科学会第 75 回学術総会, 福岡, 2016
362. 安栄良悟、鎌田恭輔, 5-ALA 蛍光ガイド下手術における蛍光強度の定量化の意義, 日本脳神経外科学会第 75 回学術総会, 福岡, 2016
363. 鎌田恭輔, リアルタイム蛍光分光システムによる信号強度と組織特徴の解析, 第 37 回日本レーザー医学会総会, 旭川, 2016
364. 鎌田恭輔, リアルタイム CCEP 解析ソフトウェアの開発, 第 46 回日本臨床神経生理学会学術大会ワークショップ, 福島郡山, 2016
365. 鎌田恭輔, 神経・自然科学を取り込むてんかん外科治療-発想から実用に向けて-, 第 126 回山口県脳神経外科懇話会, 山口, 2016
366. 鎌田恭輔, 身体部位別の視覚認知関連脳皮質電位の読み取り, H28 年身体性システム脳班 (A1.A2.A3)+B2+C2 合同班会議, 東京, 2016
367. 福山秀青、野呂昇平、広島 覚、角井俊幸、大田哲生、竹内文也、鎌田恭輔, 脳梗塞急性期リハビリによる皮質運動野活動性の変化 脳波リアルタイムフィードバックシステムと fMRI による評価, H28 年身体性システム脳班 (A1.A2.A3)+B2+C2 合同班会議, 東京, 2016
368. 広島 覚、野呂昇平、三井宣幸、和田 始、鎌田恭輔, ガレン大静脈瘤に合併した水頭症に対する第三脳室開窓術の 1 例, 第 23 回日本神経内視鏡学会, 東京, 2016
369. 和田 始、三井宣幸、折本亮介、鎌田恭輔, AS における double protection 下の, distal protection device の違いによる術後 MRI 所見の検討, 第 32 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会, 神戸, 2016
370. 折本亮介、和田 始、齋藤仁十、三井宣幸、鎌田恭輔, 穿頭下経静脈的塞栓術中コイルが migration

- した硬膜動静脈瘻の一例, 第 32 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会, 神戸, 2016
371. 和田 始、三井宣幸、折本亮介、鎌田恭輔 鎌田恭輔, Dual-Energy CTA を用いたコイル塞栓術後の strategy, 第 32 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会, 神戸, 2016
372. 三井宣幸、和田始、折本亮介、斎藤仁十、鎌田恭輔, 地方国立大学病院の脳梗塞急性期治療の現状, 第 32 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会, 神戸, 2016
373. 鎌田恭輔, 治せる難治性てんかんー術前診断と外科治療のオプションー, 室蘭市医師会学術講演会, 室蘭, 2016
374. 鎌田恭輔, 実体・時系列からみた蛍光・電気信号の 3D 処理, 第 19 回日本臨床脳神経外科学会, 埼玉熊谷, 2016
375. 鎌田恭輔, 基礎科学の臨床応用を目指したチーム力のポテンシャル, 平成 28 年度 神経科学セミナー, 札幌, 2016
376. 山本、林、村田、尾上、肥後, カクサル第一次運動野損傷後の神経回路再編成～腹側運動前野から小脳核へと投射する経路の増加～, 日本ニューロリハビリテーション学会第 7 回学術集会, 兵庫, 2016
377. 関 和彦, 筋シナジーを用いた脳卒中診断の可能性について, 身体性上肢キックオフミーティング, 森之宮病院, 2016
378. 関 和彦, 神経回路研究とニューロリハビリテーション, 第 7 回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会, 神戸国際会議場, 2016
379. 村田, 肥後, 脳卒中動物モデルを用いた内包損傷による精密把握への影響, 第 10 回モーターコントロール研究会, 慶應義塾大学, 2016
380. 大屋, 武井, 関, Functional tuning of rubromotoneuronal cells in the forelimb movement., 第 10 回 MC 研究会, 慶應義塾大学, 2016
381. 村田, 脳損傷サルモデルを用いた把握機能回復メカニズムの解析, 日本運動制御・ニューロリハビリテーション研究会 2016, 淡路夢舞台, 2016
382. 村田, 肥後, 内包脳卒中動物モデルを用いた損傷による精密把握動作への影響, 第 23 回脳機能とりハビリテーション研究会学術集会, 千葉, 2016
383. 梅田, 西原, 鈴木, 山西, 伊佐, 西村, 一次体性感覚野は運動前より筋活動の情報をコードしている, 第 10 回 MC 研究会, 慶應義塾大学, 2016
384. 戸松, 青木, 吉村, 上原, 花川, 関, 母指と示指によるつまみ動作を生成する脳活動, 第 10 回 MC 研究会, 慶應義塾大学, 2016
385. 村田弓, 脳損傷後の上肢運動機能回復メカニズム -動物モデルを用いて、神経科学の最新トピックス, 上賀茂神経リハビリテーション教育研究センター研修会, 京都, 2016
386. 前田貴記, 自己意識の神経心理学, 第 1 回 高次脳機能学とニューロリハビリテーション研究会【招待講演】, 畿央大学, 2016 年
387. Moeko Kudo, Sidikejiang Wupuer, Ken-Ichi Inoue, Masahiko Takada, Kazuhiko Seki, Differential adeno-associated virus mediated gene transfer to dorsal root ganglion neurons with different size in common marmosets., 第 39 回日本神経科学大会, パシフィコ横浜, 2016
388. Tomomichi Oya, Tomohiko Takei, Kazuhiko Seki, Divergent spatial projections of rubrospinal neurons converge to synchronized temporal activity for a coordinated reach-to-grasp movement., 第 39 回日本神経科

学大会, パシフィコ横浜, 2016

389. Joachim Confais, Tomomichi Oya, Kazuhiko Seki, Comparison of muscle synergies calculated in different motor contexts., 第 39 回日本神経科学大会, パシフィコ横浜, 2016
390. Roland Philipp, Joachim Confais, Tomomichi Oya, Kazuhiko Seki, Neural adaptation in response to change in the musculoskeletal system: A new primate model., 第 39 回日本神経科学大会, パシフィコ横浜, 2016
391. Kazuhiko Seki, Sidikejiang Wupuer, Tatsuya Umeda, Ken-Ichi Inoue, Moeko Kudo, Masahiko Takada, AAV9 を用いたラット後根神経節細胞へのチャンネルロドプシン 2 の導入とその生理学的評価; In vivo electrophysiological evaluation of Channelrhodopsin-2-, 第 39 回日本神経科学大会, パシフィコ横浜, 2016
392. 藤原先生, 石橋凜太郎, 河野正志, 富永孝紀, 座間拓郎, 嶋田総太郎, 大住倫弘, 信迫悟志, 森岡周, 脳卒中片麻痺における視覚フィードバック遅延検出特性, 第 40 回日本神経心理学会学術集会, KKR ホテル熊本, 2016
393. 石橋凜太郎, 河野正志, 富永孝紀, 宗宮ゆりえ, 奥埜博之, 座間拓郎, 嶋田総太郎, 大住倫弘, 信迫悟志, 森岡周, 失行における視覚フィードバック遅延検出特性, 第 40 回日本神経心理学会学術集会, KKR ホテル熊本, 2016
394. 信迫悟志, 裕美穂, 大住倫弘, 森岡周, 映像遅延装置を用いた道具使用と視覚の不一致検出特性の調査: 失行症における身体意識の定量的評価の確立に向けて, 第 51 回日本理学療法学術大会, 札幌コンベンションセンター, 2016
395. 大住倫弘, 谷口愛美, 信迫悟志, 森岡周, 身体所有感および重さの知覚の変調が筋活動に及ぼす影響, 第 51 回日本理学療法学術大会, 札幌コンベンションセンター, 2016
396. 森岡周, 脳を学ぶ リハビリテーションのための神経生物学入門, 合同会社 gene セミナー, 国際ファッションセンタービル, 2016
397. 森岡周, 高次脳機能障害に対するニューロリハビリテーション 半側空間無視・失行症の評価と治療戦略, 第 5 回 T A F 研修会, 姫路商工会議所, 2016
398. 森岡周, 最新の脳・神経科学によるニューロリハビリテーション, いわて運動療法研究会, 岩手県高校教育会館, 2016
399. 森岡周, 脳機能と姿勢・歩行, 第 20 回静岡県理学療法士学会, プラサ ヴェルデ, 2016
400. 森岡周, 認知神経科学とリハビリテーション, 日本理学療法士協会講習会, 徳島文理大学 2 号館 2 階 アカンサスホール, 2016
401. 森岡周, 脳・神経科学に基づいた臨床手続き~運動主体感と学習する人間~, 日本認知神経リハビリテーション学会 ベーシックコース, 仙台青葉学院短期大学, 2016
402. 森岡周, 脳科学からみた高次脳機能障害, NDK 横浜セミナー, スポーツ医科学センター, 2016
403. 森岡周, 脳科学に基づいた新しいリハビリテーション, 公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構 高齢社会研究会第 5 回講演会, 奈良県社会福祉総合センター 6 階, 2016
404. 森岡周, ニューロリハビリテーションとは何か? ケーススタディーから紐解く, 第 51 回日本理学療法士協会全国学術研修大会特別講演, 沖縄コンベンションセンター, 2016
405. 森岡周, 慢性痛に対するリハビリテーション戦略, 第 21 回日本ペインリハビリテーション学会学術大会シンポジウム, 名古屋国際会議場, 2016
406. 森岡周, 慢性痛のメカニズムとニューロリハビリテーション, 北海道理学療法士会後志地域理学療

法士会主催研修会, 小樽共立病院, 2016

407. 中隼, 日暮, 村田, 稲瀬, 拘束ザルの二足歩行と四足歩行: 補足運動野における神経細胞活動の比較, 第 39 回日本神経科学大会, パシフィコ横浜, 2016
408. 日暮, 中隼, 村田, 稲瀬, ニホンザルの二足歩行と四足歩行における歩容と筋活動, 第 39 回日本神経科学大会, パシフィコ横浜, 2016
409. 大畑 龍, 浅井智久, 門田 宏, 繁榊博昭, 小川健二, 今水 寛, 感覚運動システムに組み込まれた運動主体感のデコーディング, 第 39 回日本神経科学大会, パシフィコ横浜, 2016
410. 今水 寛, 認知・運動学習と脳のネットワーク, 第 2 回身体運動制御学とニューロリハビリテーション研究会【招待講演】, 畿央大学, 2016
411. 今水 寛, 運動制御と身体意識, 第 31 回日本大脳基底核研究会【教育シンポジウム】, 秋田温泉さとみ, 2016
412. 前田貴記, Aberrant sense of agency in schizophrenia: Temporal disconnection hypothesis due to delayed prediction signals, 慶應義塾大学・先導研究センター「論理と感性のグローバル研究センター」主催シンポジウム“Emotion, interoception, and the sense of agency”, 慶應義塾大学三田キャンパス, 2016 年 8 月 27 日
413. 出江紳一, 運動企図と末梢神経磁気刺激によるニューロモデュレーション, 第 32 回ライフサポート学会大会, 東北大学, 2016
414. 宮田麻理子 末梢神経損傷に伴う中枢神経回路の可塑的变化と身体表現の変容 東京大学大学院医学系研究科神経生理学分野研究会 東京大学 2016
415. 宮田麻理子 末梢神経損傷による脳内身体表現の変容とその機構 群馬大学大学院医学系研究科セミナー 群馬大学 2016
416. 堀切, 大脇, 西井, 石黒: 「手応え関数」に基づく適応的二足歩行制御, 自律分散システム・シンポジウム, 広島大学, 2016
417. 四津, 四つ這いの定量化, 第 8 回瀬川塾, 小児神経学クリニック, 2016
418. 四津, 小児の動作解析, 172 回藤田保健衛生大学リハビリテーション部門研修会, 藤田保健衛生大学, 2016
419. 四津, Hereditary sensory and autonomic neuropathy types 4 and 5: Review and proposal of a new rehabilitation method, Neuroscience Research 身体性システム特集号 勉強会, 東京大学, 2016
420. 緒方 大樹, 林 静思, 黄 之峰, 金井 Pak 雅子, 前田 樹海, 北島 泰子, 中村 充浩, 桑原 教彰, 太田 順, 患者の多様な状況を考慮した患者ロボットの開発, サービス学会第 4 回国内大会講演論文集, 神戸大学, 2016
421. 伊藤 拓, 深澤 佑介, 沖村 宰, 山下 祐一, 前田 貴記, 太田 順, スマートフォンのセンサログとアプリ履歴を用いた不安度の予測, 情報処理学会モバイルコンピューティングとパーベイシブシステム第 79 回研究会, 沖縄産業支援センター, 2016
422. 内藤栄一, 運動制御と身体認知を支える脳内身体表現の神経基盤, 第 51 回日本理学療法学会大会, 札幌コンベンションセンター, 2016
423. 野呂昇平, 広島 覚, 和田 始, 鎌田 恭輔, クモ膜下出血患者における stress index などのパラメーターが予後規定因子として有用であるか, 第 21 回日本脳神経外科救急学会, 東京, 2016

424. 野呂昇平、石橋秀昭、佐藤広崇、山口なつき、小川博司、折本亮介、三井宣幸、広島覚、安栄良悟、和田始、鎌田恭輔、片側顔面痛を主症状とする視床痛に対して外科的治療を試みた一例、STROKE2016, 札幌, 2016
425. 大屋知徹、武井智彦、関和彦、皮質脊髄路、赤核脊髄路による、第23回日本運動生理学会大会、日本体育大学, 2015
426. 石川、寛、小脳における運動関連入出力の単一ニューロンレベルにおける比較、第9回 Motor Control 研究会、京都大学, 2015
427. 李、松本、森本、岡田、寛、Quantitative evaluation of recovery process of stroke patients in terms of three components of tracking movement of the wrist、第38回日本神経科学会、神戸国際会議場, 2015
428. 児玉、霜田、李、寛、正門、片麻痺上肢の定量的機能評価に向けた基礎研究（第1報）－健常者における手関節運動の加齢性変化、第6回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会、秋田ビューホテル, 2015
429. 霜田、児玉、李、寛、正門、片麻痺上肢の定量的評価に向けた基礎研究（第2報）－健常者における手関節運動の新しいパラメーター、第6回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会、秋田ビューホテル, 2015
430. 石川、寛、大脳小脳における出力生成メカニズム、包括脳ネットワーク 冬のシンポジウム、東京医科歯科大学, 2015
431. 寛、手首の動きから探る脳内の運動制御器の状態－基礎と臨床応用、第6回神経科学・リハビリテーション・ロボット工学のシナジー効果に関する研究会、九州工業大学, 2015
432. 寛、脊椎動物の筋シナジーの創発と系統進化：chance and design、第21回創発システムシンポジウム「創発夏の学校2015」、諏訪東京理科大学, 2015
433. 佐藤 雄一郎、傍嶋 将文、王 旭峰、長谷川 泰久、触覚フィードバックを用いた身体拡張義指操作、第16回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会、名古屋, 2015
434. 傍嶋将文、大原崇義、佐藤雄一郎、王旭峰、長谷川泰久、“触覚フィードバックを用いた身体拡張義指操作による身体図式の変容”、計測自動制御学会 システム・情報部門 学術講演会 2015、函館アリーナ, 2015
435. 松宮一道、高次知覚過程における触覚と視覚の相互作用、触覚認知研究ワークショップ、東京女子大学, 2015
436. 池本、木本、細田、ヒトの肩複合体の機能を再現するリンク機構、日本機械学会ロボティクスメカトロニクス講演会、みやこメッセ（京都市）、2015
437. 瓜野、池本、細田、空気圧人工筋で駆動されるマスタ・スレーブ型手指外骨格の開発、第59回システム制御情報学会研究発表講演会、中央電気倶楽部（大阪市）、2015
438. 斎藤、池本、細田、ヒトの指と手首の連動性を有する筋骨格ロボットアームの開発、第33回日本ロボット学会学術講演会、東京電機大学千住キャンパス（足立区）、2015
439. 瓜野、池本、細田、強磁場環境下で動作可能なマスタ・スレーブ型手指外骨格の開発、計測自動制御学会 システム・情報部門学術講演会、函館アリーナ（函館市）、2015
440. Hiroshima S, Kamada K, Examination of trigeminal neuralgia which did not improve by microvascular decompression, 5Th Mt. Bandai and Panpacific Joint Neurosurgical Convention 2016, Phnom Penh, Cambodia,

2016

441. 野呂昇平、田村有希恵、小川博司、竹内文也、安栄良悟、鎌田恭輔, Passive language mapping combining real-time oscillation analysis with cortico-cortical evoked potentials for awake craniotomy, 第2回日本脳神経外科BMI懇話会, 東京, 2015
442. 雨宮薫, 井澤淳, 牛場潤一, 大須理英子, Toward the identification of neural patterns of limb selection using ongoing activity, 脳と心のメカニズム, 第15回冬のワークショップ, ルスツリゾートコンベンションセンター, 2015
443. 雨宮薫, 井澤淳, 牛場潤一, 大須理英子, 自発脳活動がその後の両肢選択に及ぼす影響, 第9回Motor control研究会, 京都大学, 2015
444. 桐山 健司, 鎌田恭輔, 高齢者の頸動脈瘤切迫破裂をいかに治療すべきか(感染性動脈瘤の一経験例), 第45回日本脳卒中の外科学会学術総会 STROKE2016, 札幌, 2016
445. 和田 始, 折本亮介, 鎌田恭輔, flow assessment application を用いた中大脳動脈 M1 部平均通過時間(MTT)の検討, 第41回日本脳卒中学会総会 STROKE2016, 札幌, 2016
446. 東郷俊太, 吉岡利福, 今水 寛, タスクの冗長性に依存した手先運動の制御方策, 電子情報通信学会・ニューロコンピューティング研究会, 玉川大学, 2016
447. 三村, 萩原, 高野, 谷口, 稲邑, 身体地図からの骨格構造推定のためのベイズ生成モデル, 第60回システム制御情報学会研究発表講演会(SCI'16), 京都, 2016
448. 折本亮介, 和田 始, 鎌田恭輔, DSA および脳血流アプリケーションを用いた脳動脈瘤症例の研究, 第41回日本脳卒中学会総会 STROKE2016, 札幌, 2016
449. 松村聖司(東京工業大学), 川瀬利弘(東京工業大学), 木村聡貴(NTT コミュニケーション科学基礎研究所), 跳躍時における下肢部の筋シナジー, 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会2015, 函館アリーナ(函館市), 2015
450. 三村, 萩原, 高野, 谷口, 身体図式の形成のための身体地図のクラスタリング, 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会(SSII2015), 北海道, 2015
451. 三村, 萩原, 高野, 谷口, 稲邑, 身体図式の形成のための身体地図のクラスタリング, 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会(SSII2015), 北海道, 2015
452. 鎌田恭輔, てんかん外科レビュー, 第35回日本脳神経外科コンgres プレナリーセッション「機能的脳神経外科」, 横浜, 2015
453. 鎌田恭輔, Real-time analysis of brain oscillation /fluorescence for neurosurgery, 福島県てんかん懇話会学術講演会, 福島, 2015
454. 鎌田恭輔, 治せるボケ・治せる頭痛, 旭川医科大学派遣講座 旭川市中央公民館百寿大学, 旭川, 2015
455. 鎌田恭輔, リアルタイム脳機能マッピング・デコーティングの臨床応用, 第26回千葉臨床神経生理研究会, 千葉, 2015
456. 鎌田恭輔, リアルタイムデータ処理技術を駆使した脳神経外科手術, 札幌禎心会病院講演会, 札幌, 2015
457. 鎌田恭輔, リアルタイム電気生理-蛍光処理による脳機能ダイナミクス, 第12回東北てんかんフォーラム, 仙台, 2015
458. 鎌田恭輔, エロクエントエリア付近のグリオーマ摘出の最新技術, 第8回グリオーマ手術手技インタ

ーネットライブセミナー, 東京, 2015

459. 鎌田恭輔, アイディと実用化を楽しむ 北海道発の基礎・臨床研究, 第 74 回 (社) 日本脳神経外科学会北海道支部会, 札幌, 2015
460. 折本亮介、和田 始、田村有希恵、嵯峨健広、小川博司、上森元気、広島 覚、三井宣幸、安栄良悟、石橋秀昭、鎌田恭輔, 2 次元血流評価の研究, 第 74 回 (社) 日本脳神経外科学会北海道支部会, 札幌, 2015
461. 小川博司、広島 覚、鎌田恭輔, くも膜嚢胞を伴った顔面痙攣の 1 例, 第 74 回 (社) 日本脳神経外科学会北海道支部会, 札幌, 2015
462. 竹内文也、高橋香代子、中根進児、白石秀明、船越 洋、鎌田恭輔, 提示音の ON 区間と OFF 区間における誘発脳磁界信号源の解析, 第 30 回日本生体磁気学会, 旭川, 2015
463. 小川博司、広島 覚、竹内文也、鎌田恭輔, 機能 MRI および脳皮質電位を用いた低侵襲な脳機能マッピング, 第 30 回日本生体磁気学会, 旭川, 2015
464. 滝山貴央、広島 覚、小川博司、安栄良悟、鎌田恭輔, Probabilistic tractography の検証, 第 30 回日本生体磁気学会, 旭川, 2015
465. Kamada K, Super-passive language mapping combining real-time oscillation analysis with cortico-cortical evoked potentials for awake craniotomy, 神経オンレーションカンファレンス, 京都, 2015
466. 鎌田恭輔, リアルタイム電気生理-蛍光画像搭載顕微鏡による脳機能ダイナミクス, 第 17 回日本ヒト脳機能マッピング学会大会, 大阪, 2015
467. 嵯峨健広、折本亮介、安栄良悟、和田 始、鎌田恭輔, 血行再建術中の ICG 血管撮影による血行動態変化の解析—画像解析ソフトウェア Flowinsight を用いた解析—, 第 47 回北海道脳卒中研究会, 札幌, 2015
468. 和田 始、折本亮介、三井宣幸、鎌田恭輔, CAS 治療前後の中大脳動脈血流変化の検討 (flow assessment application を用いて), 第 47 回北海道脳卒中研究会, 札幌, 2015
469. 鎌田恭輔、嵯峨健広、広島 覚, リアルタイム蛍光画像処理技術搭載顕微鏡による動・静脈流量ダイナミクス, 第 18 回日本臨床脳神経外科学会, 神戸, 2015
470. 田村有希恵、白井和歌子、安栄良悟、徳光直樹、鎌田恭輔, 私の女医生活, 第 75 回(社)日本脳神経外科学会北海道支部会, 札幌, 2015
471. 野呂昇平、細井雄一郎、山口なつき、嵯峨健広、上森元気、折本亮介、三井宣幸、広島 覚、安栄良悟、和田 始、石橋秀昭、鎌田恭輔, 頭部外傷に対する脳神経外科医の役割について ~非専門医の立場から~, 第 75 回(社)日本脳神経外科学会北海道支部会, 札幌, 2015
472. 山口なつき、広島 覚、小川博司、石橋秀昭、鎌田恭輔, 術後に de novo psychosis を呈した右内側側頭葉てんかん: 迷走神経刺激装置で対処した一例, 第 75 回(社)日本脳神経外科学会北海道支部会, 札幌, 2015
473. 安栄良悟、田村有希恵、広島 覚、鎌田恭輔, 手術手技としての BCNU ウェハー留置, 第 20 回日本脳腫瘍の外科学会, 名古屋, 2015
474. 田村有希恵、小川博司、竹内文也、安栄良悟、鎌田恭輔, Passive language mapping combinin great-time oscillation analysis with cortico-cortical evoked potentials for awake craniotomy, 第 20 回日本脳腫瘍の外科学会, 名古屋, 2015

475. 広島 覚、嵯峨健広、小川博司、上森元気、鎌田恭輔, 非典型的な痛みを有する三叉神経痛の検討, 日本脳神経外科学会第 74 回学術総会, 札幌, 2015
476. 嵯峨健広、折本亮介、安栄良悟、和田 始、鎌田恭輔, 血行再建術中の ICG 血管撮影による血行動態変化の解析-画像解析ソフトウェア FlowInsight を用いた解析-, 日本脳神経外科学会第 74 回学術総会, 札幌, 2015
477. 和田 始、折本亮介、三井宣幸、鎌田恭輔, CAS 治療前後の中大脳動脈血流変化の検討 (flow assessment application を用いて) , 日本脳神経外科学会第 74 回学術総会, 札幌, 2015
478. 鎌田恭輔、小川博司、田村有希恵、竹内文也、広島 覚、安栄良悟, 覚醒下手術における高周波律動による超受動的脳機能マッピングと functional ICG, 日本脳神経外科学会第 74 回学術総会, 札幌, 2015
479. 小川博司、広島 覚、安栄良悟、石橋秀昭、鎌田恭輔, 高周波律動を用いた脳機能マッピングの臨床応用とその有用性, 第 26 回千葉臨床神経生理研究会, 日本脳神経外科学会第 74 回学術総会, 2015
480. 安栄良悟、田村有希恵、広島 覚、小川博司、鎌田恭輔, 皮質下神経線維近傍における神経膠腫手術戦略, 日本脳神経外科学会第 74 回学術総会, 札幌, 2015
481. 田村有希恵、小川博司、竹内文也、安栄良悟、鎌田恭輔, Passive language mapping 覚醒下手術における HGA 解析と CCEP 併用による新たなマッピング法, 日本脳神経外科学会第 74 回学術総会, 札幌, 2015
482. 折本亮介、和田 始、鎌田恭輔, DSA および脳血流アプリケーションを用いた脳動脈瘤症例の研究, 第 24 回北海道脳 PET・SPECT 研究会, 札幌, 2015
483. 野呂昇平、細井雄一郎、山口なつき、嵯峨健広、上森元気、折本亮介、三井宣幸、広島 覚、安栄良悟、和田 始、石橋秀昭、鎌田恭輔, リアルタイム蛍光画像技術解析搭載顕微鏡による組織・血流分布画像, 第 36 回日本レーザー医学会総会, 宇都宮, 2015
484. 広島 覚、小川博司、鎌田恭輔, 硬膜下電極留置の際の術中 3D 合成画像の有用性, 第 49 回日本てんかん学会学術集会, 長崎, 2015
485. Kamada K, Ogawa H, Takeuchi F, Kapeller K, Prueckl R, Tamura Y, Guger C, Real-time analysis of oscillatory neuronal activity for intraoperative monitoring, 第 49 回日本てんかん学会学術集会, 長崎, 2015
486. Ogawa H, Hiroshima S, Takeuchi F, Ishibashi H, Kamada K, Pre-surgical high gamma activity mapping in an epileptic patient with cortical dysplasia, 第 49 回日本てんかん学会学術集会, 長崎, 2015
487. 鎌田恭輔、田村有希恵、小川博司、広島 覚, 覚醒下手術における高周波律動による超受動的脳機能マッピング, 第 45 回日本臨床神経生理学会学術大会, 大阪, 2015
488. 和田 始、齋藤仁十、三井宣幸、鎌田恭輔, 当施設に於ける, 脳動脈瘤コイル塞栓術の役割の推移, 第 31 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会, 岡山, 2015
489. 折本亮介、和田 始、鎌田恭輔, 脳血流解析アプリケーションを用いた脳動脈瘤症例の研究, 第 31 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会, 岡山, 2015
490. 三井宣幸、折本亮介、和田 始、鎌田恭輔, 頸部内頸動脈狭窄症治療における, MR spectroscopy による過還流予想の新たな試み, 第 31 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会, 岡山, 2015
491. 嵯峨健広、和田 始、三井宣幸、鎌田恭輔, 無症候性後頭蓋窩硬膜動静脈瘻の一例, 第 31 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会, 岡山, 2015
492. 鎌田恭輔, リアルタイム HGA/CCEP 処理による脳機能ネットワークの解明, 第 39 回 日本てんかん

外科学会, 仙台, 2016

493. 折本亮介、和田 始、鎌田恭輔, DSA および脳血流アプリケーションを用いた脳動脈瘤症例の研究, 第 39 回日本脳神経 CI 学会総会, 東京, 2016
494. 小川博司、広島 覚、竹内文也、安栄良悟、石橋秀昭、鎌田恭輔, 側頭葉底部に対する術前・術中脳機能マッピングの実践, 第 39 回日本脳神経 CI 学会総会, 東京, 2016
495. 鎌田恭輔, 生理的・病的 Connectome 解明による脳神経外科治療, 第 3 回身体性システム領域全体会議 2016, 花巻温泉, 2016
496. 広島 覚、野呂昇平、山口なつき、小川博司、折本亮介、三井宣幸、安栄良悟、和田 始、鎌田恭輔, 微小神経減圧術で改善しなかった三叉神経痛の検討, 第 76 回 (社) 日本脳神経外科学会 北海道支部会, 札幌, 2016
497. 野呂昇平、山口なつき、小川博司、折本亮介、広島 覚、三井宣幸、安栄良悟、和田 始、石橋秀昭、鎌田恭輔, 片側顔面痛を主症状とする視床痛に対して外科的治療を行い著効した一例, 第 76 回 (社) 日本脳神経外科学会 北海道支部会, 札幌, 2016
498. 石橋秀昭、広島 覚、鎌田恭輔, 汎用型誘発筋電図を改良した DBS 術中モニタリングシステムの試作, 第 25 回脳神経外科手術と機器学会, 新潟, 2016
499. 鎌田恭輔, てんかん外科手術から得られる病態生理, 第 36 回日本脳神経外科コンgres総会 プレナリーセッション 3 機能外科, 大阪, 2016
500. 鎌田恭輔、小川博司、Kapeller C、広島 覚、安栄良悟、Guger C, リアルタイム ECoG マッピング・デコーディングによる言語性システムの変容, 第 7 回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会, 神戸, 2016
501. 鎌田恭輔, リアルタイム ECoG マッピングによる機能 connectome の可視化, 第 7 回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会, 神戸, 2016
502. 山口なつき、石橋秀昭、小川博司、広島 覚、鎌田恭輔, 内側側頭葉てんかんの術後に遷延性の de novo psychosis を呈した 3 症例, 第 39 回 日本てんかん外科学会, 仙台, 2016
503. 今水 寛, 内部モデルと身体意識, 第 4 回身体性システム講演会・第 11 回 EMP セミナーシリーズ「拡張する身体性とその脳内表現」, 筑波大学, 2016
504. 出江紳一, 医工連携活性化のために, 2015 年度研究者教養セミナー, 東海大学, 2016
505. 四津 芳賀, 中原, 処女歩行の歩行分析, 第 52 回日本リハビリテーション医学会学術集会, 新潟市朱鷺メッセ, 2015
506. 高草木 薫: 大脳基底核と運動制御機構について パーキンソン病 QOL 懇話会 2015, 02 25, 広島 (特別講演)
507. 高草木 薫: 睡眠と睡眠障害 第 8 回札幌病院リハビリテーション研修会 2015, 5, 20 札幌 (小樽) (講師)
508. 高草木 薫: 運動制御の神経生理学 (脳性まひの病態と治療 update) 第 57 回日本小児神経学会 2015, 05 28-30, 大阪 (招待シンポジスト)
509. 高草木 薫: 姿勢と歩行の神経科学 (大会記念シンポジウム; 歩行のメカニズムとその障害) 第 50 回日本理学療法士学術大会 2015, 06 5-7, 東京 (特別講演; 特別表彰)
510. 高草木 薫: 脳機能と運動機能の再建 青洲会病院リハビリテーション研修会 2015 07, 2, 福岡 (講師)

511. Takakusaki K.: Pre- and post-synaptic inhibitory mechanisms acting on lumbar spinal segments during medullary-induced muscular atonia in decerebrate cats 第 38 回 日本神経科学学会 Neuroscience 2015, 2015 07 27-30, 神戸
512. 高草木 薫: 意識と意識障害 第 9 回札幌病院リハビリテーション研修会 2015, 8, 21 札幌 (小樽) (講師)
513. 高草木 薫: 大脳基底核と運動制御 九州・山口機能神経外科カンファレンス 2015 08 22 福岡 (特別講演)
514. 高草木 薫: 網様体脊髄路-脊髄介在ニューロン系によるシナプス前抑制 第 95 回 北海道医学大会生理系分科会, 2015 09 6, 札幌
515. 高草木 薫: 姿勢制御と歩行の神経機構他 クオラリハビリテーション病院脳生理研修会 2015, 10, 24 鹿児島 (講師)
516. 高草木 薫: 運動制御の基礎知識他 森ノ宮病院リハビリテーション研修会 2015, 11, 2. 大阪 (講師)
517. 高草木 薫: 運動麻痺, 不随意運動と運動失調他 平成 27 年度 大阪理学療法士会研修会 2015, 11, 3. 大阪 (講師)
518. 高草木 薫: パーキンソン病の姿勢と歩行 瀬川昌也一周忌追悼記念講演会 2015, 12, 6 東京 (特別講演)
519. 高草木 薫: ロボットリハビリテーションの神経生理学的メカニズム AMED 難治性疾患実用化研究事業 第 1 回 班員会議, 一般市民向け公開報告会 2016, 1, 23. 東京 (報告)
520. 高草木 薫: 神経系の進化と姿勢-歩行の制御 第 2 回通研プロジェクト研究会「科学の客観性と人間性との調和を目指す科学教育の在り方と実施方法」-現代科学の問題点と人類の未来のために- 2015, 2 1-2. 仙台 (講演)
521. 高草木 薫: 大脳基底核による運動の制御 Happy face seminar in 仙台. 2016, 2, 3, 仙台 (特別講演)
522. 高草木 薫: 大脳基底核と運動機能の調節 神奈川神経内科学セミナー 2016, 3, 1, 横浜 (特別講演)
523. 高草木 薫: 姿勢と歩行の神経科学 日本生理学学会大会 2015, 3, 22-24, 札幌 (モデル講義)
524. 高草木 薫: 認知症の心と身体 旭川青年大学 2015, 03 25, 旭川 (講師)
525. 浅間 一: "ロボット・イノベーション~2020 年へ向けた展望と課題~", 日経 BP 講演会, 東京, 4 月 (2015).
526. 浅間 一: "RT イノベーション", 総務省人工知能・ロボットアドホック会合, 東京, 5 月(2015).
527. 浅間 一: "社会的問題解決と新たな価値創造のためのサービスロボティクス", NEC 中央研究所講演会, 川崎, 6 月(2015).
528. 浅間 一: "サービスロボティクスにおけるモーションキャプチャ利用", NAC 3D セミナー, 東京, 7 月(2015).
529. 浅間 一: "ロボット技術における今後の動向と最新技術について", 平成 27 年度旭川機械金属工業振興会特別講演会, 旭川, 10 月(2015).
530. 浅間 一: "ロボット技術の研究開発と実用化・事業化に向けての課題", 科学技術振興機構研究開発戦略センター科学技術未来戦略ワークショップ 「ナノ・IT・メカ統合によるスマート小型ロボット基盤技術」, 東京, 12 月(2015).
531. 浅間 一: "サービスロボティクス", 早稲田大学次世代ロボット研究機構キックオフシンポジウム,

東京, 1月(2016).

532. 浅間 一: "サービスロボット技術とその社会実装", エレクトロニクス実装学会第 62 回セミナー, 東京, 2月(2016).
533. 浅間 一: "医療・介護・健康分野での活用が期待できるサービスロボット技術", 神戸国際医療交流財団医工連携人材育成セミナー, 神戸, 3月 (2016).
534. 村田 哲 身体神経科学 頭頂葉-運動前野ネットワークと身体性 大山リハビリテーション病院 2015 脳生理講演会 2016年 2月 21日 鳥取県西伯郡伯耆町 リハビリ療法士を対象とした研修会
535. T. Umeda, K. Takakusaki, and T. Isa, Glycinergic inhibition of ipsilateral transmission of cortical excitation to forelimb motoneurons in monkeys, 第 38 回日本神経科学学会大会, 神戸国際会議場, 2015
536. 岡本, 日置, 孫, 藤山, 金子, 近傍に位置する間接路・直接路ニューロンから淡蒼球への投射様式, 第 38 回日本神経科学学会, 神戸国際会議場・展示場, 2015
537. 孫, 岡本, 金子, 日置, マウス第一次体性感覚野 VIP 陽性抑制性細胞に対する興奮性・抑制性入力 of 形態学的解析, 第 38 回日本神経科学学会, 神戸国際会議場・展示場, 2015
538. 日置, 孫, 高橋, 岡本, 金子, Tet-Off 搭載アデノ随伴ウイルスベクターによる、神経細胞特異的かつ高発現型シングルベクタープラットフォームの構築, 第 38 回日本神経科学学会, 神戸国際会議場・展示場, 2015
539. 平井, 柴田, 中村, 田中, 日置, 金子, 古田, ヒゲ感覚システムにおいて新しく発見した視床覚醒 α 振動発火と皮質視床連関, 包括脳ネットワーク冬のシンポジウム, 一橋大学, 2015
540. 日置, 孫, 岡本, 高橋, Strong and specific gene expression in neurons by adeno-associated virus with Tet-Off system, 包括脳ネットワーク冬のシンポジウム, 一橋大学, 2015
541. 津田一郎, 自己組織化再考—第二種自己組織化の可能性, 招待講演、京都大学基礎物理学研究所研究会「複雑システムにおける創造的破壊現象の原理に迫る」, コープイン京都 (京都市), 2015
542. Hiromichi Tsukada and Ichiro Tsuda, A neural network model of memory retrieval using multiple frequency bands oscillations, The 38th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society, Kobe International Exhibition Hall, 2015
543. 津田一郎, 招待講演、自己組織化再考, 第 14 回現象数理学コロキウム, 明治大学 中野キャンパス, 2015
544. 津田一郎, 招待講演、「第二種自己組織化: 脳の機能分化とアプリオリな時間空間概念」, 2015 年度人工知能学会全国大会(第 29 回), 公立ほこだて未来大学, 2015
545. Ichiro Tsuda, Invited talk, Self-organization of a second kind: a mathematical model for functional differentiation in the brain, Toward a New Paradim for Self-Organization, RIMS Kyoto University, 2015
546. Ichiro Tsuda, Invited talk, Milnor attractors and related dynamics, Toward a New Paradim for Self-Organization, RIMS Kyoto University, 2015
547. 津田一郎, 招待講演、「第二種自己組織化について」, 複雑系研究会「内と外の動的双対性、その向こう側」, 早稲田大学西早稲田キャンパス, 2015
548. 津田一郎, 招待講演、「脳神経系の数理モデルの諸相: ダイナミクスの観点から」, 北陸応用数理研究会 2015, 金沢大学サテライトプラザ, 2015
549. 平井, 柴田, 中村, 田中, 日置, 金子, 古田, ヒゲ^o 感覚システムにおいて新たに発見した 視床アル

- ファ・オシレーションと皮質視床連関, 第 9 回 Motor Control 研究会 サテライト神経オシレーションカンファレンス, 京都大学, 2015
550. 田中, シグモイド型ニューラルネットワークのカーネルによる持続発火活動の再現, 日本物理学会第 71 回年次大会, 東北学院大学, 2016
551. 田中, 中村, 出現確率の高い回路による単純な内的表現, 日本神経回路学会第 25 回全国大会, 電気通信大学, 2015
552. 田中, 中村, Sustained activity of simple model neural networks performing motor tasks, 第 38 回日本神経科学大会, 神戸国際会議場・展示場, 2015
553. 柴田, 古田, 田中, 平井, 金子, Architecture of whisker movement related neurons in rat primary motor cortex, 第 38 回日本神経科学大会, 神戸国際会議場・展示場, 2015
554. 柴田, 田中, 中村, 古田, ラットのヒゲ運動に関連する一次運動野ニューロンの生理学的・形態学的検討, 第 108 回近畿生理学談話会, 近畿大学, 2015
555. 森岡周, 半側空間無視・失行症に対するニューロリハビリテーション-病態・メカニズム・評価・治療戦略-, senstyle 講演, 電気ビル本館, 2015
556. 森岡周, 手と脳の機能を考慮したニューロリハビリテーション, 第 27 回日本ハンドセラピィ学会学術集会 特別講演, 日本教育会館, 2015
557. 森岡周, 高次脳機能障害の脳内機構とニューロリハビリテーション, 合同会社 gene セミナー, 大阪科学技術センター, 2015
558. 森岡周, いまさら聞けない人間の脳の機能解剖-リハビリテーション脳科学入門-, トータルアプローチ研究会 講演, 臨床福祉専門学校, 2015
559. 森岡周, 高次脳機能障害に対するニューロリハビリテーション, 長野県厚生連作業療法士研究会 講演, NPO 法人いたみ医学研究情報センター, 2015
560. 森岡周, 脳科学から考える痛み治療, NPO 法人いたみ医学研究情報センター 市民講座 講演, 高知県民文化ホール, 2015
561. 森岡周, 自己の運動・動作から学ぶ脳機能-療法士のための脳科学入門-, senstyle 講演, 須磨区民センター, 2015
562. 森岡周, 脳を学ぶ-リハビリテーションのための神経生物学入門-, 合同会社 gene セミナー, あいおいニッセイ同和損保新宿ビル, 2015
563. 森岡周, 半側空間無視と失行症に対するニューロリハビリテーション, トータルアプローチ研究会 講演, マイドーム大阪, 2015
564. 森岡周, これからの理学療法研究-世界への発信-: 神経科学理学療法の立場から, 第 50 回日本理学療法学会学術大会, 東京国際フォーラム, 2015
565. 森岡周, 半側空間無視に対するニューロリハビリテーション, 秋田県理学療法士会 講演, 秋田大学医学部, 2015
566. 森岡周, 脳卒中後の運動障害に対するニューロリハビリテーションの基本的戦略, 三重県理学療法士会 講演, 三重大学医学部, 2015
567. 森岡周, 神経科学から考える機能回復のメカニズムとニューロリハビリテーション戦略, 第 13 回 Resta 研修会, 福岡国際会議場, 2015

568. 森岡周, 発達を学ぶー人間発達学レクチャー, トータルアプローチ研究会, 東京都大橋会館, 2015
569. 森岡周, 認知神経科学に基づいた高次脳機能障害のリハビリテーション, 公益社団法人日本理学療法士協会・理学療法士講習会(基本編・理論), 徳島文理大学, 2015
570. 森岡周, 脳を学ぶ -リハビリテーションのための神経生物学入門-, 合同会社 gene セミナー, 名古屋国際会議場, 2015
571. 森岡周, 脳卒中後の運動障害および半側空間無視に対するニューロリハビリテーション, 第 43 回 Q.o.A.A.講習会, 宮城県仙台市, 2015
572. 森岡周, 疼痛の神経心理学ー身体性と社会性の観点からー, 第 39 回日本神経心理学会学術集会 実践セミナー, 札幌市教育文化会館, 2015
573. 森岡周, 歩行運動の神経機構とシステムモデル, 第 34 回関東甲信越ブロック理学療法士学会シンポジウム, アピオ甲府, 2015
574. 森岡周, 高次脳の脳科学とその臨床応用, CRASEED シンポジウム, 兵庫医科大学 平成記念会館, 2015
575. 森岡周, ニューロリハビリテーションの概念とその基本的戦略, 第 31 回東海北陸理学療法士学会 教育講演, 金沢市文化ホール, 2015
576. 森岡周, 片麻痺の回復を考えるー脳科学的視点からー, 第 50 回日本理学療法士協会全国学術研修大会, 盛岡市民文化ホール, 2015
577. 森岡周, 身体運動制御に関する神経メカニズムとその臨床介入ー姿勢バランス、歩行、運動学習ー, 北海道理学療法士会後志支部平成 27 年度講習会, 小樽協会病院, 2015
578. 森岡周, 姿勢バランスと歩行運動の神経システムとニューロリハビリテーション, トータルアプローチ研究会 講演, 大橋会館, 2015
579. 森岡周, 研究と臨床の融合: 運動器疾患における疼痛捉え方, 第 11 回 MNS Holdings seminar, ウェル戸畑 多目的ホール, 2015
580. 森岡周, ニューロリハビリテーションの概念と基本的戦略-脳卒中後の上肢運動障害を中心に-, 合同会社 gene セミナー, 名古屋市中小企業振興会館, 2015
581. 森岡周, 痛みの脳内機構とニューロリハビリテーション, 合同会社 gene セミナー, 東京証券会館, 2015
582. 森岡周, 半側空間無視・身体失認と失行症の評価と治療戦略, senstye セミナー講演, リファレンス駅東ビル, 2015
583. 森岡周, ニューロリハビリテーションの概念とその戦略ー脳卒中後の運動障害を中心にー, 日本ボバース研究会北海道ブロック研修会 特別講演, 札幌医学技術福祉歯科専門学校, 2015
584. 森岡周, 社会的コミュニケーションとリハビリテーション-神経科学の観点から-, 第 24 回佐賀県理学療法士学会教育講演, 佐賀市民会館, 2015
585. 森岡周, ニューロリハビリテーションの概念と基本的戦略-脳卒中後の上肢運動障害を中心に-, 合同会社 gene セミナー, 株式会社 ヤクルト本社ビル, 2015
586. 森岡周, 社会的コミュニケーションの神経科学, 高知県言語聴覚士会 講演, 高知, 2015
587. 森岡周, 神経生物学入門: 人間の脳と社会的コミュニケーション, 日本音楽療法学会 研修会, 日本教育会館, 2016

588. 森岡周, 運動イメージ・運動錯覚を用いた治療の科学的根拠と有効活用, senstyle セミナー 講演, 広島 YMCA 国際文化センター, 2015
589. 森岡周, ニューロリハビリテーションの概念と基本的戦略-脳卒中後の上肢運動障害を中心に, 合同会社 gene セミナー, 都久志会館, 2015
590. 越水, 中村, 古田, 田中, 金子, ラット視床下核ニューロンの新線条体インターニューロンへの入力, 第 91 回日本解剖学会近畿支部学術集会, 京都工芸繊維大学, 2015
591. 越水, 中村, 古田, 田中, 金子, ラット視床下核ニューロンの新線条体インターニューロンへの入力, 第 91 回日本解剖学会近畿支部学術集会, 京都工芸繊維大学, 2015
592. 渋谷賢, 畝中智志, 大木 紫, 実際の手と近接したラバーハンドの操作が身体性自己意識と身体表象に与える影響, 第 7 回多感覚研究会, 東京女子大学, 2015
593. 畝中智志, 渋谷賢, 大木 紫, 仮想現実下における仮想手の操作が身体性自己意識および脳活動に与える影響, 第 7 回多感覚研究会, 東京女子大学, 2015
594. 渋谷賢, 畝中智志, 実際の手と近接したラバーハンドの操作-身体所有感と固有感覚ドリフトの乖離-, 日本スポーツ心理学会第 42 回大会, 九州共立大学, 2015
595. 畝中智志, 渋谷賢, 身体性自己意識の長期変容に伴う身体表現および脳活動の変化, 日本スポーツ心理学会第 42 回大会, 九州共立大学, 2015
596. 渋谷賢, 畝中智志, 大木紫, 実際の手に近接したラバーハンドの操作が身体性自己意識と身体表象に及ぼす影響, 日本基礎心理学会第 34 回大会, 大阪樟蔭女子大学, 2015
597. 花川 隆, 神経内科疾患における神経結合イメージング, 第 56 回日本神経学会学術大会 シンポジウム, 朱鷺メッセ, 2015
598. 花川 隆, 基底核神経回路イメージング研究の進歩, 第 30 回日本大脳基底核研究会, 犬山名鉄ホテル, 2015
599. 花川 隆, 神経イメージング技術で見る脳の可塑的变化, 中枢神経系の機能再建への挑戦, 大阪大学中之島センター, 2015
600. 花川 隆, 安静時機能 MRI, 第 43 回日本磁気共鳴医学会大会. シンポジウム 3, 東京ドームホテル, 2015
601. 花川 隆, 歩行の神経制御機構, 第 1 回身体運動制御学とニューロリハビリテーション研究会, 畿央大学, 2015
602. 花川 隆, 学んで変わる脳, 上智大学音楽医科学センター (MuSIC) キックオフシンポジウム, 上智大学, 2015
603. 花川 隆, 多モダリティイメージングによるヒト脳回路機能解剖の解明, 第 18 回日本脳機能マッピング学会, 京都大学桂キャンパス, 2015
604. 四津, 四つ這いにおける動的床反力, 第 56 回日本小児神経学会総会, アクトシティ浜松, 2014
605. 四津, 芳賀, 中原, 緒方, 腰下肢痛に対し脊髄刺激を行った症例の歩行分析, 第 51 回日本リハビリテーション医学会学術集会, 名古屋国際会議場, 2014
606. 中島剛, 鈴木伸弥, 大塚裕之, 小宮山伴与志, 大木紫, ヒト間接的皮質脊髄路の可塑的变化, 第 8 回 MotorControl 研究会, 筑波大学, 2014
607. 中島 剛, 鈴木 伸弥, 大塚 裕之, 遠藤 隆志, 一寸木 洋平, 入江 駿, 小宮山 伴与志, 大木 紫, ヒ

- ト手指筋における間接的皮質脊髄路の長期増強, 第 37 回日本神経科学学会, パシフィコ横浜, 2014
608. 大森雅夫, 五十嵐一峰, 佐野秀仁, 市村正一, 中島剛, 渋谷賢, 大木紫, 遠藤隆志, 頸髄症患者における巧緻運動障害の客観的評価法の開発, 第 29 回日本整形外科学会基礎学術集会, 鹿児島, 2014
609. 大木 紫, 身体意識-神経基盤研究とリハビリ応用の可能性-, NII OPEN HOUSE 2015 新学術領域研究発表「脳内身体表現の変容機構の理解と制御」, 国立情報学研究所, 2015
610. 八木淳一, 小林靖, 平井直樹, 大木紫, かゆみ受容性ラット脊髄後根神経節ニューロンの機能的特性, 第 92 回日本生理学会, 神戸国際会議場, 2015
611. Nakajima T, Suzuki S, Ohtsuka H, Endoh T, Masugi Y, Irie S, Komiyama T, Ohki Y, Plasticity of indirect cortico-motoneuronal excitations in relaxed hand muscles in humans., 第 92 回日本生理学会, 神戸国際会議場, 2015
612. 鈴木 伸弥, 中島 剛, 入江 駿, 一寸木 洋平, 小宮山 伴与志, 大木 紫, ヒト前庭刺激を利用した安静筋における間接的皮質脊髄路の長期増強, 第 38 回日本神経科学大会, 神戸国際会議場, 2015
613. 中島 剛, 鈴木 伸弥, 二橋 元紀, 入江 駿, 小宮山 伴与志, 大木 紫, ヒト間接的皮質-脊髄路への抑制性システムの可塑的变化, 第 38 回日本神経科学大会, 神戸国際会議場, 2015
614. 大木 紫, 身体意識-神経基盤研究とリハビリ応用の可能性-, 東北大学電気通信研究所共同プロジェクト研究会, 東北大学電気通信研究所, 2015
615. 雨宮薫, 井澤淳, 牛場潤一, 大須理英子, 自発脳活動がその後の両肢選択に及ぼす影響, 第 9 回 Motor Control 研究会, 京都大学, 2015
616. 雨宮薫, 井澤淳, 牛場潤一, 大須理英子, Toward the identification of neural patterns of limb selection using ongoing activity, 脳と心のメカニズム, 第 15 回冬のワークショップ, ルスツリゾート コンベンションホール, 2015
617. 今野和樹, 島圭介, 島谷康司, 機能的電気刺激と EMG 信号を利用したダイレクトリハビリテーション, 2015 年計測自動制御学会 システム・情報部門学術講演会, 函館アリーナ, 2015
618. 島圭介, 島谷康司, 運動機能リハビリテーションのための機能的電気刺激に基づく筋電位駆動型ヒューマンヒューマンインタフェース, 第 28 回自律分散システム・シンポジウム, 広島大学, 2016
619. 大脇, 関口, 本田, 石黒, 出江: 足底圧感覚の聴覚フィードバックがもたらす片麻痺患者の歩行への即時的効果, 第 28 回自律分散システム・シンポジウム, 広島大学, 2016
620. 堀切, 大脇, 西井, 石黒: 足底感覚情報を用いた二足歩行制御の環境適応性に関する検証, SI2015, 名古屋国際会議場, 2015
621. 白石 匠, 高草木 薫, 千葉 龍介, 太田 順 小脳部分障害によるラットの障害物回避歩行の変容 第 28 回自律分散システム・シンポジウム 広島大学 2016
622. 太田 順 身体性システム 包括型脳科学研究推進支援ネットワーク冬のシンポジウム, 新学術領域「身体性システム・こころの時間学: 身体とこころの融合」 一橋大学 一橋講堂 2015
623. 松本理器、國枝武治、池田昭夫 皮質・皮質間誘発電位 (CCEP) 記録・解析の実際. ワークショップ 4. 皮質・皮質間誘発電位 第 45 回日本臨床神経生理学会学術大会 大阪国際会議場 2015
624. 松本理器 ヒト脳の解剖・機能的結合地図: 非侵襲・侵襲的計測による探索 第 27 回臨床神経生理研究会 ANA ホリデイイン宮崎 2015
625. 松本理器、山尾幸広、下竹昭寛、國枝武治、池田昭夫 皮質電気刺激によるヒト脳機能ネットワーク

- の探索. 第 29 回日本微小脳神経外科解剖研究会合同セッション：脳機能解剖の多次元解析 第 35 回脳神経外科コンgres総会 パシフィコ横浜 2015
626. 佐藤陽太, 船戸徹郎, 柳原大, 佐藤和, 藤木聡一朗, 青井伸也, 土屋和雄 ラットの二足直立運動の関節間協調の解析 第 28 回自律分散システム・シンポジウム 広島大学 2016
627. 松本理器, 國枝武治, 池田昭夫 ヒト脳の機能可塑性：皮質電気刺激・外科的脳切除の観点から 第 30 回日本生体磁気学会学術大会 旭川 2015
628. 坂本光弘, 松本理器, 下竹昭寛, 國枝武治, 池田昭夫 左中心前回中・下部に限局した腫瘍切除後に anarthria を呈した 1 例 第 55 回近畿高次神経機能研究会 エーザイ株式会社大阪コミュニケーションオフィス 2016
629. 十河 正弥, 松本 理器, 武山 博文, 小林 勝哉, 下竹 昭寛, 宇佐美清英, 中江 卓郎, 國枝武治, 宮本 享, 高橋 良輔, 池田 昭夫 ヒト内側頭頂葉の機能的結合性：皮質—皮質間誘発電位を用いた検討 第 45 回日本臨床神経生理学会学術大会 大阪国際会議場 2015
630. 十河 正弥, 松本 理器, 武山 博文, 小林 勝哉, 下竹 昭寛, 宇佐美清英, 中江 卓郎, 國枝武治, 宮本 享, 高橋 良輔, 池田 昭夫 ヒト内側頭頂葉の機能的結合性：皮質—皮質間誘発電位を用いた検討 第 45 回日本臨床神経生理学会学術大会 大阪国際会議場 2015
631. 下竹昭寛, 松本理器, 小林勝哉, 宇佐美清英, 國枝武治, 三國信啓, 宮本亨, 高橋良輔, 池田昭夫 Functional mapping of praxis network: Electrical cortical stimulation study 第 9 回 Motor Control 研究会 京都大学 2015 年
632. 下竹昭寛, 松本理器, 小林勝哉, 宇佐美清英, 國枝武治, 三國信啓, 宮本亨, 高橋良輔, 池田昭夫 Functional mapping of praxis network: Electrical cortical stimulation study 第 56 回日本神経学会学術大会 新潟 2015 年
633. 村松克俊, 温文, 濱崎峻資, 山川博司, An Qi, 田村雄介, 山下淳, 浅間一 動作意図が身体図式の変容に与える影響の評価 2016 年度精密工学会春季大会学術講演会 東京理科大学 2016
634. 村松克俊, 温文, 濱崎峻資, 山川博司, An Qi, 田村雄介, 山下淳, 浅間一 行動目標がラバーハンド錯覚に与える影響 ライフサポート学会第 25 回フロンティア講演会 東京工科大学 2016
635. 山本, 村田, 林, 肥後 マカクサル第一次運動野損傷後の機能回復に伴い形成される 腹側運動前野から小脳核へと向かう直接経路 第 50 回日本理学療法学術集会 東京国際フォーラム 2015
636. 宮田麻理子 中枢神経系の維持改編に関わる分子機構 生理学研究所研究会「シナプス・神経ネットワークの機能ダイナミクス」 生理学研究所 2015
637. 宮田麻理子 中枢神経系回路の維持、改編機構 同志社大学 システム神経科学センター 特別セミナー 同志社大学 2015
638. 宮田麻理子 幻肢痛～幻の痛み of の正体：神経回路レベルの解明をめざして 東京医科大学・第 51 回 医科学フォーラム 東京医科大学 2015
639. 近藤敏之, 有菌直生, 大村優慈, 矢野史朗: ラバーハンド錯覚を用いた身体保持感のバイオマーカー同定, 第 16 回システムインテグレーション部門学術講演会, 名古屋市国際会議場, 2015
640. 小川健二, 今水 寛: 複数の感覚運動学習の神経表象とニューロフィードバックによる学習促進, 第 9 回 Motor Control 研究会 シンポジウム「新しい身体運動学習理論に向けて」, 京都大学時計台記念館, 2015

641. 今水 寛: 結合ニューロフィードバックを用いた機能回復へのアプローチ 第 39 回日本高次脳機能障害学会学術集会・ワークショップ 「Sense of agency パラダイムによる新たなリハビリテーション戦略—運動麻痺から高次脳機能障害まで」, ベルサール渋谷ファースト, 2015
642. 今水 寛: 器用な動作を支える脳の仕組みとその評価 昭和大学発達障害医療研究所セミナー【招待講演】, 昭和大学附属烏山病院, 2015
643. 今水 寛: 安静時の脳活動を用いた認知機能の予測と制御, 国立神経・精神医療研究センター「システム神経科学セミナー」【招待講演】国立神経・精神医療研究センター, 2016
644. 前田貴記: 自己意識の神経科学—時間知覚と sense of agency—, 包括脳・平成 27 年度冬のシンポジウム, 一橋講堂
645. 前田貴記: 自己意識の神経心理学の試み, 第 39 回高次脳機能障害学会総会・ワークショップ「sense of agency パラダイムによる新たなリハビリテーション戦略」, ベルサール渋谷ファースト
646. 出江紳一、大内田裕: 一人称視点による模倣運動を利用した運動・感覚リハビリテーション, 第 39 回日本高次脳機能障害学会学術総会, ベルサール渋谷ファースト
647. 出江紳一: 片麻痺の治療を目的とした磁気刺激装置の評価に用いるガイドライン作成への取り組み, 第 26 回磁気刺激法の臨床応用と安全性に関する研究会, 大阪国際会議場
648. 姜平, 千葉龍介, 高草木薫, 太田順: Generation of Biped Stance Motion in Consideration of Neurological Time Delay through Forward Dynamics Simulation, 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2015 講演論文集, 函館, 2015
649. 白石匠, 高草木薫, 千葉龍介, 太田順: 小脳中央部・外側部除去ラットの姿勢計測による歩行時の筋緊張の定量的評価, 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2015 講演論文集, 函館, 2015
650. 北原康佑, 矢野史朗, 近藤敏之: 下肢 ERD/S-BCI のための運動想起法に関する研究, 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2015 講演論文集, 函館, 2015
651. 傍嶋將文, 大原崇義, 佐藤雄一朗, 王旭峰, 長谷川泰久: 触覚フィードバックを用いた身体拡張義指操作による身体図式の変容, 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2015 講演論文集, 函館, 2015
652. 安琪, 石川雄己, 青井伸也, 船戸徹郎, 岡敬之, 山川博司, 山下淳, 浅間一: 筋シナジーの時間パターンがヒト起立動作に与える影響の神経筋骨格モデルを用いた解明, 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2015 講演論文集, 函館, 2015
653. 松村聖司, 川瀬利弘, 木村聡貴, 柏野牧夫, 吉村奈津江, 小池康晴: 跳躍時における下肢部の筋シナジー, 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2015 講演論文集, 函館, 2015
654. 三澤大地, 近藤敏之, 矢野史朗: 相反する運動課題の同時学習における干渉に香りが及ぼす影響, 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2015 講演論文集, 函館, 2015
655. 渋谷賢, 畝中智志, 大木紫: 操作する身体オブジェクトの方向性がドリフト運動に与える影響, 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2015 講演論文集, 函館, 2015
656. 畝中智志, 渋谷賢, 大木紫: 仮想現実下における仮想手の操作が身体性自己意識および脳活動に与える影響, 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2015 講演論文集, 函館, 2015
657. 瓜野琢也, 池本周平, 細田耕: 強磁場環境下で動作可能なマスタ・スレーブ型手指外骨格の開発, 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2015 講演論文集, 函館, 2015

658. 三村知洋, 萩原良信, 高野敏明, 谷口忠大, 稲邑哲也: 身体図式の形成のための身体地図のクラスタリング, 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2015 講演論文集, 函館, 2015
659. 青木貴裕, 島圭介: 外れ値検知機能を有する未学習クラス推定ニューラルネットと筋電位識別, 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2015 講演論文集, 函館, 2015
660. 千葉龍介, 高草木薫, 太田順: 傾斜移動床における姿勢制御戦略の変更, 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2015 講演論文集, 函館, 2015
661. 楊寧嘉, 安琪, 山川博司, 田村雄介, 山下淳, 淺間一: Identification of Muscle Synergy Parameters in Different Strategies of Human Standing-up Motion, 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2015 講演論文集, 函館, 2015
662. 今野和樹, 島圭介, 島谷康司: 機能的電気刺激と EMG 信号を利用したダイレクトリハビリテーション, 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2015 講演論文集, 函館, 2015
663. 稲邑哲也: ニューロリハビリテーションのためのクラウド型 VR リハビリシステム, 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2015 講演論文集, 函館, 2015
664. 佐々木大地, 井澤淳, 森田昌彦: 不連続力場に対するメタ運動学習のモデル規範型運動解析手法の提案, 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2015 講演論文集, 函館, 2015
665. 太田: 身体性システム科学の紹介, 第 167 回藤田保健衛生大学リハビリテーション部門研修会, 藤田保健衛生大学, 2015
666. 千葉: ヒトの多種感覚入力に基づく姿勢制御研究について, 第 167 回藤田保健衛生大学リハビリテーション部門研修会, 藤田保健衛生大学, 2015
667. 太田: 身体性システム科学, 高槻高等学校東京大学柏キャンパス施設見学, 東京大学, 2015
668. 太田: 「身体性システム科学」構築に向けて, KACITEC 総会, 柏の葉キャンパス駅前サテライト, 2015
669. 太田: 概要ー身体性システム科学ー, NII OPEN HOUSE 2015 新学術領域研究発表「脳内身体表現の変容機構の理解と制御」, 国立情報学研究所, 2015
670. 寺前 達也, 今水 寛, 山下 歩, Robert Haschke, Risto Koiva, Helge Ritter, Florentin Woregotter: 安静時 fMRI による外部座標系と内部座標系を組み合わせた学習タスクにおけるスコア予測, 第 38 回日本神経科学大会, 神戸国際会議場, 2015
671. 今水 寛: 脳内ネットワークの弱点を知り, 補強する技術, 第 5 回 CiNet シンポジウム/第 3 回大阪大学 COI シンポジウム【招待講演】 東京国際フォーラム, 2015
672. 今水 寛: 機械学習推定を用いた認知機能の低下の防止と回復, 第 38 回日本神経科学大会ランチョンセミナー【招待講演】, 神戸国際会議場, 2015
673. 今水 寛: 学習と脳のネットワーク, CRASEED シンポジウム「徹底討論! 脳科学とリハビリテーション」【招待講演】, 兵庫医科大学, 2015
674. 今水 寛: 安静時の脳活動から作業記憶トレーニング効果の個人差を予測する: ゲームで認知機能は改善するか?, 第 9 回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres ランチョンセミナー【招待講演】, 品川プリンスホテル, 2015
675. 今野 和樹, 島 圭介, 島谷 康司: 機能的電気刺激によるリハビリテーションを目的とした前腕動作制御法, ロボティクス・メカトロニクス講演会 2015, 京都市勧業館, 2015
676. 松井 駿悟, 青木 貴裕, 島 圭介: 未学習クラス推定ニューラルネットと自己組織化マップに基づく

新規クラス生成, ロボティクス・メカトロニクス講演会 2015, 京都市勧業館, 2015

677. 中村: 発火頻度かパターンか: パーキンソン病モデルラットにおける視床運動核ニューロンの活動異常を探る, 第 30 回日本大脳基底核研究会, 名鉄犬山ホテル, 2015
678. 越水, 中村, 田中, 古田, 金子: ラット視床下核ニューロンは新線条体インターニューロンへ入力する, 第 30 回日本大脳基底核研究会, 名鉄犬山ホテル, 2015
679. 関 庚甫, 李 鍾昊, 寛 慎治: 筋骨格系モデルを用いた手関節筋の機械的な構造に基づく筋制御特性の推定, 第 9 回 Motor Control 研究会, 京都大学, 2015
680. 東郷俊太, 今水 寛: 目標の冗長性を保持した運動計画, 第 9 回 Motor Control 研究会, 京都大学, 2015
681. 中村, Sharott, 田中, Vinciati, Mallet, Magill: パーキンソン病モデルラット視床運動核のニューロン活動異常: 発火頻度かパターンか, 第 9 回 Motor Control 研究会 サテライト神経オシレーションカンファレンス, 京都大学, 2015
682. Nakamura, Sharott, Vinciati, Tanaka, Mallet, Magill: Abnormal neuronal activities in the motor thalamus of Parkinsonian rats: rate vs pattern, 第 38 回日本神経科学大会, 神戸国際会議場, 2015
683. 越水, 中村, 田中, 古田, 金子: ラット視床下核ニューロンは新線条体インターニューロンへ入力する, 第 9 回 Motor Control 研究会, 京都大学, 2015
684. Tanaka H: Equations of Motion for Reaching Dynamics and Coordinate Systems in Frontoparietal Motor System, 第 92 回日本生理学学会 第 120 回日本解剖学会 合同大会, 神戸国際会議場, 2015
685. 平井, 柴田, 中村, 田中, 日置, 金子, 古田: ヒゲ感覚システムにおいて新たに発見した視床アルファ・オシレーションと皮質視床連関, 第 38 回日本神経科学大会, 神戸国際会議場, 2015
686. 越水, 中村, 古田, 金子: ラット視床下核は新線条体インターニューロンへ入力する, 第 38 回日本神経科学大会, 神戸国際会議場, 2015
687. 戸枝美咲, 青井伸也, 船戸徹郎, 土屋和雄, 柳原大: 筋シナジー制御を用いた四肢神経筋骨格モデルの歩容生成とエネルギー効率の考察, 第 70 回日本体力医学会大会, 和歌山県民文化会館・ホテルアバローム紀の国, 2015
688. Tanaka H, Miyakoshi M, and Makeig S: Directional tuning and reference frames revealed by non-invasive EEG in humans: A group analysis, 第 9 回モーターコントロール研究会, 京都大学, 2015
689. 渋谷賢, 畝中智志, 大木紫: 操作する身体オブジェクトの方向性が運動に及ぼす影響, 第 32 回日本認知科学会, 千葉大学, 2015
690. Nagumo Yasuyuki, Takeuchi Yuichi, Miyata Mariko: Remodeling of somatosensory thalamic neural circuit and allodynia-like mechanical hypersensitivity, The 38th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society, Kobe, Japan, 2015
691. Takeuchi Yuichi, Nagumo Yasuyuki, Osaki Hironobu, Katayama Yoko, Miyata Mariko: Large-scale somatotopic reorganization associated with afferent fiber rewiring in the whisker sensory thalamus, The 38th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society, Kobe, Japan, 2015
692. Miyata Mariko, Takeuchi Yuichi, Katayama Yoko: Large-scale somatotopic refinement via experience-dependent synapse elimination in the whisker sensory thalamus, The 38th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society, Kobe, Japan, 2015
693. 三澤大地, 近藤敏之: 相反する運動課題の同時学習に香りが及ぼす影響, 第 21 回創発システム・シン

ポジウム, 諏訪東京理科大学, 2015

694. 三村, 萩原, 谷口: 身体図式の形成のためのベイズ生成モデルの研究, 第 21 回創発システム・シンポジウム, 諏訪東京理科大学, 2015
695. 堀切, 大脇, 西井, 石黒: 足底感覚情報を活用した二足歩行制御則の実験的検証, ロボティクス・メカトロニクス講演会 2015, 京都, 2015
696. 会津直樹, 大内田裕, 出江紳一: 慢性期片麻痺者の麻痺手運動機能の改善による身体性注意の変化, 第 9 回 Motor Control 研究会, 京都大学, 2015
697. 大内田裕, 会津直樹, 出江紳一: 学習性不使用による脳内身体表現の変容, 第 9 回 Motor Control 研究会, 京都大学 2015
698. 近藤 : NIRS による身体錯覚時の機能的結合の解析, 第 54 回日本生体医工学会大会, 名古屋国際会議場, 2015
699. 東郷俊太, 今水 寛: 正規化協調指標による運動指令の協調の評価, 電子情報通信学会・ニューロコンピューティング研究会, 玉川大学, 2015
700. 高草木: 認知症患者の行動科学-認知症を知る-, 第 24 回有病者歯科医療学会総会・学術大会, 旭川市大雪クリスタルホール, 2015
701. 高草木: 姿勢-運動と身体の認知, 第 92 回日本生理学会大会, 神戸コンベンションセンター, 2015
702. Qi An, 石川雄己, 青井伸也, 船戸徹郎, 岡敬之, 山川博司, 山下淳, 浅間一: 筋シナジーの時間パターンがヒト起立動作に与える影響の神経筋骨格モデルを用いた説明, 第 20 回ロボティクスシンポジウム, 軽井沢プリンスホテルウエスト, 2015
703. 箕原凜, 温文, 濱崎峻資, 前田貴記, 加藤元一郎, 山川博司, 山下淳, 浅間一: スイッチ操作力の差異が運動主体感に与える影響の評価, 第 20 回ロボティクスシンポジウム, 軽井沢プリンスホテルウエスト, 2015
704. 今水 : ブレインマシンインターフェースの基礎技術と応用, 応用脳科学コンソーシアム・第 4 回 CiNet 脳情報研究ワークショップ【招待講演】, 京都大学・東京オフィス, 2015
705. 中隋, 村田, 稲瀬: トレッドミル歩行中におけるサル補足運動野の単一神経細胞活動, 第 92 回日本生理学会大会, 神戸国際会議場, 2015
706. 田中宏和: 到達運動の運動方程式と前頭頭頂運動野の座標系, 第 120 回日本解剖学会, 第 92 回日本生理学会大会 合同大会, 神戸国際会議場・展示場, 2015
707. 大屋知徹, 武井智彦, 関和彦: 赤核脊髄路と皮質脊髄路の生み出す筋シナジー構造 生理学研究所研究会「行動システム脳科学の新展開」, 生理学研究所, 2015
708. 佐藤陽太, 船戸徹郎, 柳原 大, 佐藤 和, 青井伸也, 藤木聡一郎, 中野和司, 土屋和雄: 神経疾患に伴う姿勢制御系の変容解明のためのラットの直立実験環境の構築, 第 27 回自律分散システム・シンポジウム, 東京理科大学神楽坂キャンパス森戸記念館, 2015
709. 千葉龍介, 高草木薫, 太田順: 代償性姿勢制御における感覚情報の変化による制御の変容の定量化, 第 27 回自律分散システム・シンポジウム, 東京理科大学神楽坂キャンパス森戸記念館, 2015
710. 大平美里, 神澤明子, 森下壮一郎, 姜 銀来, 山村 修, 横井浩史: 感覚フィードバックを伴う機能的電気刺激を用いた運動機能回復応用に関する研究: 健常者における脳活動の時間的推移に関する検証, 第 27 回自律分散システム・シンポジウム, 東京理科大学神楽坂キャンパス森戸記念館, 2015

711. 近藤敏之, 北原康佑, 林 叔克, 佐伯 碧: 運動想起型 BCI のためのニューロフィードバック訓練における受動的感覚呈示の影響, 第 27 回自律分散システム・シンポジウム, 東京理科大学神楽坂キャンパス森戸記念館, 2015
712. 佐藤 和, 境 和久, 青木 祥, 端川 勉, 柳原 大: ラットモデルを用いた歩行中の障害物回避動作における延髄下オリブ核-登上線維系破壊の影響, 第 27 回自律分散システム・シンポジウム, 東京理科大学神楽坂キャンパス森戸記念館, 2015
713. 石塚駿太郎, 大島裕子, 青井伸也, 船戸徹郎, 富田 望, 辻内伸好, 伊藤彰人, 土屋和雄: 歩行・走行の関節運動に内在する低次元構造の解析, 第 27 回自律分散システム・シンポジウム, 東京理科大学神楽坂キャンパス森戸記念館, 2015
714. 戸枝美咲, 青井伸也, 船戸徹郎, 土屋和雄, 柳原 大: 筋シナジーの制御によるラット四脚神経筋骨格モデルの歩容生成とエネルギー効率の考察, 第 27 回自律分散システム・シンポジウム, 東京理科大学神楽坂キャンパス森戸記念館, 2015
715. 藤木聡一朗, 青井伸也, 柳原 大, 船戸徹郎, 佐藤陽太, 泉田 啓, 土屋和雄: ラット後肢スプリットベルト・トレッドミル歩行の計測と解析, 第 27 回自律分散システム・シンポジウム, 東京理科大学神楽坂キャンパス森戸記念館, 2015
716. 今水: 脳の仕組みの解明とブレイン・マシン・インターフェースへの応用, 第 100 回有機デバイス研究会「脳-究極の有機デバイス」【招待講演】, 静岡大学浜松キャンパス・佐鳴会館, 2015
717. 笥 李, 吾妻, 高橋, 阪本, 稲葉, 織茂, パーキンソン病における運動症状と随意運動における運動制御器の定量的指標との関係, 第 55 回日本神経学会学術大会, 福岡国際センター, 2014
718. 石川, 戸松, 笥, 遅延運動課題における小脳半球部への苔状線維入力, 第 37 回日本神経科学大会, パシフィコ横浜, 2014
719. 閔, 李, 笥, Estimation of pulling directions of wrist prime movers on the wrist with a musculoskeletal model, 第 37 回日本神経学会, パシフィコ横浜, 2014
720. 李, 織茂, 笥, Evaluation of motor symptoms of patients with Parkinson's disease in terms of three components of tracking movement of the wrist, 第 37 回日本神経学会, パシフィコ横浜, 2014
721. 石川, 笥, 歯状核ニューロンのバースト活動は脱抑制によって形成される, 第 8 回 Motor Control 研究会, 筑波大学, 2014
722. 閔, 李, 笥, 筋電図信号からの関節の総拮抗度の推定に関する研究, 第 8 回 Motor Control 研究会, 筑波大学, 2014
723. 雨宮薫, 内藤栄一, ヒトの身体的自己意識にかかわる右半球下前頭-頭頂ネットワークの役割, 第 8 回 Motor control 研究会, 筑波大学, 2014
724. 高草木 薫: 歩行のメカニズム 第 26 回自律分散システム・シンポジウム, 2014, 01 23-24, 東京 (特別講演)
725. 高草木 薫: 脳機能と運動機能の再建 旭川医科大学・市民公開講座 2014 09 19, 旭川 (口演)
726. 高草木 薫: Parkinson 病における脳深部刺激; STN-DBS vs PPN-DBS. 札幌医科大学・神経科学セミナー. 2014 10 14, 札幌 (招待講演)
727. 高草木 薫: ヒトが進化で得たものは何か? 旭川医科大学 サイエンスカフェ 2014, 10 23. 旭川 (シンポジウム)

728. 高草木 薫: 脳の高次機能を守ることができるのか? 第三回旭川医師会「認知症」市民公開講座 2014, 10, 26 旭川 (特別講演)
729. 高草木 薫: 運動麻痺と歩行障害 平成 26 年度 北海道文教大学学術研修会 2014, 11 01 札幌 (特別講演)
730. 高草木 薫: 歩行の神経機構 平成 26 年度 沖縄県理学療法士会講習会 2014, 12 07. 那覇 (特別講演)
731. 高草木 薫: 大脳基底核による運動の制御 第 6 回相模原・北里神経科学フォーラム, 2014 12 15, 相模原 (特別講演)
732. 前田貴記: “自我障害”概念の臨床的意義, 第 110 回日本精神神経学会学術総会, ワークショップ「臨床に役立つ精神病理学の基礎知識」, パシフィコ横浜 2014
733. 前田 貴記, 沖村 幸, 野原 博, 古茶 大樹, 鹿島 晴雄: 統合失調症における自我障害の症状形成論, 日本精神病理学会 第 37 回大会, 東京藝術大学, 2014
734. 野原 博, 前田 貴記, 鹿島 晴雄 一級症状の特異性について—シュナイダーの“in aller Bescheidenheit” という表現を巡って, 日本精神病理学会 第 37 回大会, 東京藝術大学, 2014
735. 沖村 幸, 前田 貴記, 加藤元一郎, 三村将, 田中昌司: 統合失調症のワーキングメモリー不全のメカニズム, 第 37 回日本神経科学大会 (Neuroscience 2014), パシフィコ横浜, 2014
736. 高草木: 脳の可塑性とロボットリハビリテーション, 第 4 回ロボットリハビリテーション研究大会, 札幌コンベンションセンター, 2014
737. 高草木: 網様体脊髄路-脊髄介在ニューロン系によるシナプス前抑制, 第 29 回日本大脳基底核研究会, 青森市文化観光交流施設 ねぶたの家 ワ・ラッセ, 2014
738. 高草木: 網様体脊髄路-脊髄介在ニューロン系による筋緊張制御の仕組み, 第 94 回北海道医学大会生理系分科会, 北海道大学, 2014
739. 高草木: 睡眠と姿勢筋緊張, 日本睡眠学会第 39 回定期学術集会, あわぎんホール(徳島県郷土文化会館), 2014
740. 高草木: 脚橋被蓋核領域と運動の制御, 関東機能的脳神経外科カンファレンス, 研究社英語センタービル, 2014
741. 高草木: 大脳基底核と運動の制御, 第 37 回日本神経科学学会 Neuroscience 2014, パシフィコ横浜 2014
742. K. Takakusaki: Spinal interneuronal organization involved in the reticulospinal control of postural muscle tone in the cat, Neuroscience 2014, パシフィコ横浜, 2014
743. 今水: 内在性脳活動からのヒトの行動予測, 日本心理学会第 78 回大会シンポジウム: 脳から知る心と体の現在・過去・未来~個性の理解から教育・スポーツ・リハビリへの応用まで~ 同志社大学今出川キャンパス, 2014
744. 今水: 計算論と神経科学からみた運動学習, セラピスト・リハビリ科医のためのニューロサイエンスセミナー2014「徹底理解! 基礎からわかる運動学習」【招待講演】, 兵庫医科大学, 2014
745. 大屋,武井,関: 運動駆動細胞群の筋シナジー創出機構, 平成 26 年度生理学研究所研究会, 生理学研究所, 2014
746. 大屋,武井,関: 赤核の回路と機能における推察, 第 8 回 Motor Control 研究会, 筑波大学, 2014
747. 八幡, 森本, 橋本, 柴田, 今水, 福田, 川久保, 桑原, 黒田, 山田, 加藤, 佐々木, 渡邊, 笠井, 川

- 人: 安静時脳機能磁気共鳴画像を用いた機械学習による自閉症スペクトラム障害の神経基盤研究, 第37回日本神経科学大会, パシフィコ横浜, 2014
748. 荻原, 齊藤, 武井, 関: 3次元筋骨格モデルに基づくニホンザル精密把握動作の逆力学解析, Inverse dynamic analysis of precision grip in the Japanese macaque based on a three-dimensional musculoskeletal model., 第37回日本神経科学大会, パシフィコ横浜, 2014
749. 大屋, 武井, 関: 異なる下行路系から生み出される筋投射構造と筋シナジーへの収斂 第37回日本神経科学大会, パシフィコ横浜, 2014
750. 中隼, 村田, 稲瀬: トレッドミル歩行中のニホンザル補足運動野の神経細胞活動 第37回日本神経科学大会, パシフィコ横浜, 2014
751. 山下, 川人, 今水: 内在的ネットワークの結合性から個人の作業記憶訓練の学習プラトーを予測する 第37回日本神経科学大会, パシフィコ横浜, 2014
752. 温文, 山下淳, 浅間一: 連続制御における課題のパフォーマンスが運動主体感に与える影響, 日本基礎心理学会第33回大会, 首都大学東京南大沢キャンパス, 2014
753. 山川博司, レクオク ズン, 山下淳, 浅間一: 生理計測に基づくカーレーサのストレス推定, 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2014 (SSI2014), 岡山大学, 2014
754. 藤木聡一郎, 青井伸也, 柳原大, 船戸徹郎, 富田望, 荻原直道, 泉田啓, 土屋和雄: ラットの神経筋骨格モデルに基づく後肢スプリットベルト・トレッドミル歩行, 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2014 (SSI2014), 岡山大学, 2014
755. 石川雄己, 安琪, 中川純希, 戸島美智生, 安井哲郎, 岡敬之, 井口はるひ, 真野浩志, 芳賀信彦, 山下淳, 浅間一: 平面法則と主成分分析を用いた変形性膝関節症患者的歩行解析, 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2014 (SSI2014), 岡山大学, 2014
756. 姜平, 千葉龍介, 高草木薫, 太田順: Realization of Biped Stance in Consideration of Neurological Time Delay through Forward Dynamics Simulation, 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2014 (SSI2014), 岡山大学, 2014
757. 亀田瑞貴, 近藤敏之: ERD 検出にフリッカ刺激が及ぼす影響, 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2014 (SSI2014), 岡山大学, 2014
758. 片岡一平, 近藤敏之, Truong Quang Dang Khoa: 電極の位置ずれによる EMG 変化を考慮した筋電制御, 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2014 (SSI2014), 岡山大学, 2014
759. 中屋敷弘晟, 近藤敏之: BCI ニューロリハビリテーションに向けた運動負荷時事象関連脱同期の分析, 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2014 (SSI2014), 岡山大学, 2014
760. 白石匠, 高草木薫, 千葉龍介, 太田順: 小脳部分除去ラットによる歩行動作・歩行速度・平衡機能の定量的評価手法の検討, 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2014 (SSI2014), 岡山大学, 2014
761. 清水雄貴, 齋藤晴紀, 杉正夫, 大平美里, 森下壮一郎, 中村達弘, 加藤龍, 横井浩史: 機能的電気刺激時の筋張力の表面筋電図を用いた推定法, 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2014 (SSI2014), 岡山大学, 2014
762. 森下壮一郎, 佐藤圭太, 渡辺秀典, 西村幸男, 伊佐正, 加藤龍, 中村達弘, 横井浩史: 上腕電動義手のブレイン-マシン・インタフェース制御のための周期的運動中のサル硬膜下電位からの筋電位推定,

計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2014 (SSI2014), 岡山大学, 2014

763. 村田 哲, ミラーニューロンと身体性, 第 24 回認知リハビリテーション研究会, 研究者英語センター, 2014
 764. 太田 順, 第 20 回創発システムシンポジウム, 【基調講演】, 創発, 移動知, そして身体性システムへ, 長野, 2014 年 8 月 31 日
 765. 渋谷 賢, 大木 紫: 拡張した仮想身体の操作の時間遅れが身体性自己意識と身体表現に及ぼす影響, 第 6 回多感覚研究会, 広島大学, 2014
 766. 渋谷 賢, 大木 紫: 仮想身体の操作による身体性自己意識と身体表現の変化, 第 6 回多感覚研究会, 広島大学, 2014
 767. Eiichi Naito: Introduction for Elsevier-NSR Symposium entitled Somatosensory: Fundamental sensory system for bodily alert, motor control, development, and self-consciousness, Neuro2014, パシフィコ横浜, 2014
 768. Kondo, T. and Sakamoto, T.: Effect of passive motor experience on adaptation of body schema, 計測自動制御学会ライフエンジニアリング部門シンポジウム 2014, 金沢大学, 2014
 769. 渋谷 賢, 大木 紫: 拡張した仮想身体の操作による身体性自己意識と身体表現の変化, 第 37 回日本神経科学学会, パシフィコ横浜, 2014
 770. 内藤栄一: ネイマールの脳から見える長期運動練習に伴う運動野の効率的運動制御, 第 8 回 MotorControl 研究会, 筑波大学, 2014
- 雨宮 薫, 内藤栄一: ヒトの身体的自己意識に関わる右半球下前頭-頭頂ネットワークの役割, 第 8 回 MotorControl 研究会, 筑波大学, 2014

図書

1. 村田哲 望月圭, 行為・動作の生理学基盤 「行為と動作の障害」第一章 2, 新興医学出版社, 2019
2. 高草木 薫, 姿勢・筋トーン (筋緊張) と小脳障害での低トーン 運動失調の診方, 考え方 -小脳と脊髄小脳変性症-, 中外医学社, 2017
3. 高草木 薫, 高橋 未来, 千葉 龍介, Pattern Generator ととしての網様体 Clinical Neuroscience, 中外医学社, 2017
4. 太田・内藤・芳賀 (編) 「身体性システムとリハビリテーションの科学 1 運動制御」, 東京大学出版会, 2018
5. 近藤・今水・森岡 (編) 「身体性システムとリハビリテーションの科学 2 身体認知」, 東京大学出版会, 2018
6. 村田 哲, 望月 圭, 行為・動作の生理学基盤 行為と動作の障害 第一章 2 日本高次脳障害学会編, 新興医学出版社, 2019
7. 森岡 周, コミュニケーションを学ぶ, 協同医書出版社, 2018
8. 今水 寛, 日本基礎心理学会 (監修) 「基礎心理学実験法ハンドブック」第 5 部 学習と行動 5.5.2 知覚-運動学習, 朝倉書店, 2018
9. 笥 李, 鏡原, 本多, 吉田, 近藤, 三苦, 運動失調のみかた, 考え方-小脳と脊髄小脳変性症: 文字のトラッキング, 中外医学社, 2017
10. 金子文成, 脳と身体の機能的つながり -脳が受けるスポーツの影響- 第 1 回 脳の形態はスポーツ競

技の特性を反映するか?, 臨床スポーツ医学, 文光堂, 2017

11. 金子文成, 脳と身体の機能的機能的つながり -脳が受けるスポーツの影響- 第2回 皮質上身体再現の変容からみたスポーツによる脳の変容, 臨床スポーツ医学, 文光堂, 2017
12. 金子文成, 脳と身体の機能的つながり -脳が受けるスポーツの影響- 第3回 高齢者における脳の変容 -海馬の形態と認知機能に対する運動の影響-, 臨床スポーツ医学, 文光堂, 2017
13. 金子文成, 脳と身体の機能的つながり -脳が受けるスポーツの影響- 第4回 運動イメージの脳内再生, 臨床スポーツ医学, 文光堂, 2017
14. 金子文成, 脳と身体の機能的つながり -脳が受けるスポーツの影響- 第5回 運動イメージの脳内再生_トレーニングとパフォーマンス-健康な被験者でのトレーニング効果-, 臨床スポーツ医学, 文光堂, 2017
15. 金子文成, 脳と身体の機能的つながり 脳が受けるスポーツの影響 第6回 外傷や身体不活動で起こる脳神経回路の機能的変化ー運動イメージ脳内再生の視点からー, 臨床スポーツ医学, 文光堂, 2017
16. 横井浩史, 矢吹佳子, 東郷俊太, 姜銀来, 加藤龍, 杉正夫, 第2章「電気刺激による運動と感覚の再生」, 『オーグメンテッド・ヒューマン Augmented Human—AI と人体科学の融合による人機一体、究極のIFが創る未来』, (株) エヌ・ティー・エス, 2018
17. 大脇大, 石黒章夫, ロボット制御学ハンドブック 17章 二足歩行ロボット 3.4 受動走行, 近代科学社, 2017
18. 今水 寛, 運動学習・適応, バイオメカニズム学会 (編)「手の百科事典」 機能編, 第10章, 朝倉書店, 2017
19. 村田 哲, 道具操作, バイオメカニズム学会 (編)「手の百科事典」 機能編, 第14章, 朝倉書店, 2017
20. 近藤敏之, リズム運動, バイオメカニズム学会 (編)「手の百科事典」 機能編, 第16章, 朝倉書店, 2017
21. 内藤栄一, 運動がうまくなりたい, 朝日新聞出版 第1-4章 pp. 44-55, 2017年3月30日
22. 内村直之, 植田一博, 今井むつみ, 川合伸幸, 嶋田総太郎, 橋田浩一, はじめての認知科学, 新曜社, 2016
23. 信迫悟志, 高次脳機能障害に対する理学療法 失行に対する理学療法, 文光堂, 2016
24. 信迫悟志, 理学療法評価学 高次脳機能障害の評価, 文光堂, 2016
25. 出江紳一, 訪問リハビリテーション7つの極意, 法研, 2016
26. 大内田裕, 出江紳一, 脳内身体表現に着目したリハビリテーション, 先端医療技術研究所, 2016
27. 阿部浩明, 高次脳機能障害に対する理学療法, 文光堂, 2016
28. 阿部浩明, 大畑光司, 脳卒中片麻痺者に対する歩行リハビリテーション, メジカルビュー, 2016
29. Akio Ikeda, Subdural EEG in frontal lobe epilepsy. Invasive Studies of the Human Epileptic Brain: Principles and Practice of Invasive Brain Recordings and Stimulation in Epilepsy, Oxford University Press, 2015
30. Matsumoto R, Kunieda T, Cortico-cortical evoked potential mapping (Section 5: Human Brain Mapping), Oxford University Press, 2015
31. 前田貴記, 沖村宰, 野原博, 【精神医学の基盤 3】精神医学におけるスペクトラムの思想. 「統合失調症におけるスペクトラムというメタファーの導入の意義と問題点」, 学樹書院, 2016

32. 森岡周, リハビリテーションのための脳・神経科学入門第2版, 協同医書出版社, 2016
33. 前田貴記, 精神医療・臨床心理の知識と技法 「記憶障害」, 医学書院, 2016
34. 内藤栄一, イメージトレーニングで動作定着と向上を図ろう, ベースボールマガジン社, 2016
35. 守田知代, 内藤栄一, Neuroimaging から見た発達研究, 金子書房, 2016
36. 水口暢章, 川人光男, 内藤栄一, ブレインマシーンインターフェース, 朝倉書店, 2016
37. 上原一将 花川隆, 「感覚入力で挑む 感覚運動機能回復のための理学療法アプローチ」, 「Chapter 8: 運動イメージの脳内再生とトレーナビリティー -臨床応用のために運動イメージの脳内神経基盤を理解する-」, 文光堂, 2016
38. 細田 耕, 柔らかかヒューマノイド, 化学同人, 2016
39. 阿部浩明, 高次脳機能障害に対する理学療法, 文光堂, 2016
40. 水口伸章, 川人光男, 内藤栄一, 情動と運動-スポーツとこころ 運動と情動が生じるとき ブレインマシーンインターフェース, 朝倉書店, 2016
41. 森岡周, 発達を学ぶ 人間発達学レクチャー, 協同医書出版社, 2015
42. 森岡周, 神経系理学療法, 概説理学療法第2版, 2015, pp117-125
43. 大住倫弘, 森岡周, 臨床思考を踏まえる理学療法プラクティス 感覚入力で挑む 慢性疼痛の場合, 文光堂, 2016, pp.117-127
44. 高草木 薫: 運動麻痺と皮質-網様体投射 脊椎脊髄ジャーナル 三輪書店 Vol. 27 (2); pp 99-106, 2014
45. 高草木 薫: 姿勢・運動制御の神経学的基盤 臨床神経リハビリテーション (印刷中)
46. 高草木 薫・中陸克己・千葉龍介・村田哲: 姿勢・歩行の制御 Clinical Neuroscience 2015 33; 740-744, 中外医学社
47. 谷口真・高草木薫・篠崎宗久・上山勉・加藤健治・澤田真寛: 皮質脊髄路の基礎知識 脊髄外科 2015 29 (3), 267-278.
48. Ichiro Tsuda, Cognitive Phase Transitions in the Cerebral Cortex-Enhancing the Neuron Doctrine by Modeling Neural Fields, Chap. 20, pp.229-237 Studies in Systems, Decision and Control Vol. 39, Springer, 2015
49. 津田一郎, 心はすべて数学である, (株)文芸春秋, 2015
50. 花川 隆 (分担), 神経科学の最前線とリハビリテーション, 医歯薬出版, 2015
51. 花川 隆, ブレイン・マシン・インターフェース研究の最新動向. Annual Review 神経 2016, 中外医学社, 2016
52. Hanakawa T, Clinical Systems Neuroscience. Neurodegenerative Disorders as Systemic Diseases, Springer Japan, 2015
53. Matsumoto R, Kunieda T Cortico-cortical evoked potential mapping (Chapter 46, Section 5: Human Brain Mapping). Oxford University Press 2016 (in press)
54. 内藤栄一, 南部功夫, 廣瀬智士: イメージトレーニングによる運動学習と脳内機構 体育の科学, 2016, 66 巻 1 月号, 11-18
55. G Ganesh, T Ikegami: Beyond Watching: Action Understanding by Humans and Implications for Motion Planning by Interacting Robots Dance Notations and Robot Motion, Springer, 2016
56. Tanaka H, Katura T and Sato H: Data analysis method for neuroimaging data: Task-related component analysis and its applications to fNIRS data, In Neurophotonics and Brain Mapping, Chen, Y. and Kateb, B. Ed. CRC

Press

57. 出江紳一: 回復の原理と身体性システム科学, BIO Clinica 30 (12) 13, 20151031
58. 高草木 他: 睡眠化学 第 10 章 覚醒から意識・行動へ 化学同人 印刷中
59. H. Imamizu: Changes in human brain networks and spontaneous activity caused by motor and cognitive learning, In K. Kansaku, L. G. Cohen, and N. Birbaumer (Eds.) "Clinical Systems Neuroscience," pp. 331-341, Springer, 2015
60. E. Oztop, E. Ugur, Y. Shimizu, and H. Imamizu: Humanoid brain science, In G. Cheng (Ed.) "Humanoid Robotics and Neuroscience: Science, Engineering and Society," pp. 29-48, CRC Press, 2015
61. 高草木 他: Annual Review 神経 2015, オレキシンと姿勢制御, 中外医学社, 2015
62. 前田貴記 DSN-5 を読み解く 5, 統合失調型パーソナリティ障害 中山書店 2014
63. 内藤栄一、南部功夫、廣瀬智士, 脳内表現, 真興交易医書出版部, 2014
64. 内藤栄一、廣瀬智士、南部功 ニュー運動生理学(I) (I) 第 1 章 運動と中枢神経 2)脳内表現 真興交易 (株) 医書出版部 2014
- 65.

産業財産権

出願

1. 近藤敏之: 表示制御装置及び表示制御プログラム, 特開 2018-110672, 2018.
2. 稲邑哲也, 浅間一, 太田順, 大内田裕, 出江紳一: リハビリテーション支援装置及びリハビリテーション支援装置の作動方法, 特許第 6381097 号, (特願 2013-178885), 登録日平成 30 年 8 月 10 日
3. 出願番号: 特願 2018-092543, 発明者: 鎌田恭輔, 竹内文也, 出願年月日: 平成 30 年 5 月 11 日
4. 鎌田恭輔: 特許出願「光感受性物質の撮影画像処理システム及び光感受性物質の撮影方法」出願番号: 特願 2018-139071, 発明者: 鎌田恭輔、久野恵梨, 出願日: 平成 30 年 7 月 25 日
5. 鎌田恭輔: 国際特許出願「手術顕微鏡搭載式蛍光分光装置による腫瘍性病変部診断システム」, 出願番号: PCT/JP2016/065272, 発明者: 鎌田恭輔, 出願日: 2016/5/24
6. 前田貴記: PCT 国際特許出願「統合失調症を診断するための方法および装置: Sense of agency task (Keio method) および Temporal order judgment task (Keio method)」 (PCT/JP2016-87182)
7. 鎌田恭輔: 特許出願「手術顕微鏡搭載式蛍光分光装置による腫瘍性病変部診断システム」, 出願番号: 特願 2015-112179, 発明者: 鎌田恭輔, 出願日: 2015/6/2
8. 笥 慎治: 産業財産権・国内特許出願「運動機能解析システム及びそのシステムの作動方法」 (PCT/JP2014/061972 に基づく日本国特許出願) (平成 27 年 8 月 25 日) 【出願番号】特願 2015-514865 【発明者】笥 慎治, 李 鍾昊, 織茂智之, 稲葉 彰, 岡田安弘
9. 笥 慎治: 産業財産権・国際特許出願「運動機能解析システム及びそのシステムの作動方法」 (PCT/JP2014/061972 に基づく US 特許出願) (平成 27 年 10 月 27 日) 【出願番号】 14/787,411 【発明者】笥 慎治, 李 鍾昊, 織茂智之, 稲葉 彰, 岡田安弘
10. 笥 慎治: 産業財産権・国際特許出願「運動機能解析システム及びそのシステムの作動方法」 (PCT/JP2014/061972 に基づく EP 特許出願) (平成 27 年 11 月 10 日) 【出願番号】 14792013.6 【発明者】笥 慎治, 李 鍾昊, 織茂智之, 稲葉 彰, 岡田安弘
11. 前田貴記: 特許出願「統合失調症を診断するための方法および装置: Sense of agency task (Keio method)

および Temporal order judgment task (Keio method)」(特願 2015-245979)

取得

1. 鎌田恭輔：特許取得「血管内血流動態の画像処理方法及びシステム」, 特許番号：特許第 5953437 号, 発明者：鎌田恭輔、林英昭, 登録日：平成 28 年 6 月 17 日

その他

メディア報道

1. 2019 年 1 月 8 日に A01-1 項目今水教授らの研究が「複数の精神疾患における記憶力の低下を共通のモデルで予測することに成功」としてプレスリリース(https://www.atr.jp/topics/press_190108.html)され, 京都新聞デジタル版 (1 月 8 日 <https://www.kyoto-np.co.jp/environment/article/20190108000123>), 京都新聞 (1 月 9 日朝刊 23 面) で紹介された.
2. 2018 年度国際福祉機器展にて稲邑准教授が研究成果デモンストレーションを実施.
3. 2018 年 11 月 29 日 NHK NEWS にて, 森岡 周 教授らの失行症研究が取り上げられた (https://www3.nhk.or.jp/news/web_tokushu/2018_1129.html).
4. 2017 年 10 月 31 日の北海道新聞と、2017 年 11 月 6 日の m3.com に鎌田恭輔教授が、難治性てんかんの一つである側頭葉てんかんの外科手術で、人の顔や色を識別する場所の同定と電気刺激で顔・色を患者の視角誘発に成功した記事が掲載された。
5. 2017 年 4 月 2 日版の日本経済新聞 (30 面). 巧みなアスリート脳 動作処理に余裕・美技生む, 内藤博士と古屋博士がネイマールやピアニストの巧みな運動制御の秘密を解説.
6. 2017 年 1 月 17 日版の東京大学新聞, 研究室散歩@ロボット工学「太田順教授」の記事において, 「身体性システム科学」が紹介された.
7. 2016 年 11 月 12 日開催の日本リハビリテーション医学会市民公開講座 (於旭川医科大学) で共同研究を行っている北見工業大学電気電子工学科准教授 橋本泰成氏が「ブレイン・マシン・インターフェースを応用した最先端リハビリテーション工学」の題名で講演. 11 月 16 日の北海道新聞 道北地方版に講演の記事が掲載された.
8. 2016 年 9 月 18 日, A02-1 項目内藤栄一博士 (CiNet) が, フジテレビ報道番組「新報道 2001」でブラインドサッカー選手の脳の可塑的变化について解説した.
9. 2016 年 8 月 19 日に, A03-5 項目宮田教授らの研究が, 「成熟した神経回路を維持する仕組みを解明～自閉症の病態解明に期待～」としてプレスリリースされ, 朝日新聞デジタル版(8 月 19 日) 日刊工業新聞(8 月 22 日) 科学新聞(8 月 26 日) 日経産業新聞(8 月 30 日)等で紹介された.
10. 2016 年 9 月 5 日 (月) の朝日新聞 朝刊 (19 面) に【Rio2016 PARALYMPICS 変革のパラアスリート (下)】奇跡の進化論 として A02-1 項目内藤栄一博士 (CiNet) の研究が紹介された.
11. 2016 年 6 月 19 日 読売新聞朝刊 23 面 スポーツの「スポーツ新戦術論」で, 巧みに運動を制御する脳の仕組みを研究する研究者として A02-1 項目内藤栄一博士 (CiNet) が紹介された.
12. Newton2016 年 8 月号 (6 月 25 日発売) の, シリーズ脳とニューロン第 4 回運動の脳科学ー巧みに体を動かすには? で, A02-1 項目内藤栄一博士 (CiNet) が, 運動の達人 (ネイマール) の脳の運動制御の特徴や走行を支える筋シナジー制御をわかりやすく解説した (p38-43).

13. 2016年3月6日午後11:30～, NHKEテレ「サイエンスZERO」で, C02-1研究項目の花川隆博士(国立精神・神経医療研究センター), 古屋晋一准教授(上智大学)らのグループが取り組んでいる, ジストニアへのtDCS治療介入の試みが紹介された.
14. 2016年2月18日に, C03-2研究項目の島准教授(横浜国立大学)らのダイレクトリハビリテーションに関する研究が, NHK「NEWS WEB」WEB特集で, 未来の五輪を東京で(“技”を“コピー”する!?)ヒトからヒトへ技を伝える技術として紹介された.
15. 2015年12月9日に, A01-1研究項目の今水教授(東京大学, ATR)らの研究(短期と長期の運動記憶の画像化に成功 早く学んですぐ忘れる・ゆっくり学んで長く記憶 その違いはどこに?)がプレスリリースされた.
16. 2015年9月3日に, BS日テレ 木曜スペシャル 第35回「すぐに役立つ! 錯覚ミステリー!」の中で, C01-1研究項目の稲邑准教授(国立情報学研究所)のグループが開発している「幻視痛みリハビリシステム」が紹介された.
17. 2015年3月17日に, デンマークのラジオ放送局 Danish Broadcasting Corporation の科学番組で, 太田領域代表のインタビューが放送された.
18. 2015年2月2日付の朝日新聞朝刊「科学の扉」に, 太田領域代表, 内藤博士, 出江教授のインタビュー記事が掲載された.
19. A01項目の今水寛博士らの研究成果(安静にしているときの脳活動から作業記憶トレーニング効果の個人差を予測することに成功～認知機能を回復させる方法の開発に大きく前進～)が, 2015年1月6日付の朝刊各紙(日本経済新聞, 毎日新聞, 産経新聞, 京都新聞, 中日新聞)に掲載された.

研究成果

本領域では、脳内身体表現の神経機構とその長期的変容メカニズムを明らかにし、リハビリテーション介入に応用することを目的として設定した。このため、システムの振る舞いを数理モデルとして整合的に記述できるシステム工学（B班）を仲立ちとして脳科学（A班）とリハビリテーション医学（C班）を融合することを試みた。これにより、運動制御と身体認知を統合的に理解し、真に効果的なりハビリテーション法を確立する「身体性システム科学」なる新たな学問領域の創出を目指してきた（図1）。

先に述べた設定目的の達成に向けて、本領域では上記の3つの班に、9つの研究項目（A01, A02, A03, B01, B02, B03, C01, C02, C03）を設定し、研究を進めてきた。

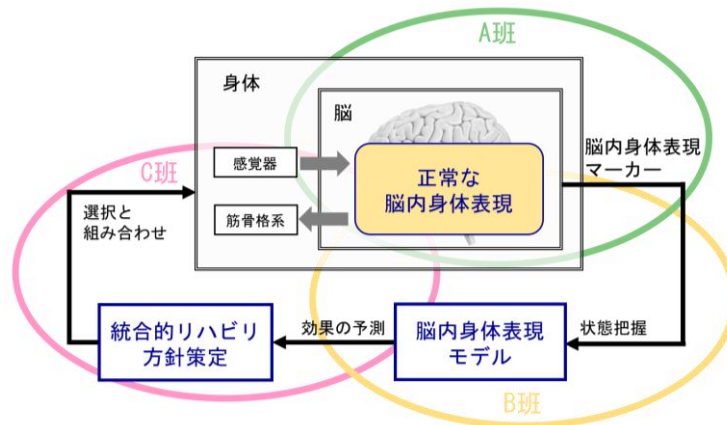


図1 モデルベーストリハビリテーションの実現に向けた研究体制

研究項目 A01・A02 は、それぞれ身体認知（運動主体感や身体保持感）と運動制御（筋シナジー制御、先行性姿勢制御）の観点から介入神経科学的手法を用いた実験をヒトおよびサルで展開し、脳内身体表現の神経機構ならびにその変容過程の解明を試みた。同時に、脳内身体表現を構成する神経活動が表現する情報を**脳情報復号化技術**で明らかにし、この生体信号を脳内身体表現マーカーとして抽出する方法を提案してきた。加えて、運動学習や身体変容などに伴って動的に変化する脳内身体表現の slow dynamics の解明に取り組んだ。

研究項目 B01・B02 は、神経生理学的実験データ、リハビリテーション中の臨床データに基づき、脳内身体表現の活動(fast dynamics)と変容(slow dynamics)のダイナミクスを各々時定数の異なる力学系としてモデル化することに取り組んだ（脳内身体表現モデル）。

研究項目 C01・C02 は、脳内身体表現マーカーを活用することでリハビリテーション効果の定量化に取り組んだ。また、脳内身体表現モデルと統合することで、感覚運動機能の最大化に向けたリハビリ方針の策定を行うモデルベーストリハビリテーションを実践し、介入の帰結予測を試みた。

研究項目 A03・B03・C03 は公募班のための研究項目である。

研究目的の達成状況について、以下に研究項目ごとに記述する。

計画研究 A01-1 研究代表者 今水 寛（東京大学）

脳内身体表現の認知的側面としての身体意識（運動主体感・身体保持感）を主な対象とし、その神経基

盤解明し、介入操作を行うための研究を進めた。この領域が始まる前は、前頭-頭頂ネットワークが運動主体感・身体保持感に関連することは解っていたが、身体意識を客観的に評価できる脳活動の指標（マーカー）が抽出できるかは不明であった。研究代表者らのグループは、脳情報デコーディングの手法を用いて、運動中の fMRI 脳活動パターンから、運動主体感の基礎となる「運動の自他帰属」を予測する方法を開発した。これにより、右下頭頂小葉と SLFIII と呼ばれる連合線維束の周辺の活動パターンが、運動主体感のマーカーとして利用できることを明らかにした。また、右下頭頂小葉に非侵襲脳刺激を加えることで、感覚運動情報と運動主体感の関係に介入・操作することに成功した。リハビリ現場でも利用可能なマーカーを探索するため、身体保持感が脳波のどのような成分に反映されるかを調べ、身体保持感が誘発されると運動観察中の μ 波が抑制されることを発見した。サルの電気生理実験では、頭頂葉の体性感覚野のニューロン活動が、運動に伴う随伴発射の入力によって影響を受ける現象を記録した。身体意識にとって重要な随伴発射による感覚抑制の神経基盤をニューロンレベルで捉えた。統合失調症患者では、右下頭頂小葉と尾状核の機能結合が、健常者よりも低下していることを発見し、疾患における運動主体感の変容の一要因であることを示すとともに、運動主体感の変容のマーカーとして利用できる可能性を示した。この研究を基礎として、運動主体感の変容を回復させることを目的としたスマートフォン・アプリを開発した。

計画研究 A02-1 研究代表者 関 和彦（国立精神・神経医療研究センター）

筋シナジー制御器の作動原理と身体改変に対する筋シナジー制御器再形成過程の神経基盤（slow dynamics）の解明を目標に5年間の研究を遂行した。筋シナジーは半世紀前に提唱された古い概念であるが、当該領域研究開始前は、その脳神経系での動作原理や身体の変容に対する再形成過程はほとんど未知であった。そこで、サルを対象とした神経生理学的実験から脊髄、中脳、小脳、及び大脳皮質における筋シナジーの神経表現を明らかにすると同時に、各領域間での動作原理を明らかにした（fast dynamics）。また腱付け替え手術によって人工的な身体改変を施した際の筋シナジー構造の長期的な変容の時定数を明らかにした（slow dynamics）。例えば、小脳は順モデルと等価な状態予測を行うこと筋シナジー制御器であることを報告した。またヒトを対象とした MRI 実験では、新しいデコーディング法を開発し、ヒトの運動準備脳活動から動員されている筋シナジーの種類や反応時間を予測することに成功した。これらの研究を基礎にして、筋シナジーを用いた脳卒中患者の重篤度を評価するあらたな診断方法を提案した。

計画研究 A02-2 研究代表者 高草木 薫（旭川医科大学）

動物実験とヒトにおける研究によって、先行性姿勢制御（予期的姿勢調節）は脳内身体表現に基づく姿勢筋シナジー生成プログラムによって実現されるとの作業仮説の検証を試みた。近畿大学では、2足歩行能を獲得したニホンザルからの大脳皮質細胞の解析によって、4足から2足への歩容変化に伴う先行性姿勢制御には、補足運動野を含む運動関連領野と頭頂連合野の多種感覚統合領域が関与するという新しい知見を得た。また旭川医大における研究では、① 脳における多種感覚統合機能がヒトの垂直立位姿勢（姿勢垂直性）の維持と予期的姿勢調節の双方に関与すること、② ネコのリーチング動作に伴う姿勢調節の解析によって、先行性姿勢制御の本質的メカニズムは、「随意運動における伴う最終的な姿勢状態を自己身体と環境との相互作用から予測する Feed-forward 制御」であること、③ このプロセスには、頭頂連合野の多種感覚統合領域から運動関連領野に至る皮質内情報処理系が重要な役割を担うこと、④運動関

連領野から入力を受ける網様体脊髄路系が、先行性姿勢制御の姿勢筋シナジー生成に関与すること、等を見出した。これらの成績は、「動物種に関わらず、“リアルタイムに脳内身体表現を生成する前頭頭頂ネットワークの活動”と“皮質運動関連領野から脳幹網様体～脊髄に至る投射系”が先行性姿勢制御に関与すること」を示唆する。さらに B02-1 との連携によって、多種感覚に基づく立位姿勢維持のメカニズムを説明可能な数理モデルの構築に至った。従って、先行性姿勢制御は脳内身体表現マーカーとして有用であること、そして脳損傷に伴う姿勢制御異常（転倒）の背景には上記神経機構の機能異常が存在することが明らかとなった。

計画研究 B01-1 研究代表者 浅間 一（東京大学）

感覚統合や運動企図が身体意識を修飾するメカニズムの構成論的解明および身体意識（身体保持感、運動主体感）のモデル化に取り組んだ。また、それらを定量化する生理的特徴量（マーカー）を同定した。さらに、運動制御モデルの構築とそれに基づくモデルベーストリハビリテーションの方法論について探究した。特に、身体意識のモデル化に向けて、ラバーハンド実験などに見られる感覚統合や高次の認知過程が身体意識に及ぼす影響を調査する心理実験を行い多くの成果を得た。これにより、モデル構造の推定（どのパラメータが関連するか）、定式化、実データとの関連付けを行った。加えて、脳波の特徴量（信号源推定、準備電位、事象関連脱同期）が、運動企図・身体図式・身体意識を定量化する脳内身体表現マーカーになり得る可能性を検証した。さらには、空間ベクトル表現に基づく運動野神経活動の数理モデルや、統計的学習理論による統合失調症の計算論モデル構築を行い、実験データとモデルの整合性を評価するとともに、逆にモデルから推察される実験仮説を心理物理実験、脳計測実験により検証した。

計画研究 B02-1 研究代表者 太田 順（東京大学）

ラットや人の実験に基づいた、筋シナジーベースの起立姿勢制御・歩行モデルの構築を行った。ヒトの姿勢制御の fast dynamics に対し、筋緊張制御を加えた立位維持のための姿勢制御モデルを構築した。筋骨格モデルを用いたシミュレーションにより、当該制御モデルが床面移動などの外乱に対しても妥当であることを確認した。更に当該制御モデルと筋骨格モデルと組み合わせた predictive simulator を構築したことでヒトの立位姿勢における支配的パラメータを推定可能となり、slow dynamics の解析に対する展望となった。更に歩行に関して、感覚情報に基づく筋シナジーの反射的制御を fast dynamics、学習的制御を slow dynamics としてモデル化した制御系を構築した。この妥当性の検証に、左右分離型トレッドミル上で歩行するラットの実験系を構築し、左右のベルト速度を変化させつつ、運動学・筋活動データを計測した。構築した制御系とラットの筋骨格系のモデルを統合した動力学シミュレーションを行い計測データと比較した結果、環境変化後に左右の速度差に応じた肢間の運動の即時的な位相シフト、そしてその後ゆっくりと元に戻る様子が双方で見られ、モデルの妥当性が示唆された。

計画研究 C01-1 研究代表者 出江 紳一（東北大学）

視覚刺激検出反応課題で得られる身体に向けられる注意量（身体特異性注意）を脳内身体表現の間接マーカーとして定量的に計測する方法を確立した。この手法を脳卒中片麻痺患者および四肢切断者に適用し、身体特異性注意と運動機能、患肢使用頻度との関係を縦断的観察研究にて検討した。片麻痺者の麻痺肢は健常者が通常身体に対して向けるような注意が低下した状態にあり、介入により運動機能が改善

するとそれに伴い麻痺肢に対する注意も向上することを明らかとした。一足下肢切断者の義足に向けられる注意量にも歩行習熟に伴う同様の变化を認め、これらのことから身体特異性注意が患肢を自己身体の一部と認識するような適応的变化を反映する指標となり、予後の予測に活用できることを示した。また、多種感覚統合機能 (A01-1) を利用した没入型仮想空間 (VR) におけるモデルベーストリハビリテーションのための対象動作のプロトタイプを構築し、患者の身体保持感および運動主体感を効果的に誘導するためのパラメータを探索する実験を実施した。実際に行っている動作を計測しながら VR を用いて動作を誇張し、HMD を用いてリアルタイムに視覚呈示することで運動出力への影響を検証するオーグメンテーションシステムを臨床現場に導入するための準備が完了した。

計画研究 C02-1 研究代表者 芳賀 信彦 (東京大学)

筋シナジーを計測するための機器整備を行い、さらに統合的な脳機能解析システムの構築を進めた。先天性無痛無汗症、局所性ジストニア、パーキンソン病、脳卒中を対象とした研究環境を構築し、感覚入力への介入として感覚モダリティ変換装具、神経介入として経頭蓋直流電気刺激や機能的電気刺激等を使用し、効果を評価しながら改良を加えた。また、手指巧緻運動の障害を示す疾患として音楽家のジストニアを対象とし、キネマティクス、筋電図、脳波、MRI などの多次元計測を行うシステムを A02-1 とともに確立した。先天性無痛無汗症では一部の患者で感覚モダリティ変換装具により筋シナジーが整い、歩容が安定するとともに足圧が低下することを見出した。局所性ジストニアでは、安静時機能結合 MRI の解析により、ピアニストの局所性ジストニアでは大脳基底核の機能結合過剰になっていること、経頭蓋磁気刺激計測により短潜時皮質内抑制と皮質内促進の双方が興奮性上昇の方向にシフトしており、その程度が運動タイミングの正確さと相関があることを見出した。アンブシュアジストニアの fMRI 計測では、口周囲表象に関わる体部位局在が崩れていること、運動野、大脳基底核および小脳の課題中の活動が周波数分析によるジストニアの症状と相関することを見出した。パーキンソン病では、特徴的な「すくみ足」に対応した筋シナジー制御の変容を通して歩行を評価できるシステムを、B03-1 との連携で確立した。また脳波律動による brain-computer interface の成績が抗パーキンソン病薬剤の on/off の影響を受けることを見出した。脳卒中では、慢性期片麻痺患者に対するし感覚モダリティ変換装具の効果を C01 班と協力して検証し、介入群で歩行中の全身角運動量の範囲が縮小するという傾向を得た。また脳卒中による筋シナジー制御異常の研究のため多点電極と二相性のバースト変調矩形波とを用いる FES システムの開発を進めた。

以上のように、各計画研究とも当初の目標を十分に達成したといえる。計画研究によっては、研究項目を跨ぐような当初の目標以上の成果を得たものもあった。例えば、A01 では運動記憶が前頭-頭頂ネットワークの活動を経て定着することを可視化し、運動制御と身体認知を繋ぐ知られざる前頭-頭頂ネットワークの重要性を証明した。また、A02-1 ではヒトの大脳-小脳連関の解剖学的・機能的成熟過程の可視化や身体認知を司る右半球下前頭-頭頂 SLFIII ネットワークの成熟過程およびこのネットワークの自己意識への関与など運動制御と身体認知を司る脳内ネットワーク形成における slow dynamics の可視化に成功した。

公募班の成果も目覚ましく、臨床医療現場ですぐに応用可能なリアルタイム脳機能局在法の開発、脳波の時系列データからの筋シナジー推定法の開発、代替感覚を利用した脳内身体表現への介入法の開発などに成功した。公募班と計画班の連携においても多く成果が得られた。例えば、A03-6 (公募研究後期)

がマカクサル脳損傷後の機能回復において「回復の谷」という slow dynamics 現象を発見、この現象を B01-1 が数理モデル化し、回復過程のどのタイミングでリハビリテーション介入をすると「回復の谷」を回避した効果的なリハビリテーションが可能になるかという、モデルベーストリハビリテーションの礎を築いた。また、A02-1 がマカクサルで筋シナジー制御に関する脳内身体表現と筋活動との詳細な関係を解明し、B02-1、B03-1（公募研究後期）が筋シナジー制御モデルおよび臨床でも簡単に使える筋シナジー評価法を開発、C03-1（公募研究後期）で、脳卒中患者において、この評価法が、従来型の運動機能再建リハビリ評価法（Fugl-Meyer 法）よりも優れた脳卒中リハビリマーカーとなりうることを示した。これら一連の成果は、国内外の多くの学会、研究会、講演会や書籍などを通して広く社会に発信されてきた。

以上より、本研究領域は、当初の目標を十分に達成し、期待以上の成果を得たといえる。